



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



NISSAY

日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

福岡県との 連携協定締結状況	
締結日	2017/09/05
①	健康づくりに関すること
②	スポーツの振興に関すること
③	高齢者・障がい者の支援に関すること
④	子育て支援、女性の活躍推進に関すること
⑤	中小企業支援に関すること

他1項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

福岡県

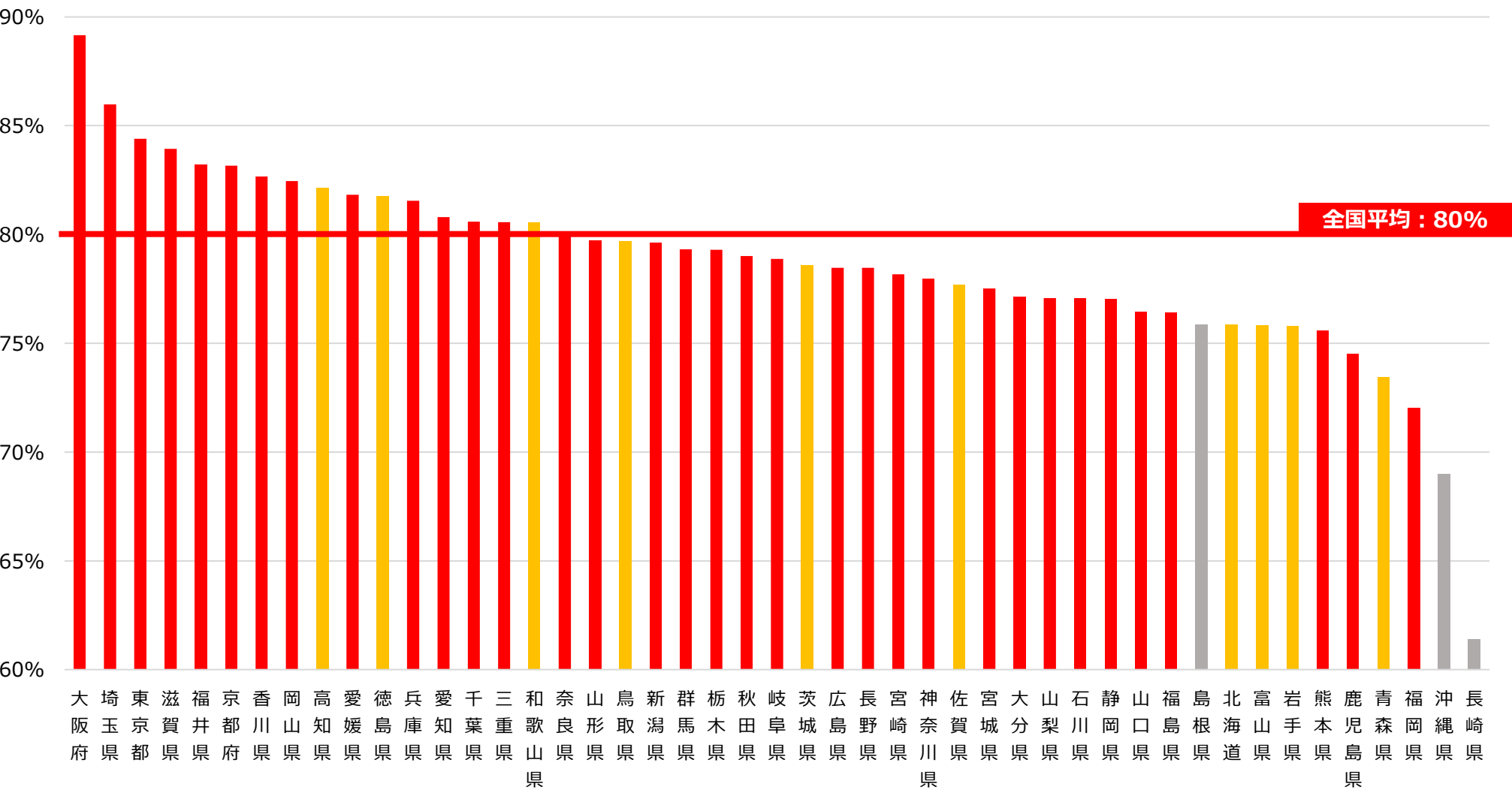
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	2,644	3.2%	1,420	3.6%	1,224	2.8%
20代	11,037	13.3%	5,924	14.9%	5,113	11.8%
30代	12,738	15.3%	6,214	15.7%	6,524	15.0%
40代	13,878	16.7%	6,780	17.1%	7,098	16.4%
50代	16,226	19.5%	7,583	19.1%	8,643	19.9%
60代	12,920	15.6%	5,817	14.7%	7,103	16.4%
70代	9,755	11.7%	4,180	10.5%	5,575	12.9%
80代～	3,849	4.6%	1,779	4.5%	2,070	4.8%
合計	83,047	100.0%	39,697	100.0%	43,350	100.0%
2024年度	17,720	100.0%	8,383	100.0%	9,337	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	2,167	82.0%	1,193	84.0%	974	79.6%
20代	7,618	69.0%	4,131	69.7%	3,487	68.2%
30代	9,554	75.0%	4,582	73.7%	4,972	76.2%
40代	11,079	79.8%	5,379	79.3%	5,700	80.3%
50代	12,276	75.7%	5,758	75.9%	6,518	75.4%
60代	8,903	68.9%	4,110	70.7%	4,793	67.5%
70代	6,157	63.1%	2,688	64.3%	3,469	62.2%
80代～	2,070	53.8%	968	54.4%	1,102	53.2%
合計	59,824	72.0%	28,809	72.6%	31,015	71.5%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化 ■ 努力義務化 ■ 義務化なし

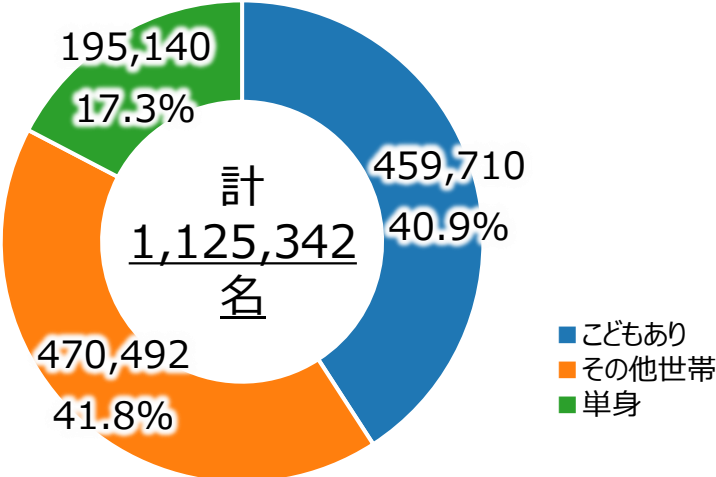
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

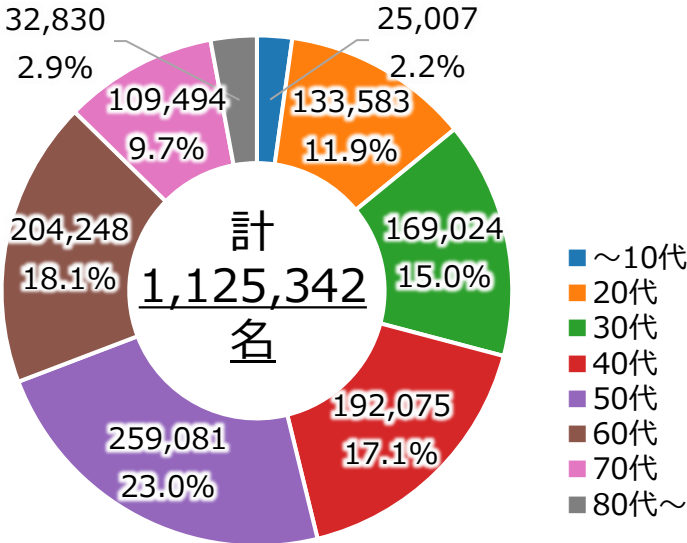
(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国

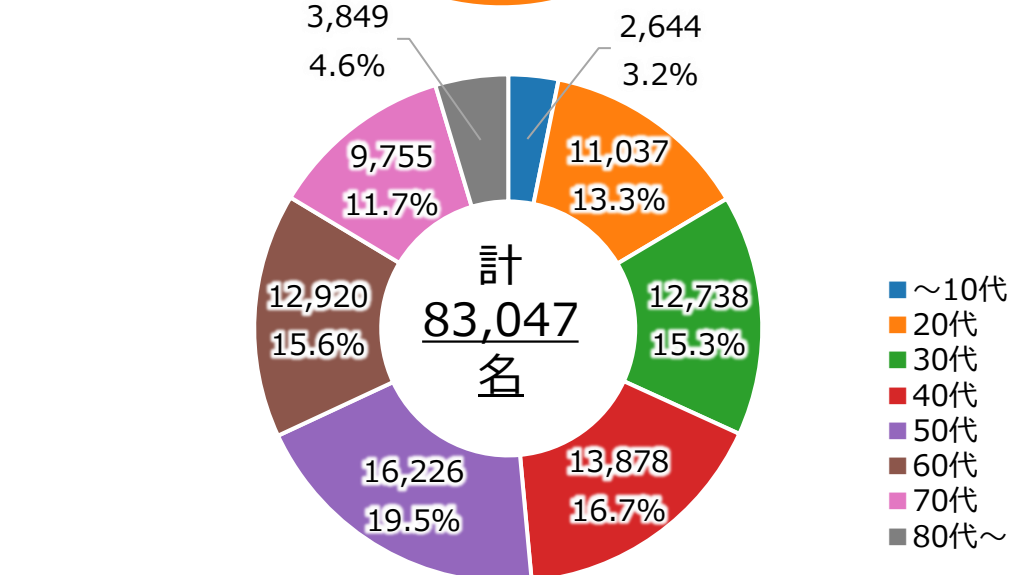
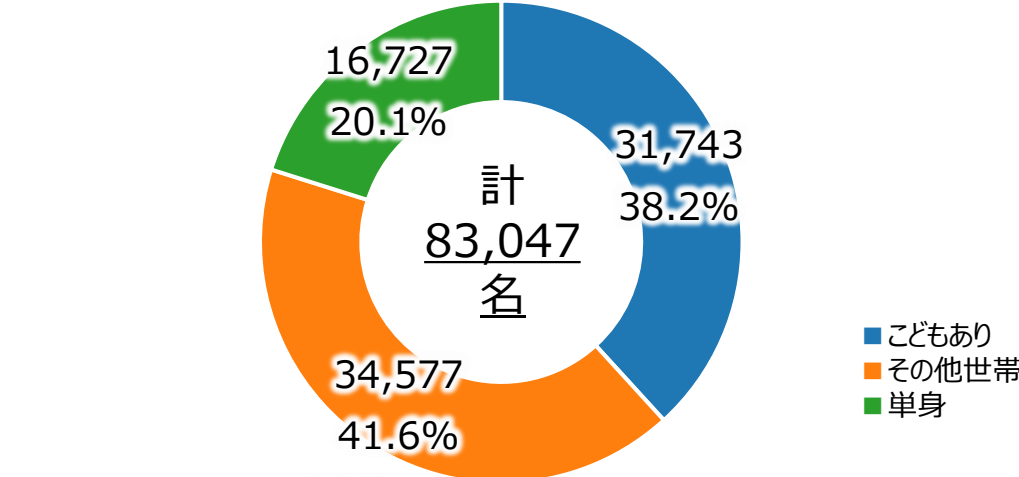
世帯構成別



年代別



福岡県



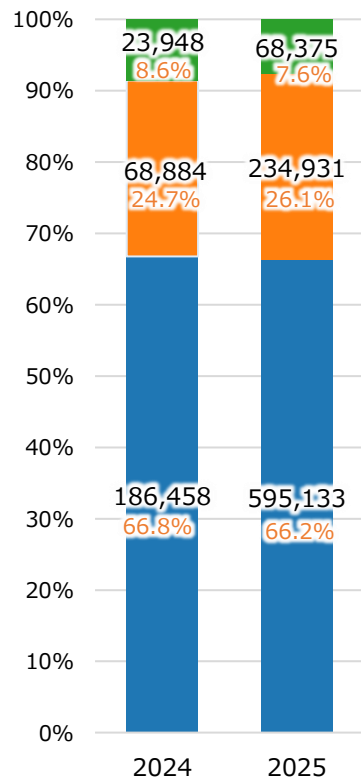
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

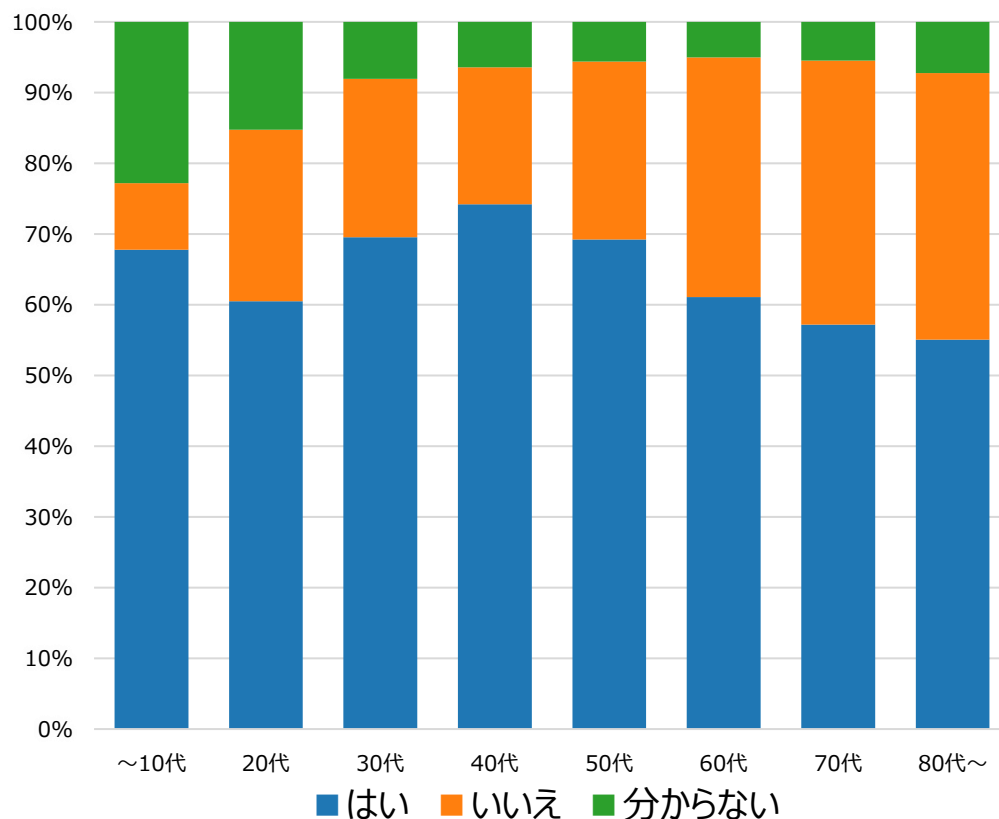
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

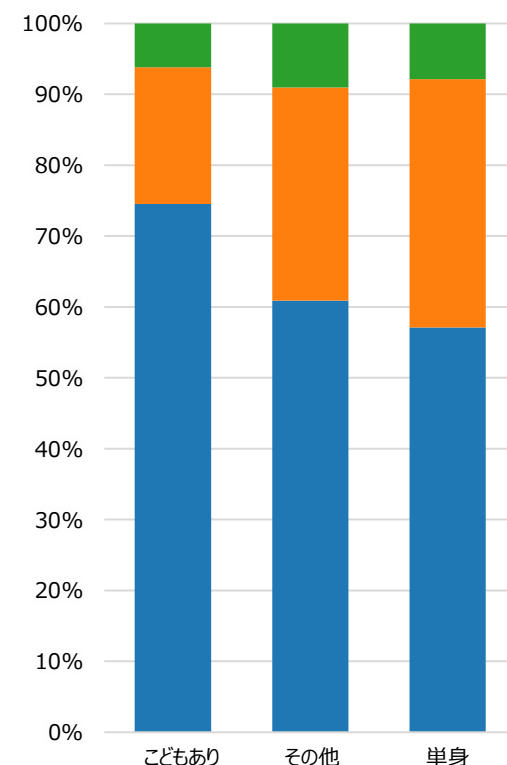
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

福岡県

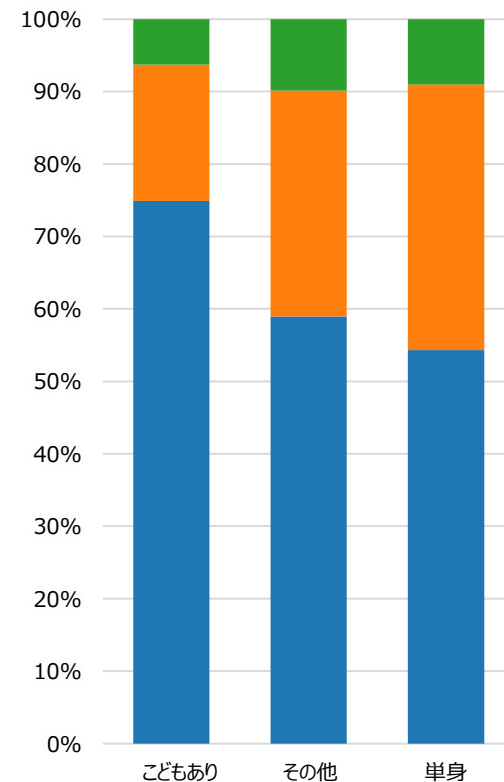
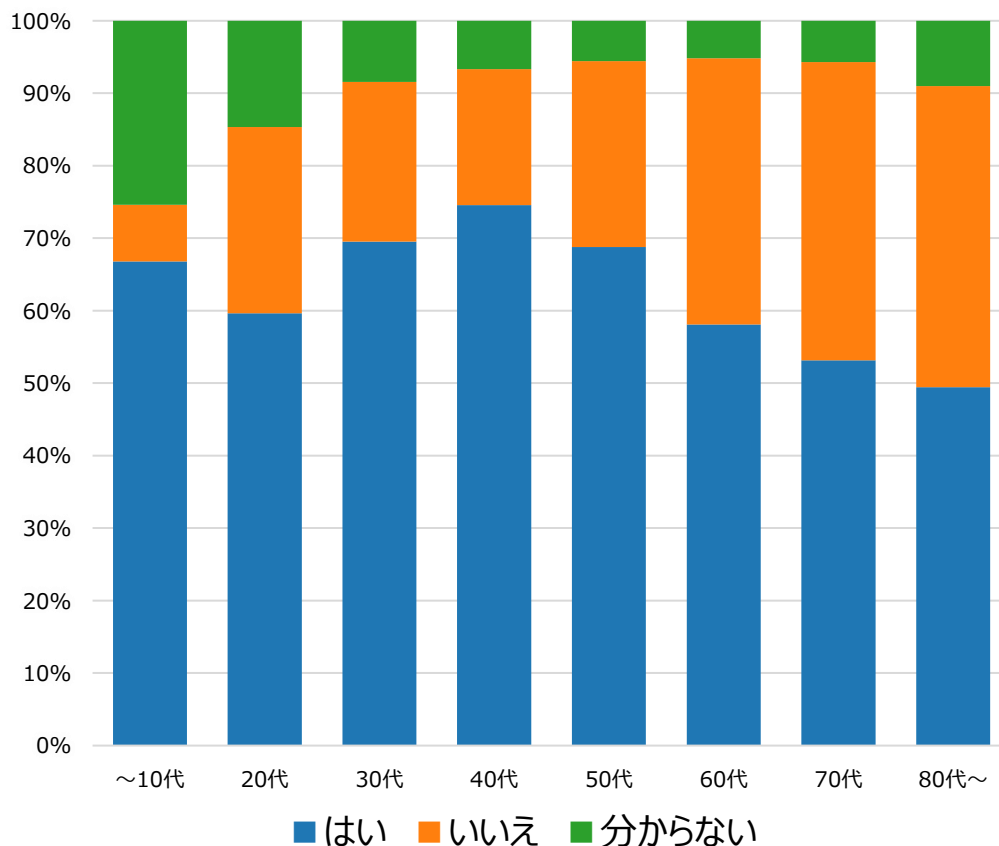
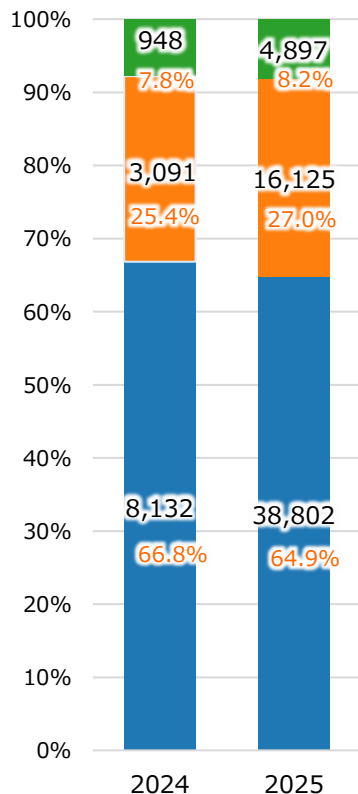
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



- 加入率は対前年減少（▲2Pt）全国と比較すると若干低位（▲1Pt）
- 年代別でみると、特に60代以降が全国に比べ低位な状況

單位：名



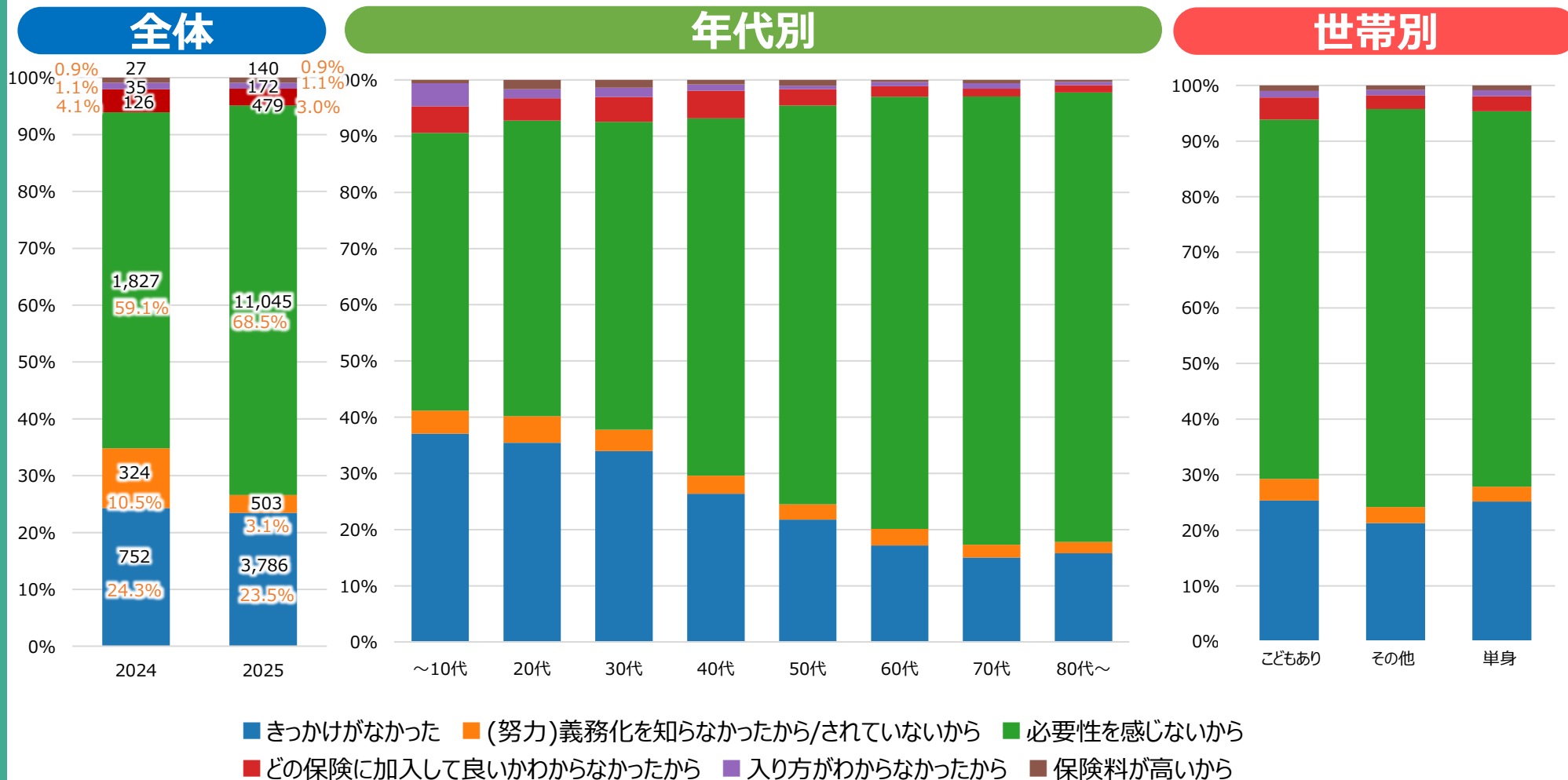
- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

福岡県

単位：名



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少（▲7Pt）

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

福岡県

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況

(2年連続回答者：全回答者:59,824名のうち、4,259名)

※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度	未加入	① 675 名	② 496 名
	加入	354 名	2,734 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	22.1%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.1%
加入方法がわからなかったから	1.5%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	13.8%
保険料が高いから	1.8%
必要性を感じないから	54.6%

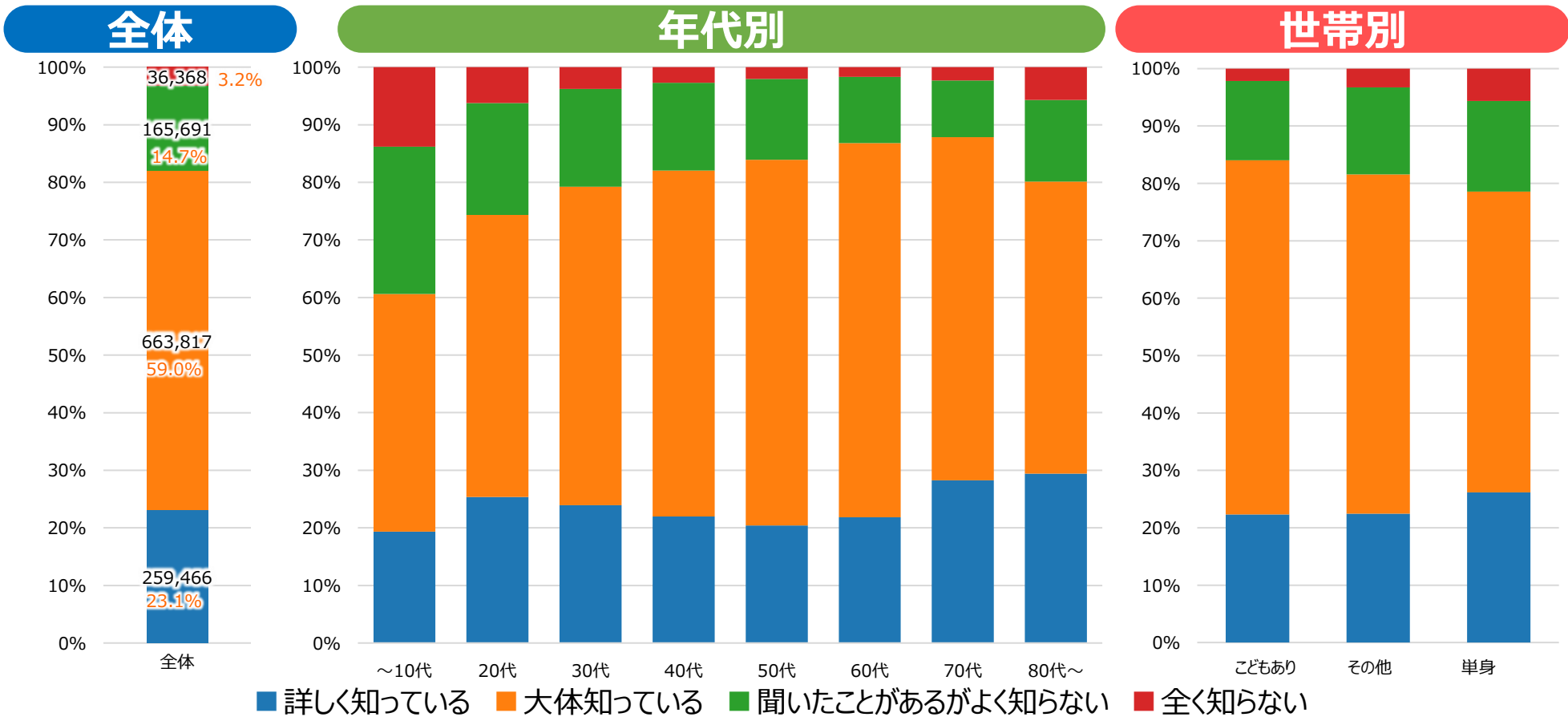
2024年度「自転車保険加入なし」の1,171名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の半数以上は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

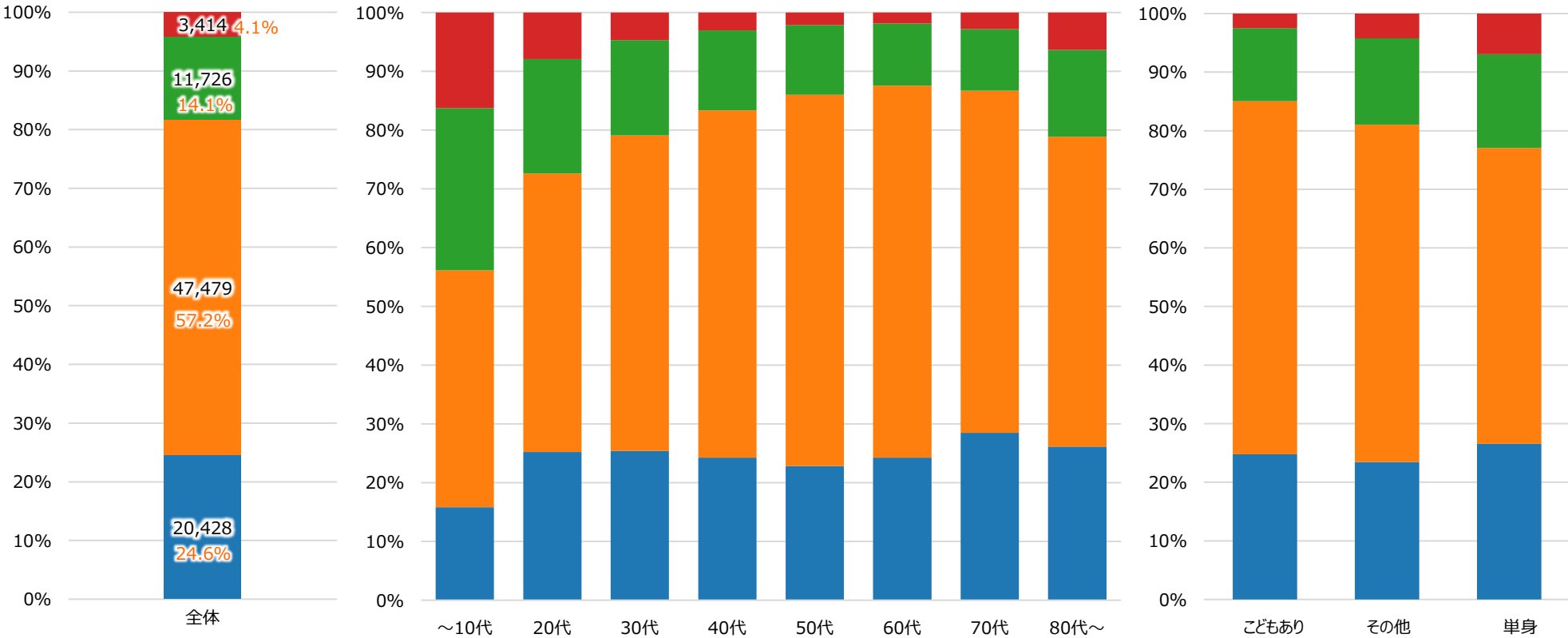
警察庁 交通局 交通企画課 コメント

令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

福岡県
単位：名

全体 年代別 世帯別



■ 詳しく知っている
■ 大体知っている
■ 聞いたことがあるがよく知らない
■ 全く知らない

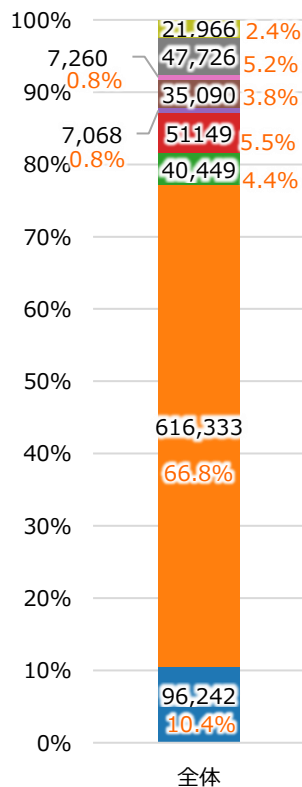
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度の認知度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

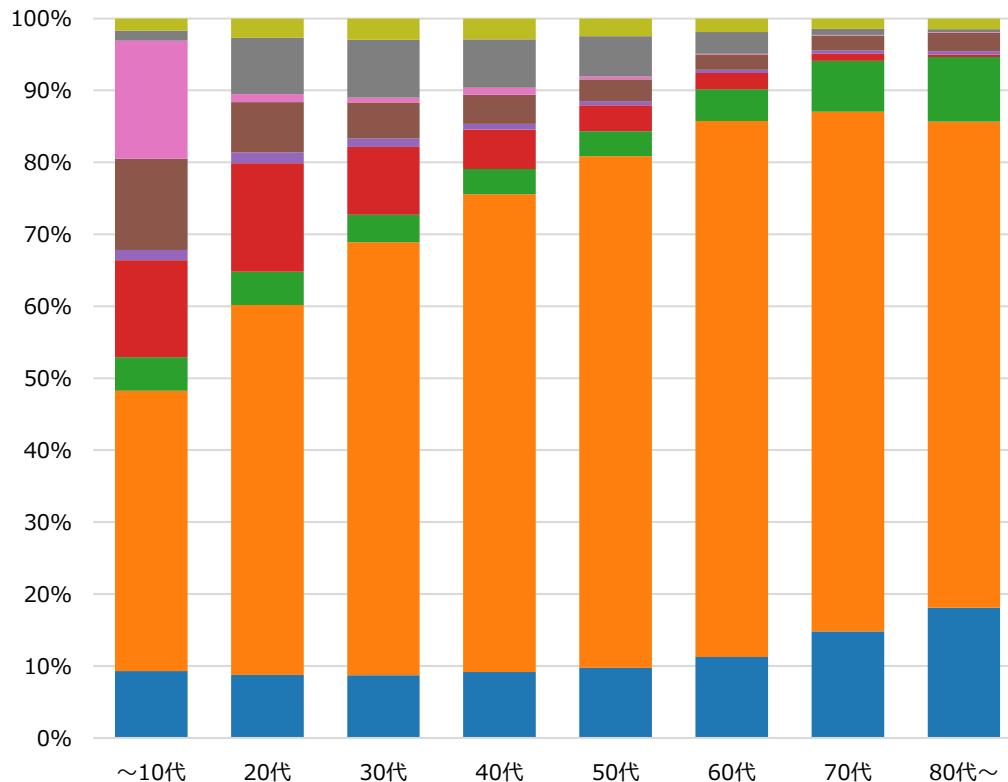
全国

単位：名

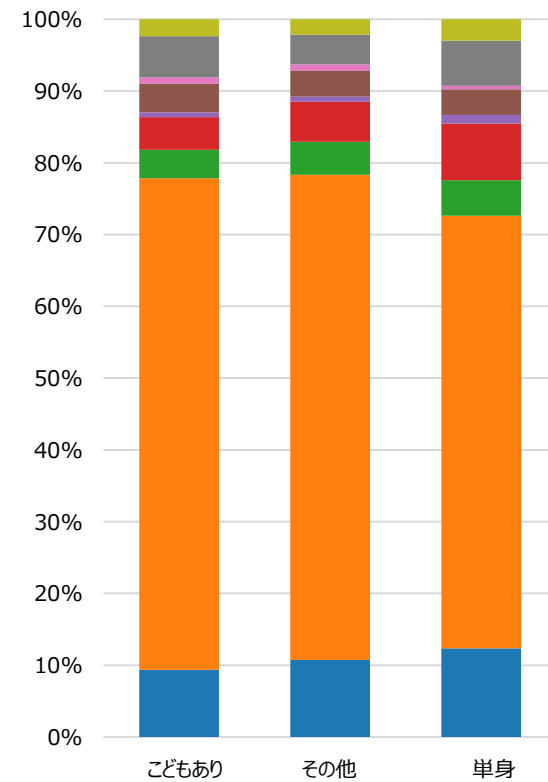
全体



年代別



世帯別



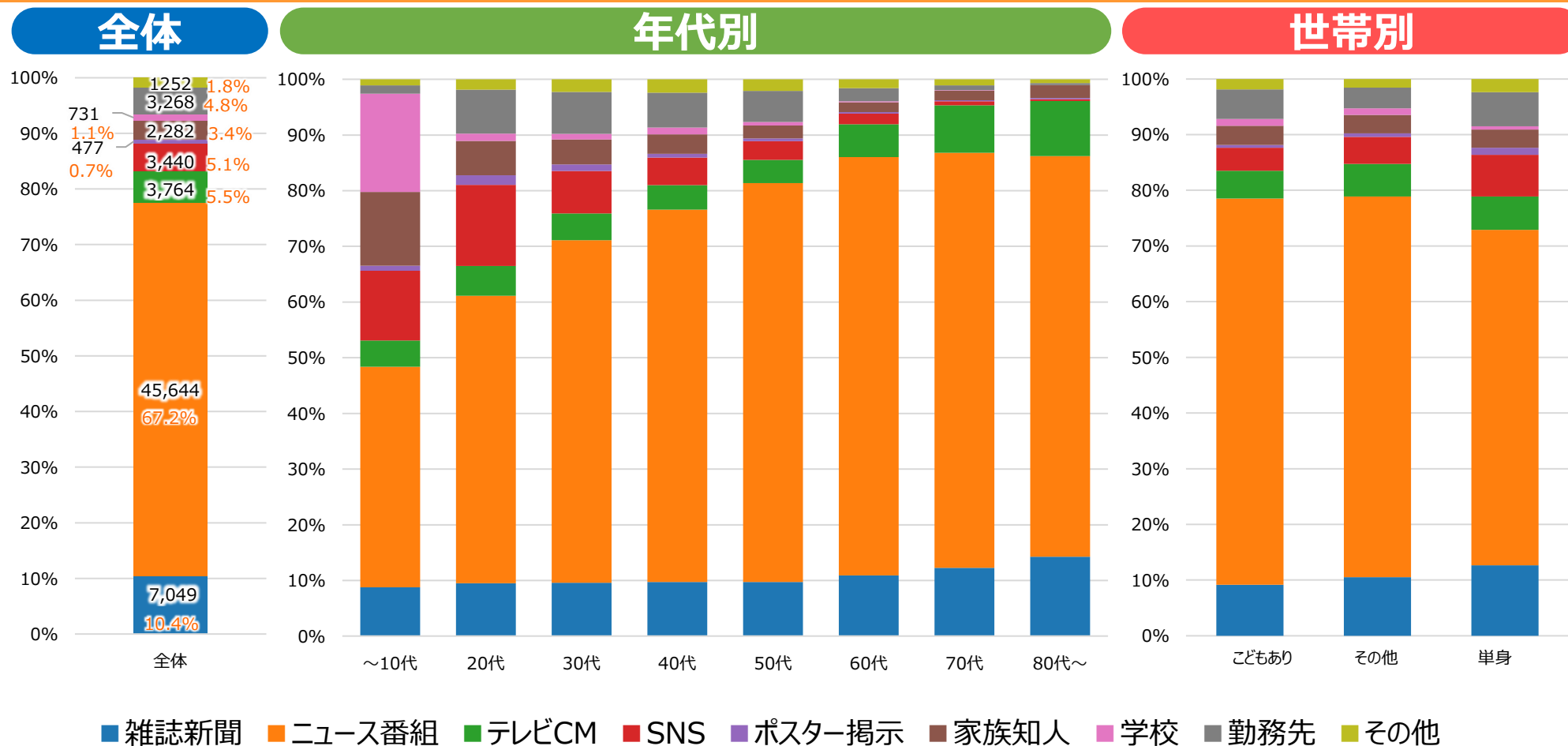
■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

福岡県

単位：名



- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

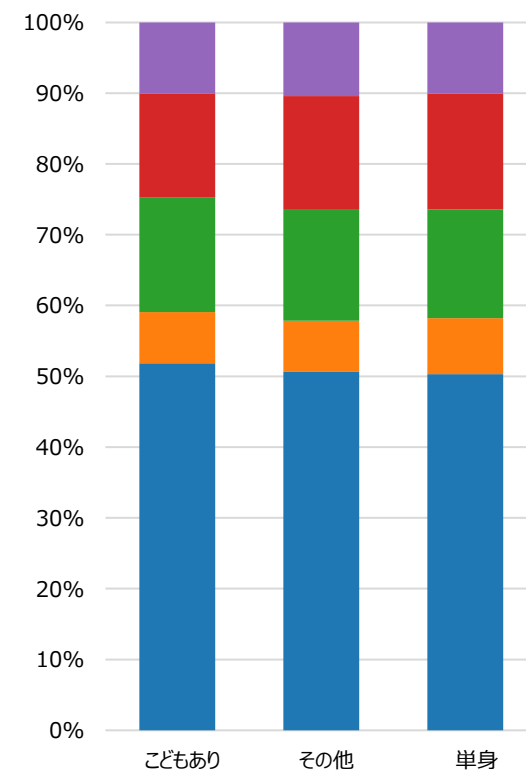
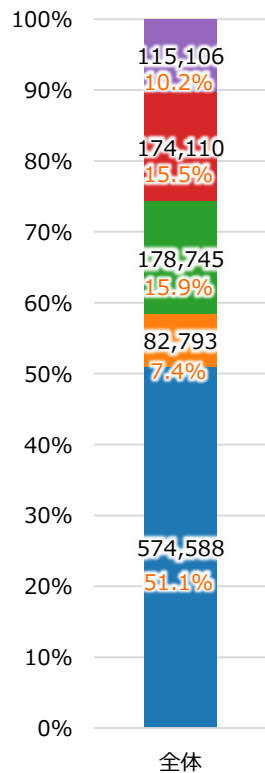
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

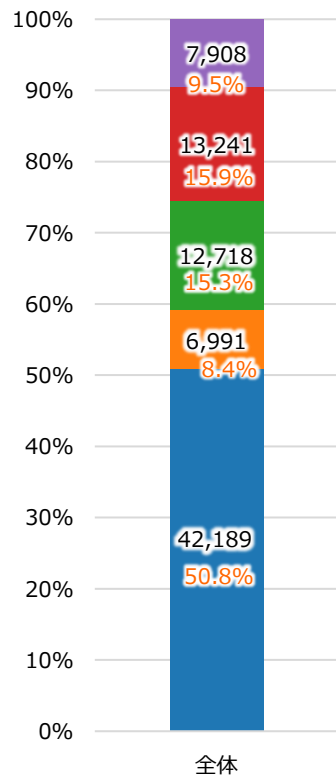
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

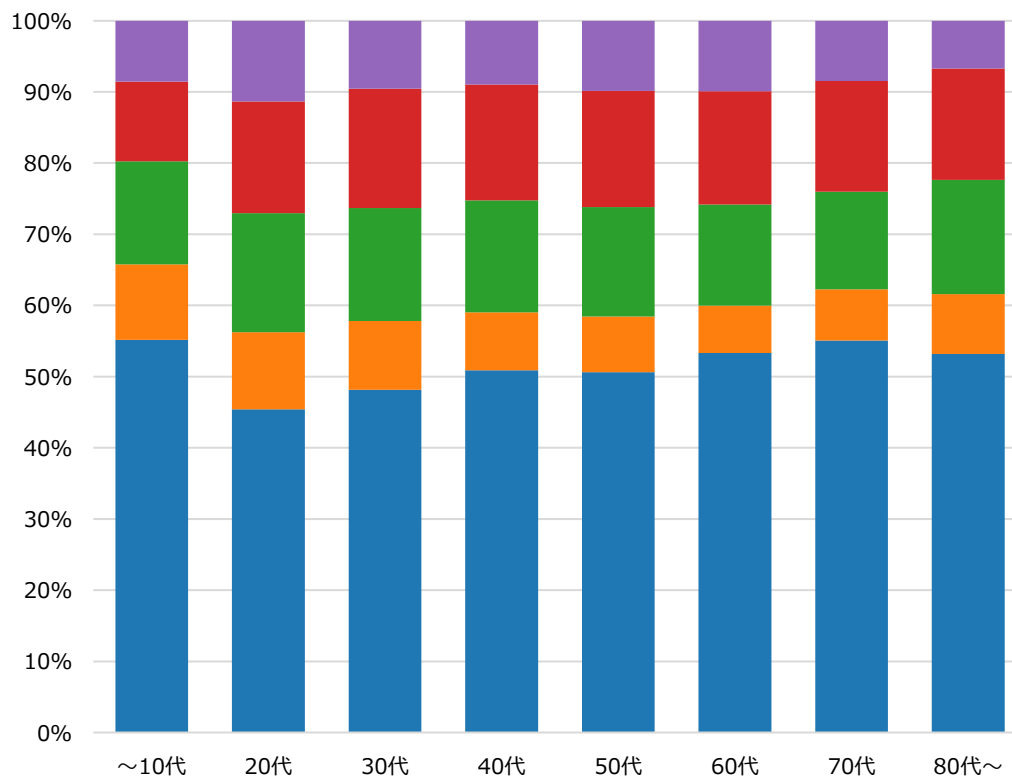
福岡県

単位：名

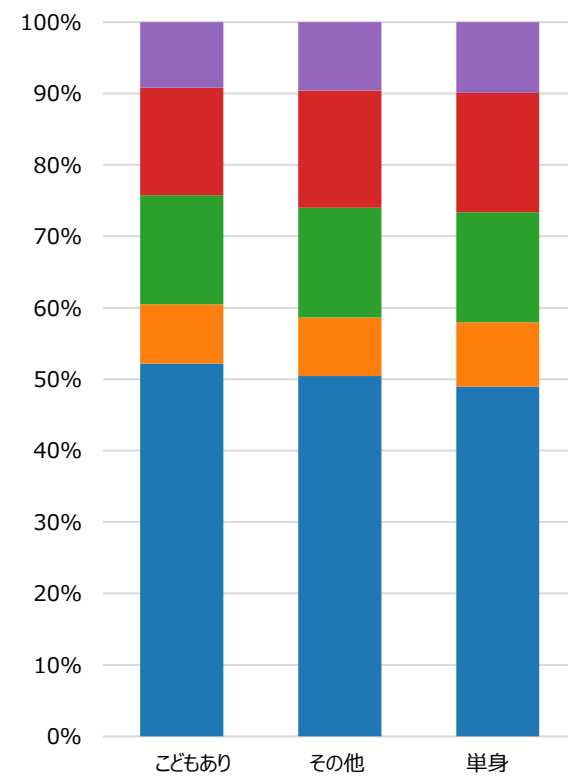
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

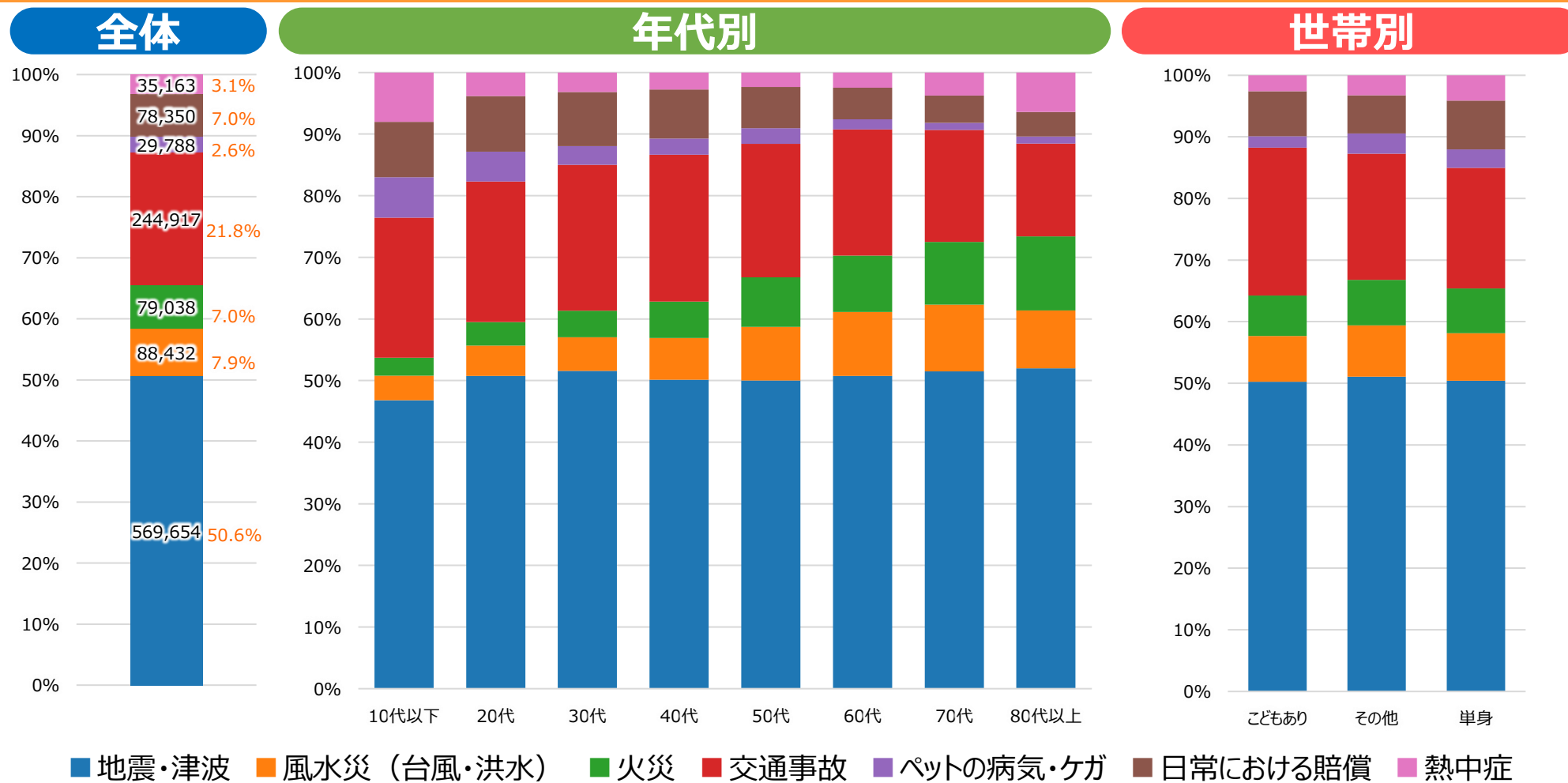
- 福岡県は、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「取締り・罰則の強化」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



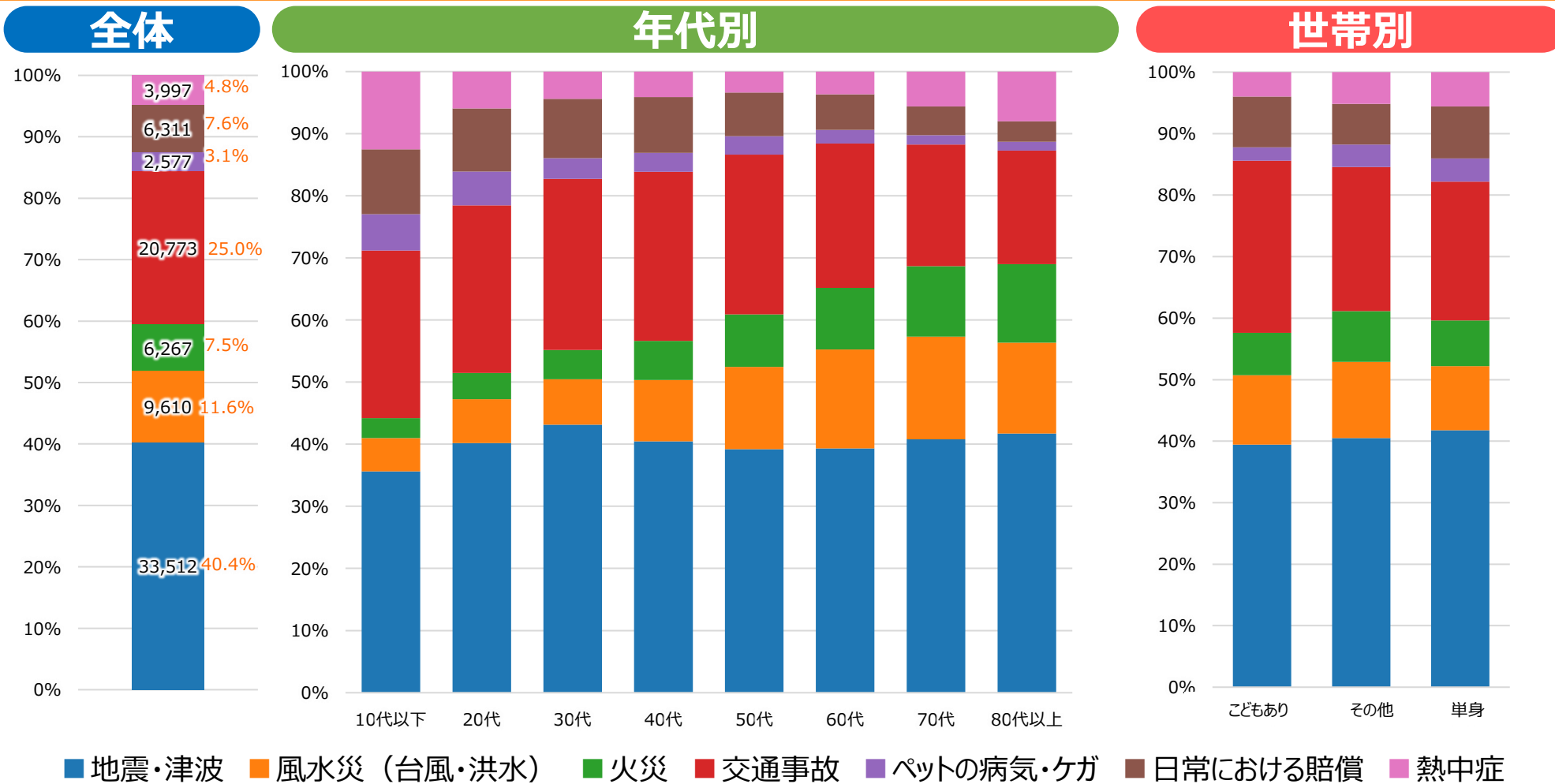
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

福岡県

単位：名

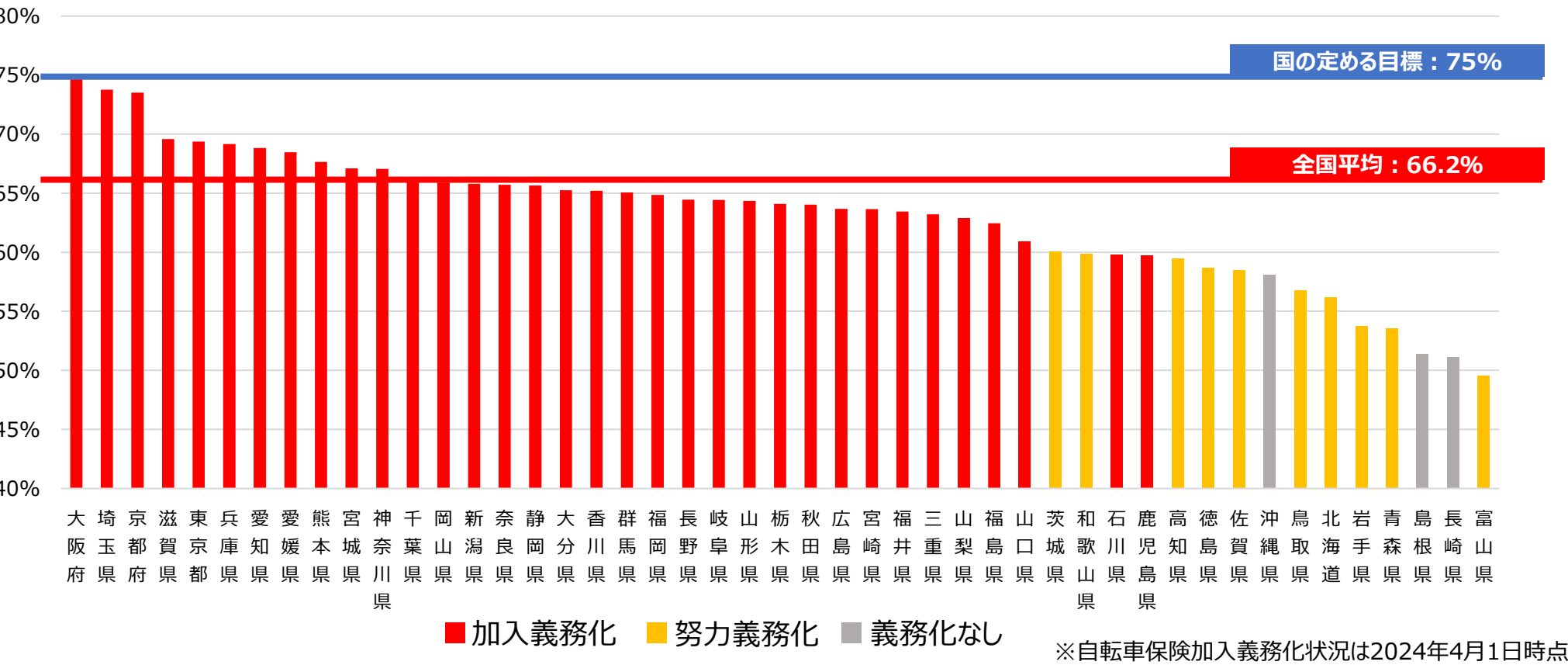
福岡県



- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)

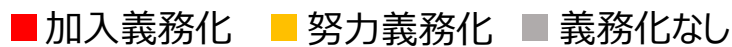


- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

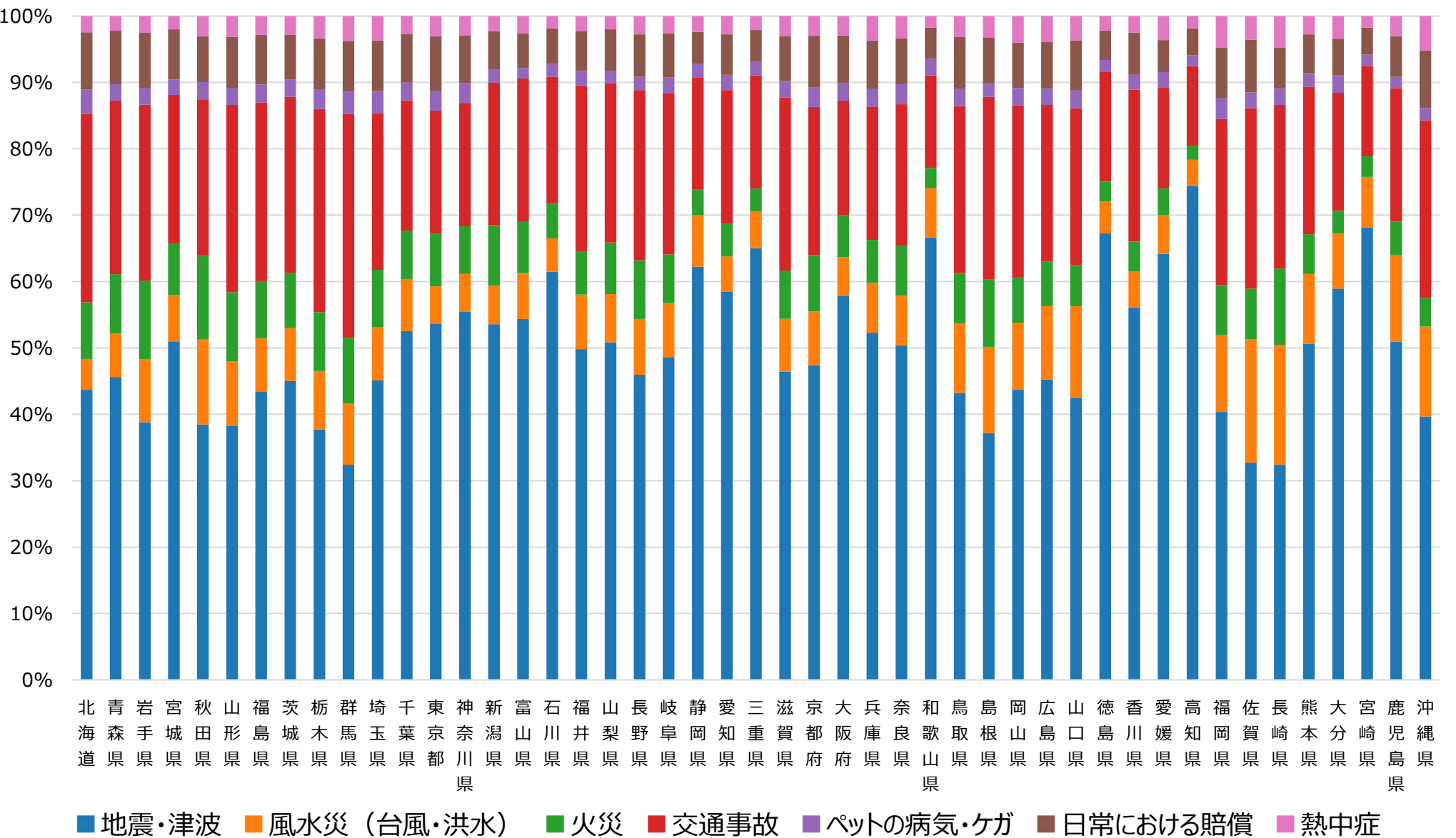
(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

佐賀県との 連携協定締結状況	
締結日	2020/10/16
①	健康増進に関すること
②	子育て支援に関すること
③	高齢者支援に関すること
④	産業振興・中小企業振興に関すること
⑤	スポーツ振興に関すること

他3項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

佐賀県

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	391	3.4%	205	4.0%	186	2.9%
20代	1,364	11.8%	671	13.0%	693	10.8%
30代	1,648	14.2%	782	15.1%	866	13.5%
40代	2,216	19.1%	962	18.6%	1,254	19.6%
50代	2,279	19.7%	976	18.8%	1,303	20.4%
60代	2,083	18.0%	868	16.8%	1,215	19.0%
70代	1,239	10.7%	553	10.7%	686	10.7%
80代～	363	3.1%	164	3.2%	199	3.1%
合計	11,583	100.0%	5,181	100.0%	6,402	100.0%
2024年度	4,780	100.0%	1,917	100.0%	2,863	100.0%

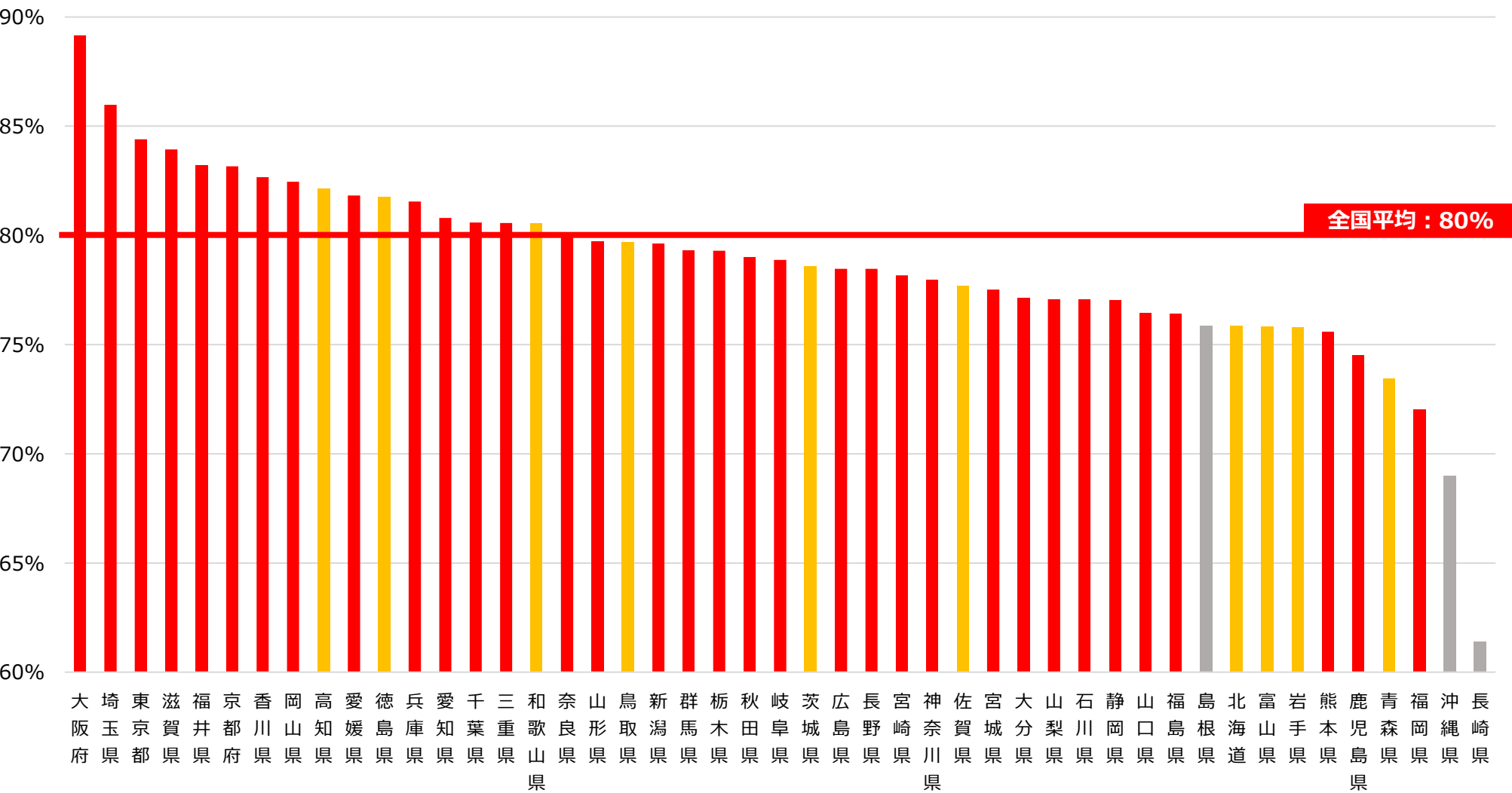
	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	324	82.9%	170	82.9%	154	82.8%
20代	983	72.1%	488	72.7%	495	71.4%
30代	1,304	79.1%	618	79.0%	686	79.2%
40代	1,850	83.5%	810	84.2%	1,040	82.9%
50代	1,816	79.7%	794	81.4%	1,022	78.4%
60代	1,599	76.8%	671	77.3%	928	76.4%
70代	894	72.2%	420	75.9%	474	69.1%
80代～	230	63.4%	106	64.6%	124	62.3%
合計	9,000	77.7%	4,077	78.7%	4,923	76.9%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



加入義務化

努力義務化

義務化なし

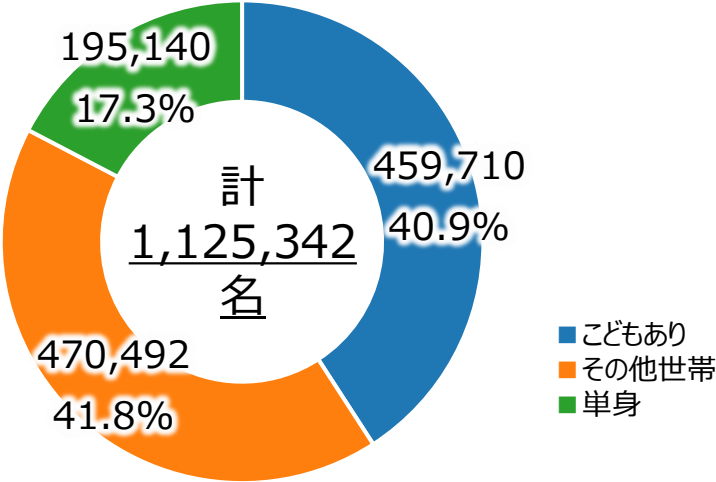
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

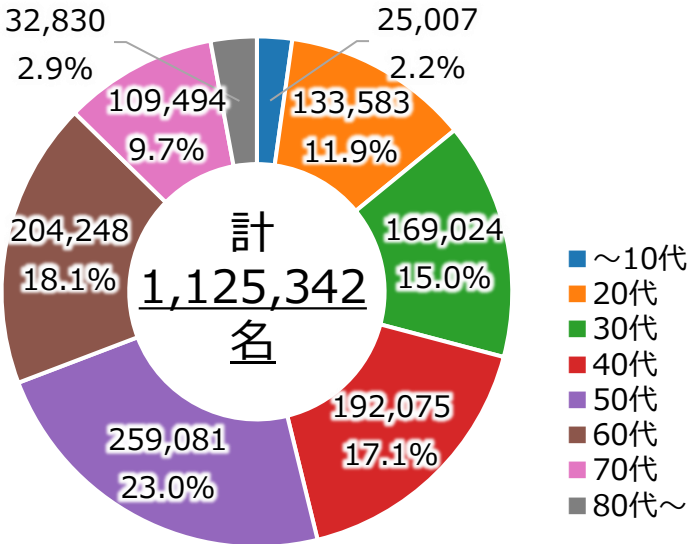
(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国

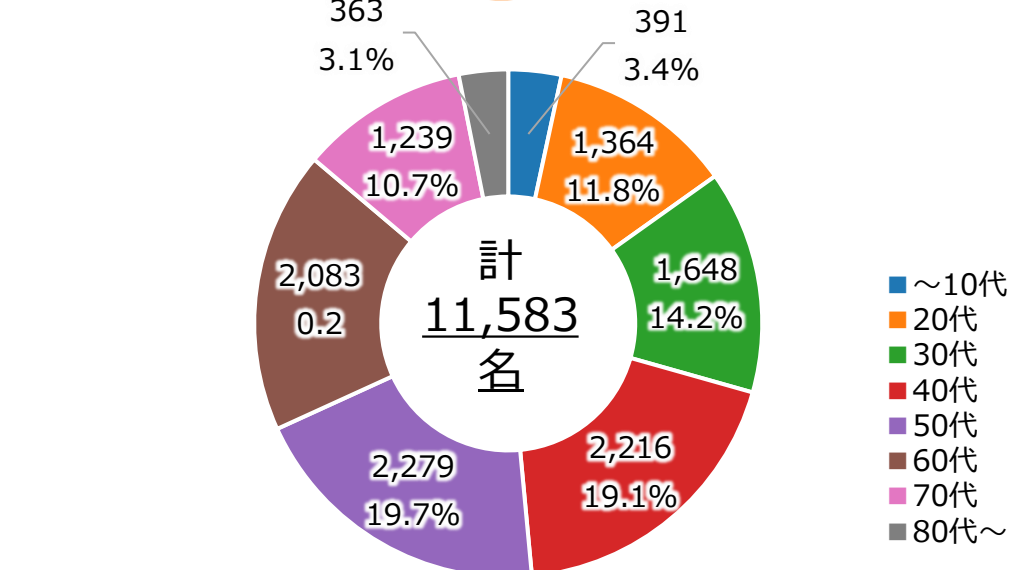
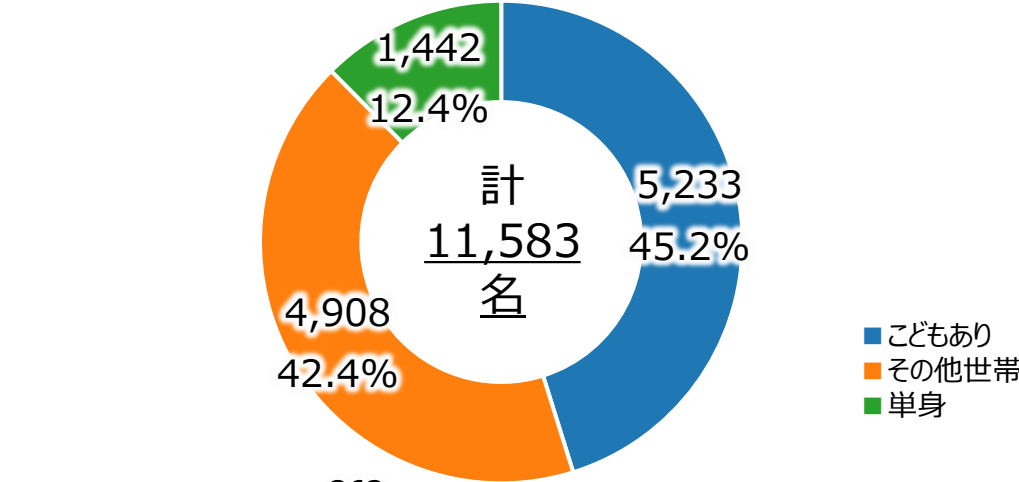
世帯構成別



年代別



佐賀県



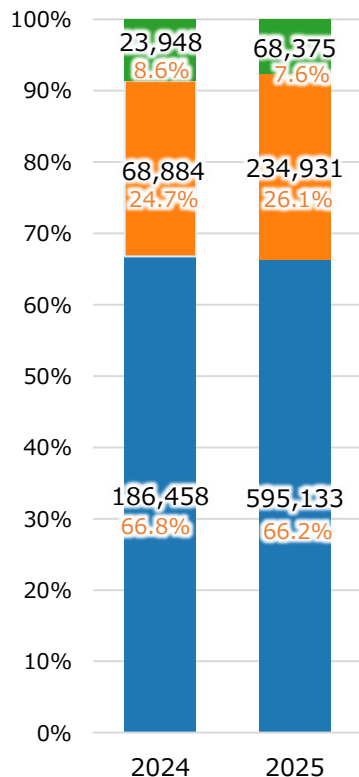
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

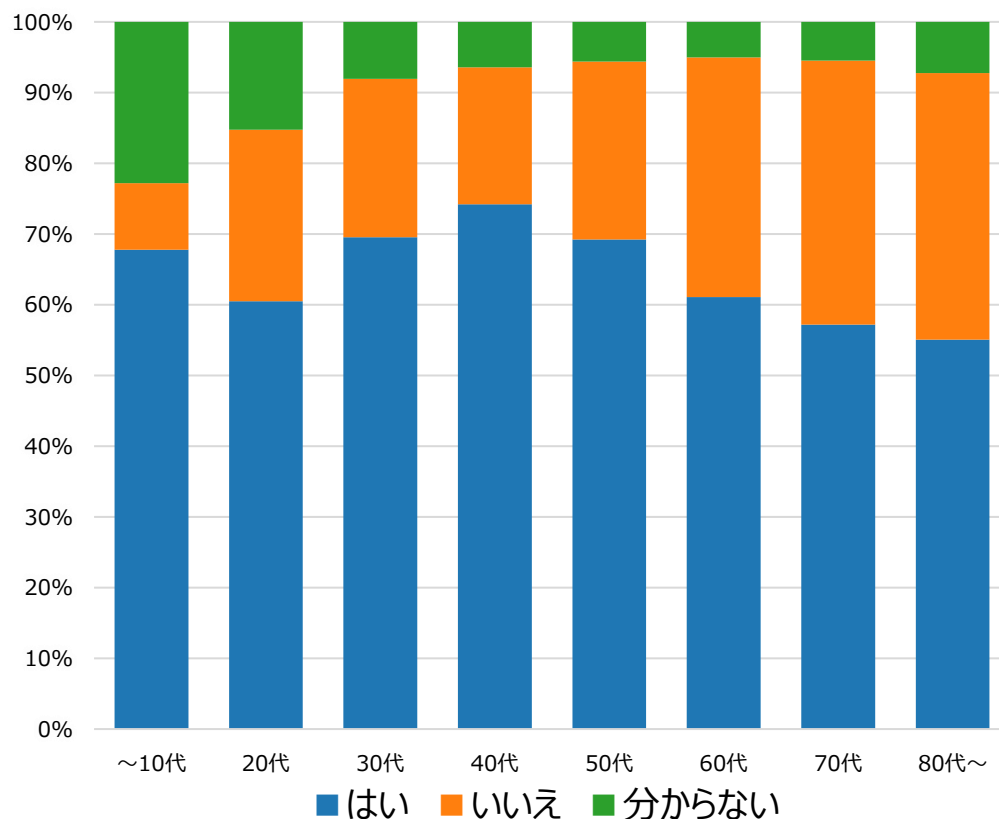
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

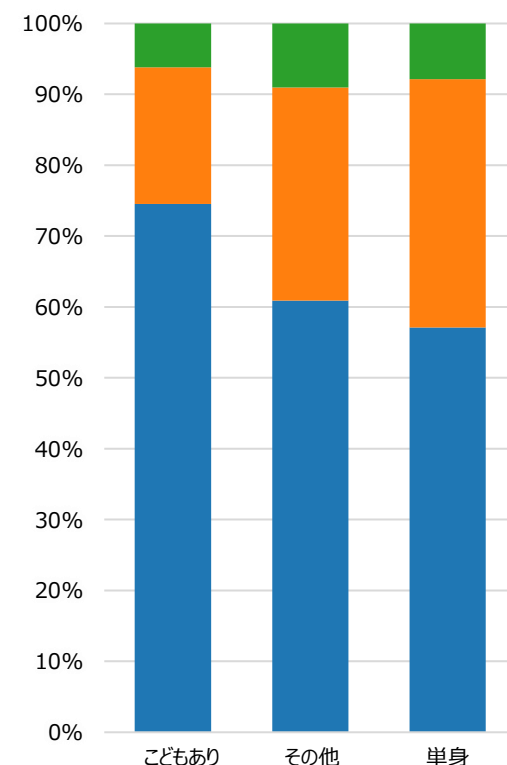
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

佐賀県

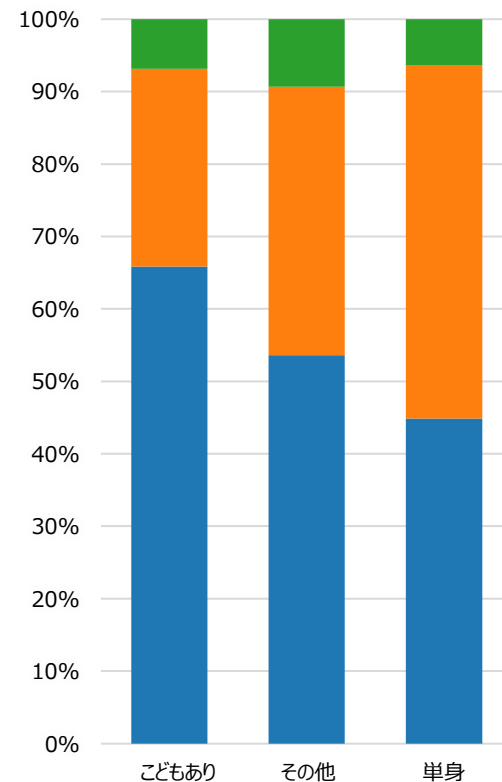
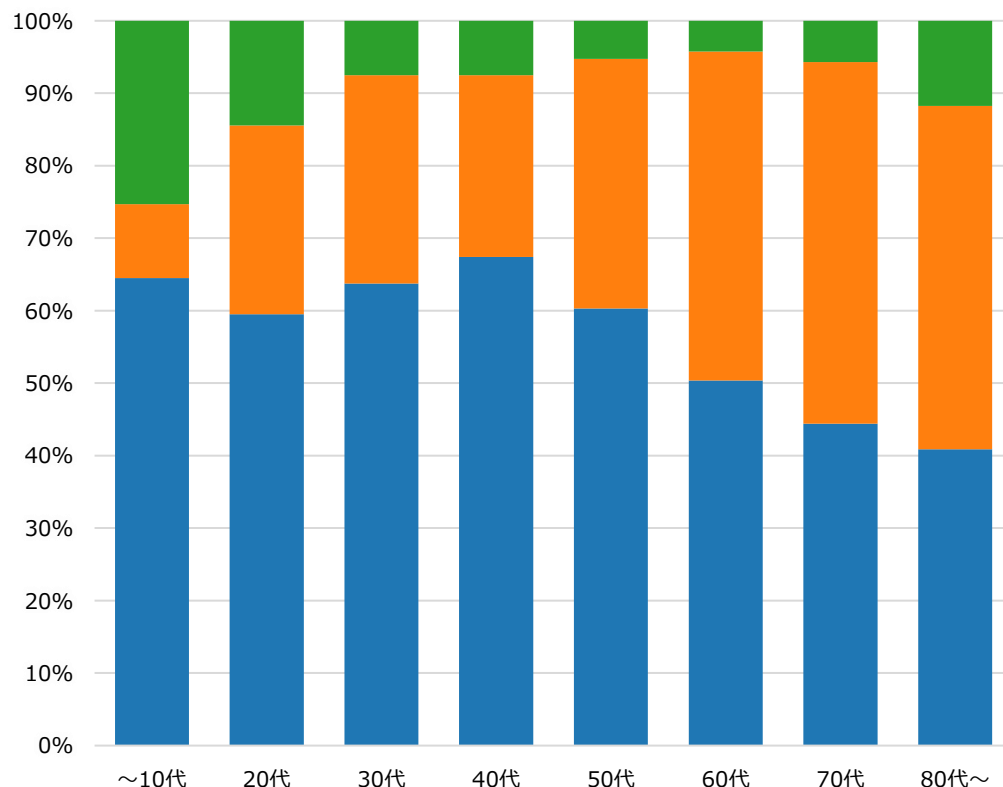
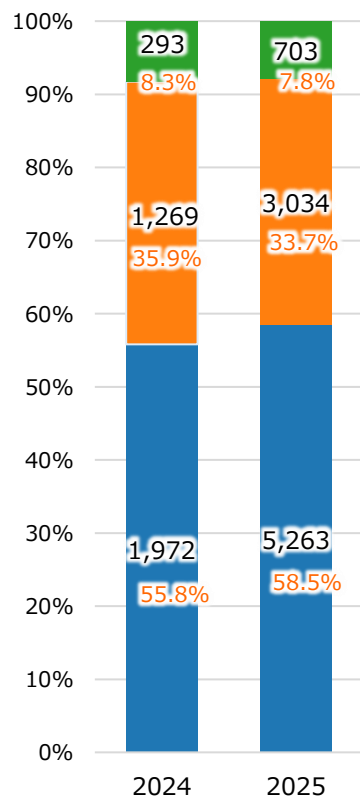
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年増加（+3Pt）全国と比較すると低位（▲8Pt）
- 年代別でみると、年代問わず全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

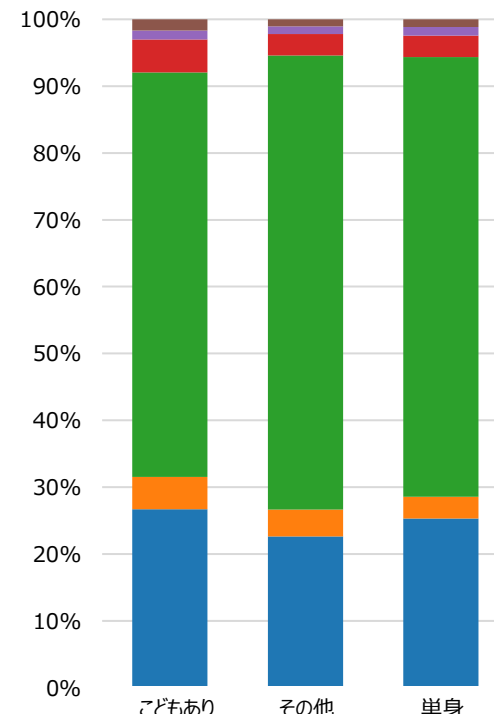
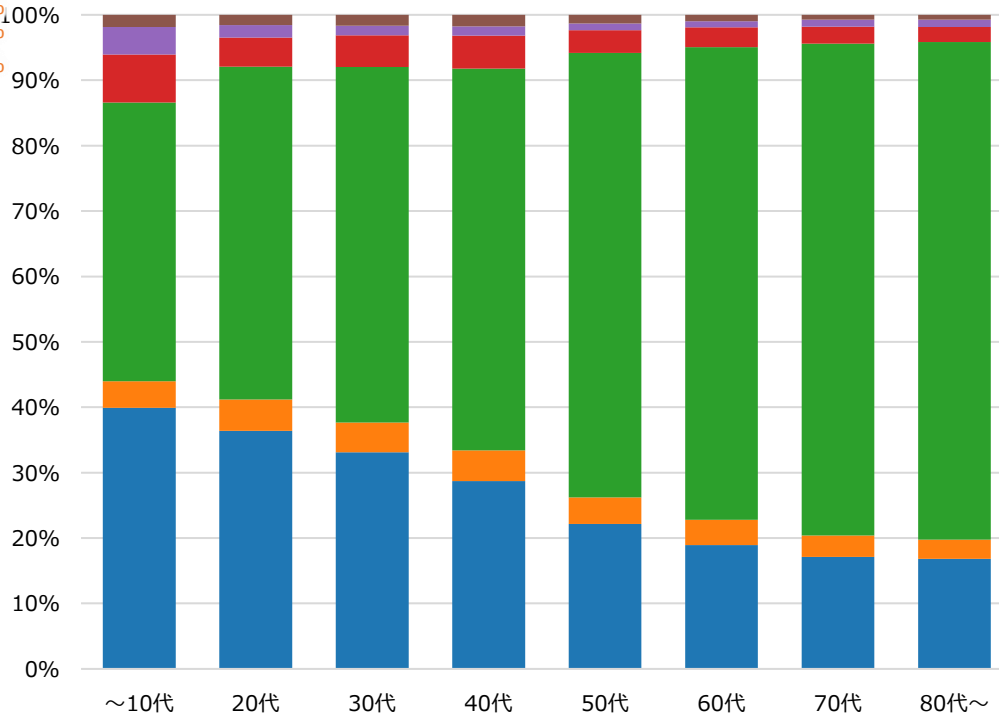
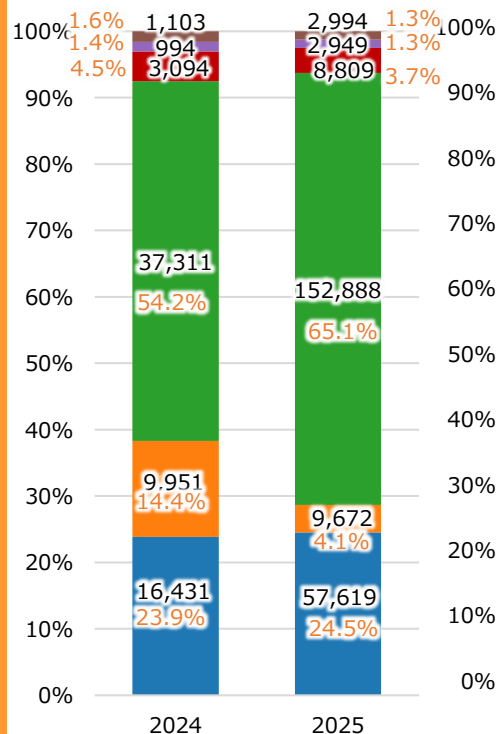
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

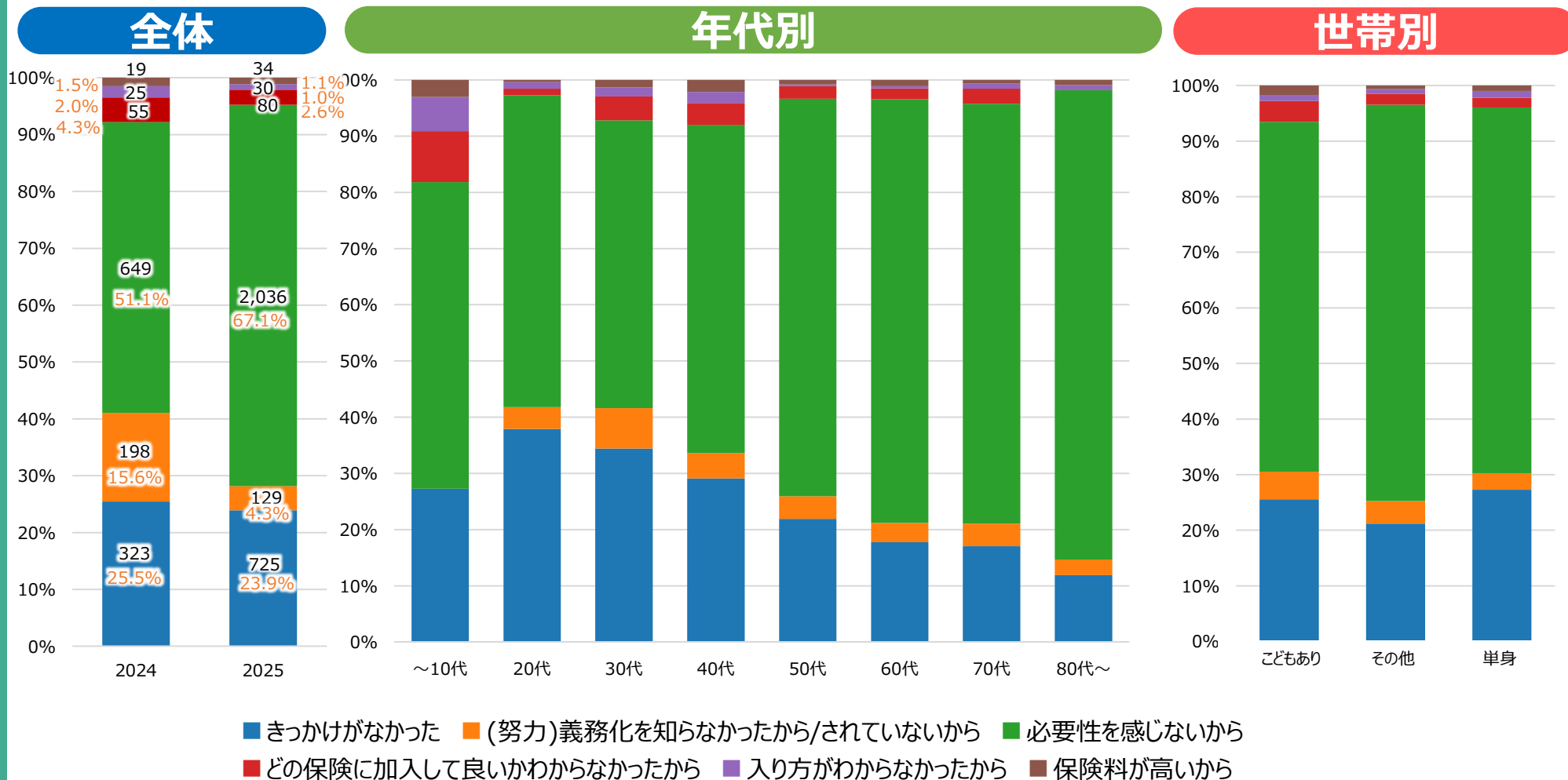
国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

佐賀県

単位：名



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲11Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者：9,000名のうち、1,180名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 282 名	② 173 名
	加入	101 名	624 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	26.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	5.3%
加入方法がわからなかったから	2.3%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.8%
保険料が高いから	3.8%
必要性を感じないから	45.8%

2024年度「自転車保険加入なし」の455名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

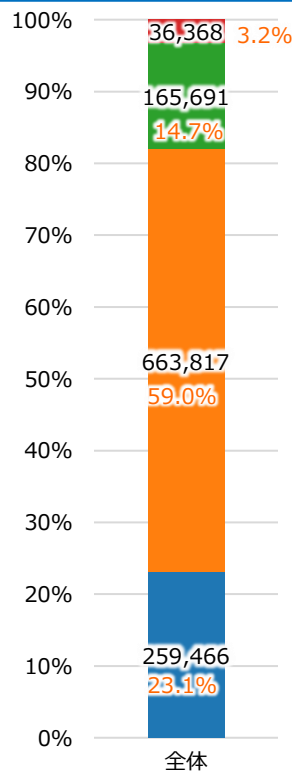
- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

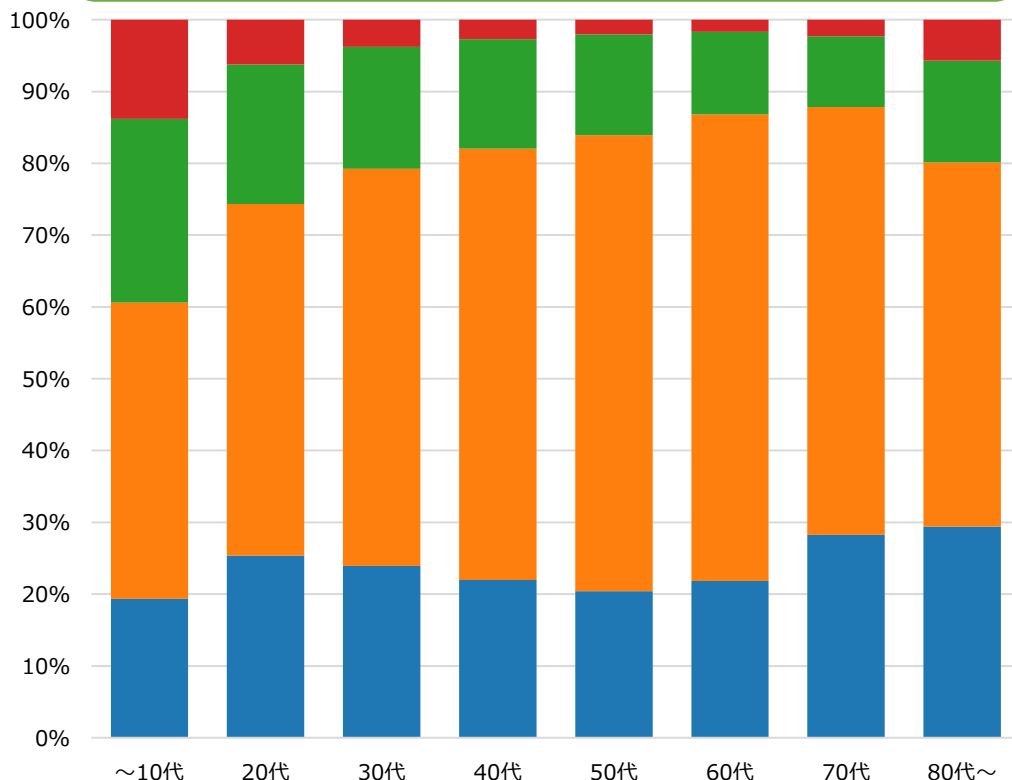
全国

単位：名

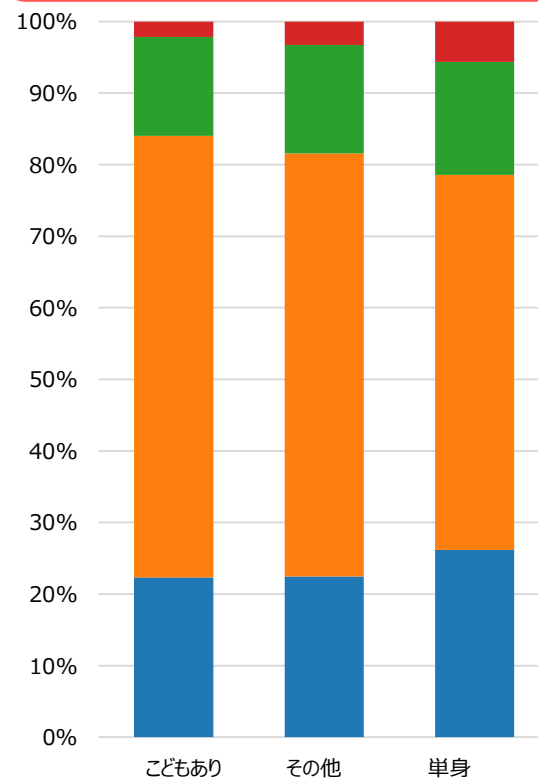
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

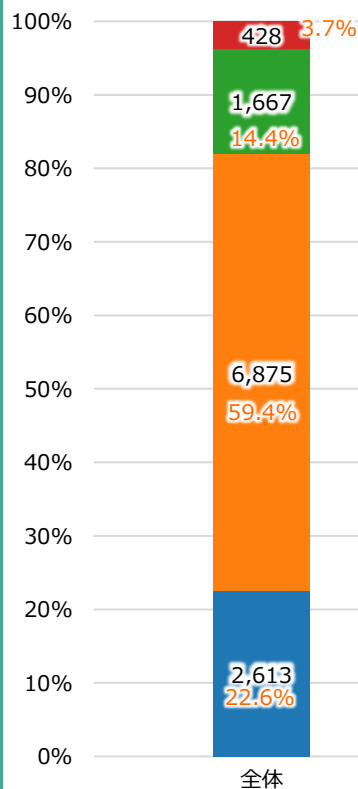
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

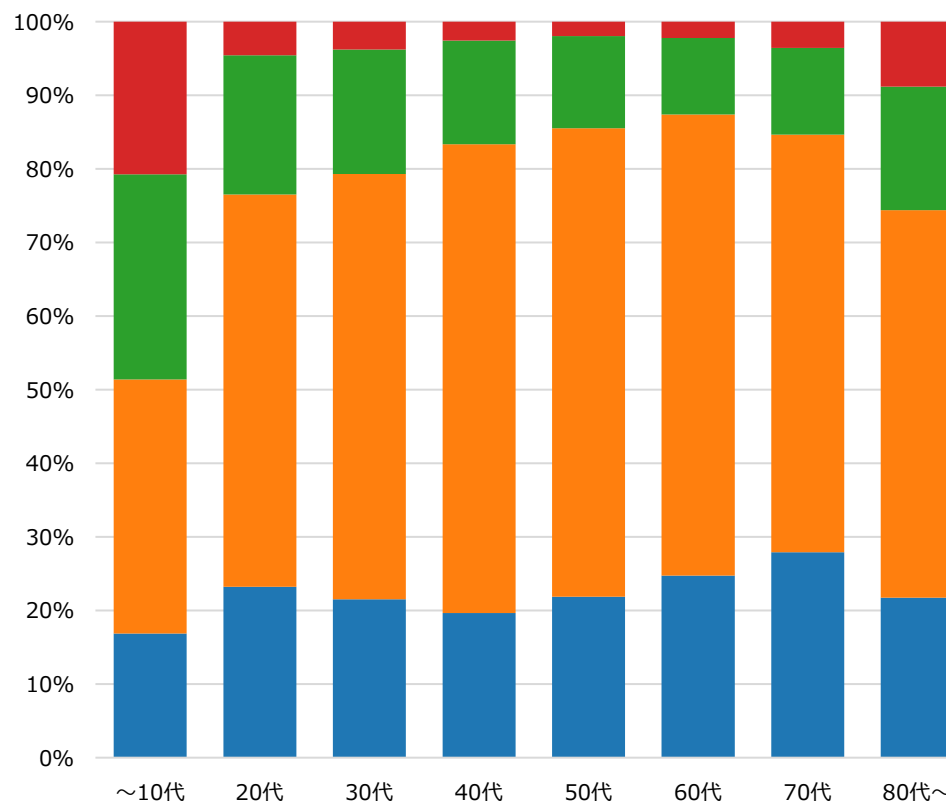
佐賀県

単位：名

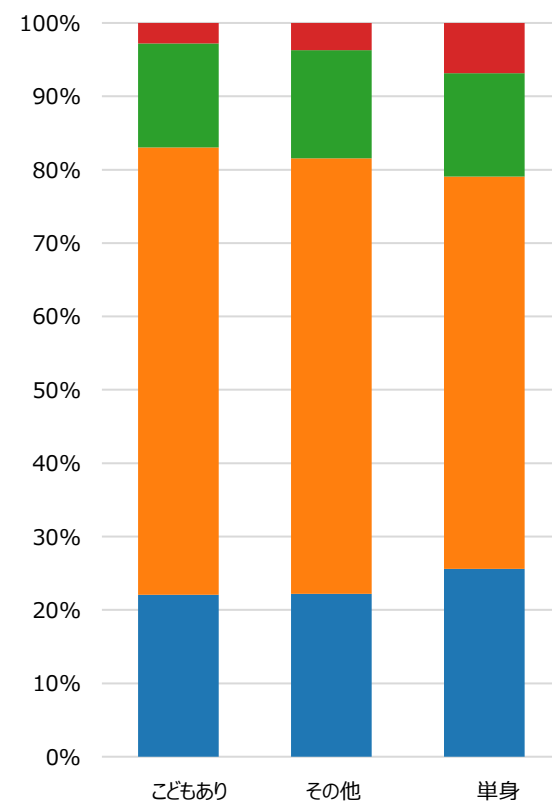
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

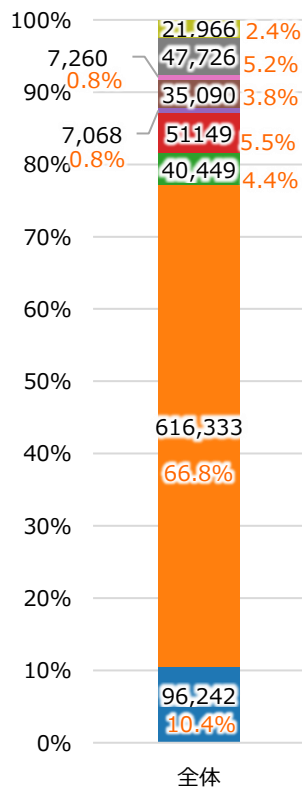
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度の認知度
- 全国と比べると、10代以下の「知らない」と回答した割合が高い傾向

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

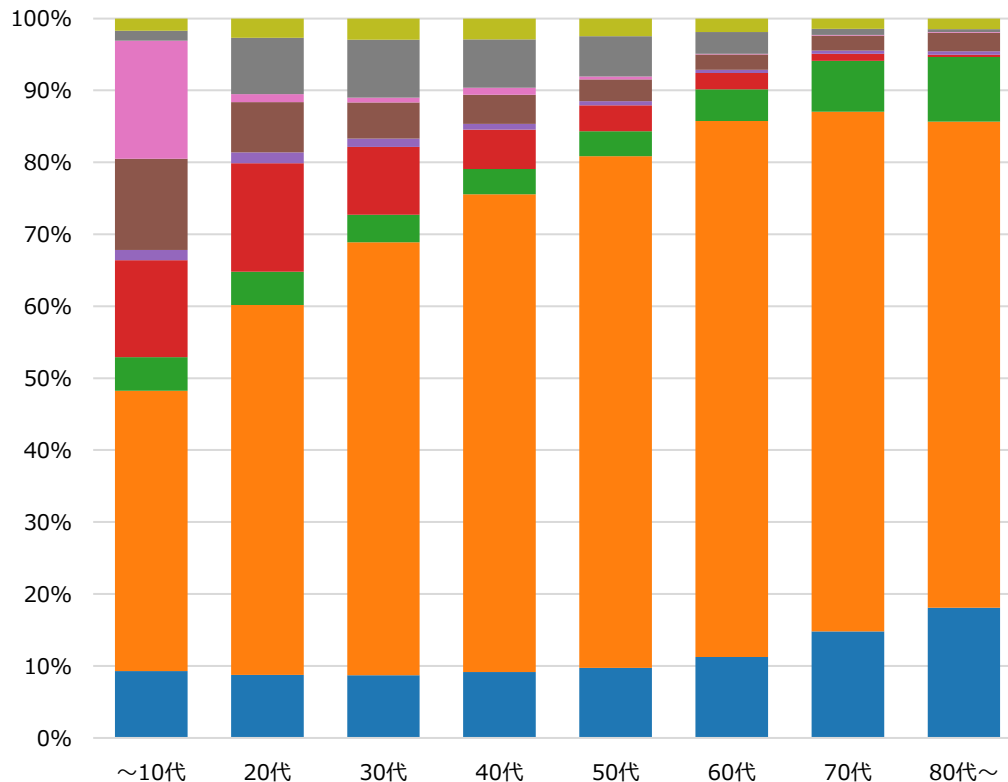
全国

単位：名

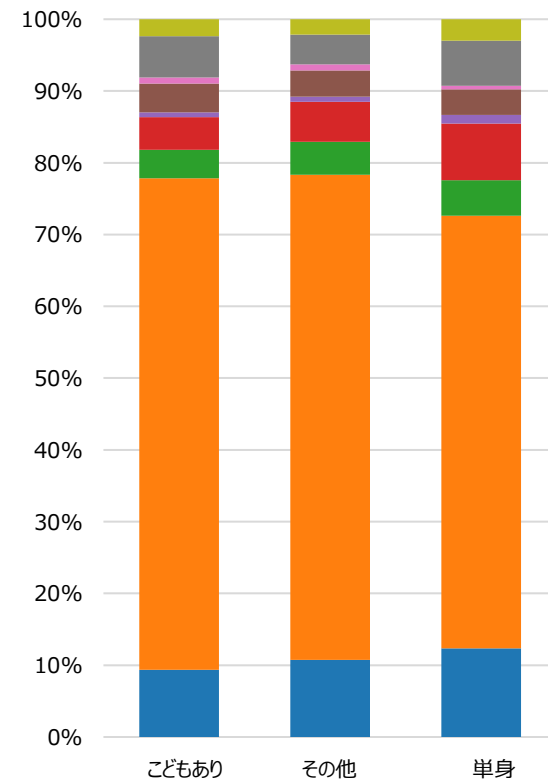
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

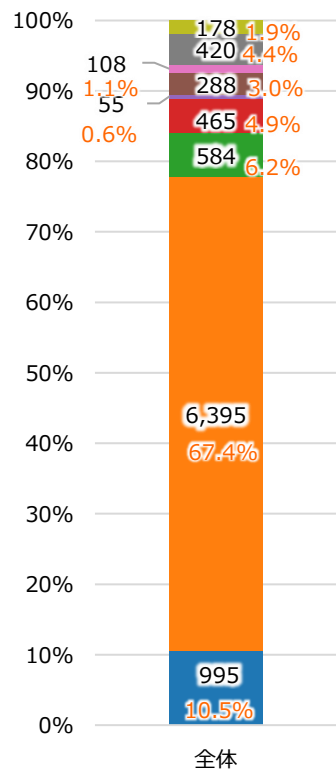
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

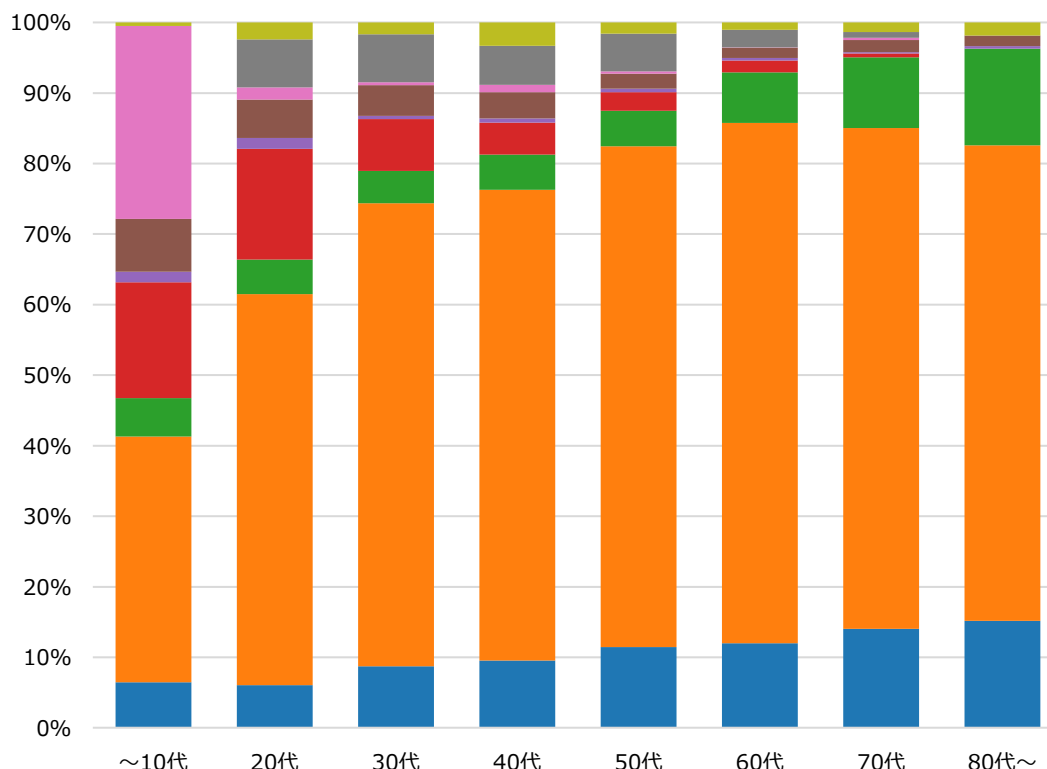
佐賀県

単位：名

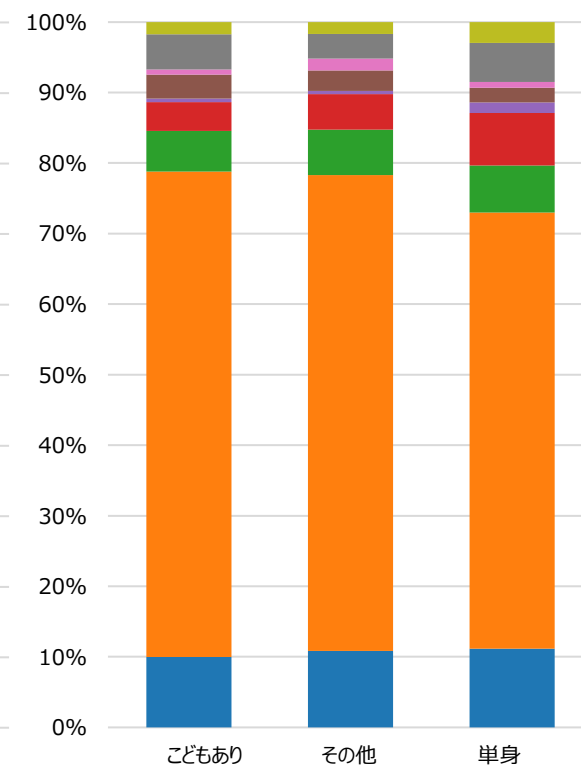
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

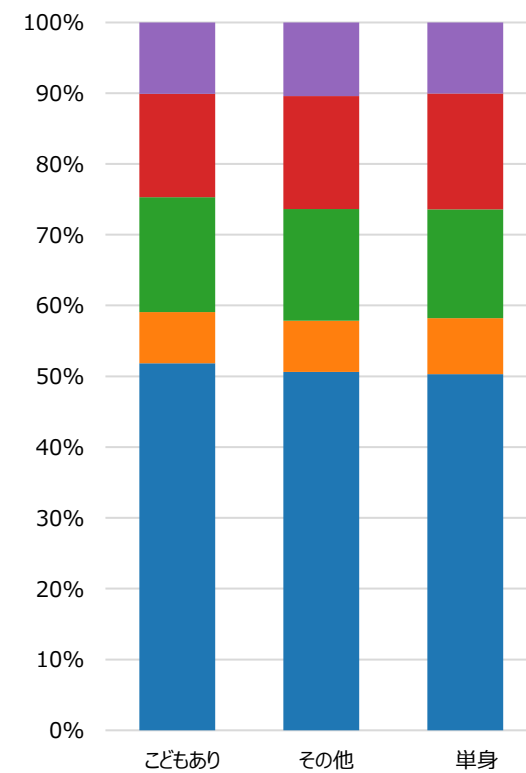
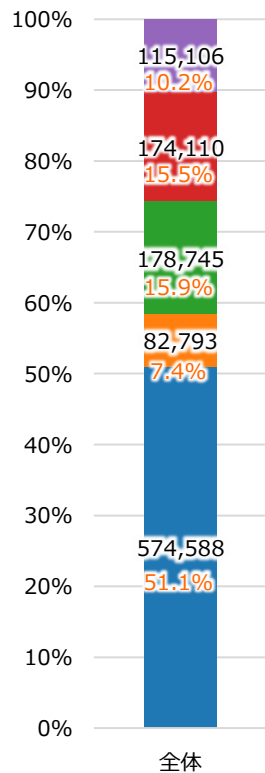
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

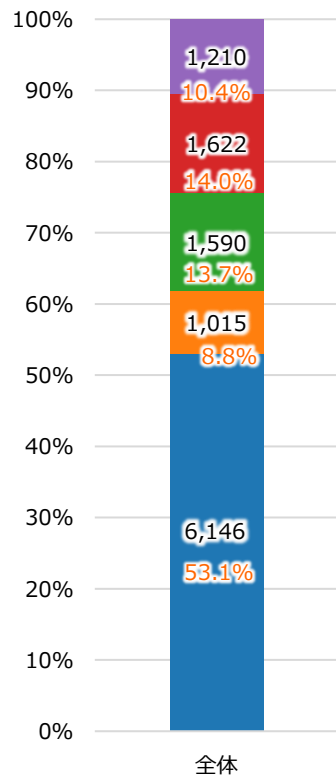
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

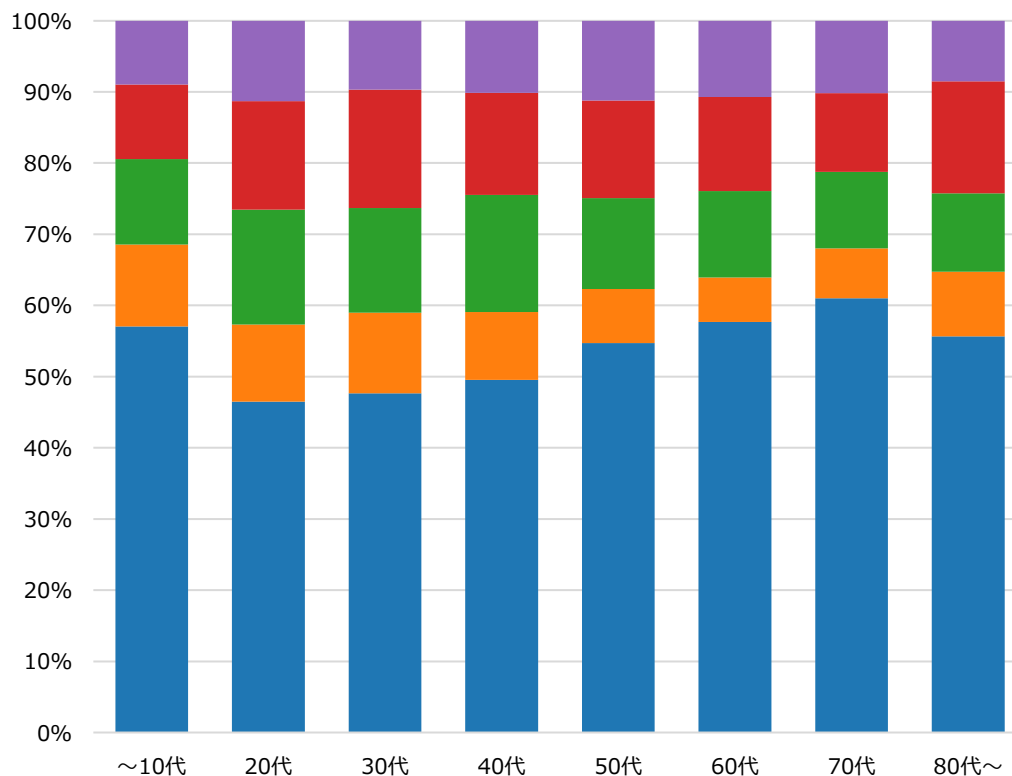
佐賀県

単位：名

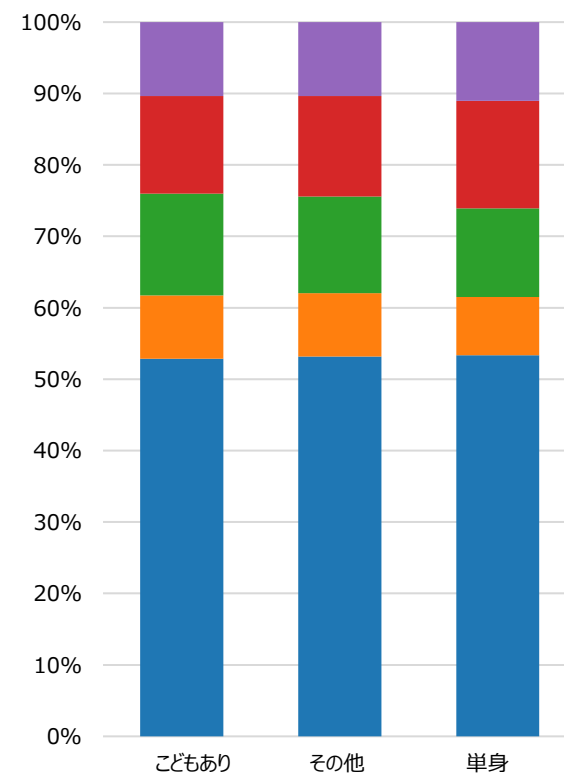
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 佐賀県は、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「取締り・罰則の強化」が高い

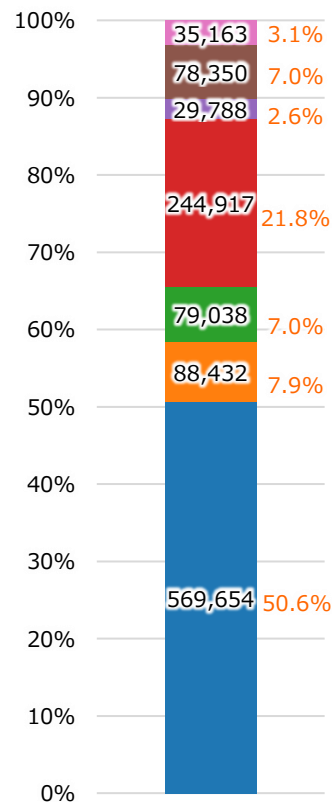
Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

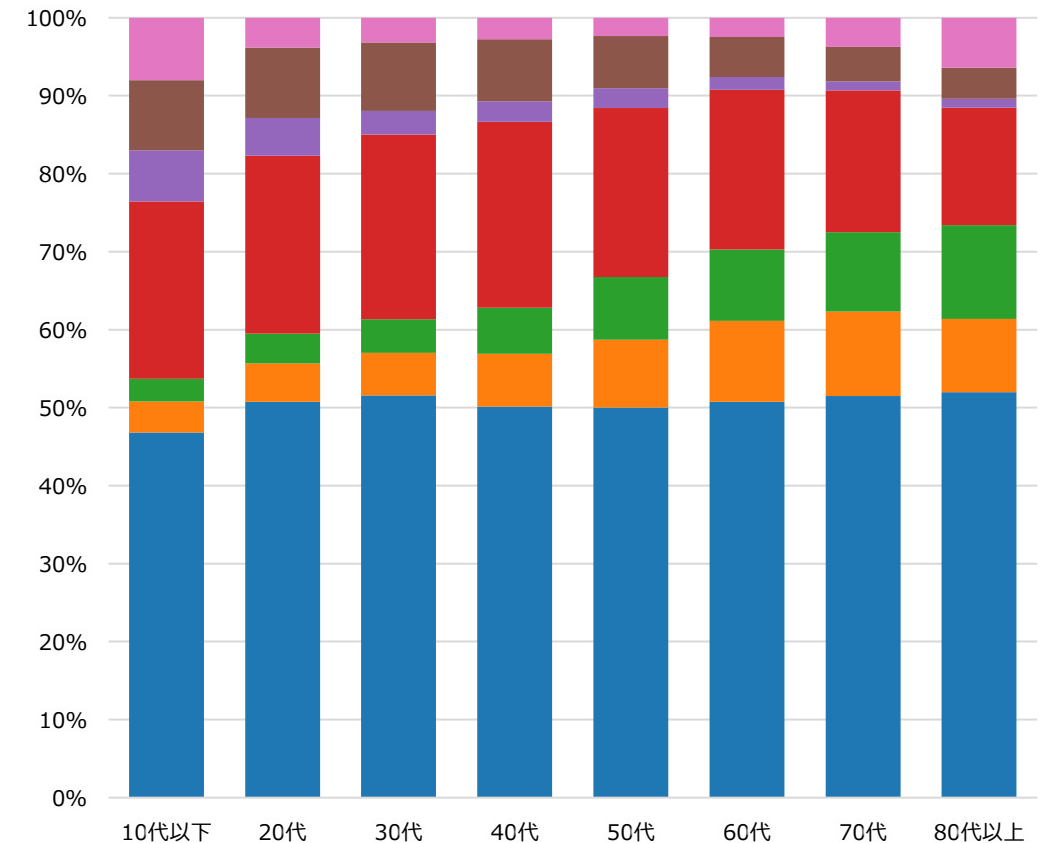
単位：名

全国

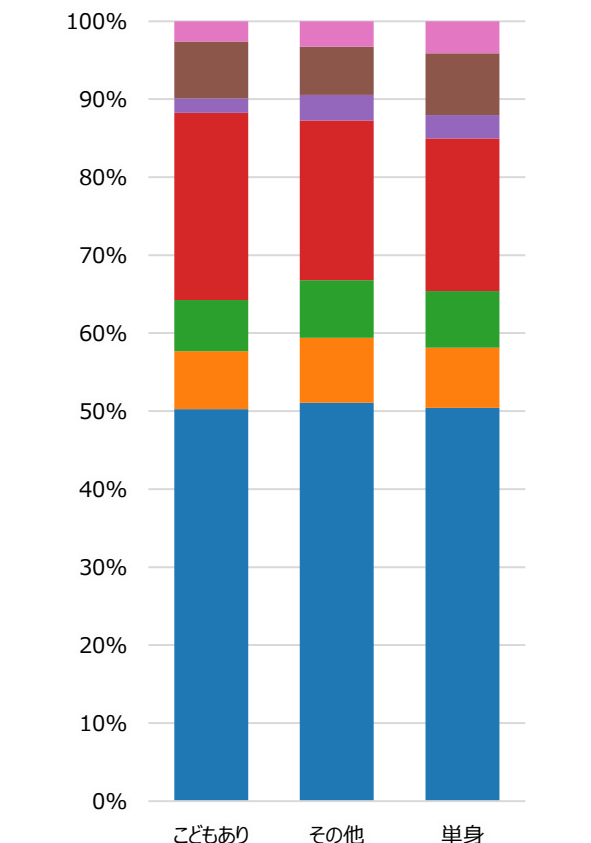
全体



年代別



世帯別



■ 地震・津波 ■ 風水災 (台風・洪水) ■ 火災 ■ 交通事故 ■ ペットの病気・ケガ ■ 日常における賠償 ■ 熱中症

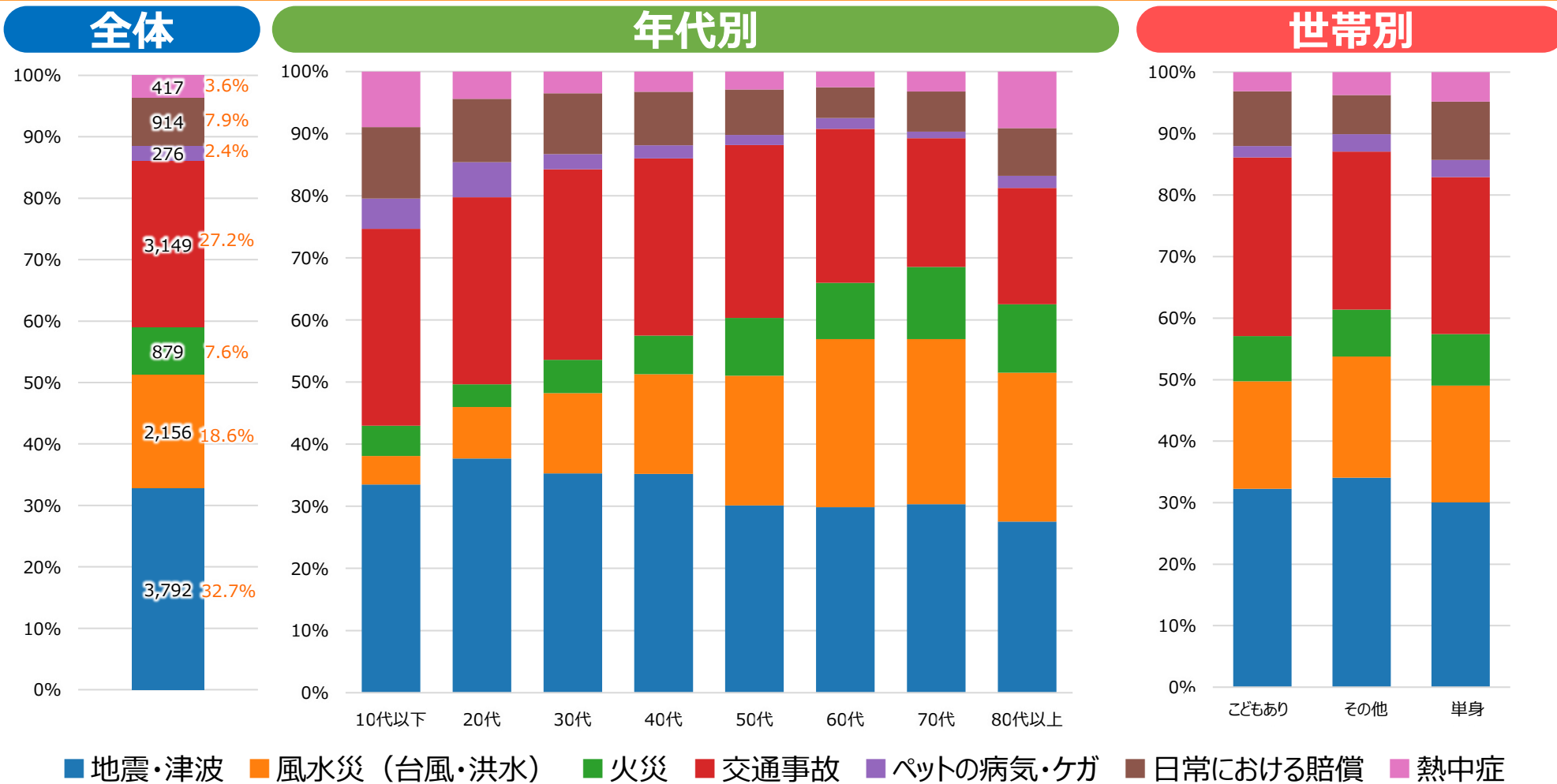
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

佐賀県

単位：名

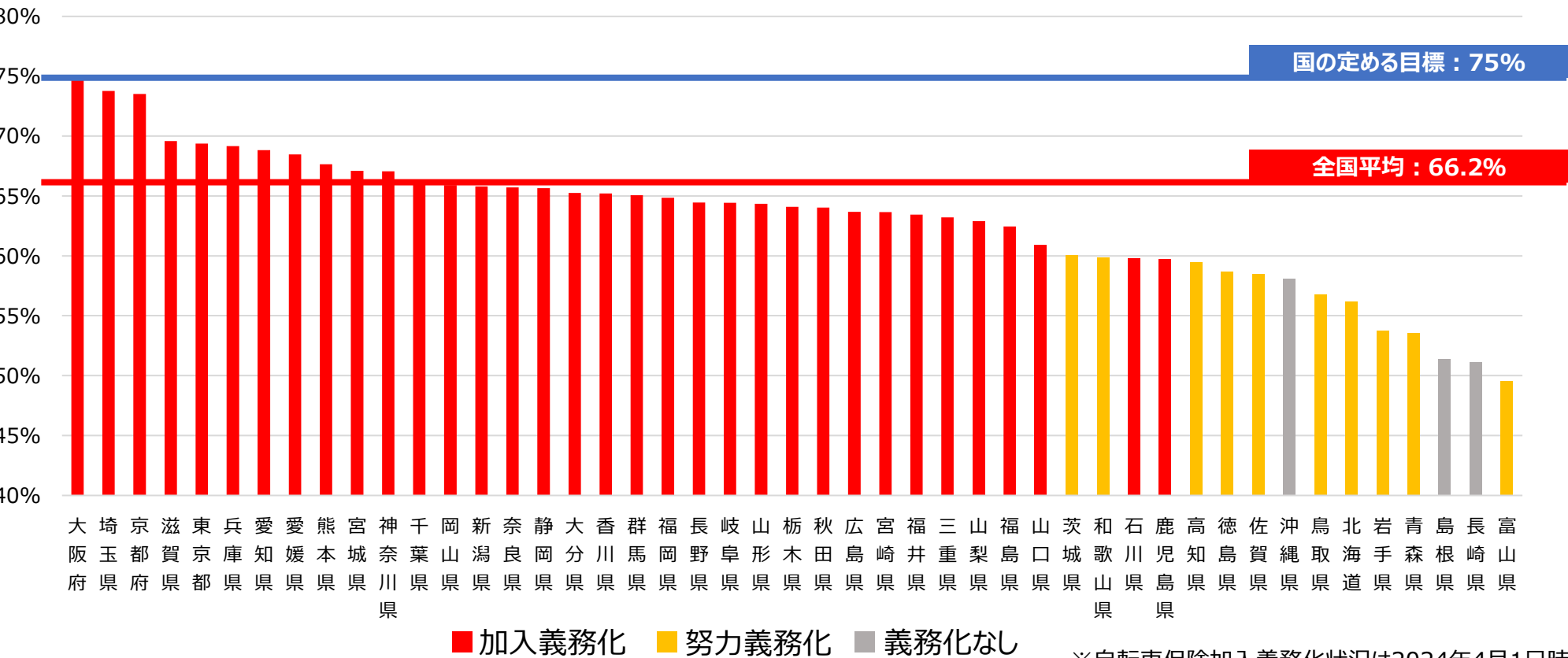
佐賀県



- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

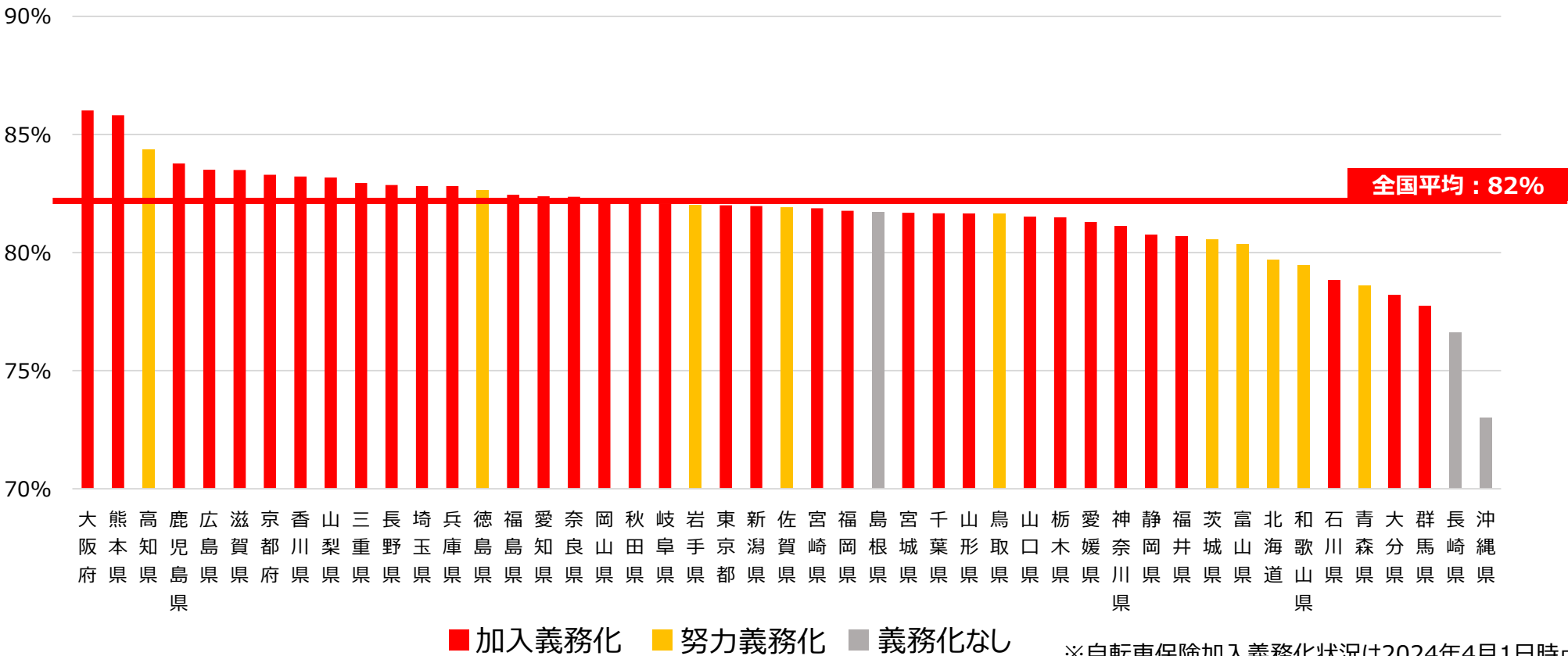
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



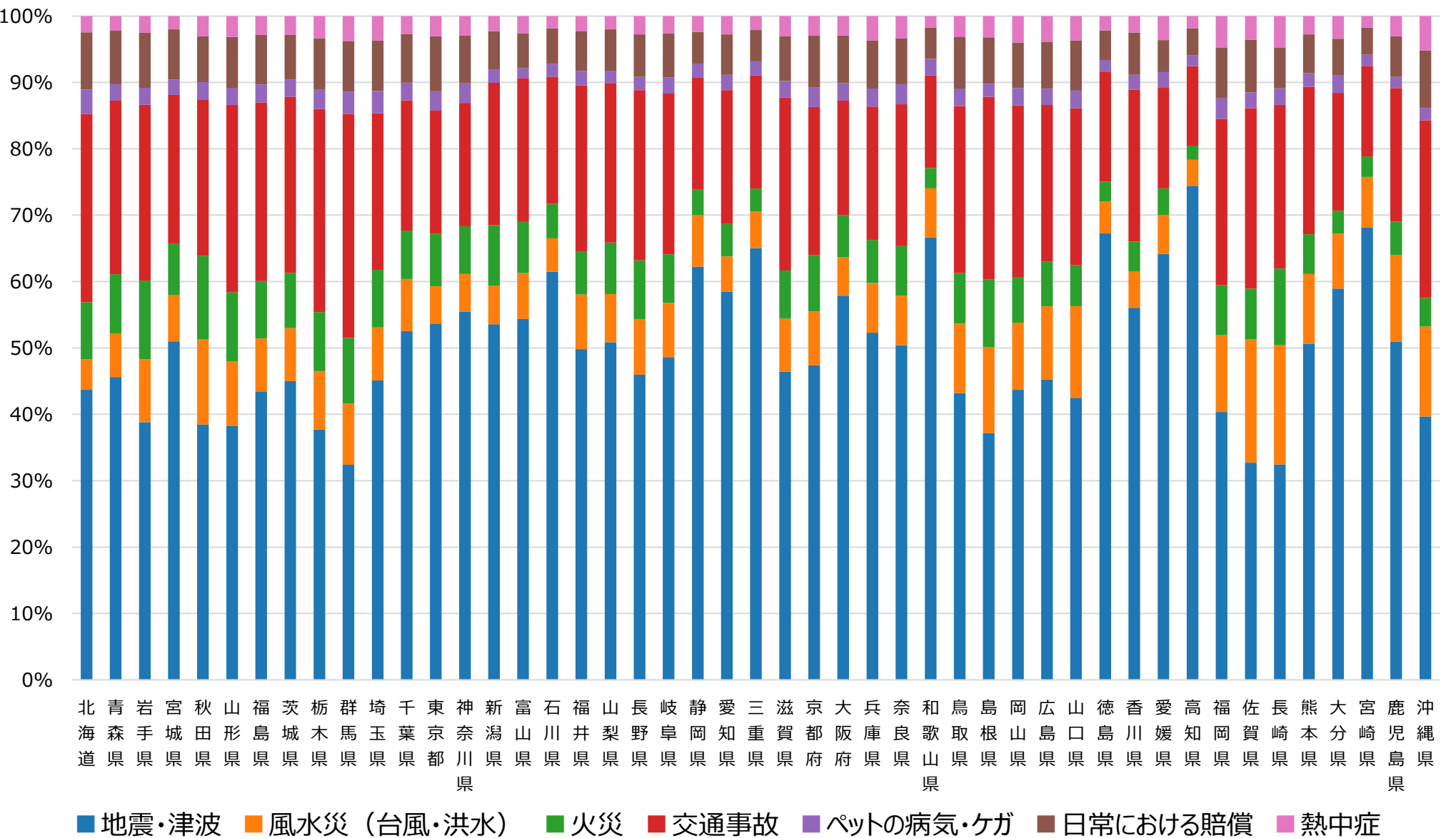
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

長崎県との 連携協定締結状況	
締結日	2022/10/12
①	健康増進に関すること
②	スポーツ振興に関すること
③	中小企業支援に関すること
④	環境保全に関すること
⑤	ダイバーシティ&インクルージョンの推進に関すること

他4項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

長崎県

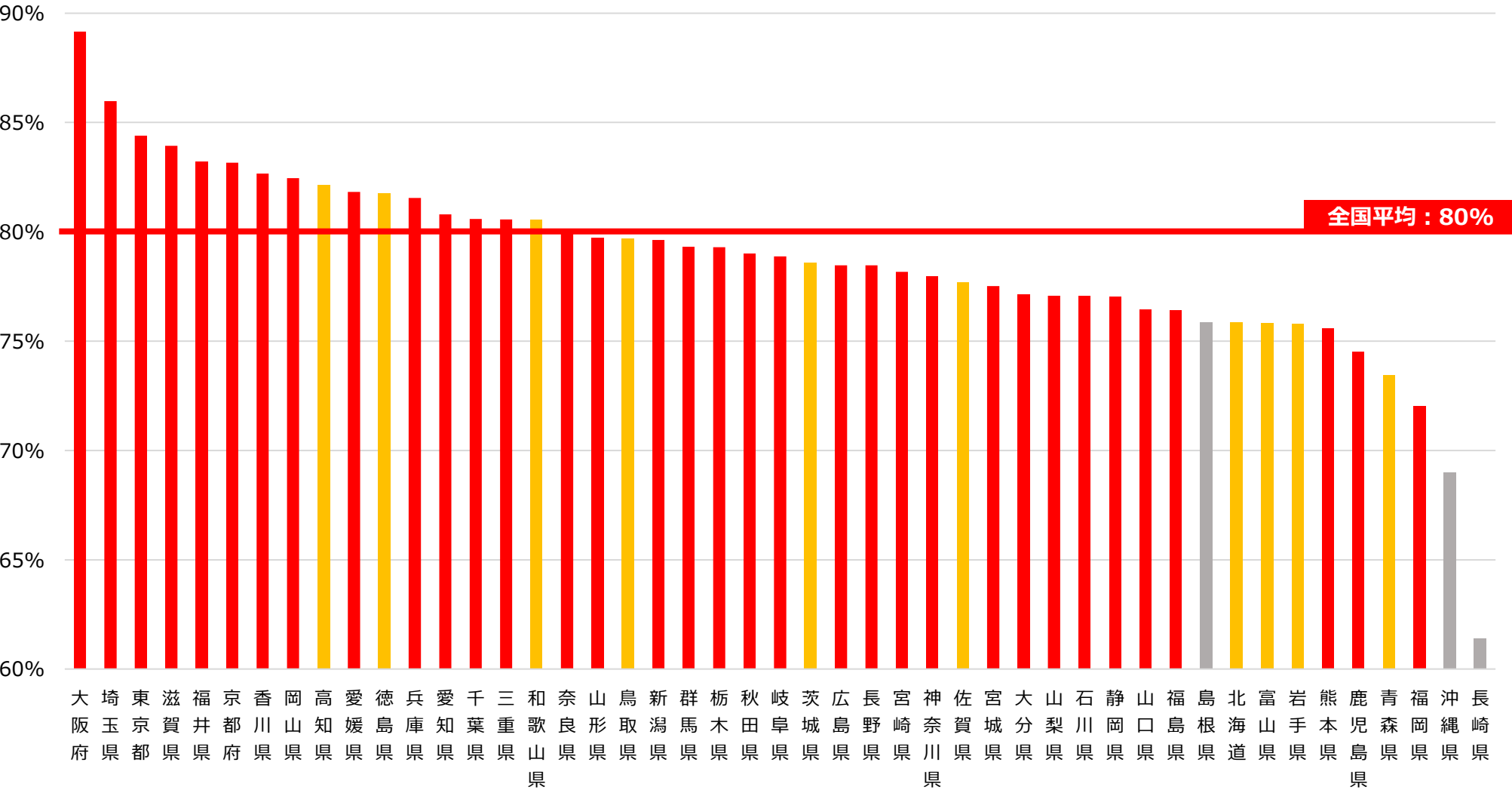
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	371	2.6%	196	3.0%	175	2.2%
20代	1,822	12.5%	922	14.1%	900	11.2%
30代	2,261	15.6%	1,109	17.0%	1,152	14.4%
40代	2,704	18.6%	1,197	18.3%	1,507	18.8%
50代	2,843	19.6%	1,186	18.2%	1,657	20.7%
60代	2,465	17.0%	1,014	15.5%	1,451	18.1%
70代	1,577	10.8%	695	10.6%	882	11.0%
80代～	495	3.4%	211	3.2%	284	3.5%
合計	14,538	100.0%	6,530	100.0%	8,008	100.0%
2024年度	2,304	100.0%	902	100.0%	1,402	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	277	74.7%	157	80.1%	120	68.6%
20代	1,135	62.3%	598	64.9%	537	59.7%
30代	1,512	66.9%	736	66.4%	776	67.4%
40代	1,862	68.9%	815	68.1%	1,047	69.5%
50代	1,799	63.3%	777	65.5%	1,022	61.7%
60代	1,399	56.8%	557	54.9%	842	58.0%
70代	763	48.4%	343	49.4%	420	47.6%
80代～	182	36.8%	85	40.3%	97	34.2%
合計	8,929	61.4%	4,068	62.3%	4,861	60.7%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



加入義務化 努力義務化 義務化なし

※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

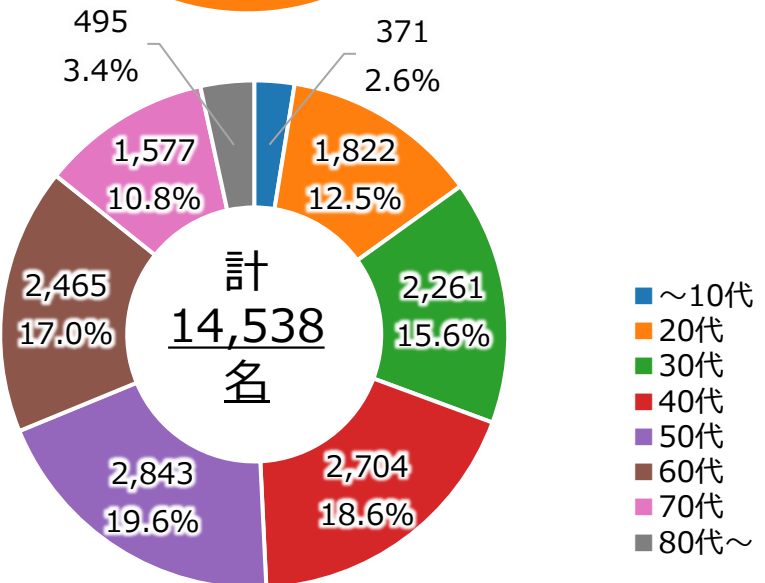
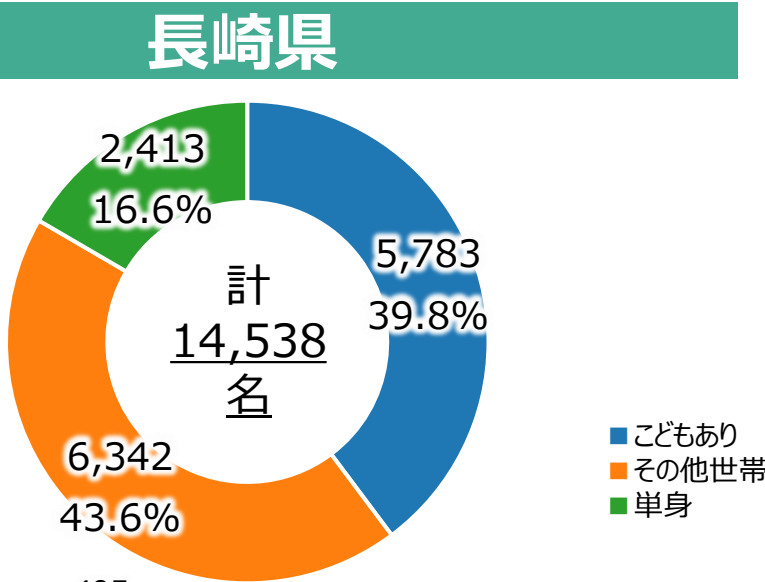
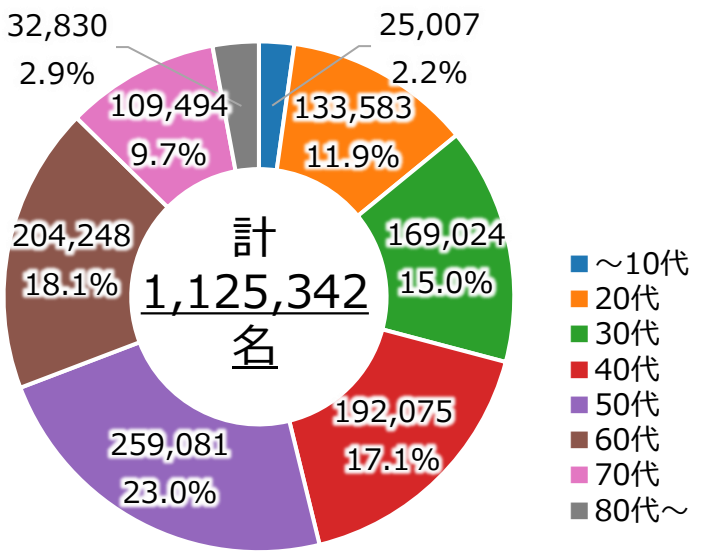
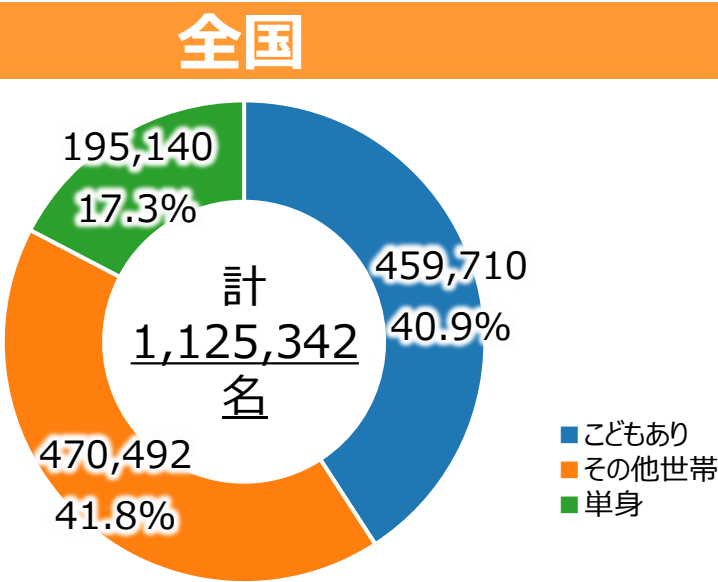
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

世帯構成別

年代別



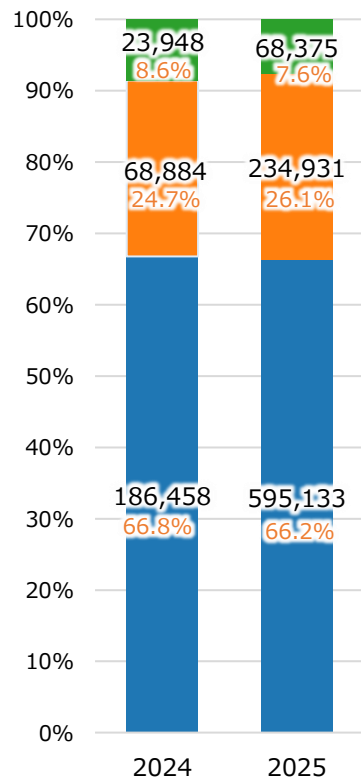
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

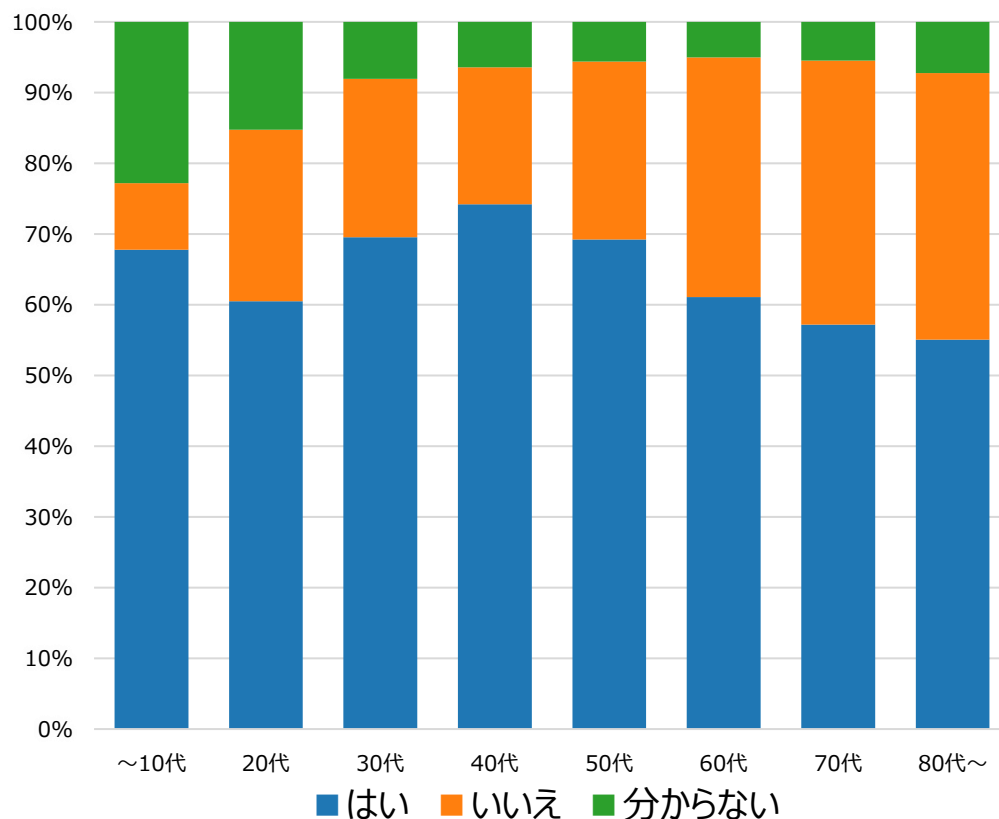
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

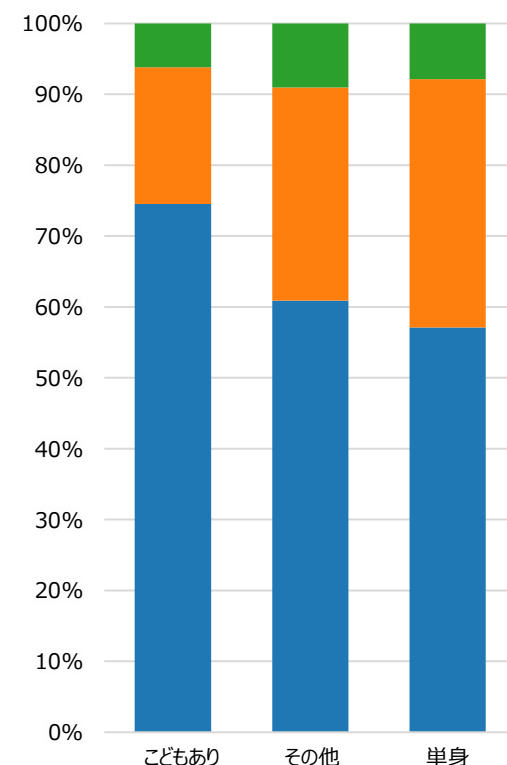
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

長崎県

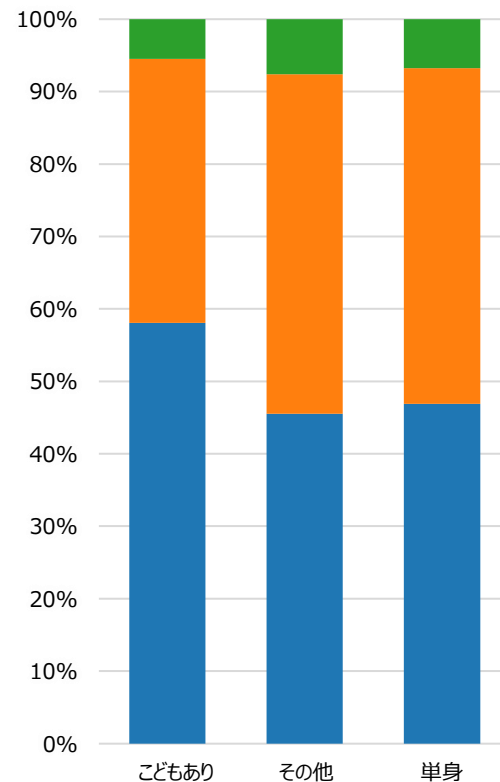
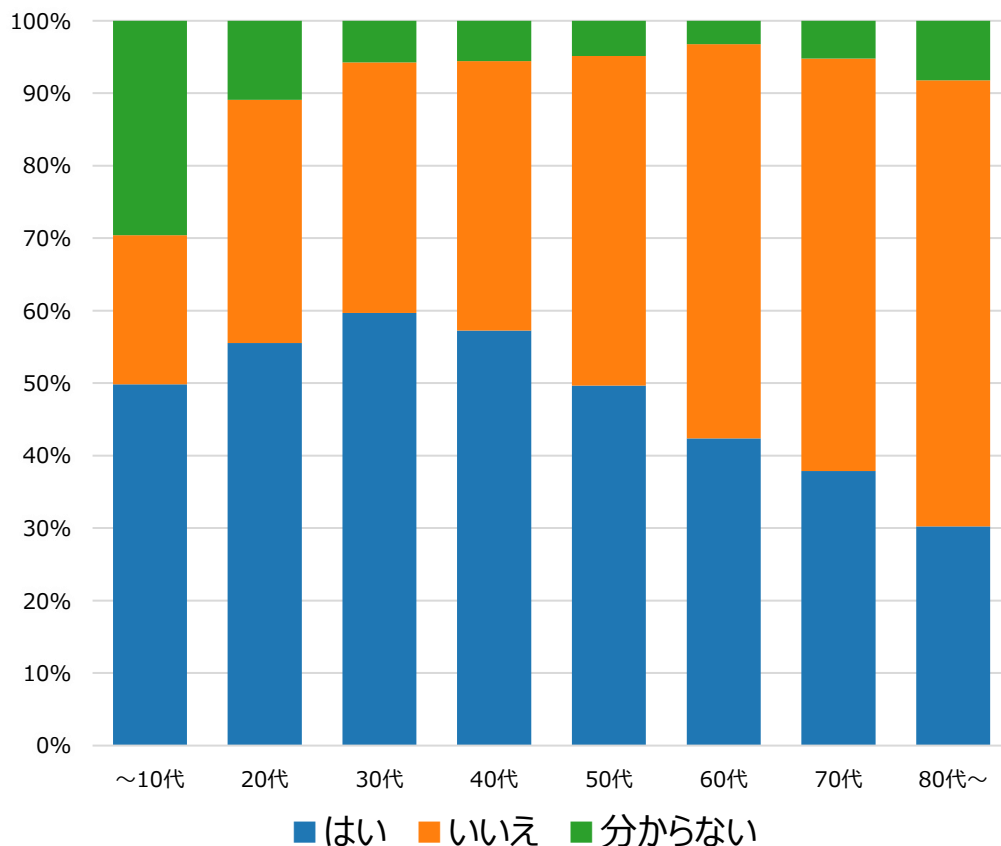
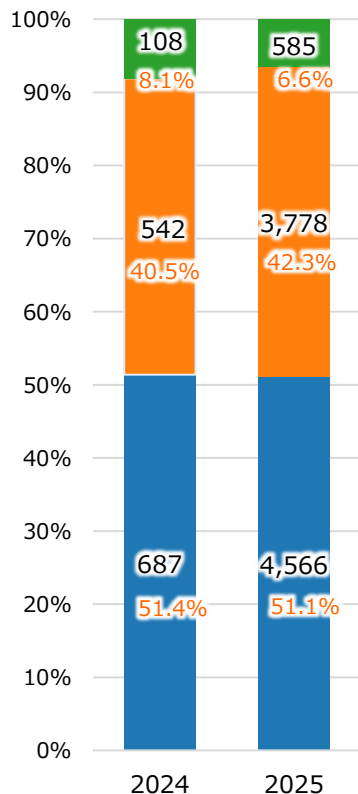
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別

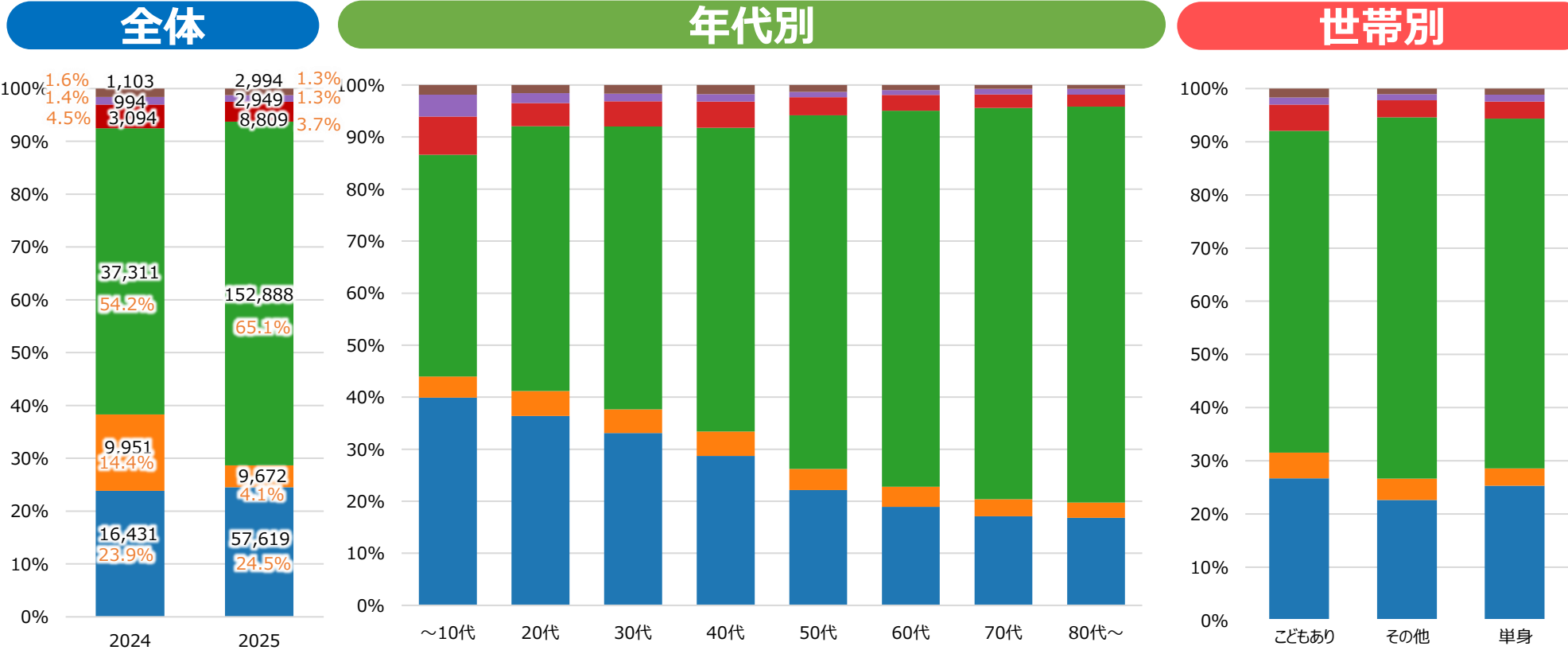


- 加入率は前年と同程度、全国と比較すると大きく低位（▲15Pt）
- 年代別でみると、いずれの年代においても全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

全国

単位：名



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

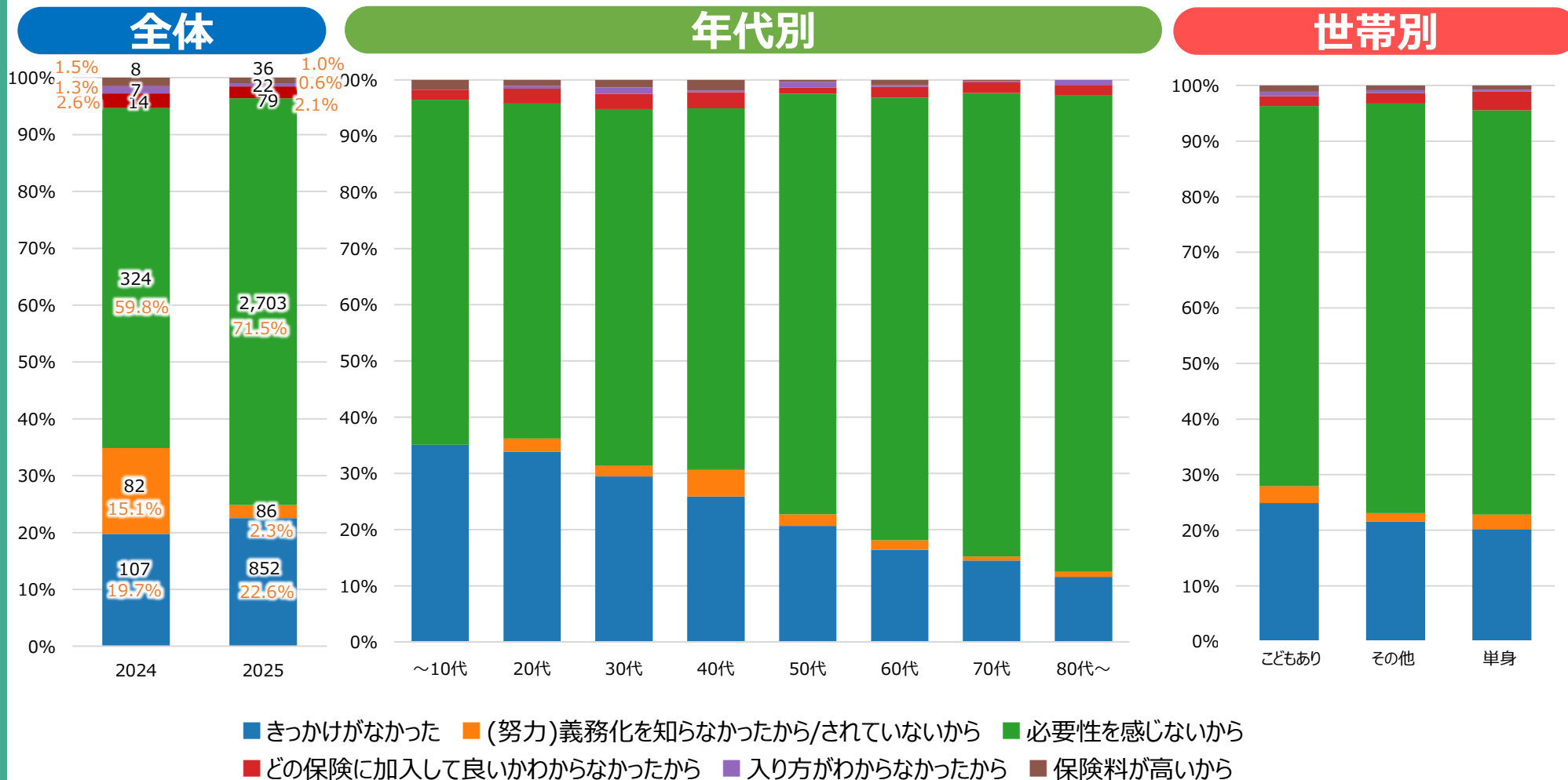
国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

長崎県

単位：名



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲13Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:8,929名のうち、413名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 122 名	② 69 名
	加入	52 名	170 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	16.1%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	1.8%
加入方法がわからなかったから	3.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	25.0%
保険料が高いから	1.8%
必要性を感じないから	51.8%

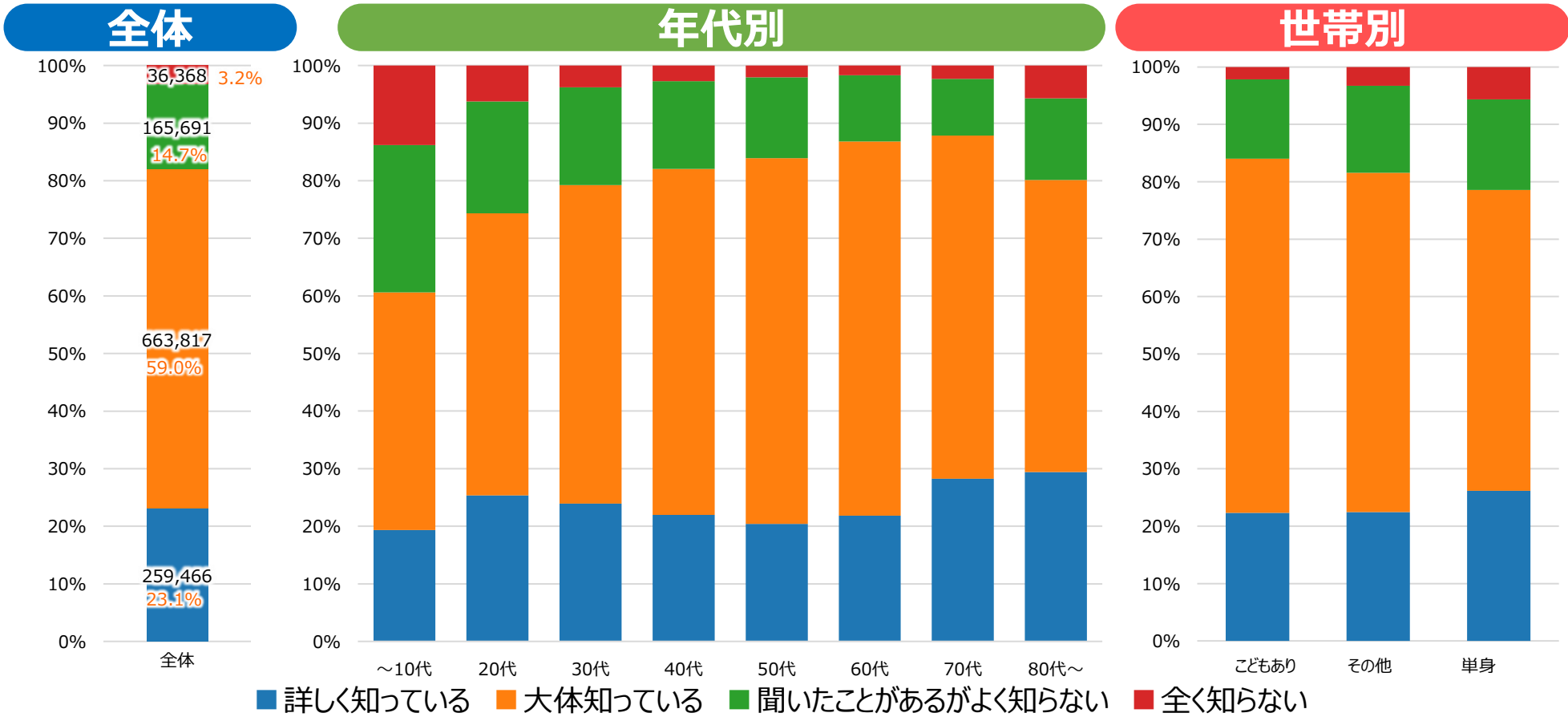
2024年度「自転車保険加入なし」の191名(①+②)のうち、
約3人に1人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約3人に1人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

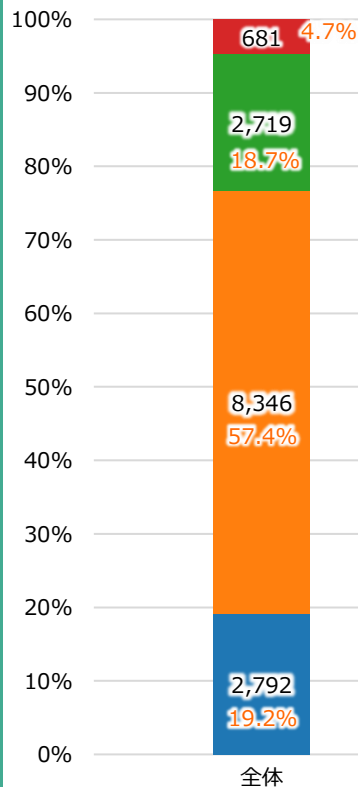
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

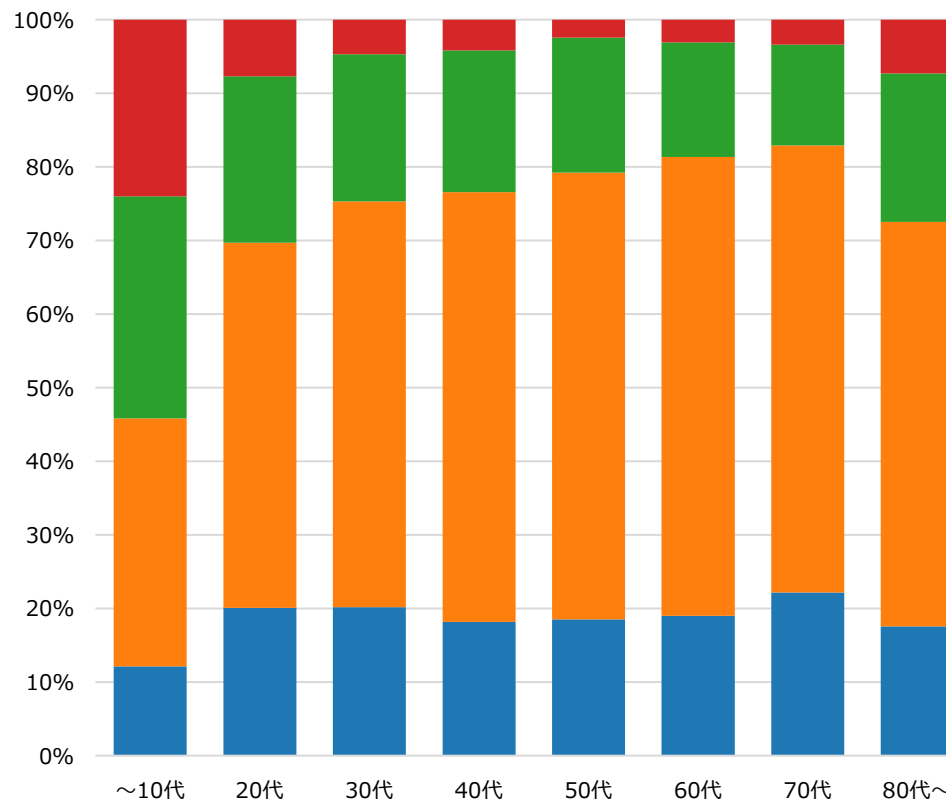
長崎県

単位：名

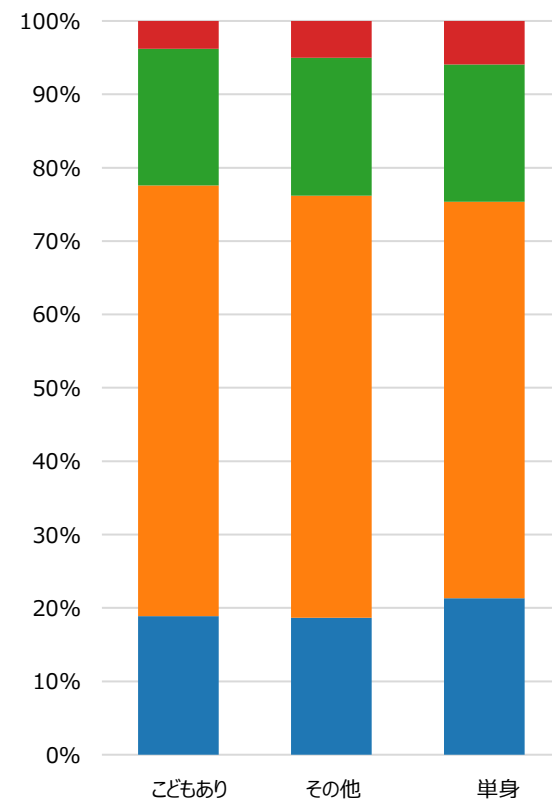
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

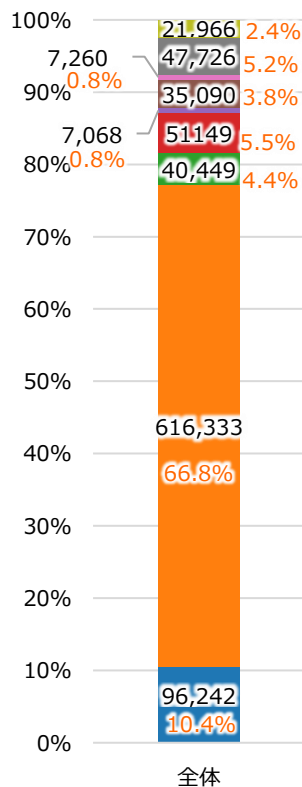
- 全体では認知度が約77%と、全国と比較し認知度が低い傾向
- 全国と比べると、特に10代の「知らない」と回答した割合が高い傾向

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

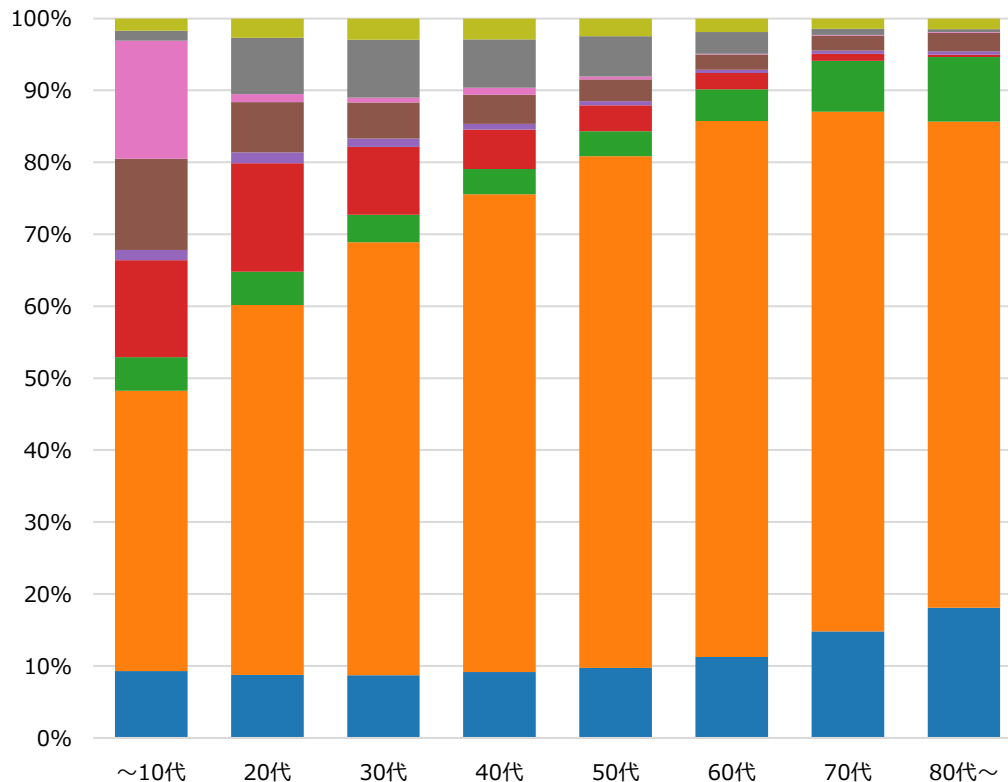
全国

単位：名

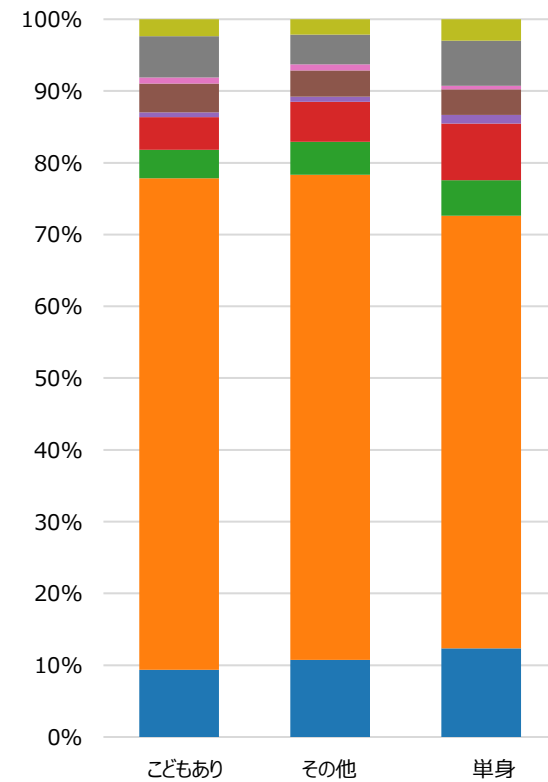
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

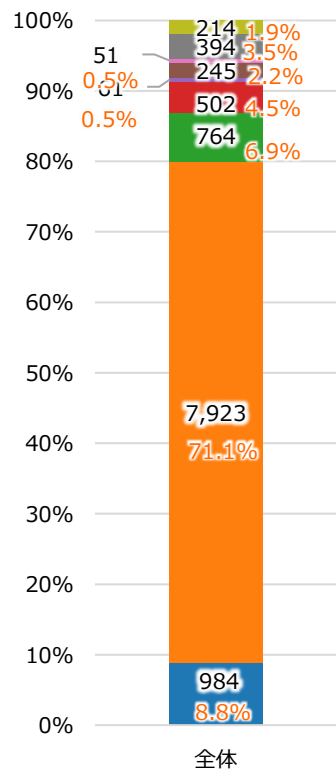
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

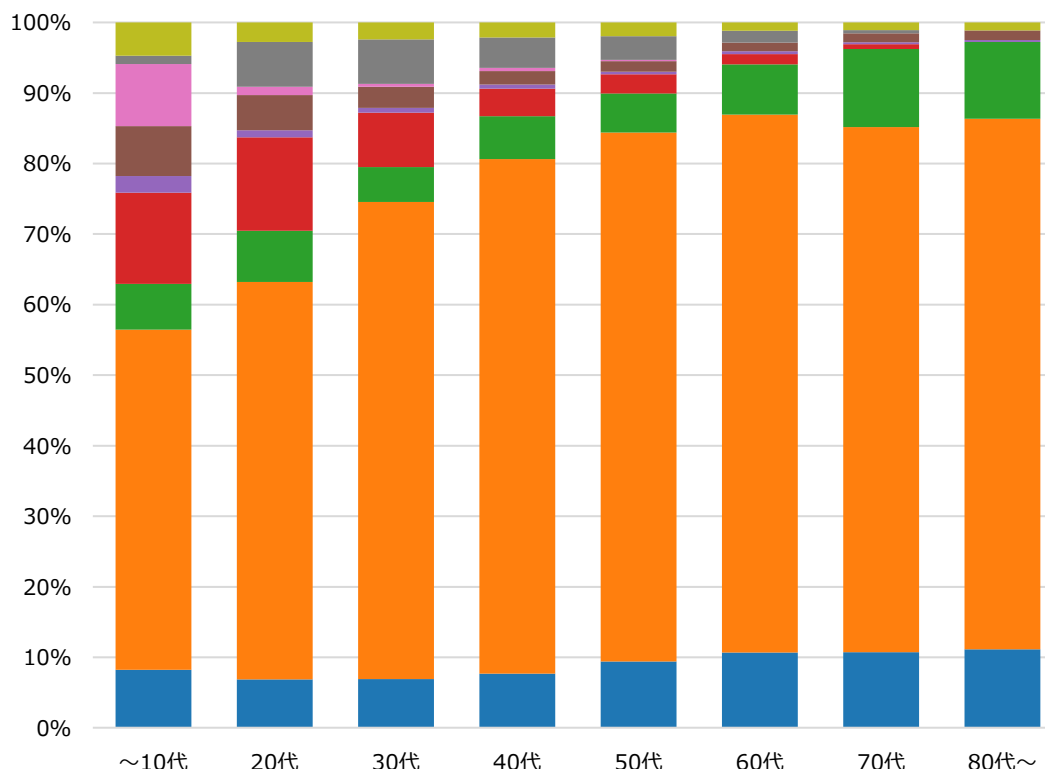
長崎県

単位：名

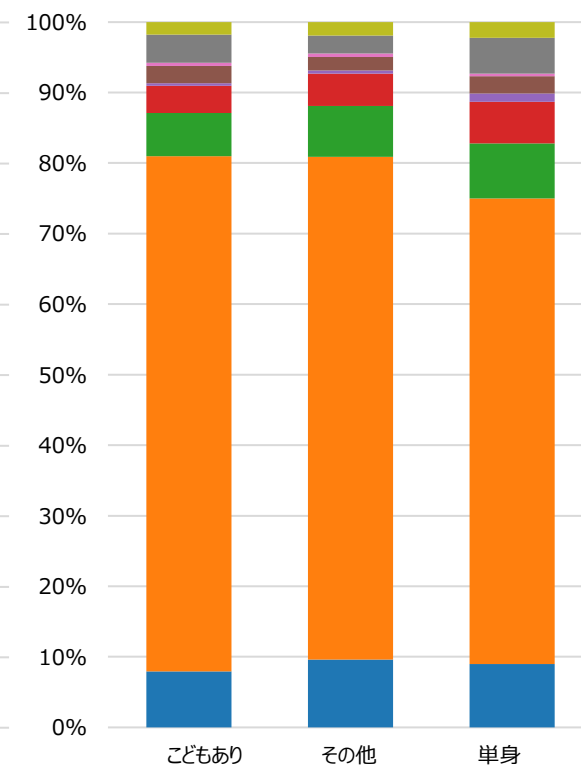
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

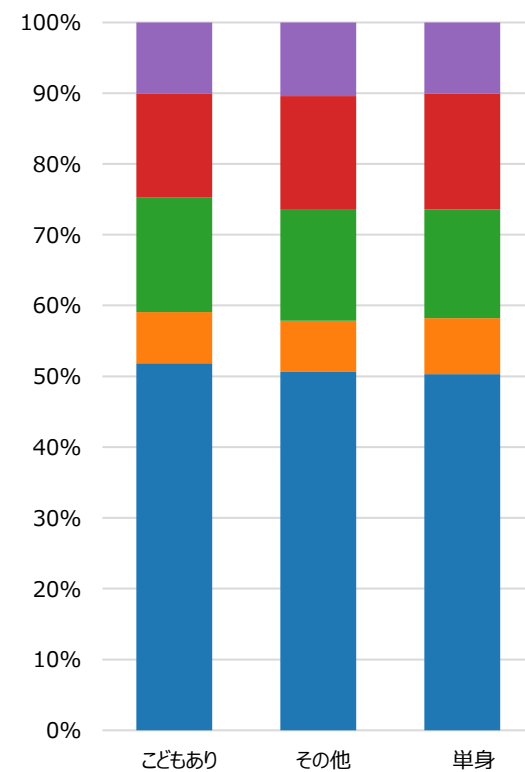
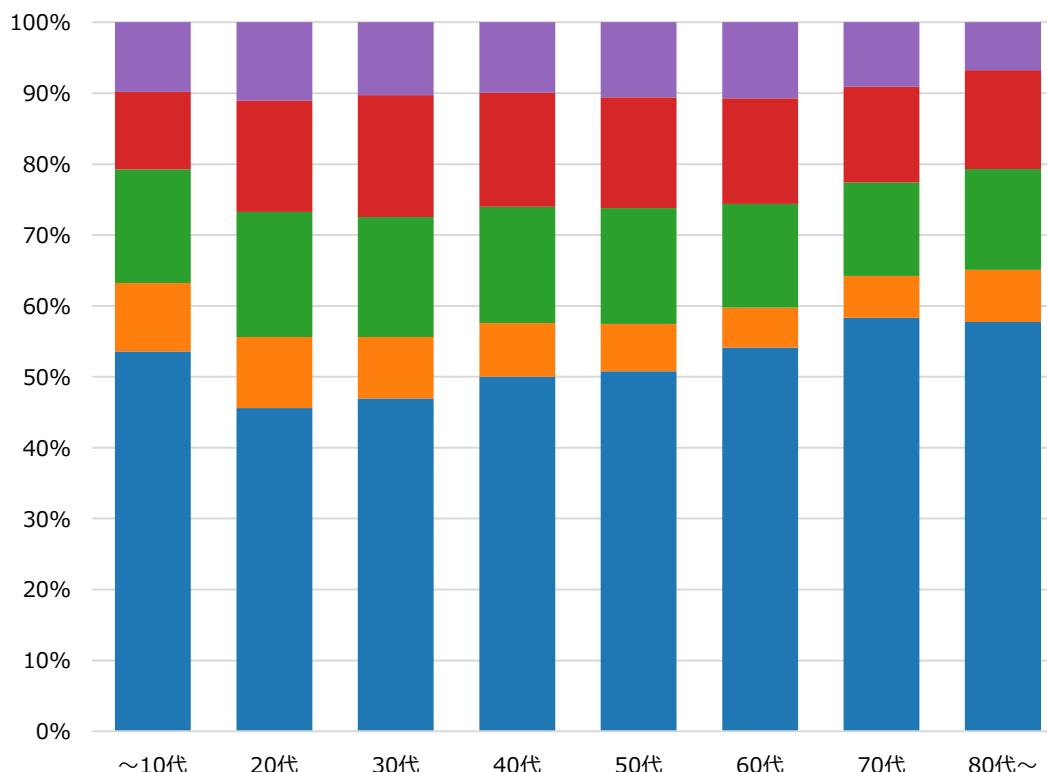
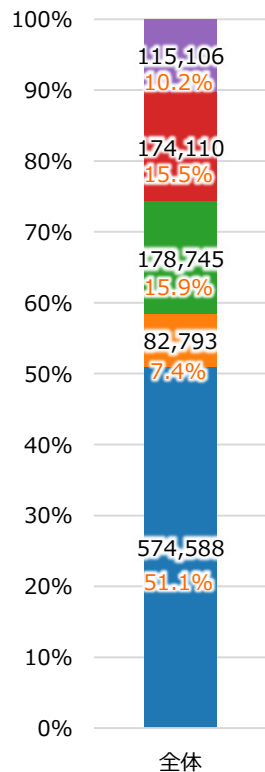
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

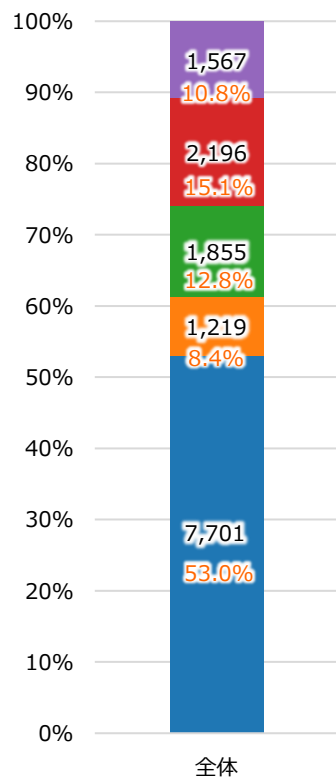
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

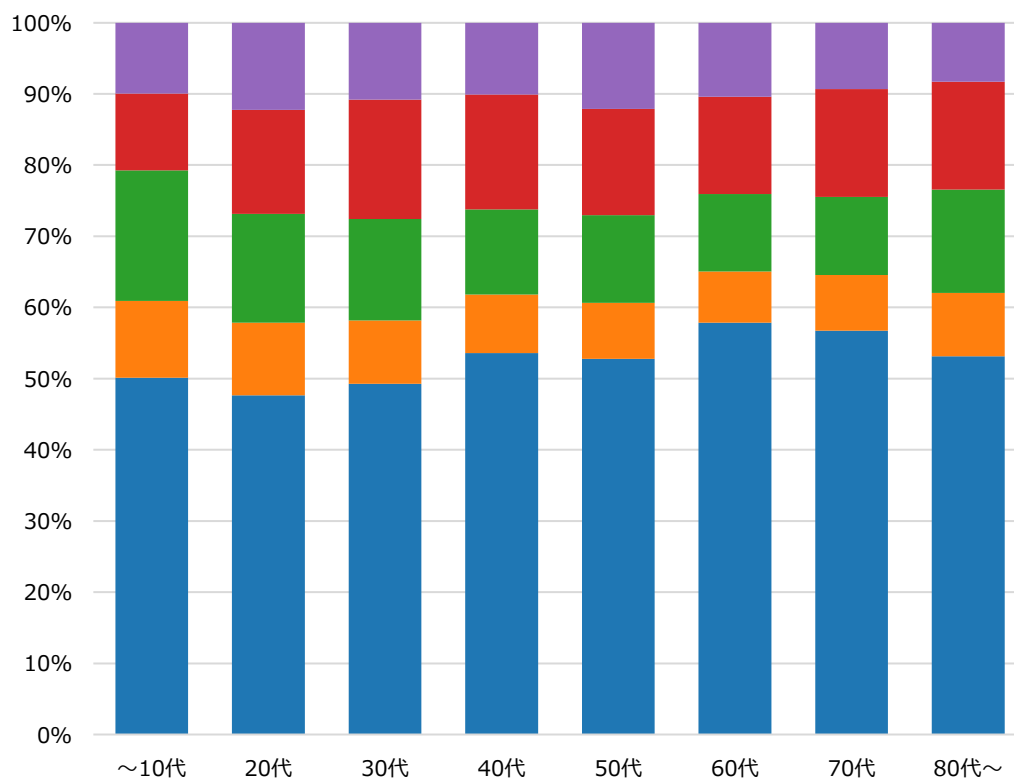
長崎県

単位：名

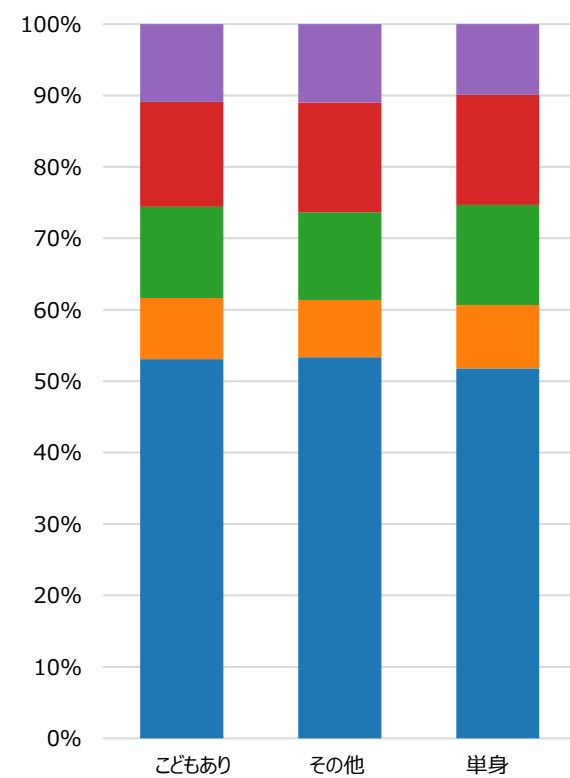
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

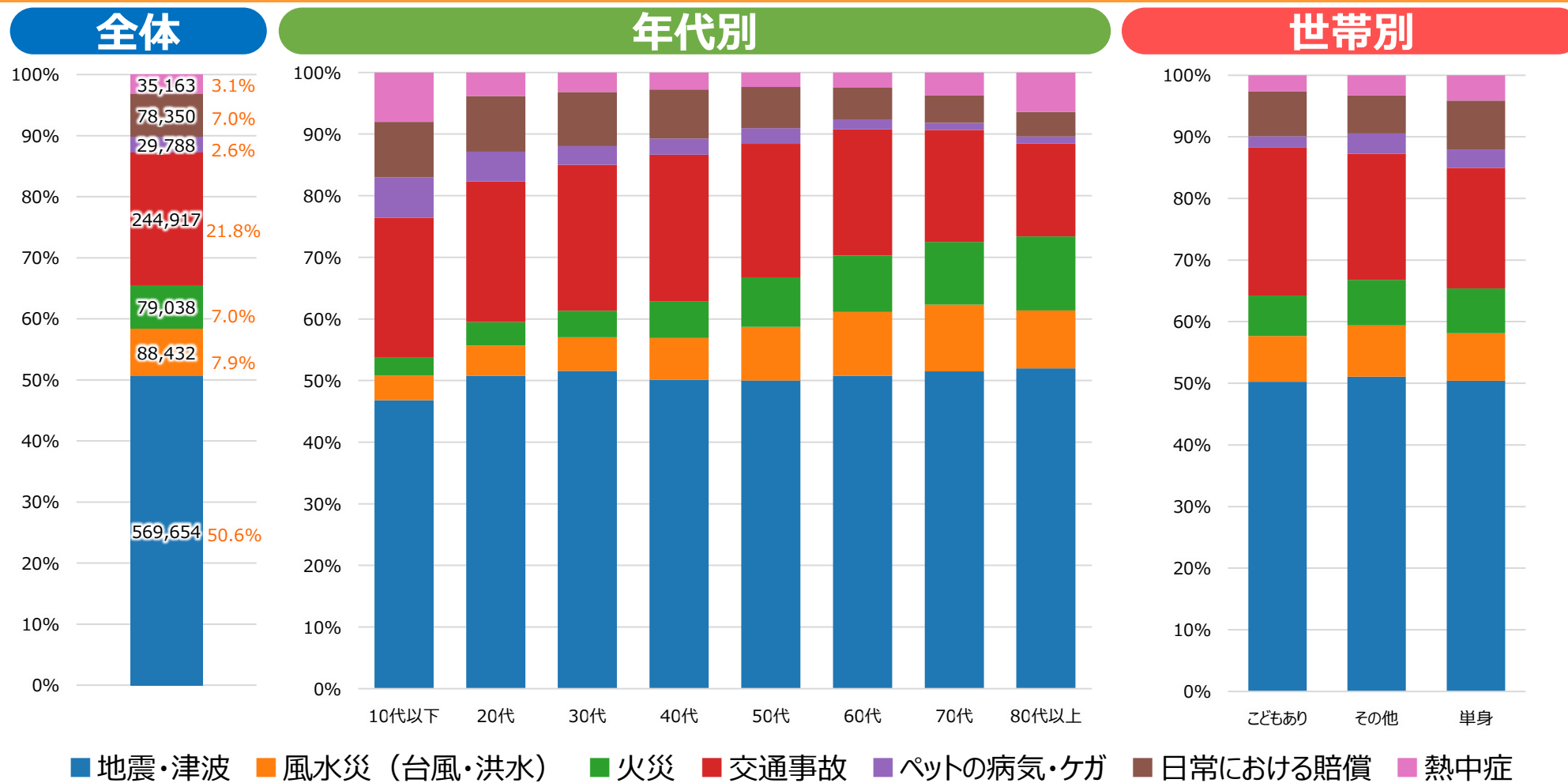
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「取締り・罰則の強化」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



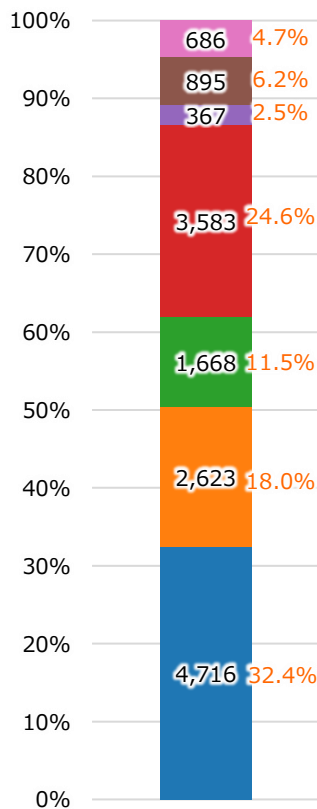
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

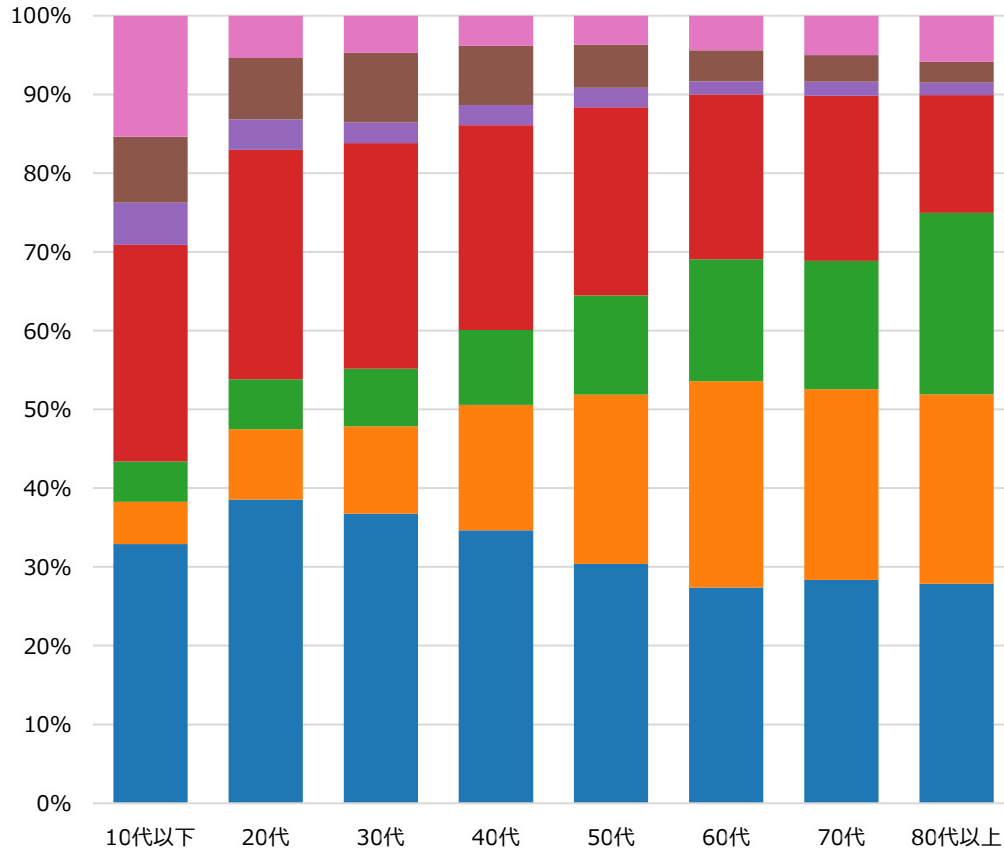
長崎県

単位：名

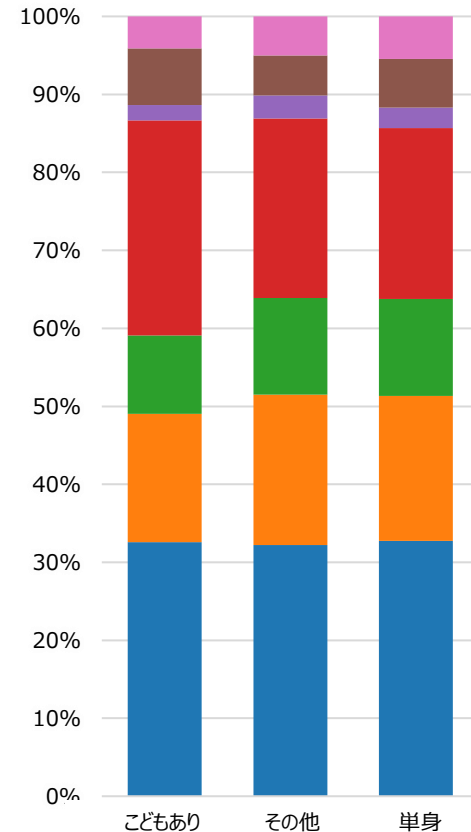
全体



年代別



世帯別

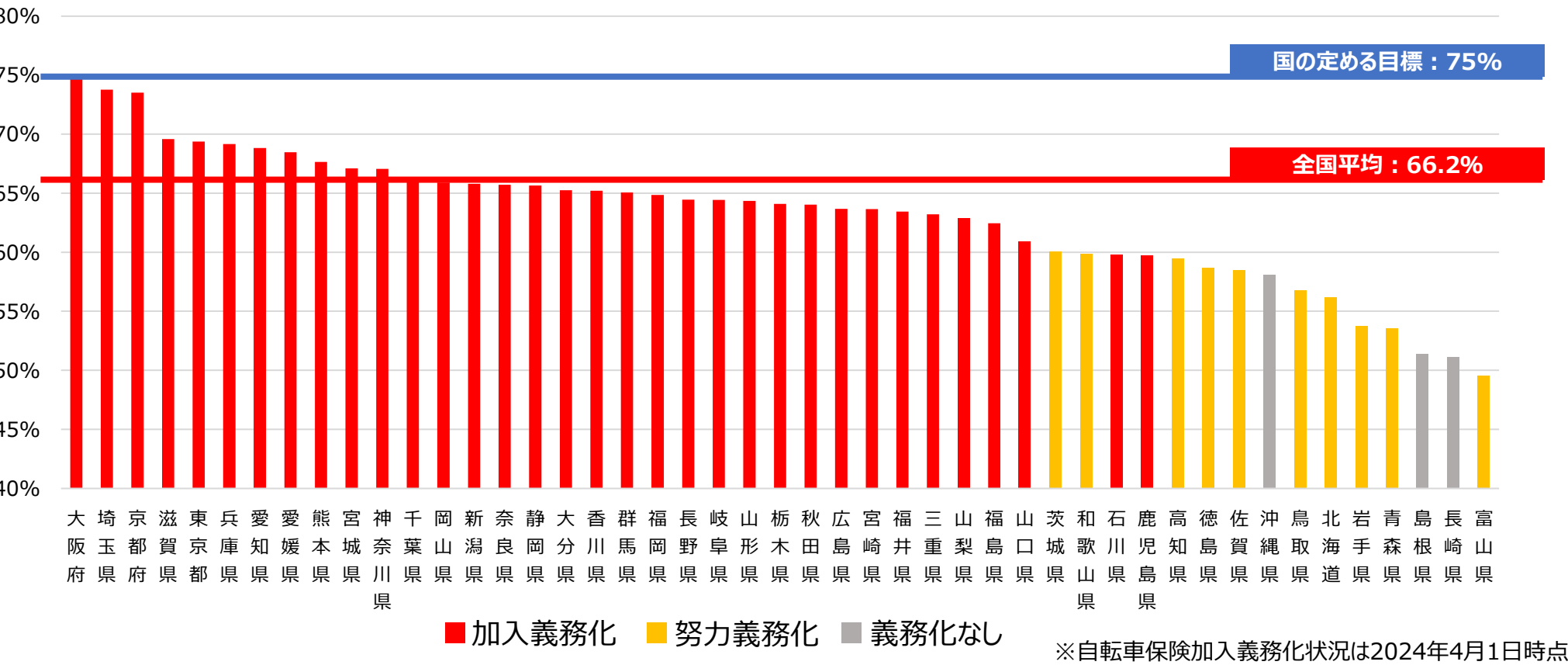


■ 地震・津波 ■ 風水災（台風・洪水） ■ 火災 ■ 交通事故 ■ ペットの病気・ケガ ■ 日常における賠償 ■ 熱中症

- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



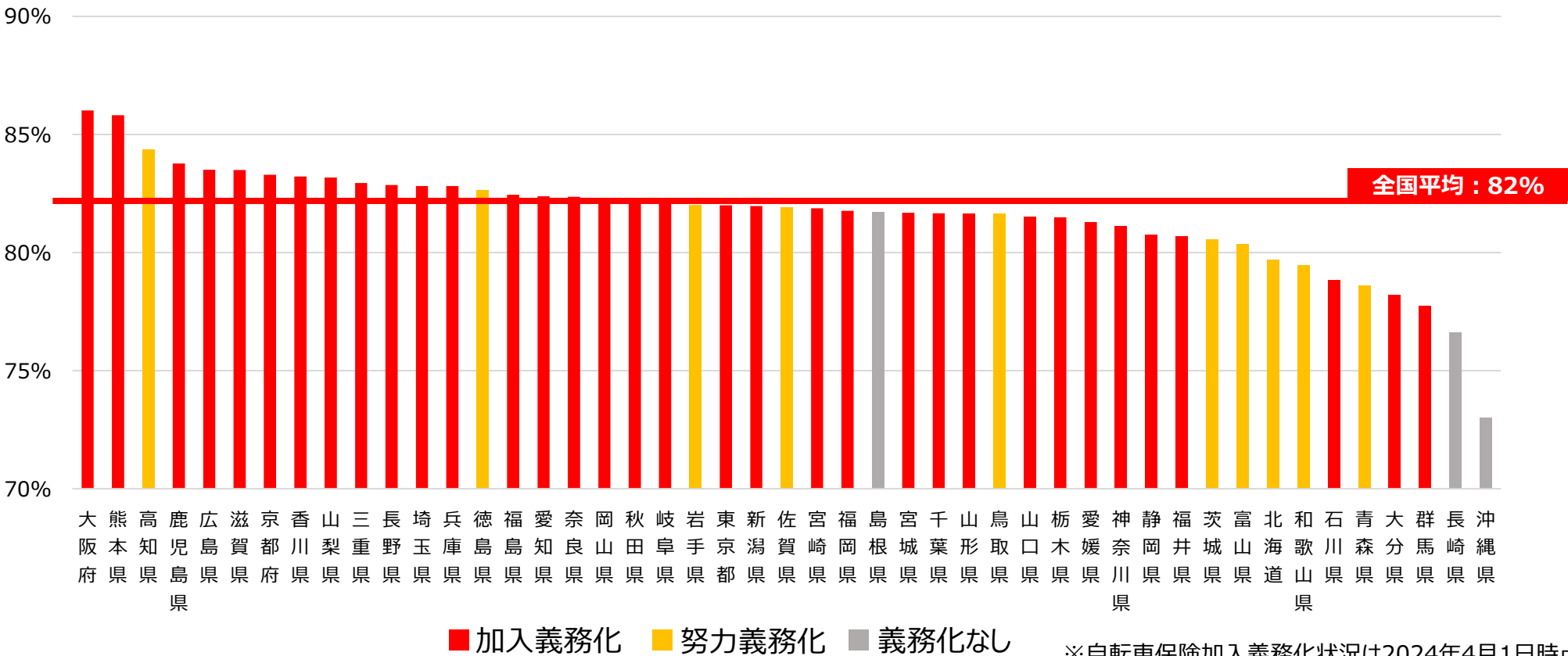
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



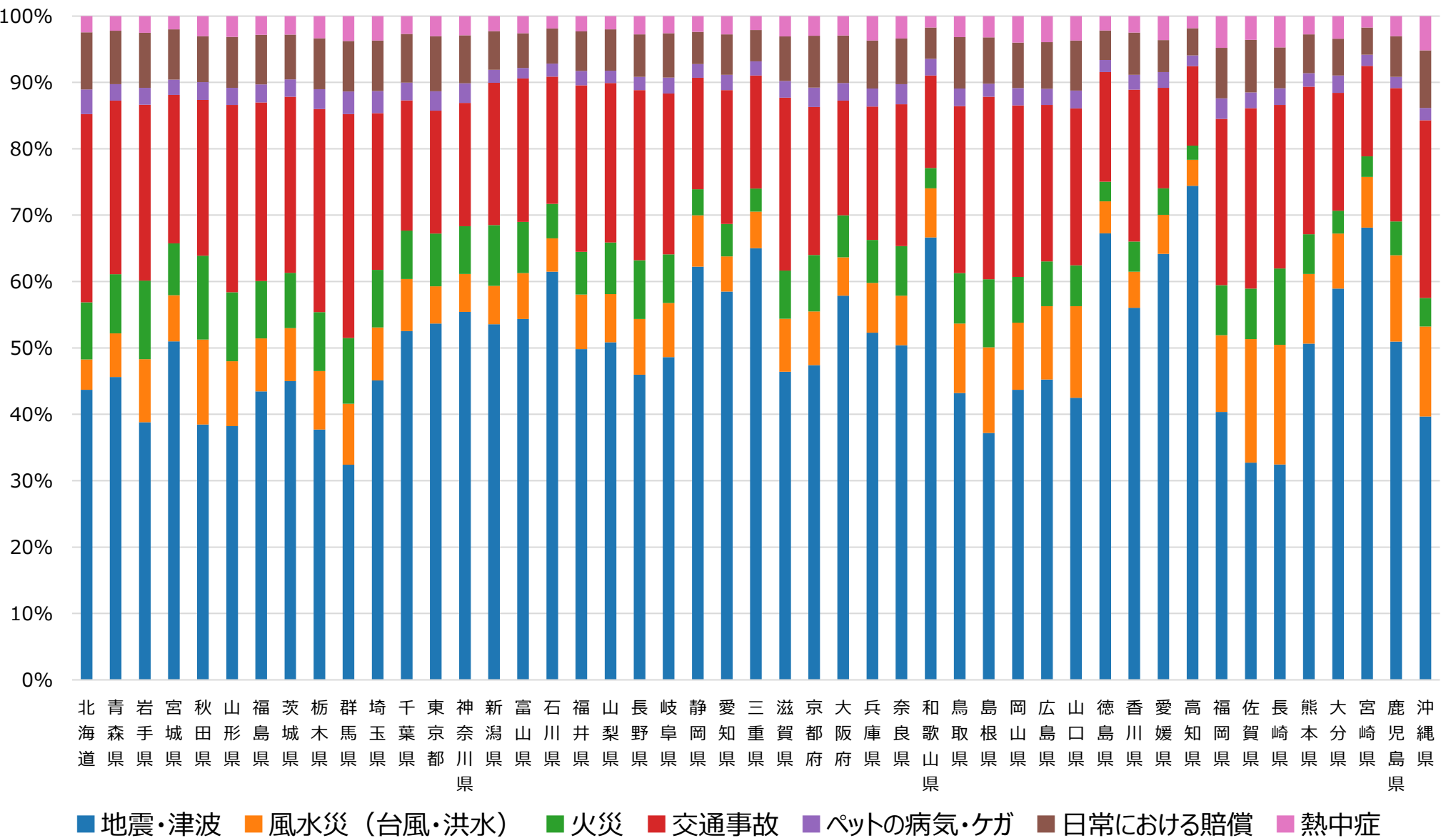
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

熊本県との 連携協定締結状況	
締結日	2018/01/23
①	観光物産振興・国際スポーツ大会に関すること
②	中小企業振興に関すること
③	地域・暮らしの安全・安心に関すること
④	県民の健康増進に関すること
⑤	高齢者・障がい者支援に関すること

他3項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

熊本県

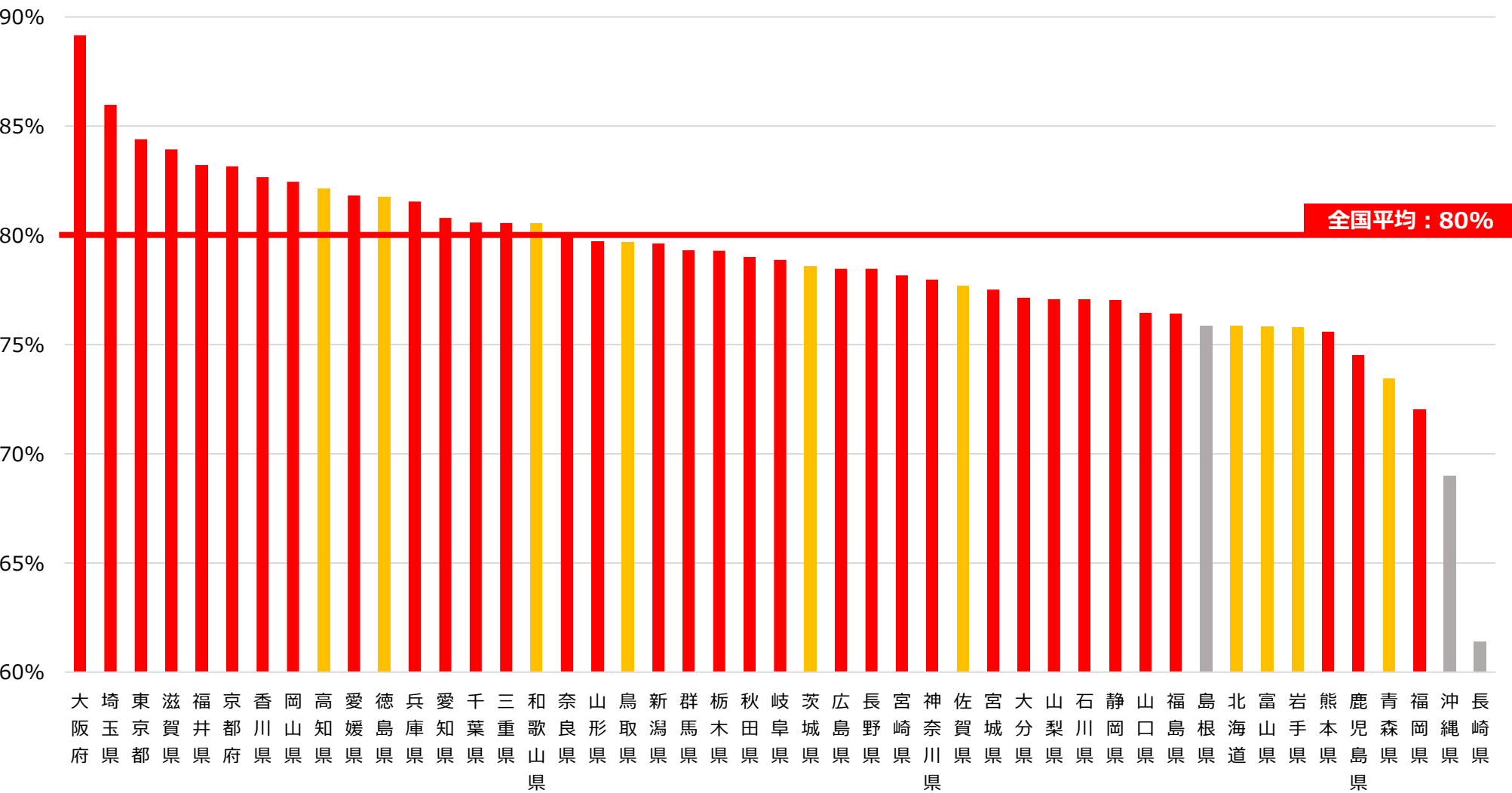
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	331	2.1%	161	2.2%	170	2.0%
20代	1,895	12.0%	1,013	14.1%	882	10.2%
30代	2,553	16.1%	1,175	16.4%	1,378	15.9%
40代	3,013	19.0%	1,318	18.4%	1,695	19.5%
50代	3,043	19.2%	1,327	18.5%	1,716	19.8%
60代	2,805	17.7%	1,189	16.6%	1,616	18.6%
70代	1,661	10.5%	736	10.3%	925	10.7%
80代～	534	3.4%	241	3.4%	293	3.4%
合計	15,835	100.0%	7,160	100.0%	8,675	100.0%
2024年度	5,046	100.0%	2,132	100.0%	2,914	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	287	86.7%	138	85.7%	149	87.6%
20代	1,406	74.2%	757	74.7%	649	73.6%
30代	2,008	78.7%	932	79.3%	1,076	78.1%
40代	2,521	83.7%	1,094	83.0%	1,427	84.2%
50代	2,364	77.7%	1,079	81.3%	1,285	74.9%
60代	1,955	69.7%	867	72.9%	1,088	67.3%
70代	1,103	66.4%	494	67.1%	609	65.8%
80代～	324	60.7%	156	64.7%	168	57.3%
合計	11,968	75.6%	5,517	77.1%	6,451	74.4%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化

■ 努力義務化

■ 義務化なし

※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

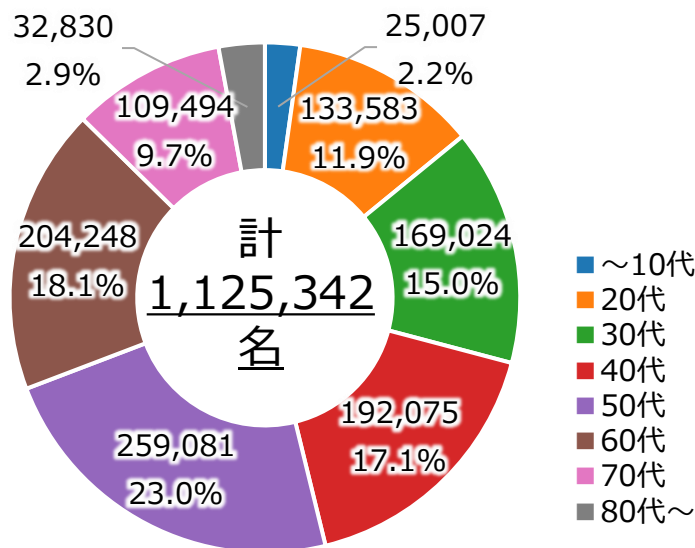
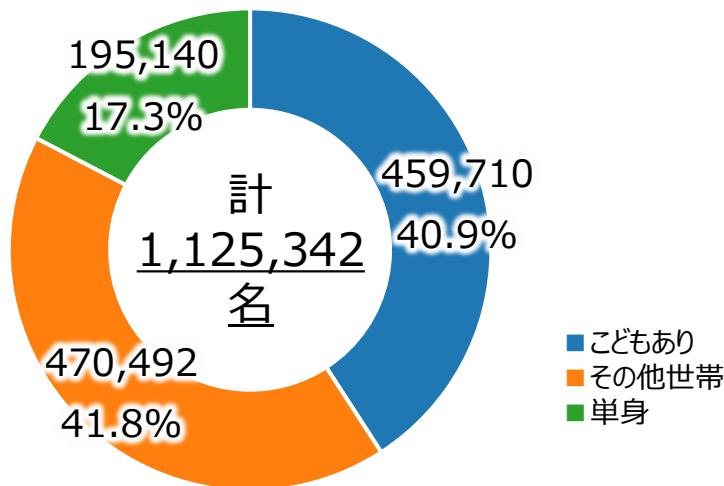
回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

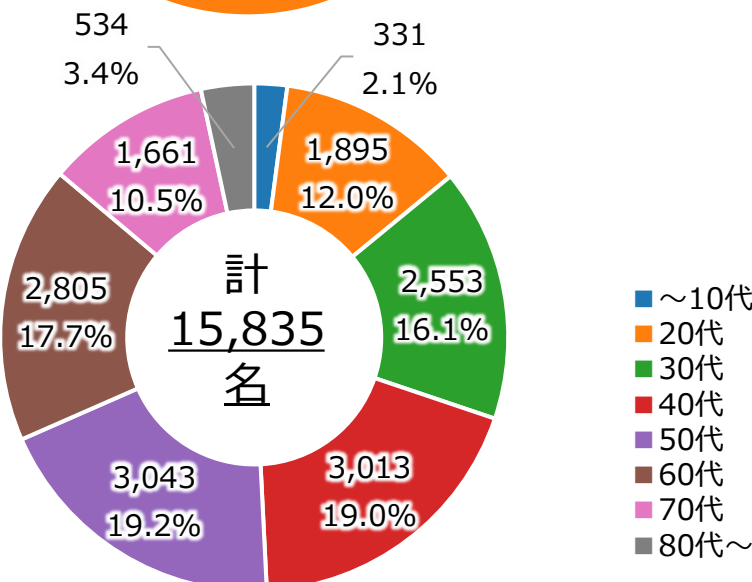
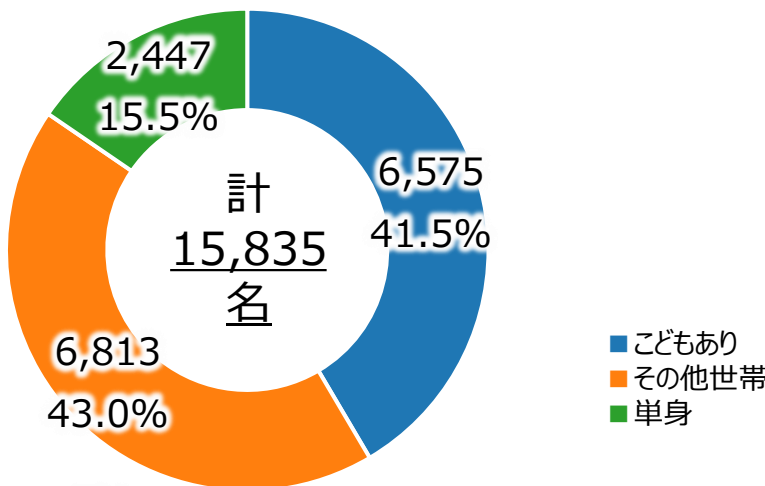
世帯構成別

年代別

全国



熊本県



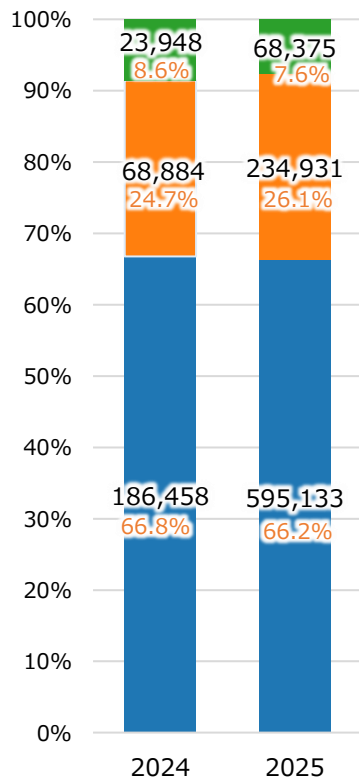
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

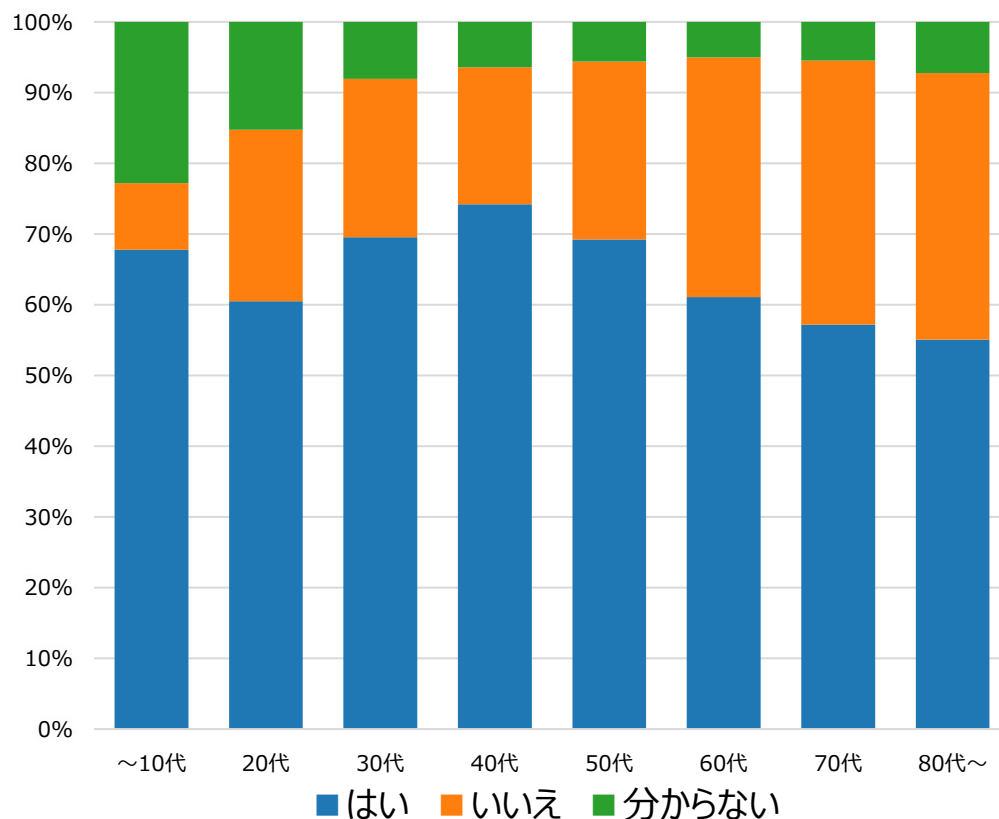
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

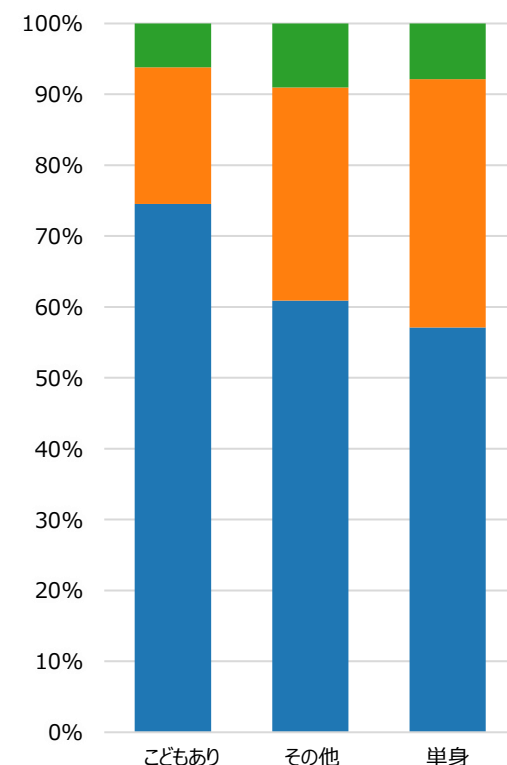
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

熊本県

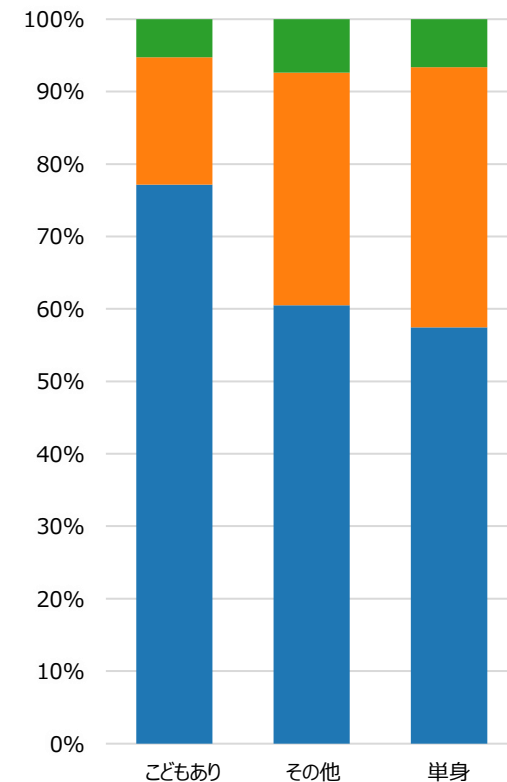
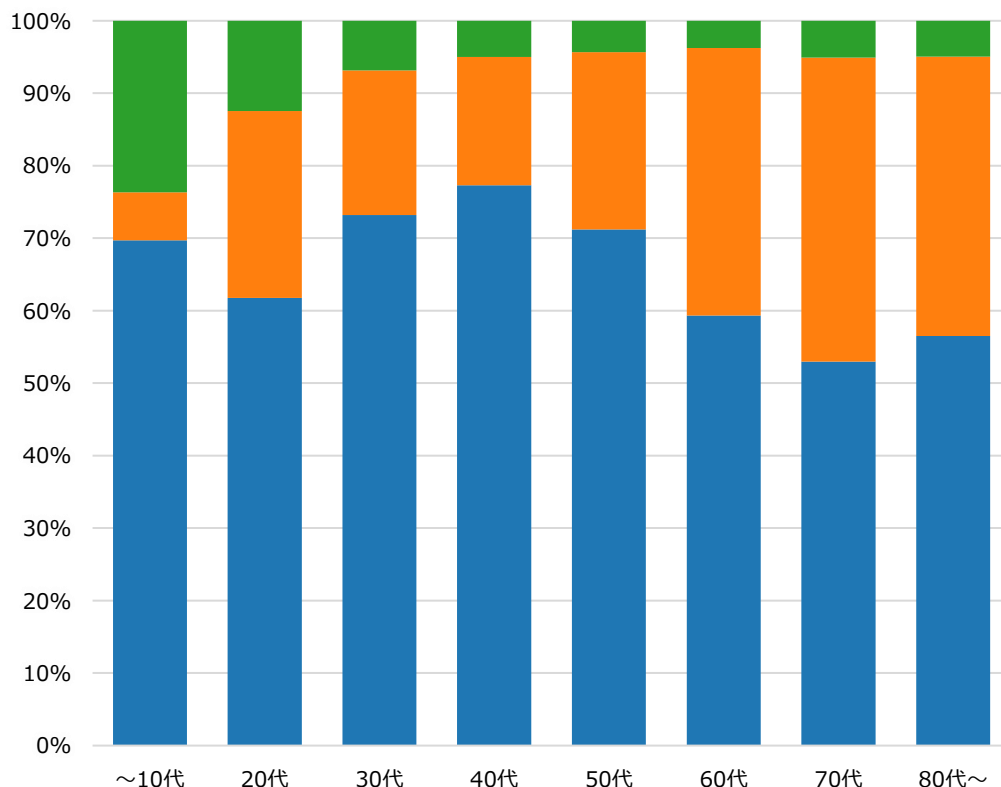
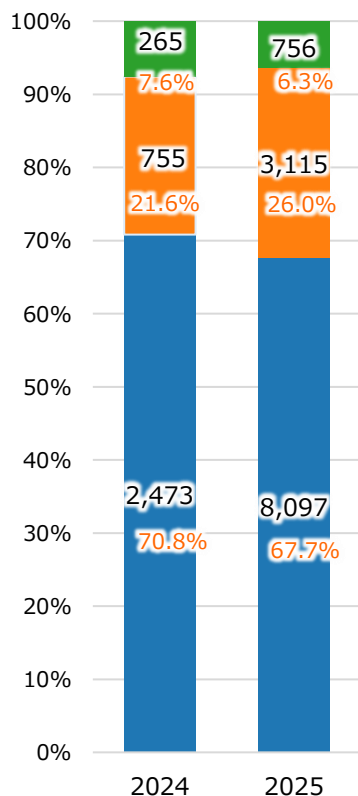
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



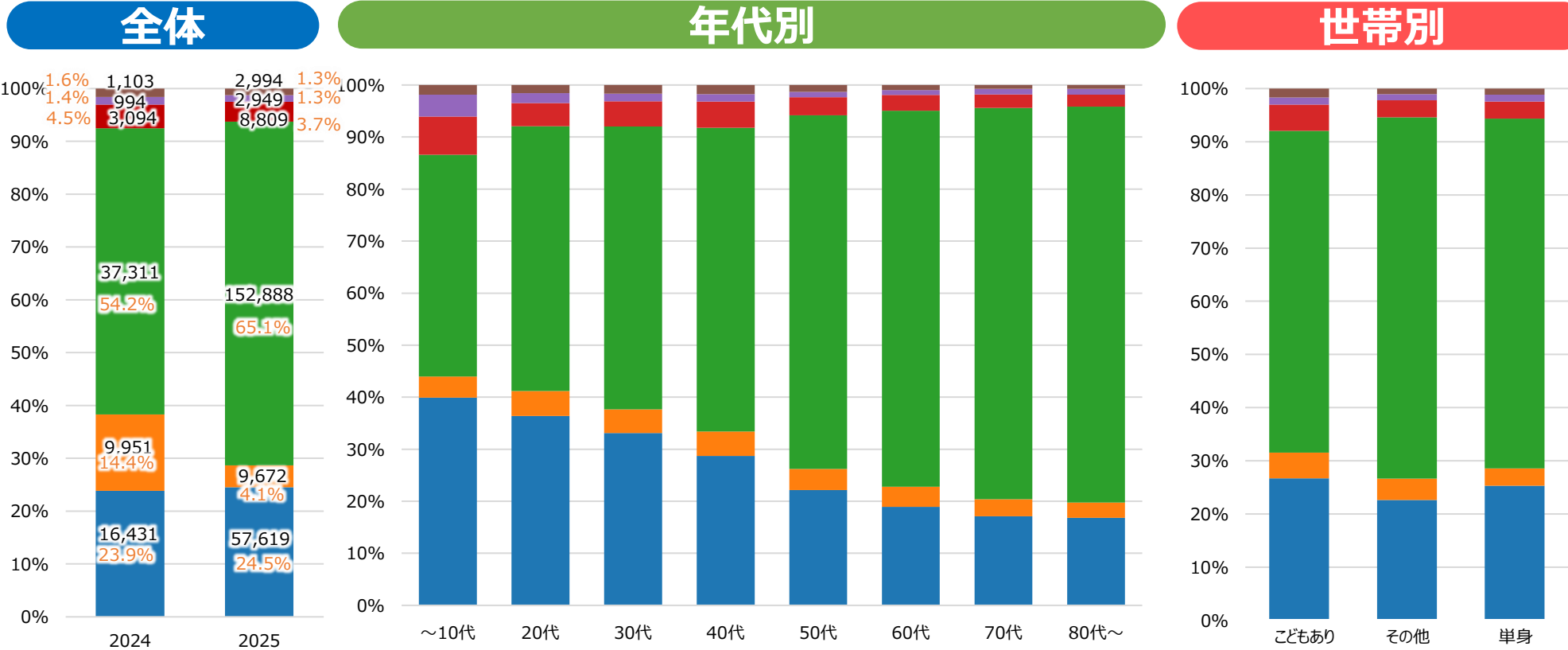
■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年減少（▲3Pt）全国と比較すると高位（+2Pt）

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

全国

単位：名



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

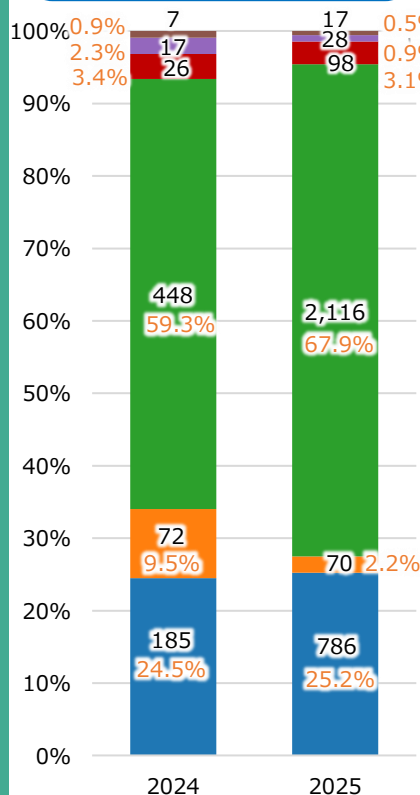
関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

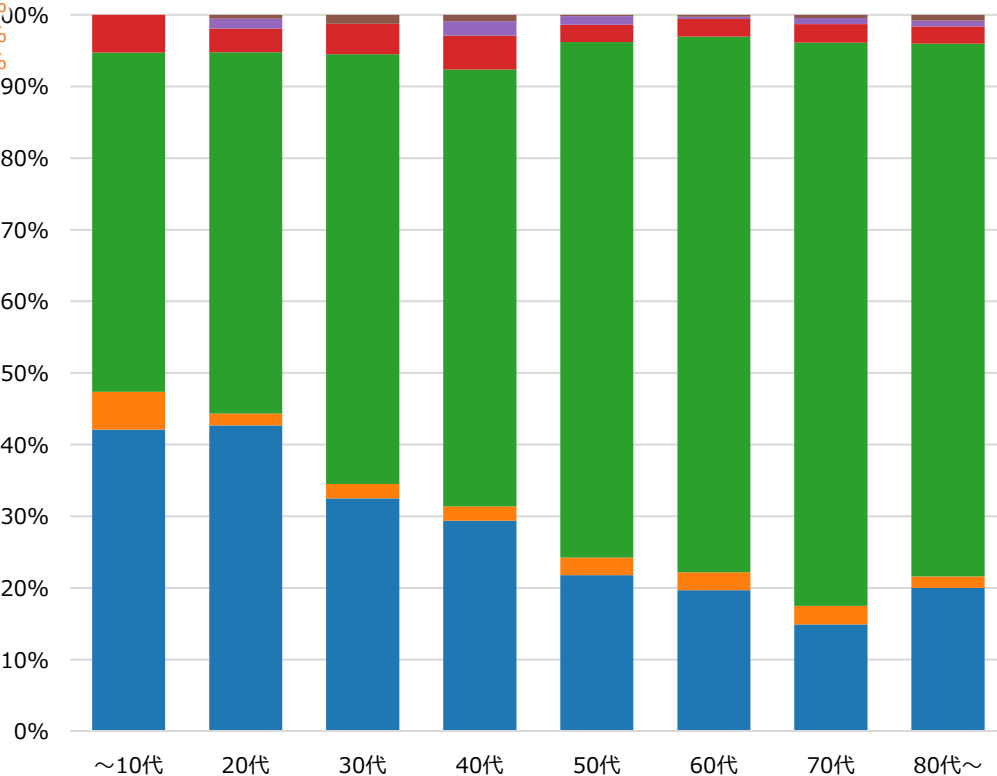
熊本県

単位：名

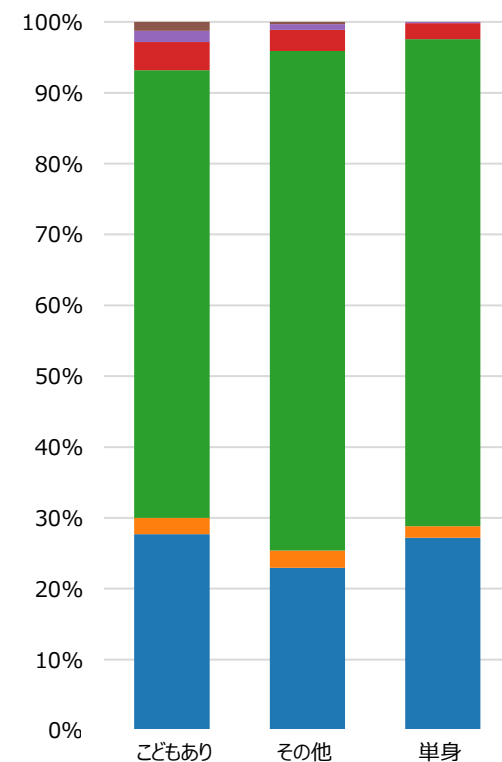
全体



年代別



世帯別



■ きっかけがなかった
 ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから
 ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから
 ■ 入り方がわからなかったから
 ■ 保険料が高いから

● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲7Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

2年連続回答者の自転車保険加入状況

(2年連続回答者：全回答者:11,968名のうち、1,097名)

※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 143 名	② 120 名
	加入	78 名	756 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	31.1%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	1.4%
加入方法がわからなかったから	0.0%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	6.8%
保険料が高いから	1.4%
必要性を感じないから	59.5%

2024年度「自転車保険加入なし」の263名(①+②)のうち、
約2人に1人が「自転車保険加入あり」に変化

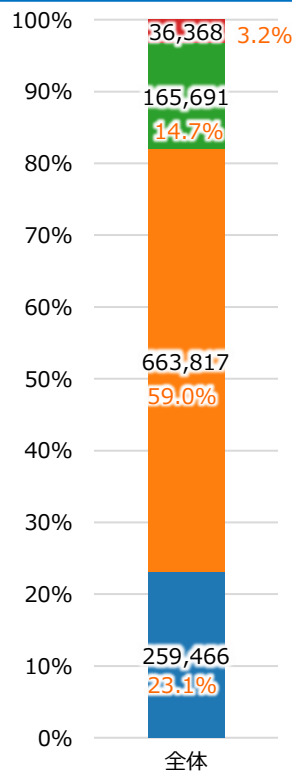
- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約2人に1人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約6割は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

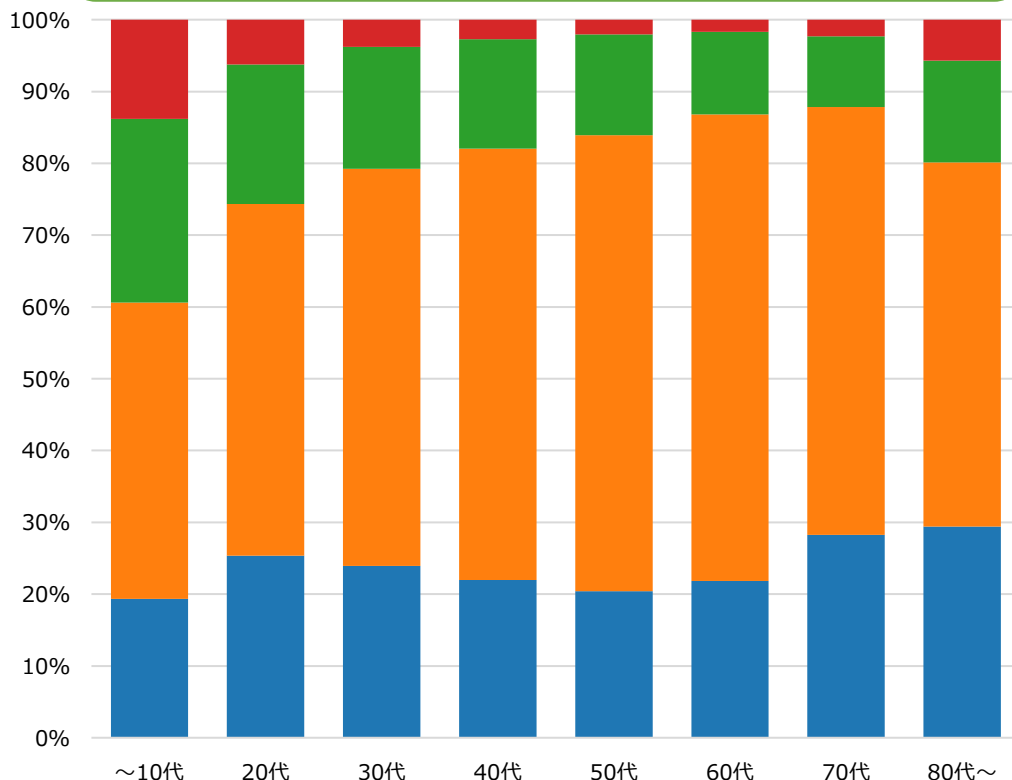
全国

単位：名

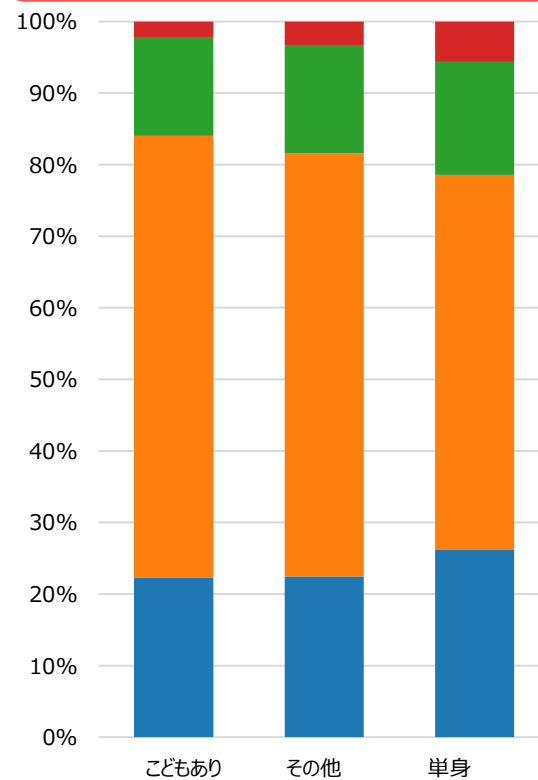
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

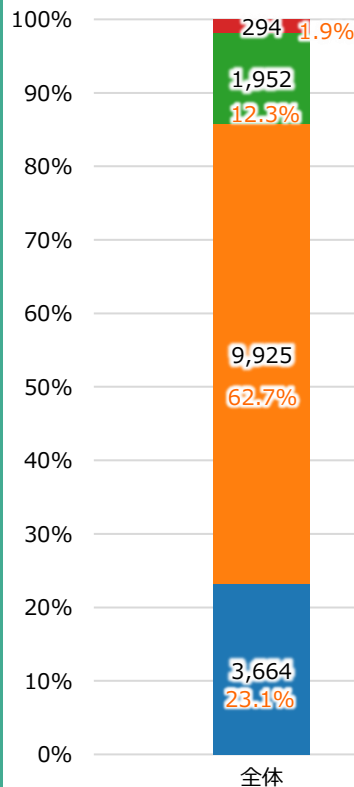
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

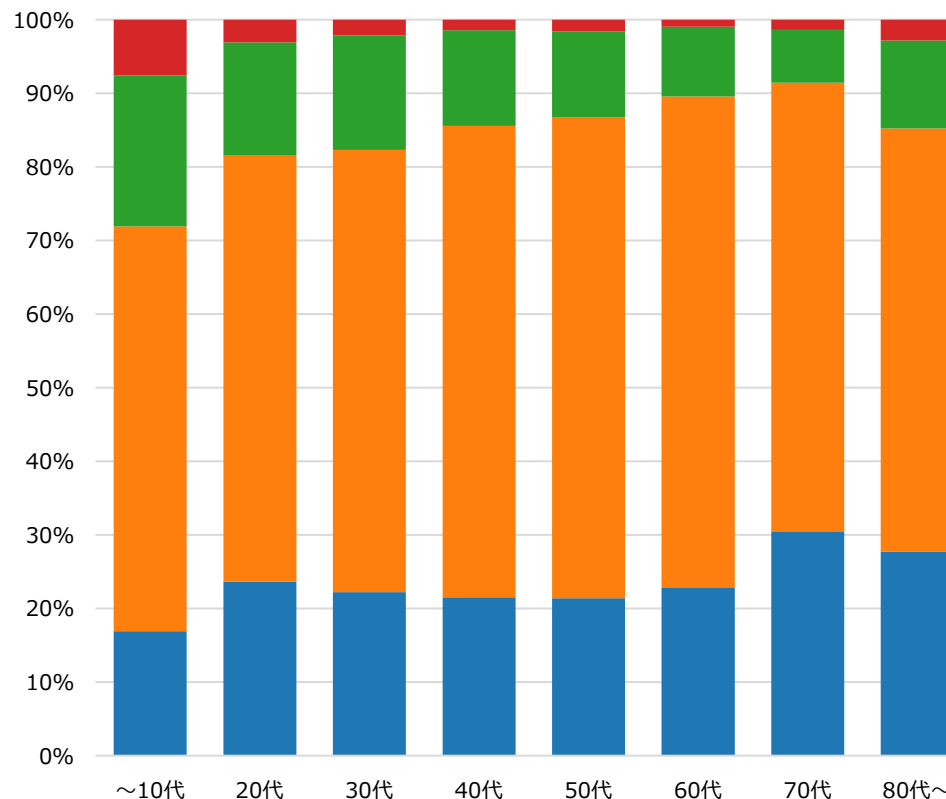
熊本県

単位：名

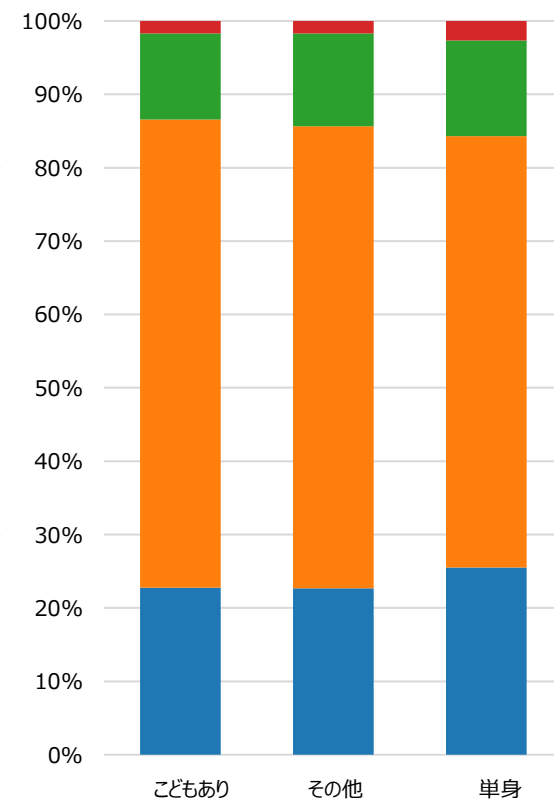
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

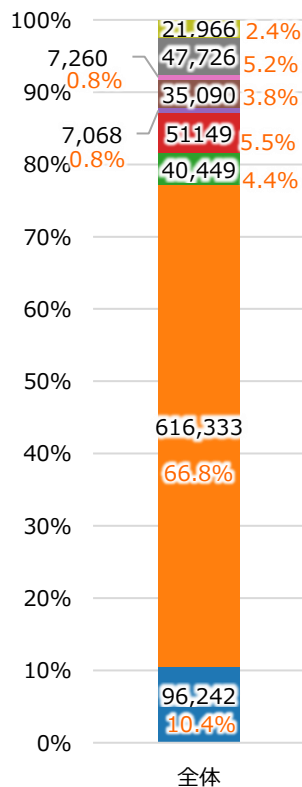
- 全体では認知度が約86%と、全国と比較し認知度が高い傾向
- 全国と比べると、特に10代の認知度が高い傾向

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

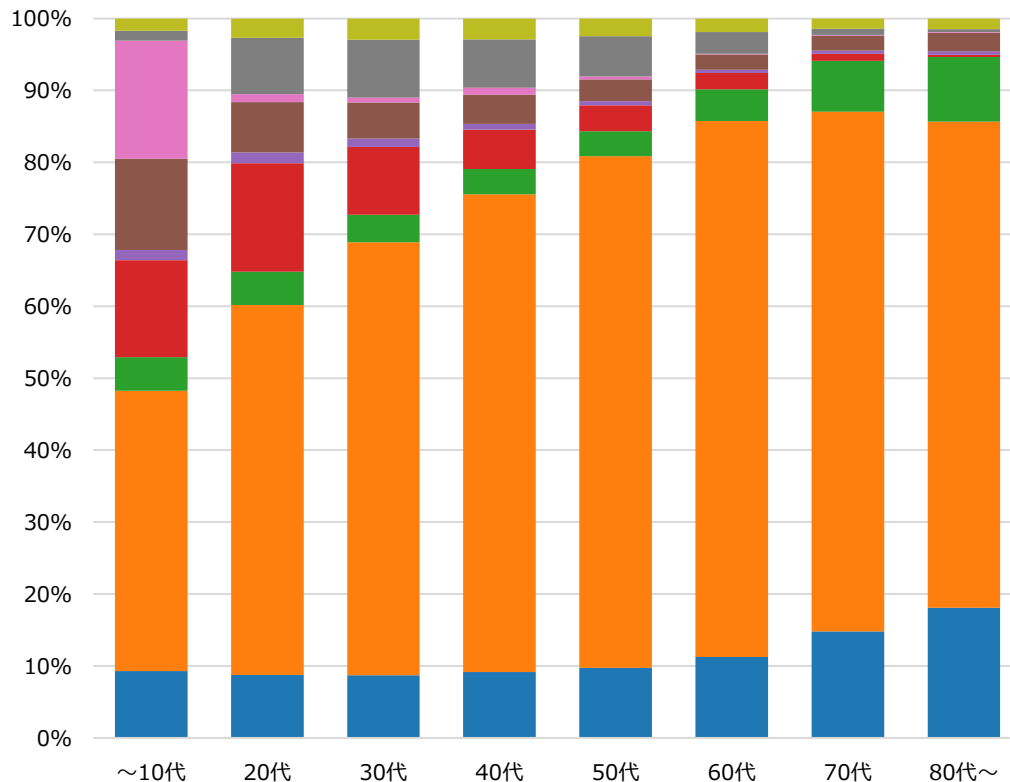
全国

単位：名

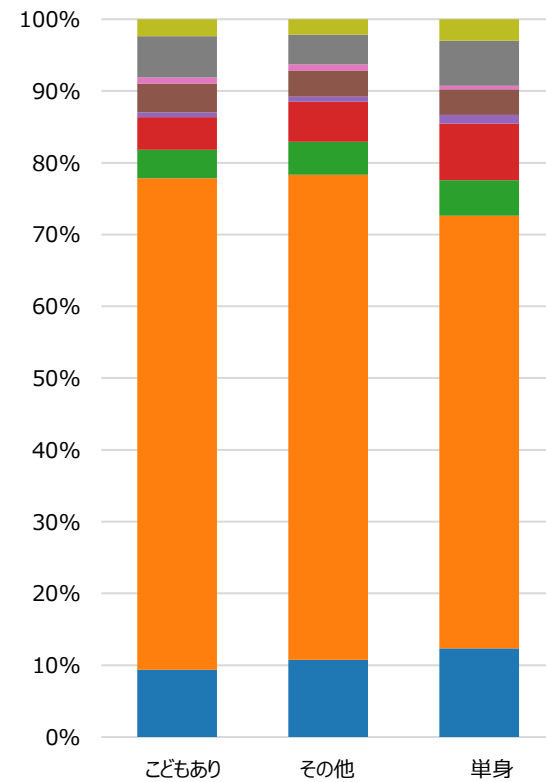
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

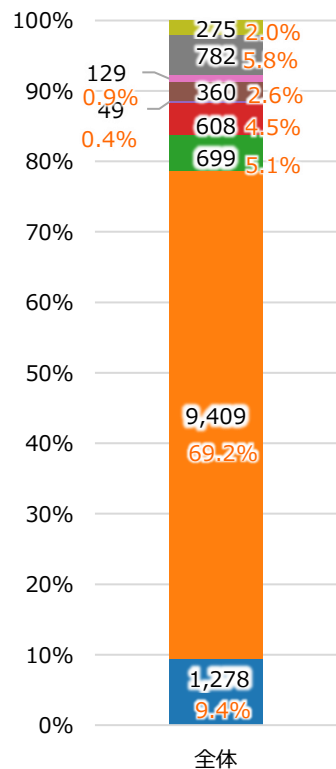
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

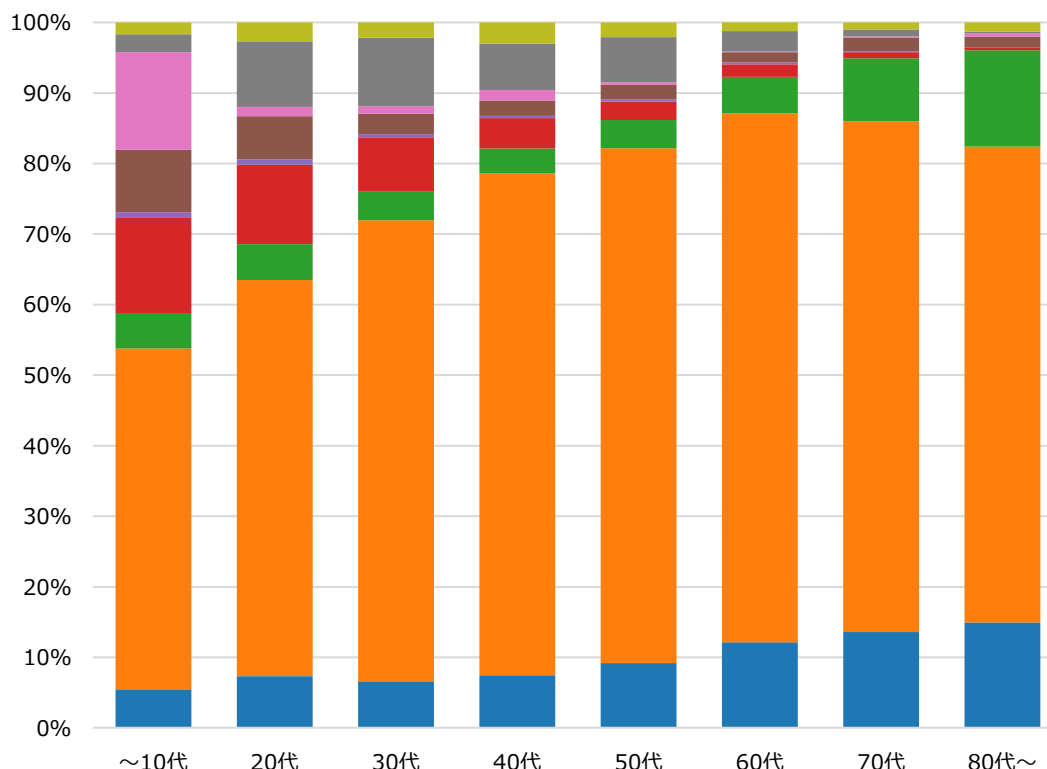
熊本県

単位：名

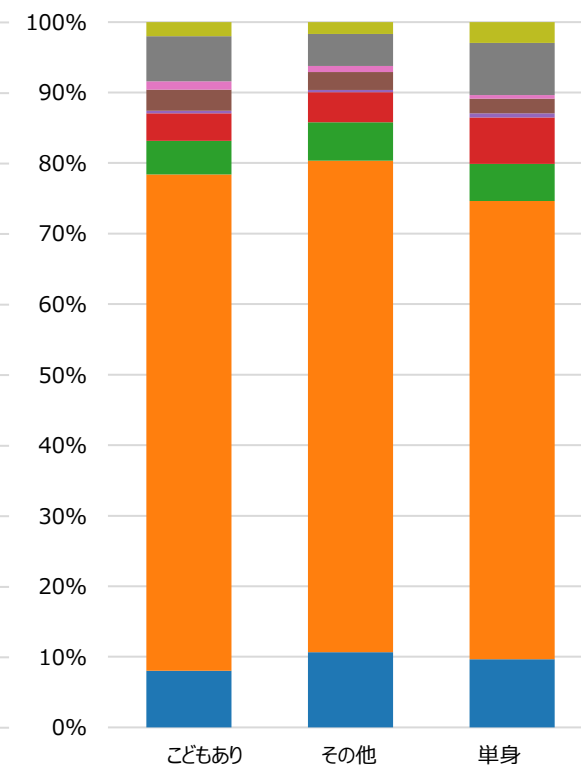
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

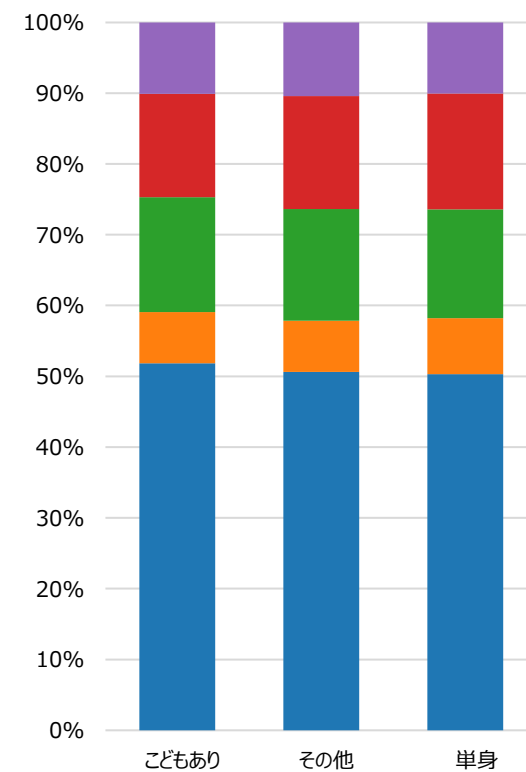
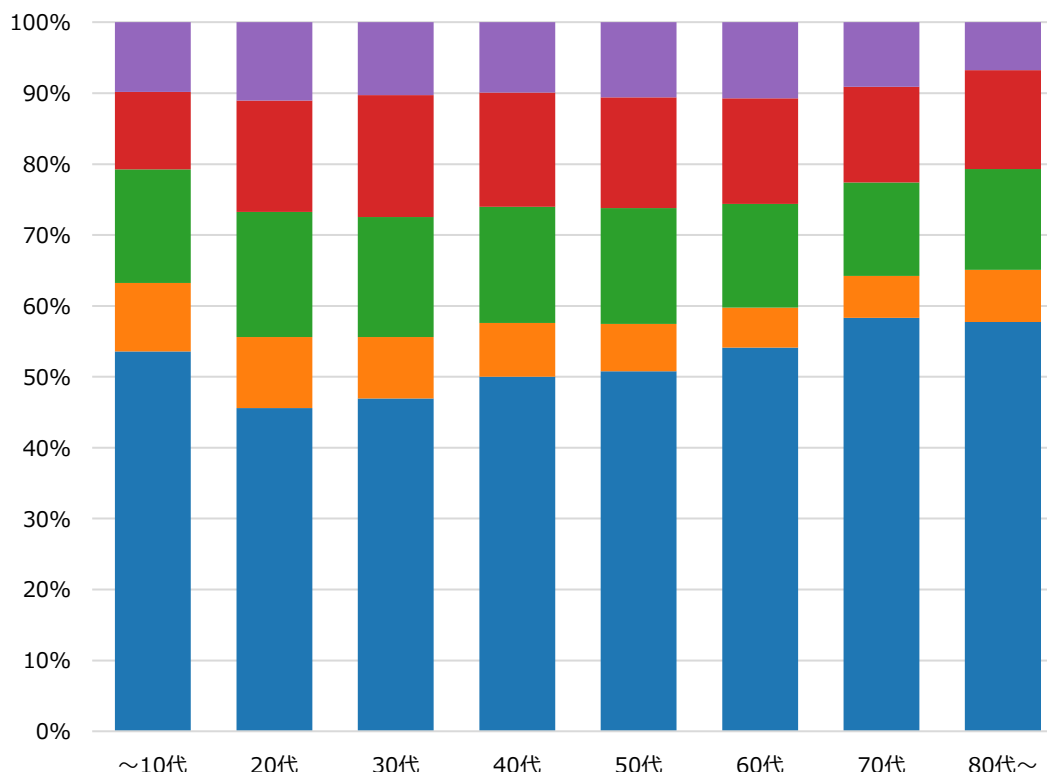
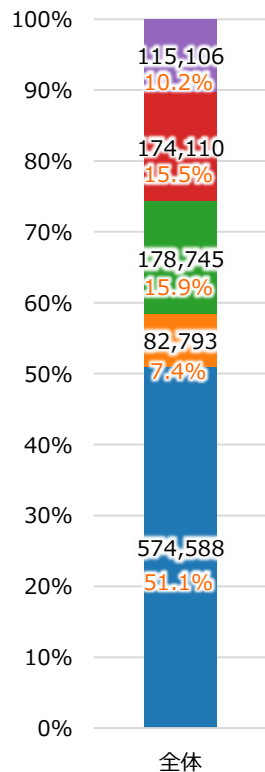
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 事故多発地点等の周知 道路環境の整備 取締り・罰則の強化 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

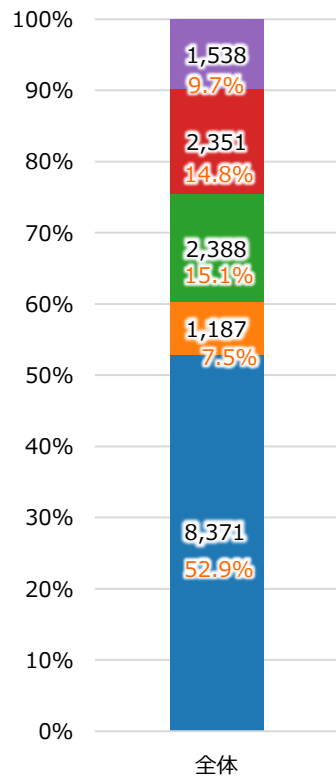
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

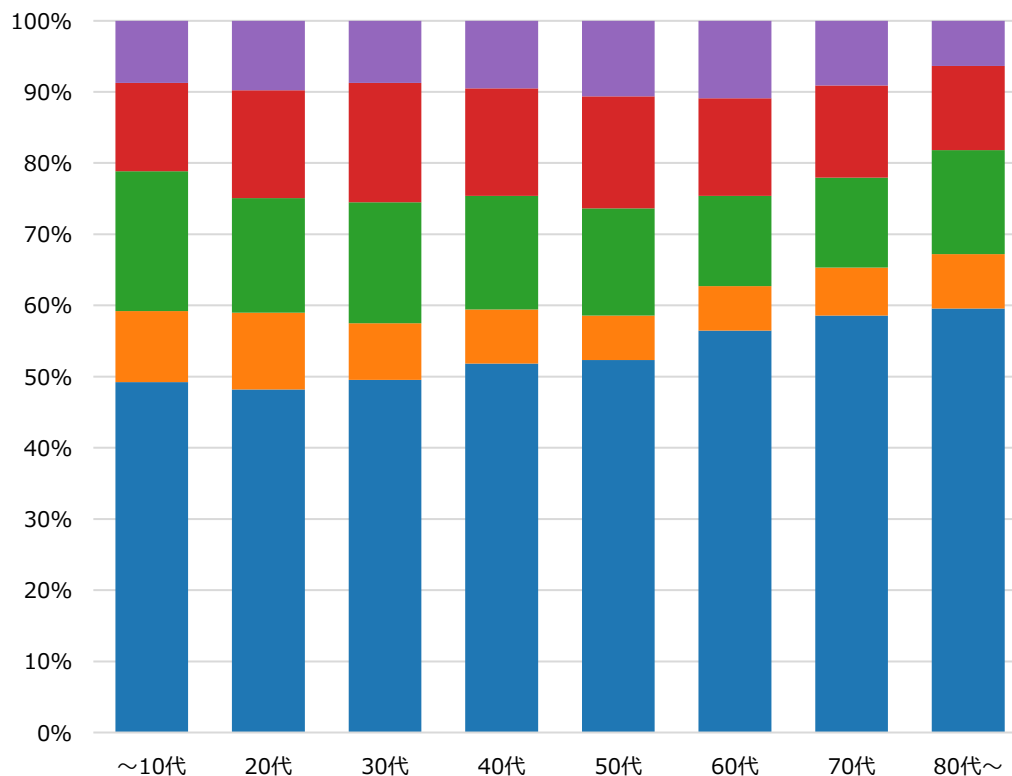
熊本県

単位：名

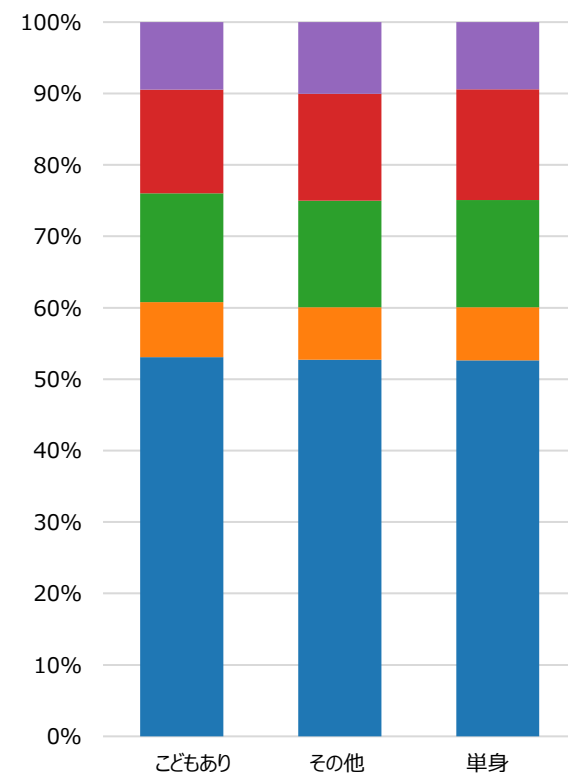
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

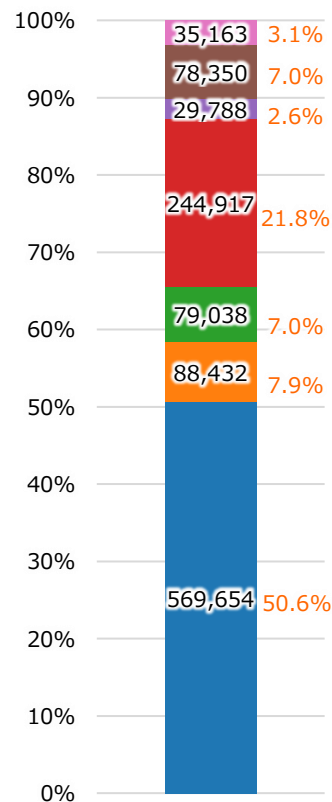
Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

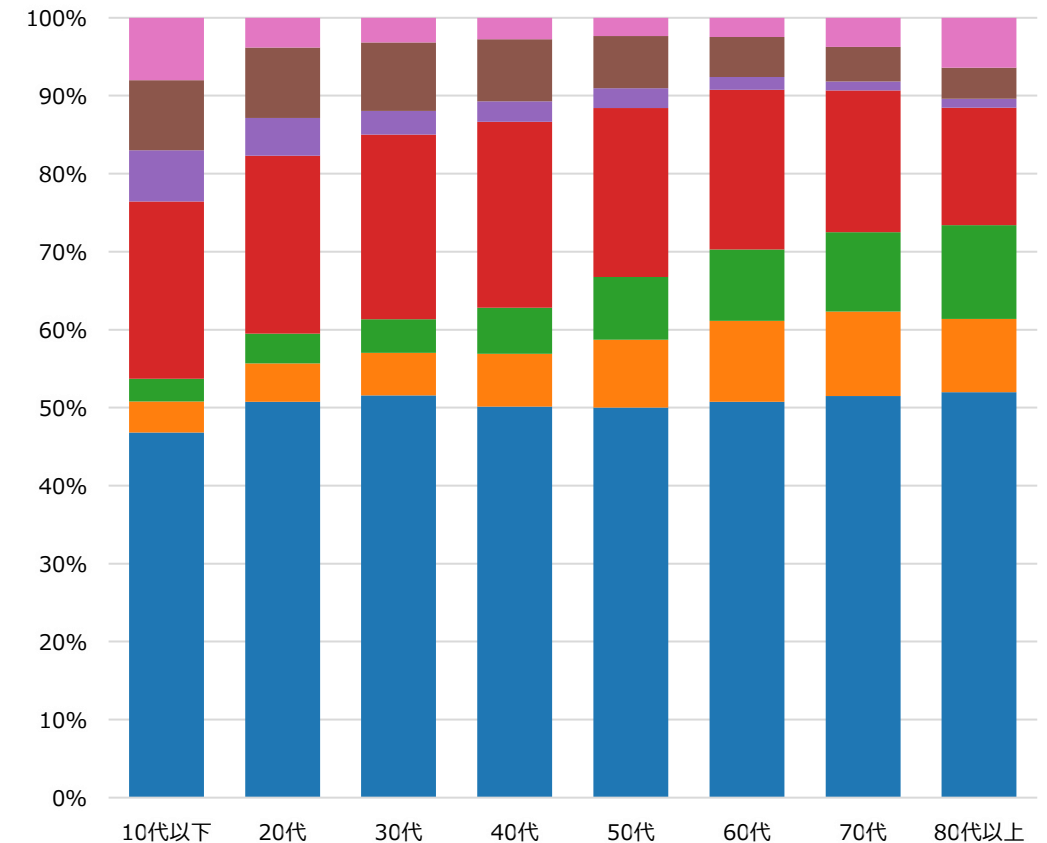
単位：名

全国

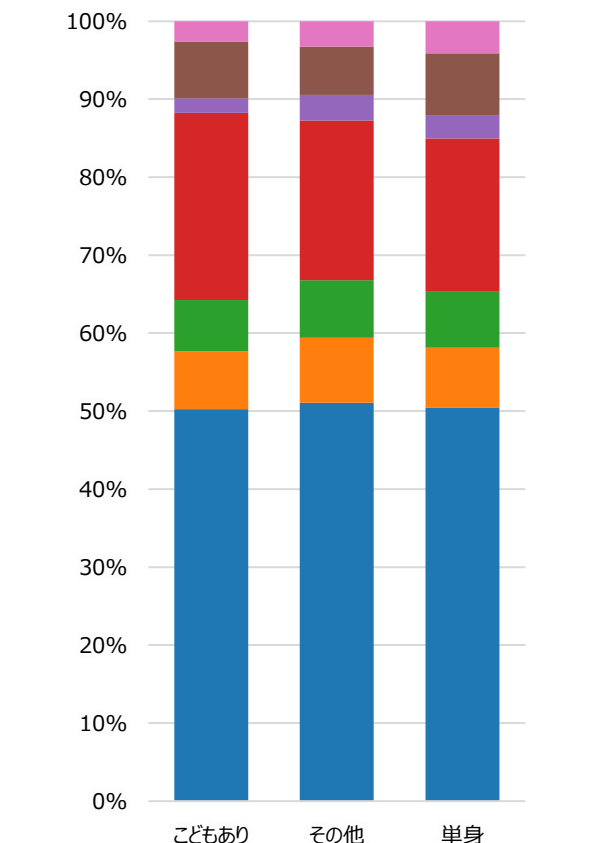
全体



年代別



世帯別



■ 地震・津波 ■ 風水災（台風・洪水） ■ 火災 ■ 交通事故 ■ ペットの病気・ケガ ■ 日常における賠償 ■ 熱中症

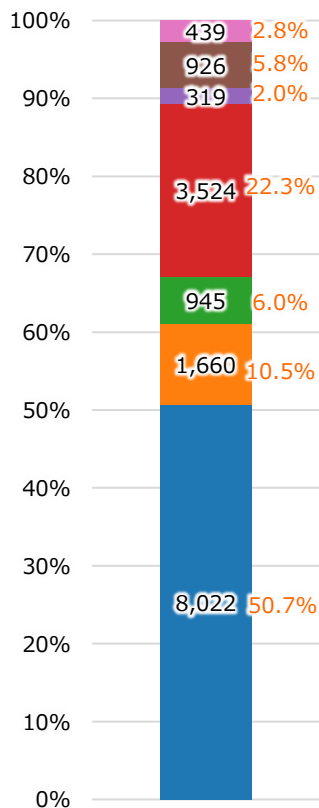
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

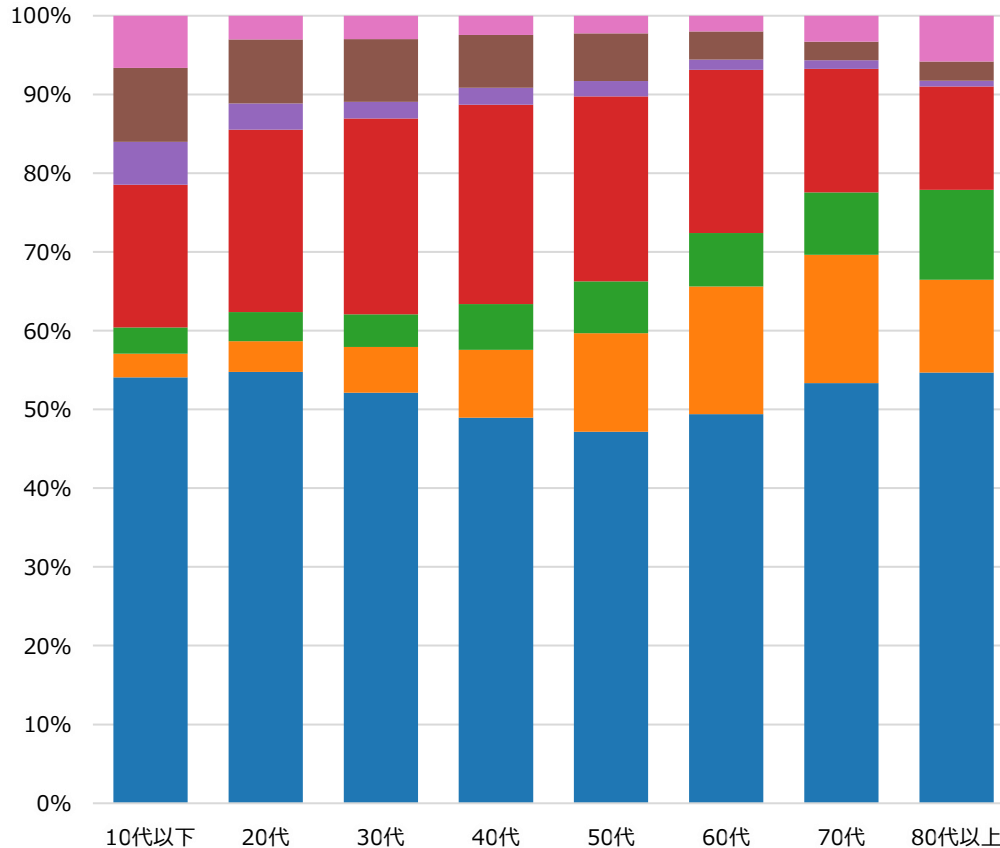
熊本県

単位：名

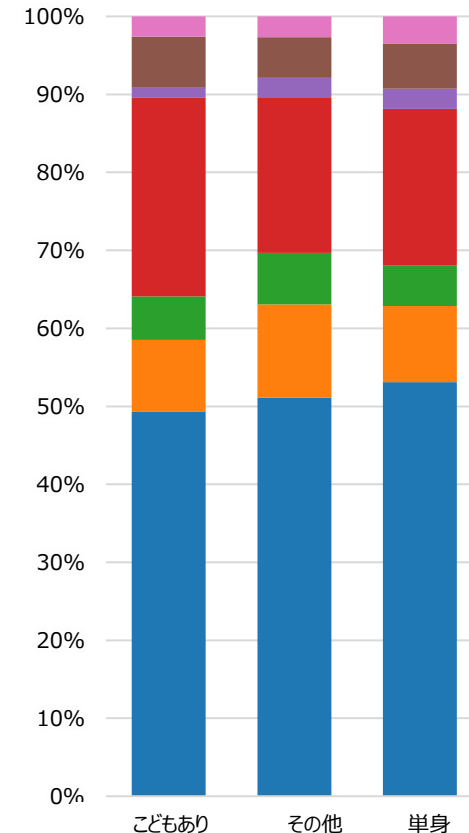
全体



年代別



世帯別

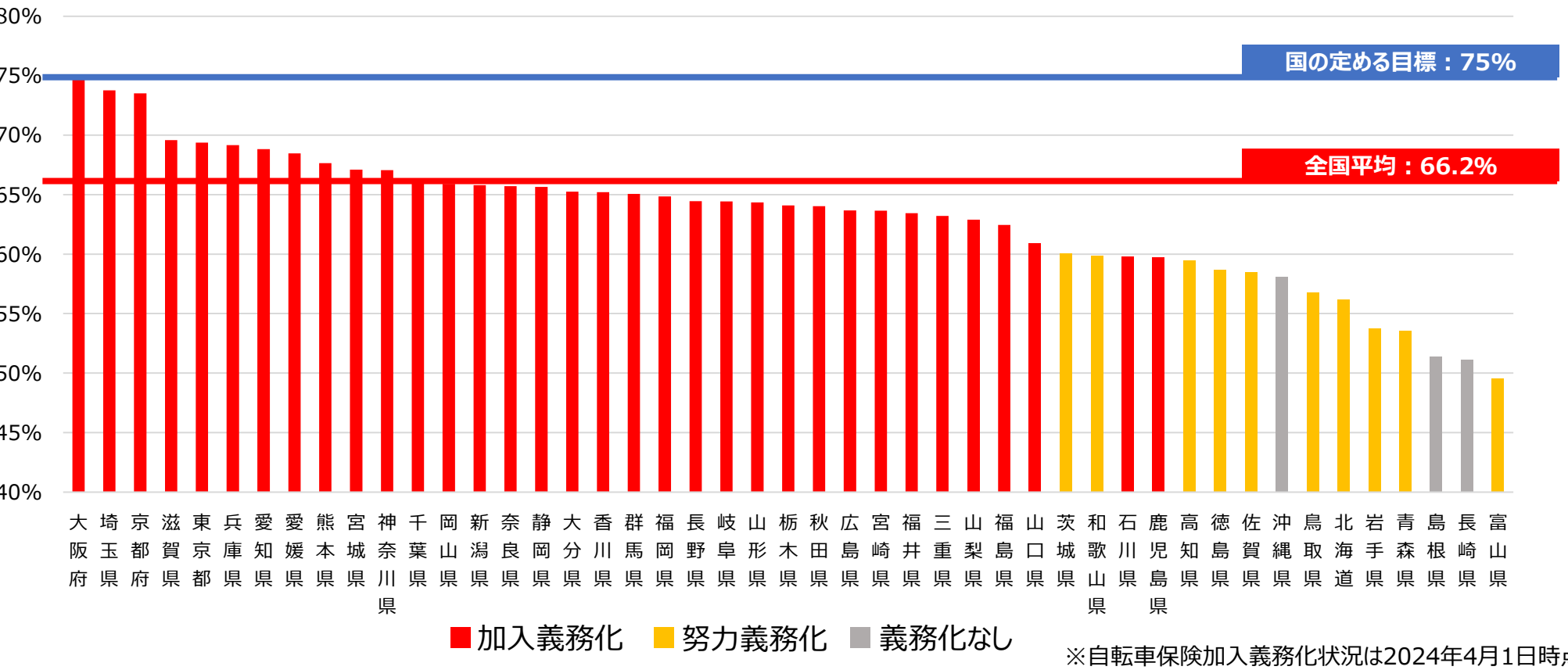


■ 地震・津波 ■ 風水災（台風・洪水） ■ 火災 ■ 交通事故 ■ ペットの病気・ケガ ■ 日常における賠償 ■ 熱中症

- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



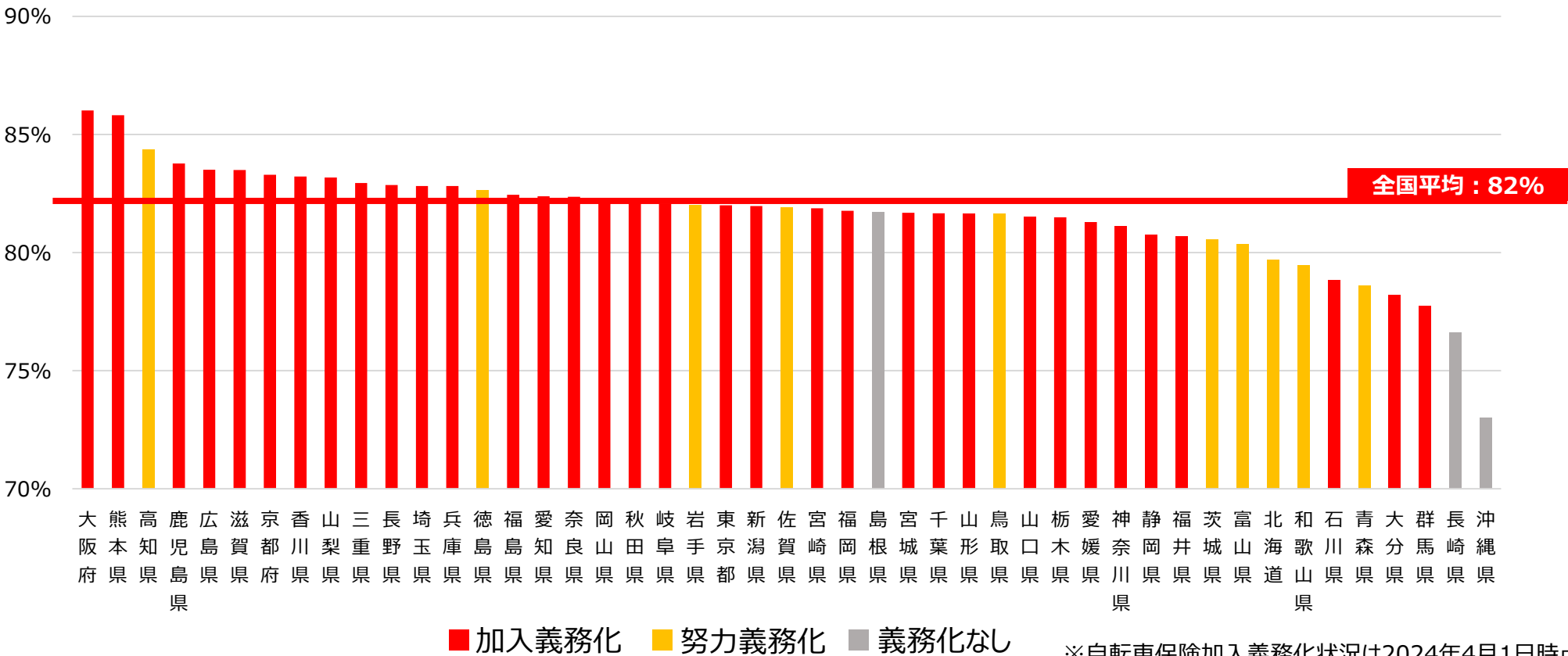
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



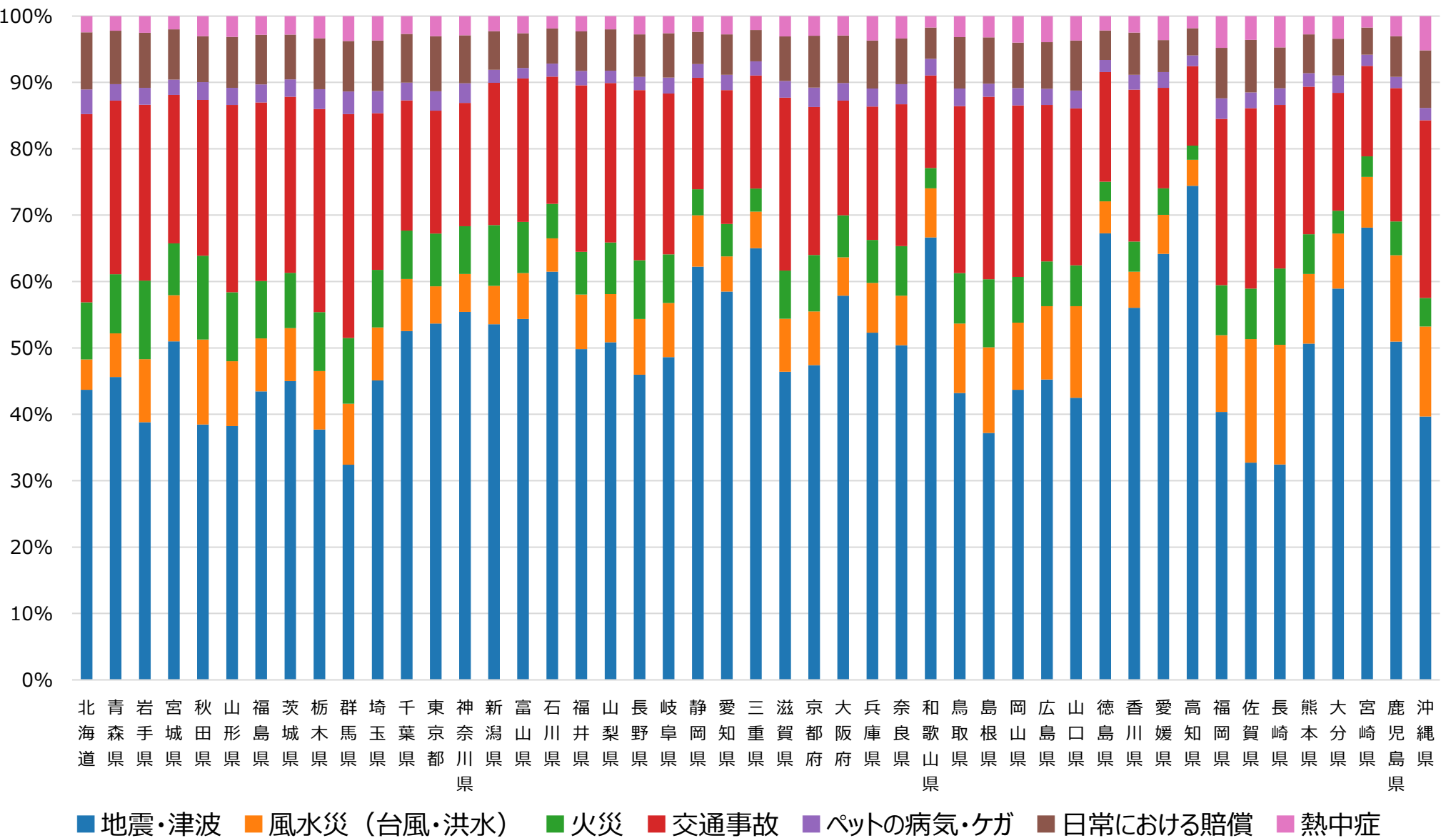
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、
全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

大分県との 連携協定締結状況

締結日	2016/11/14
①	子育て支援に関すること
②	芸術文化・スポーツの振興、青少年の健全育成に関すること
③	健康寿命の延伸・がん対策に関すること
④	地域の産業・観光振興、中小企業等の支援に関すること
⑤	地域の維持・活性化に関すること

他2項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

大分県

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	403	3.2%	194	3.7%	209	2.9%
20代	2,036	16.3%	884	16.7%	1,152	16.0%
30代	2,373	19.0%	1,033	19.5%	1,340	18.6%
40代	2,391	19.1%	1,009	19.0%	1,382	19.2%
50代	2,412	19.3%	1,007	19.0%	1,405	19.5%
60代	1,756	14.0%	715	13.5%	1,041	14.5%
70代	935	7.5%	385	7.3%	550	7.6%
80代～	202	1.6%	81	1.5%	121	1.7%
合計	12,508	100.0%	5,308	100.0%	7,200	100.0%
2024年度	4,498	100.0%	1,865	100.0%	2,633	100.0%

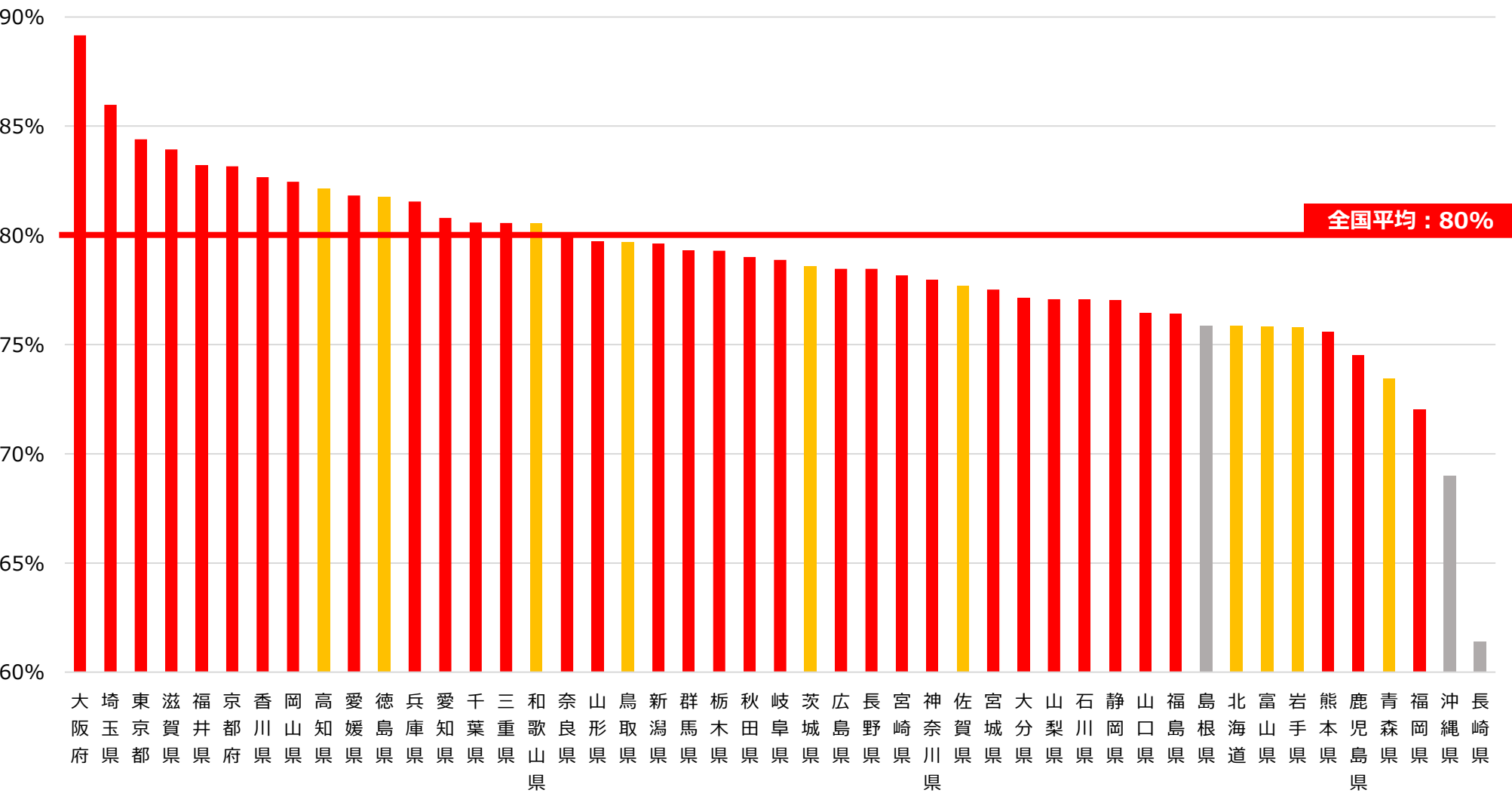
	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	356	88.3%	169	87.1%	187	89.5%
20代	1,484	72.9%	656	74.2%	828	71.9%
30代	1,811	76.3%	784	75.9%	1,027	76.6%
40代	1,948	81.5%	823	81.6%	1,125	81.4%
50代	1,865	77.3%	796	79.0%	1,069	76.1%
60代	1,344	76.5%	555	77.6%	789	75.8%
70代	704	75.3%	290	75.3%	414	75.3%
80代～	136	67.3%	52	64.2%	84	69.4%
合計	9,648	77.1%	4,125	77.7%	5,523	76.7%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



加入義務化

努力義務化

義務化なし

※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

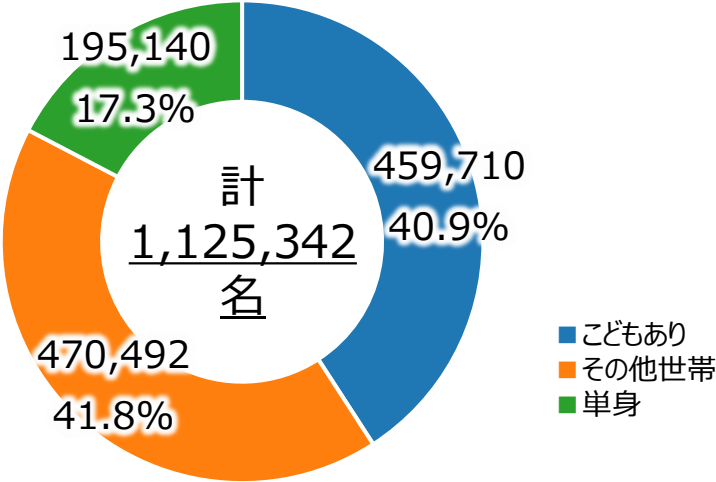
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

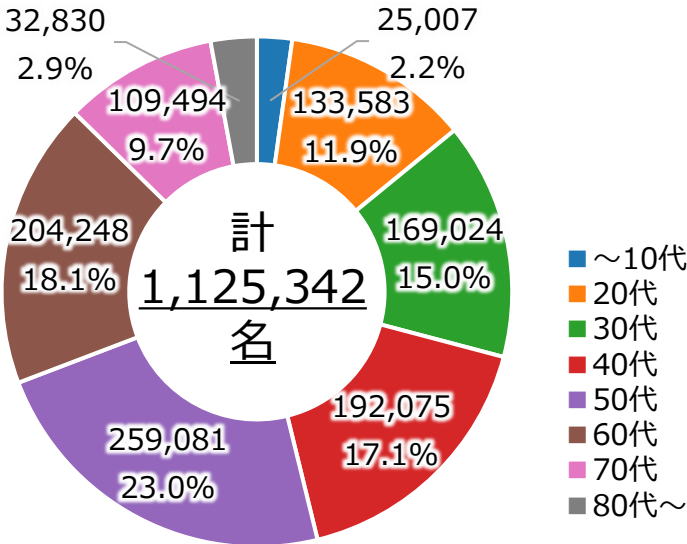
(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国

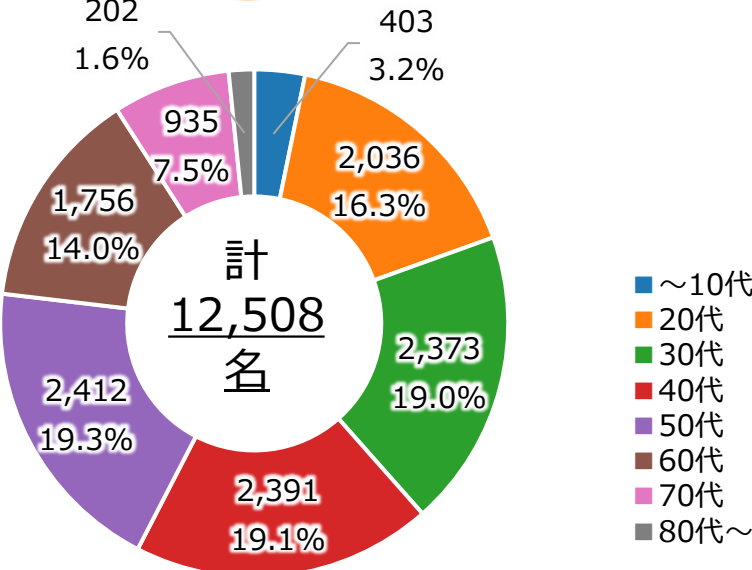
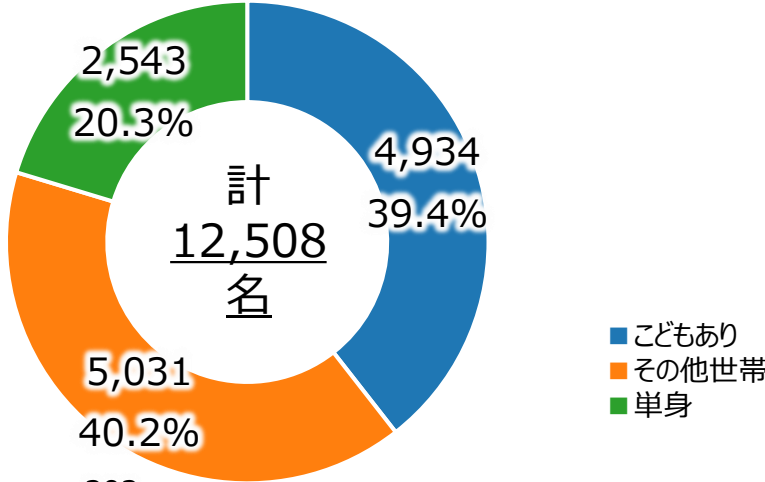
世帯構成別



年代別



大分県



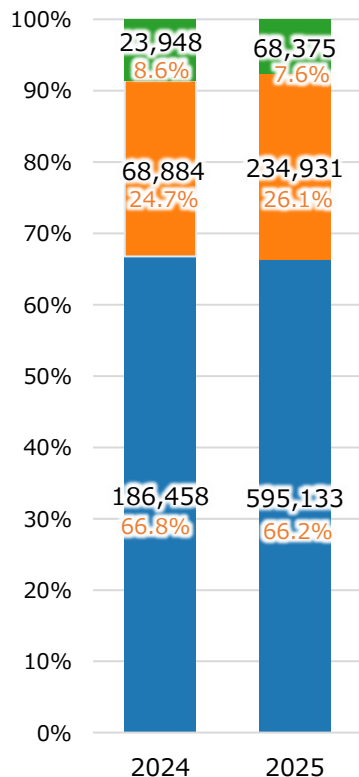
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

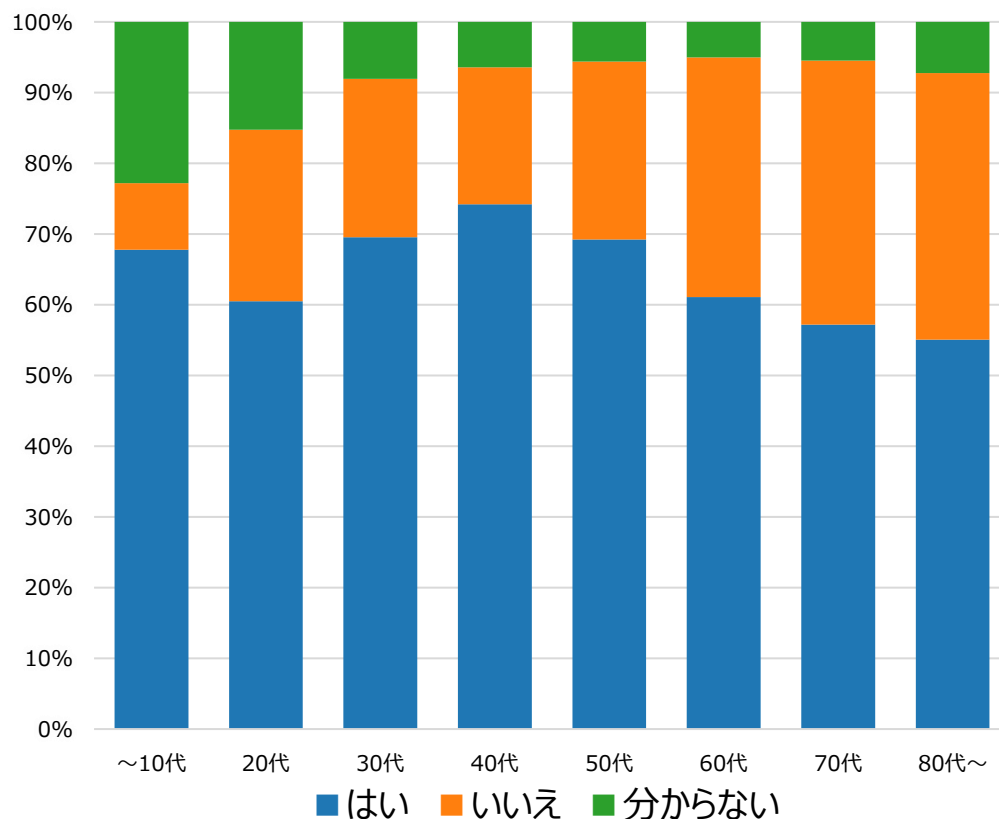
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

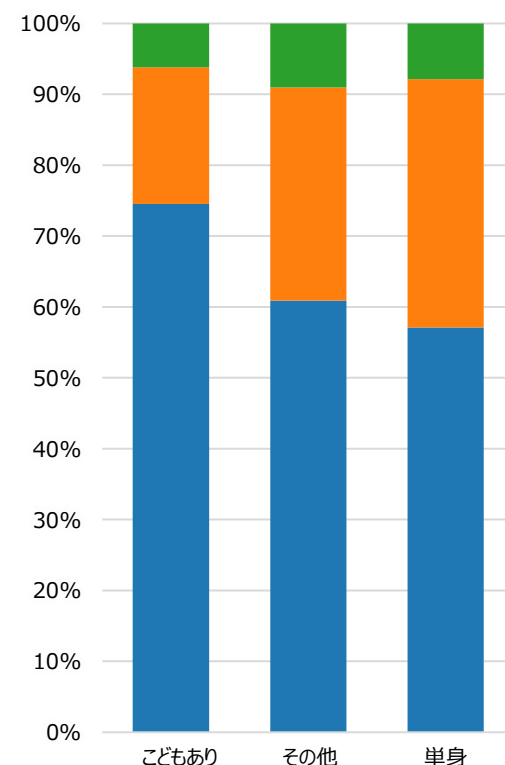
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

大分県

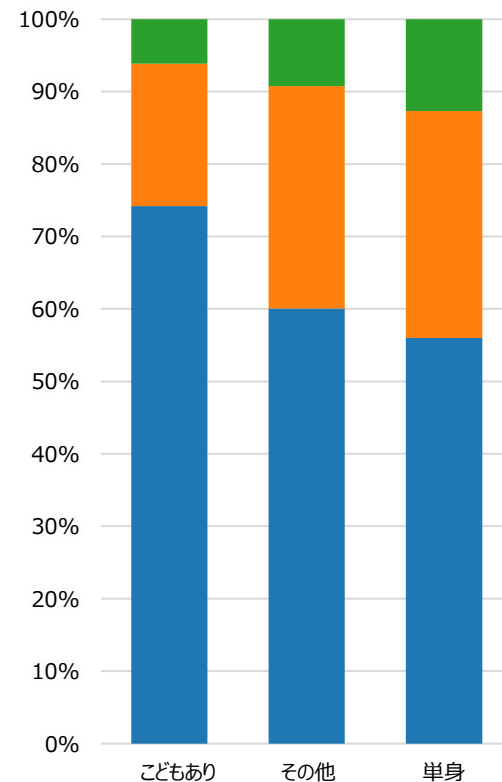
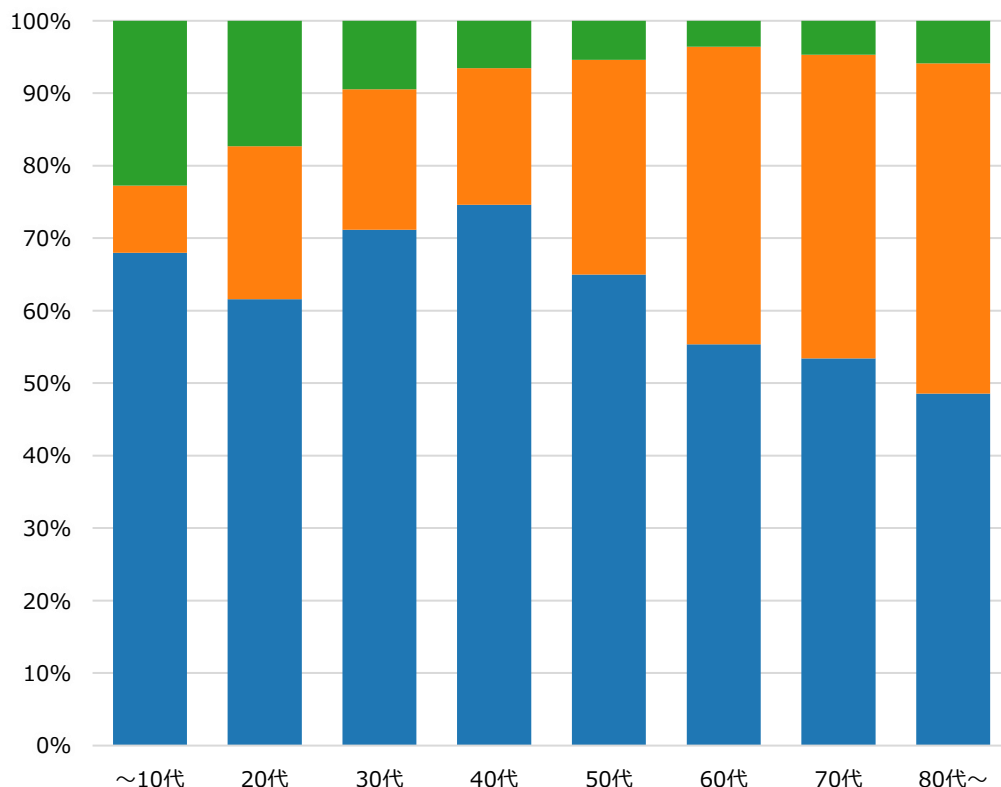
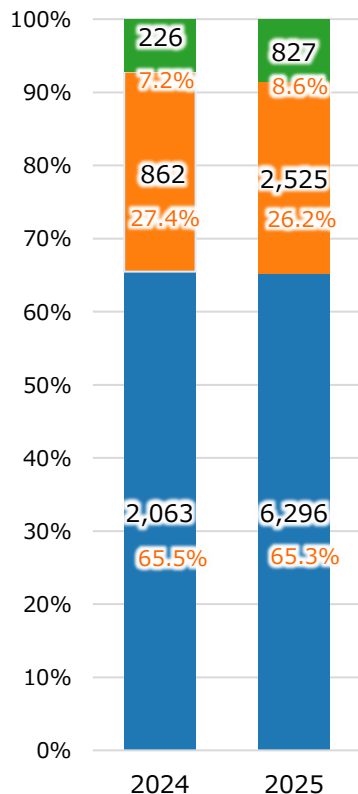
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年同程度、全国と比較すると若干低位（▲1Pt）
- 年代別でみると、特に60代以降が全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

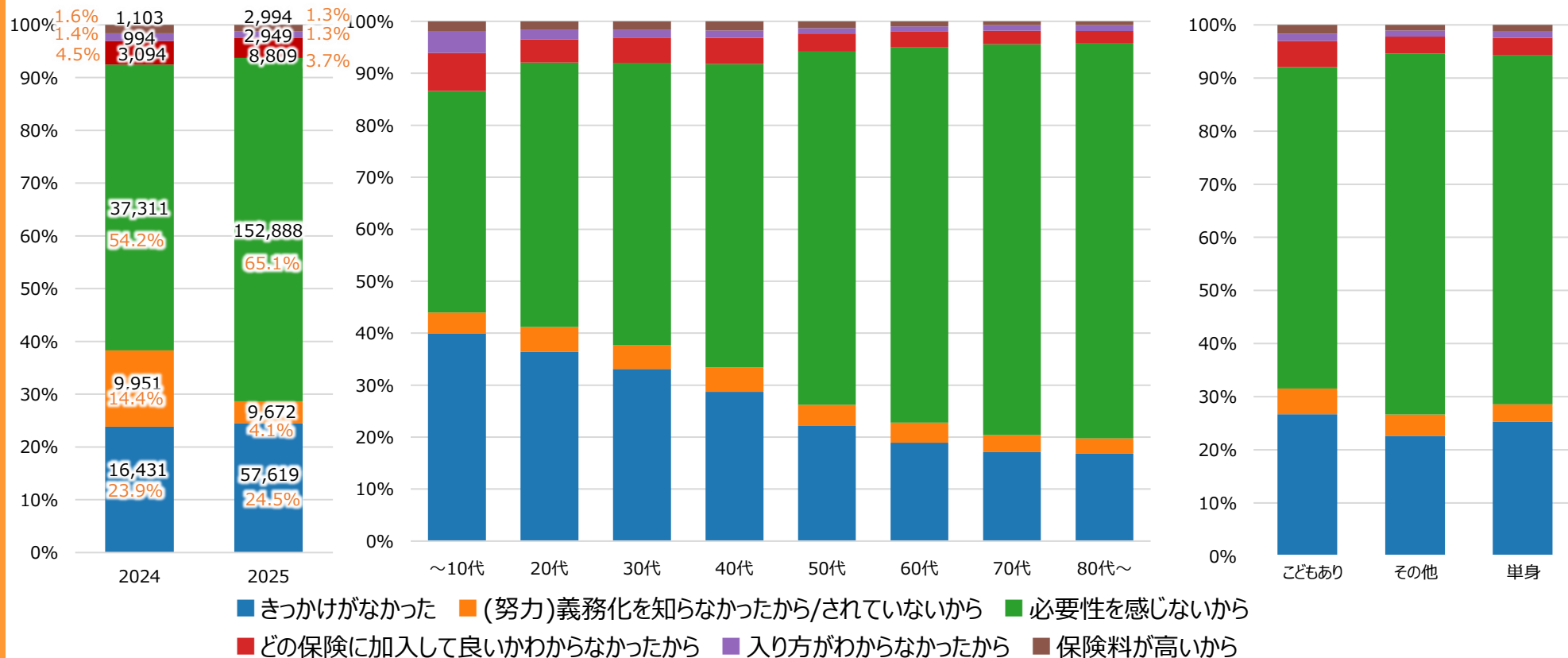
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

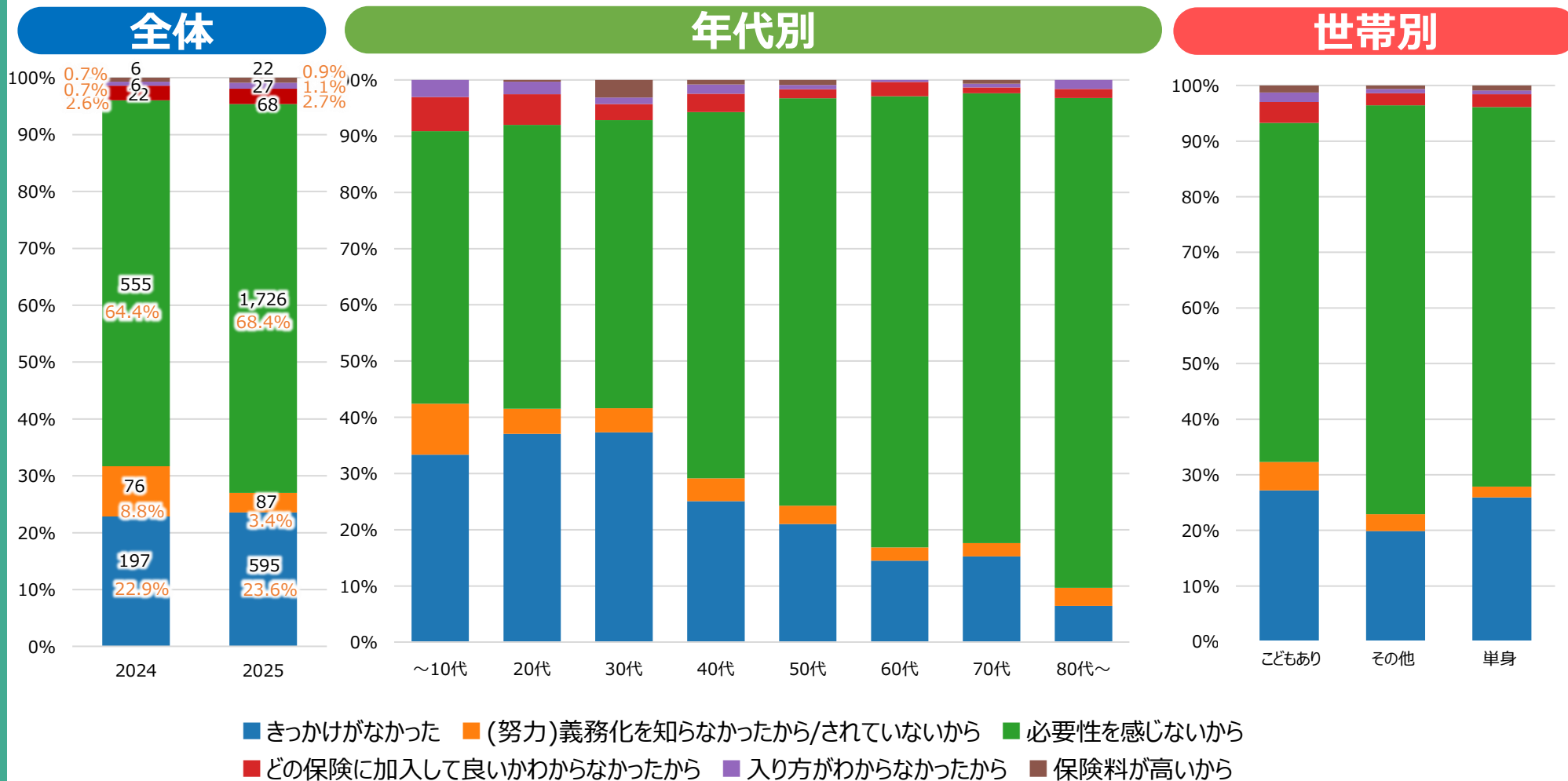
関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

大分県

単位：名

大分県



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲5Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者：9,648名のうち、891名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 155 名	② 112 名
	加入	83 名	541 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	2.5%
加入方法がわからなかったから	1.3%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	10.0%
保険料が高いから	1.3%
必要性を感じないから	60.0%

2024年度「自転車保険加入なし」の267名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

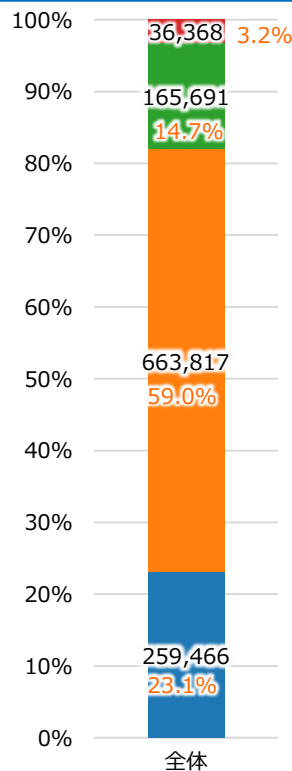
- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約6割は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

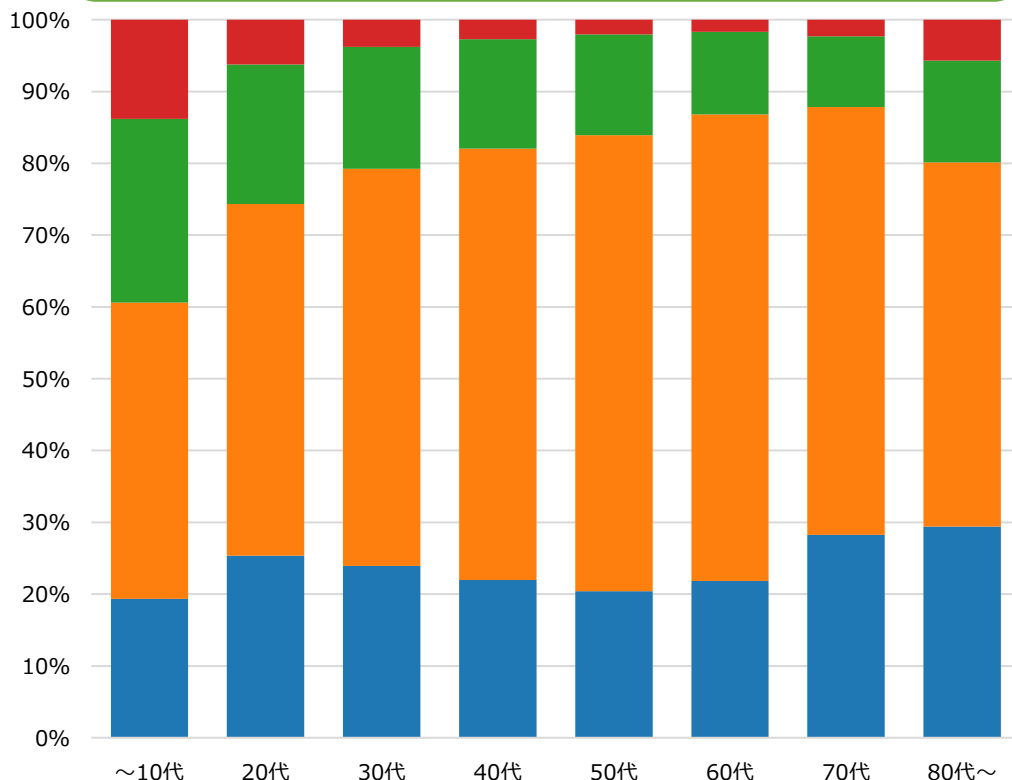
全国

単位：名

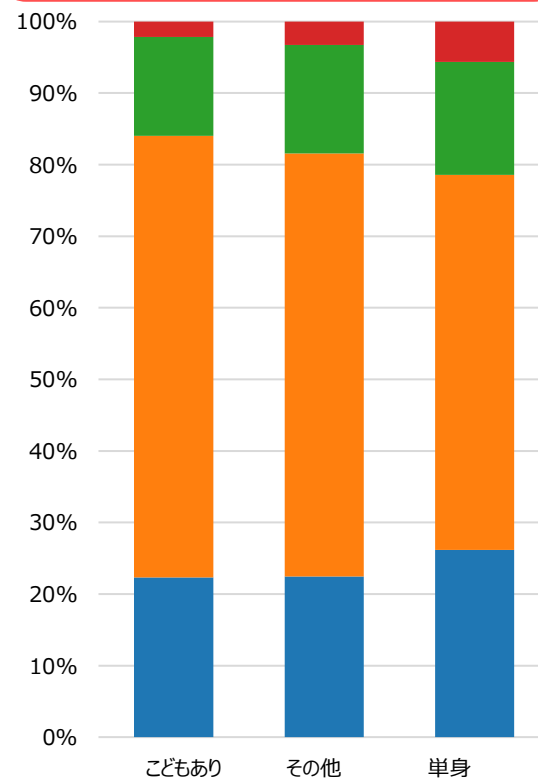
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

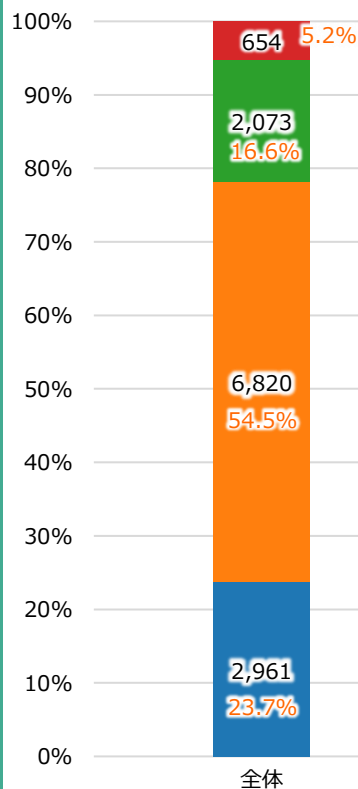
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

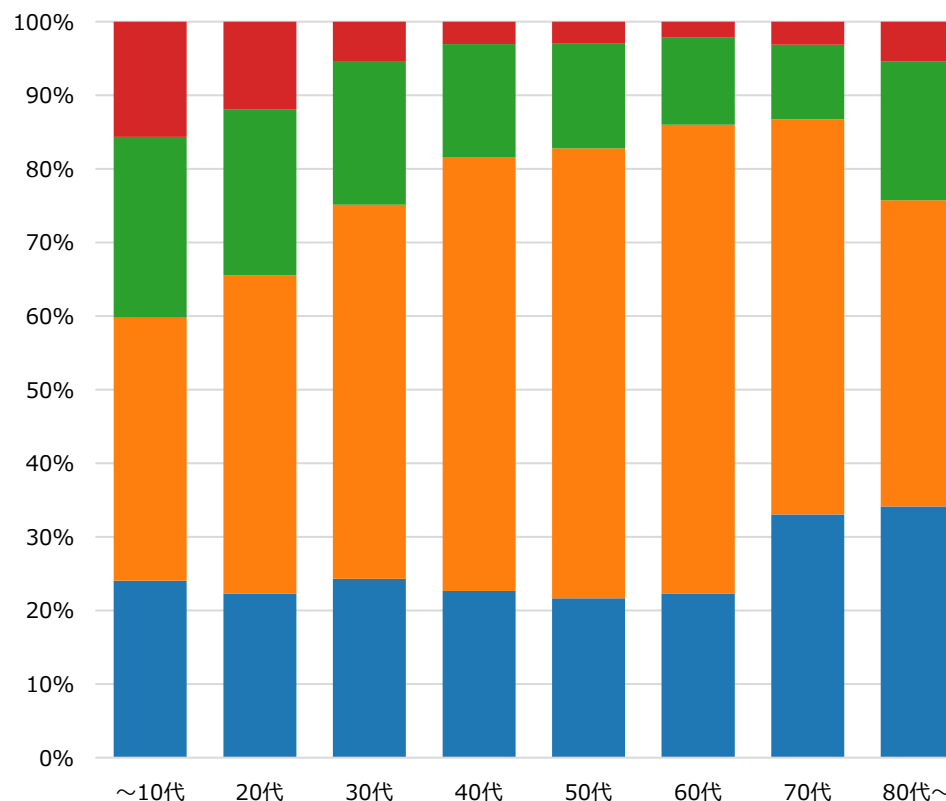
大分県

単位：名

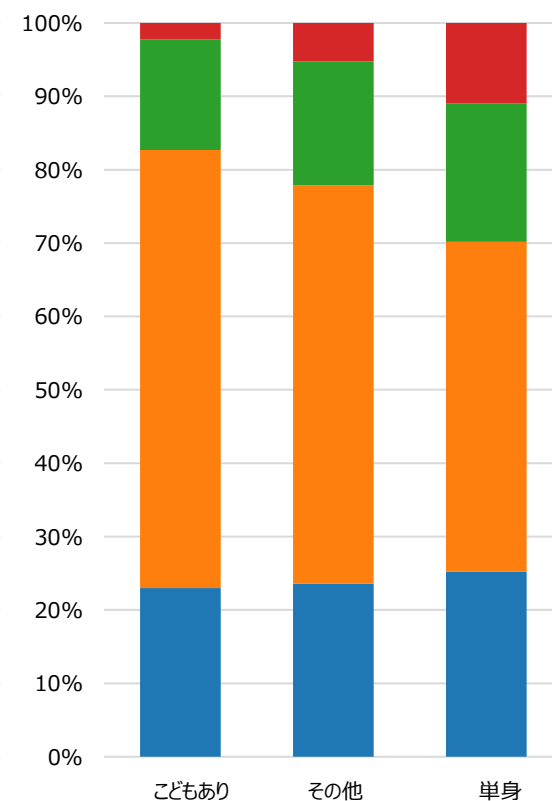
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

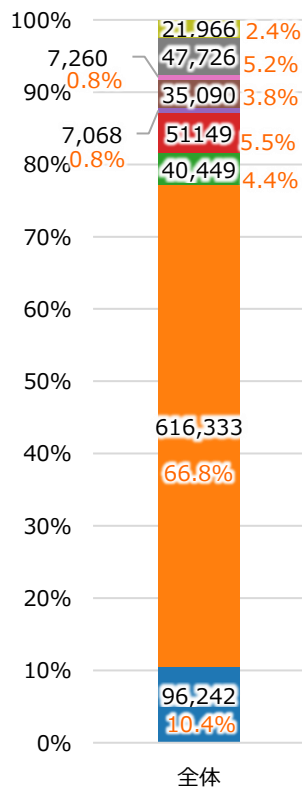
- 全体では認知度が約78%と、全国と比較し認知度が低い傾向

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

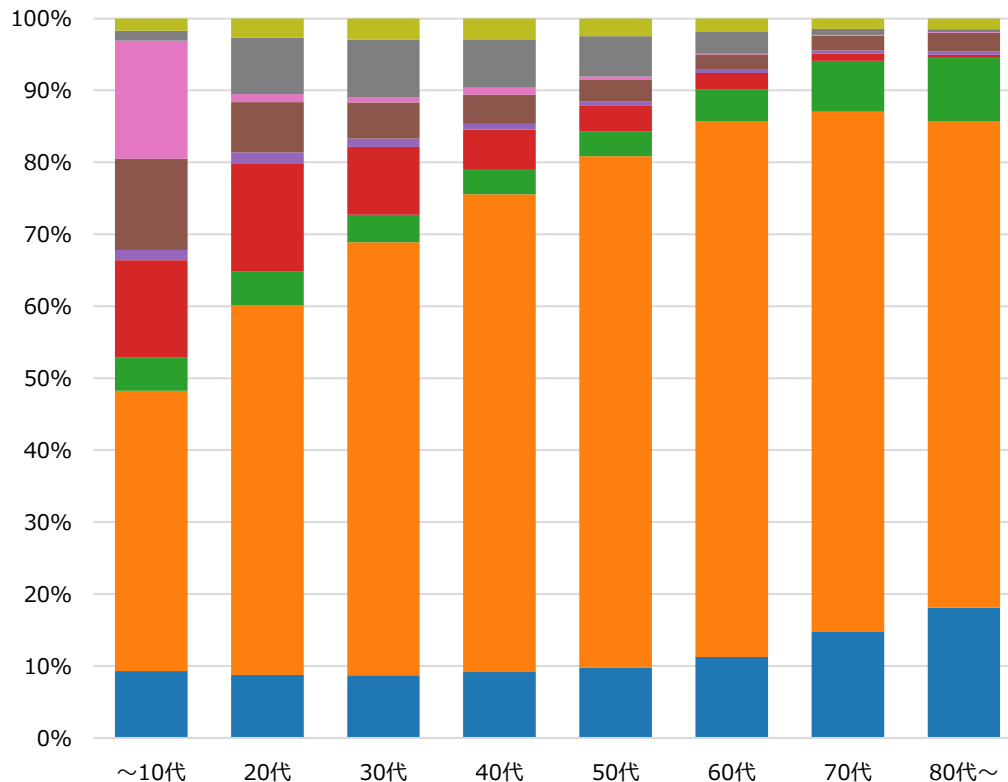
全国

単位：名

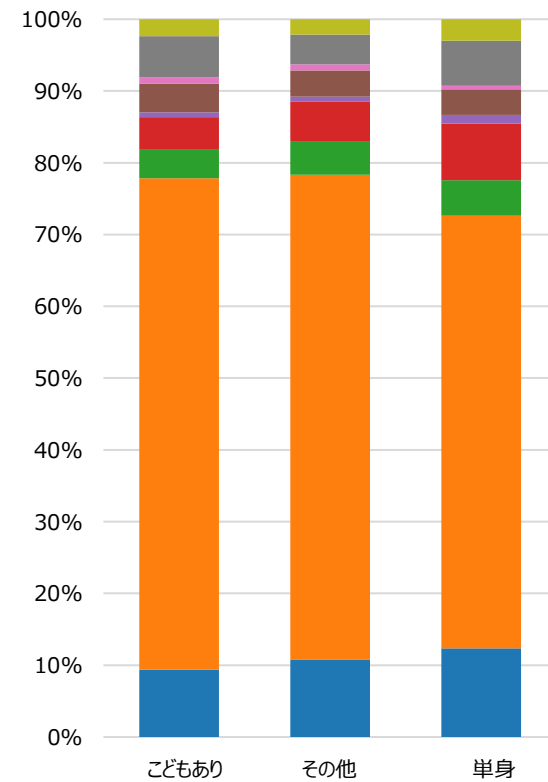
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

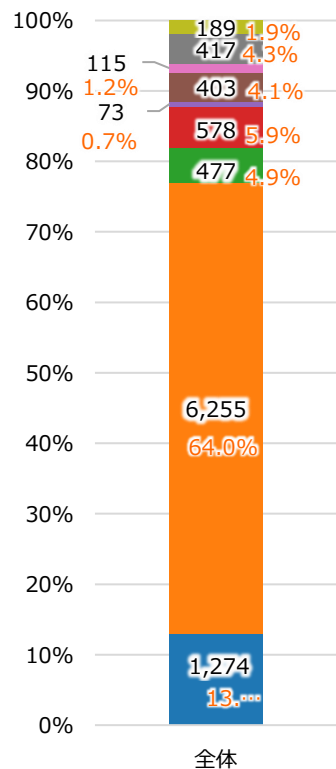
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

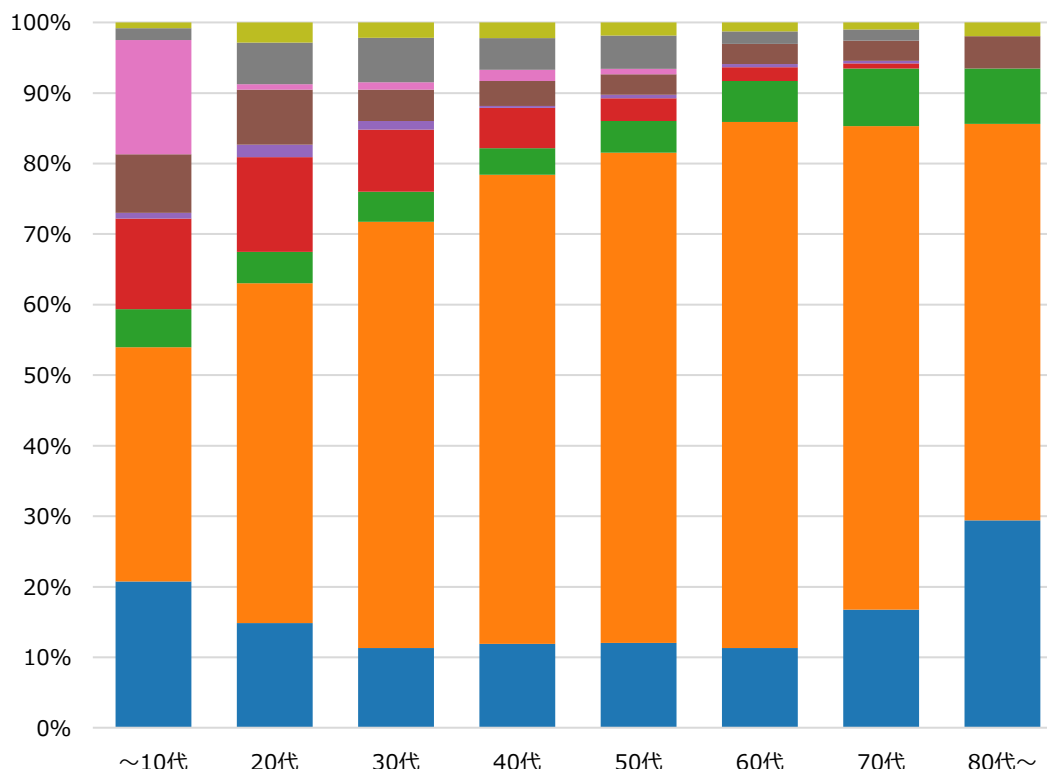
大分県

単位：名

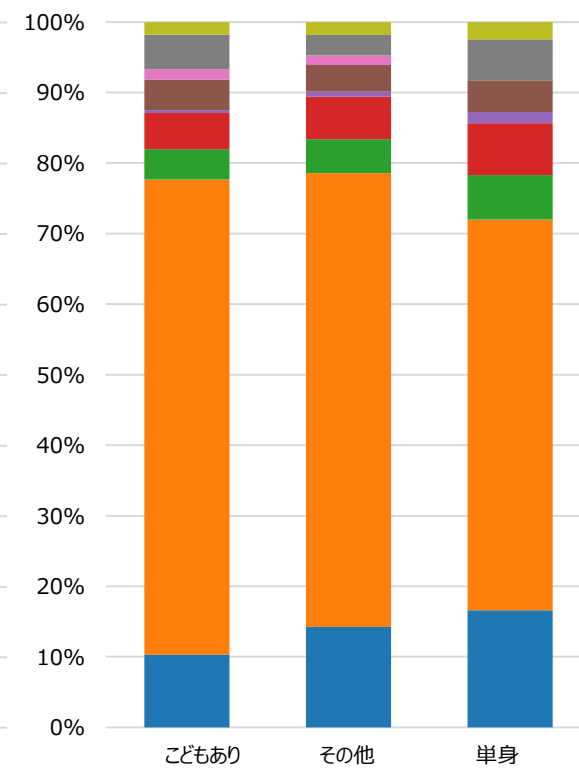
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

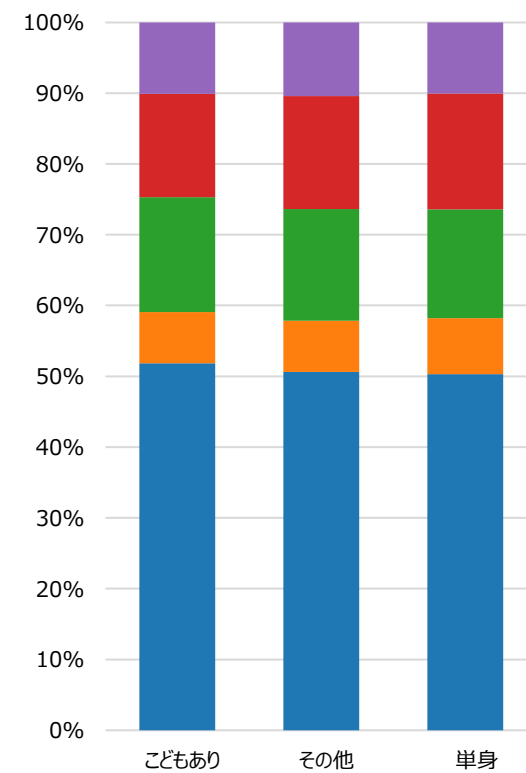
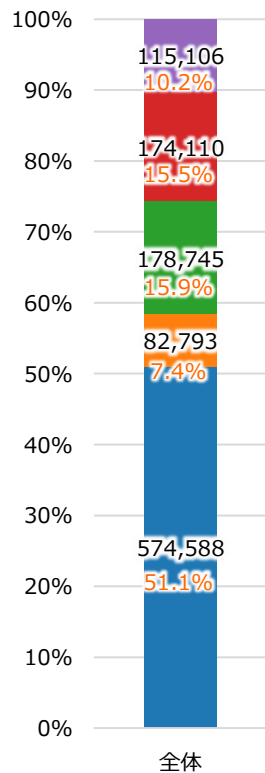
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

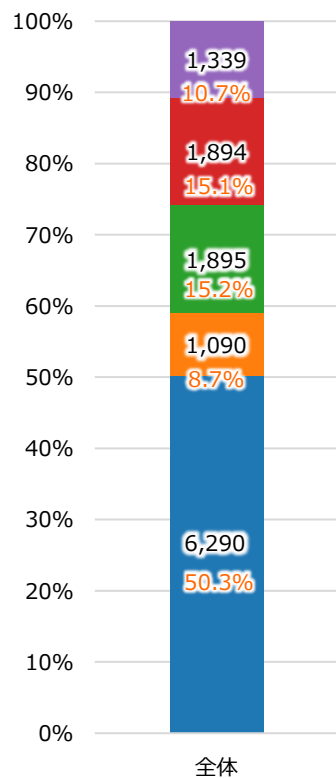
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

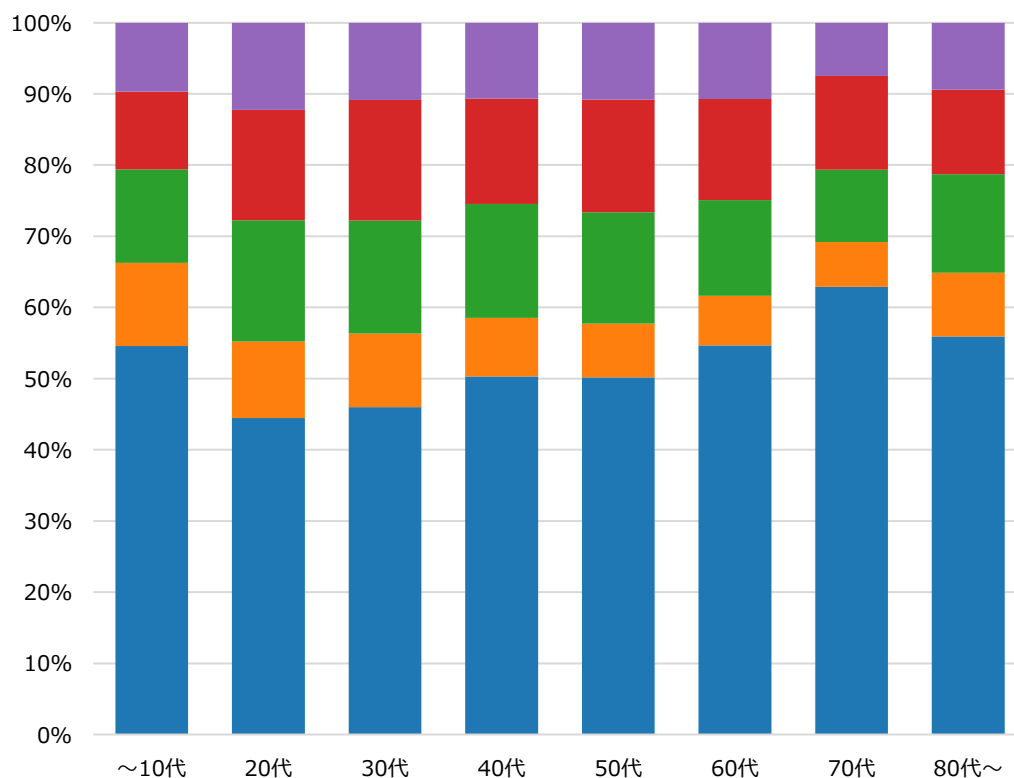
大分県

単位：名

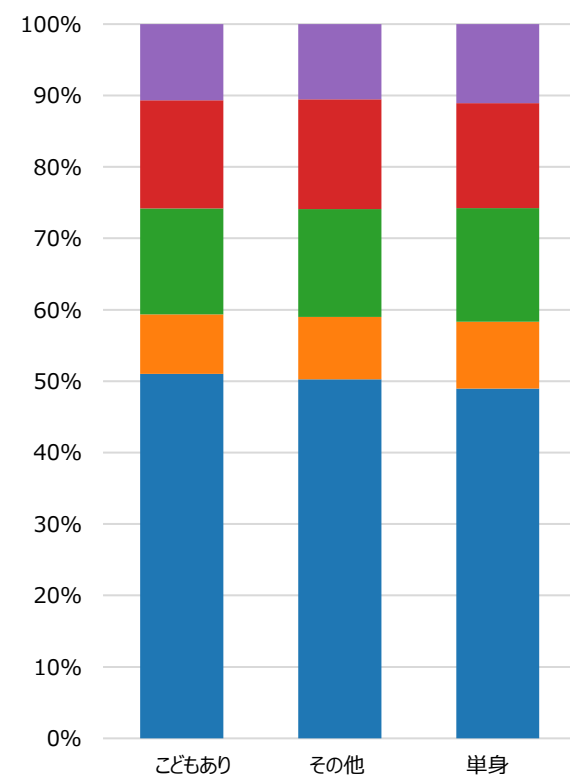
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

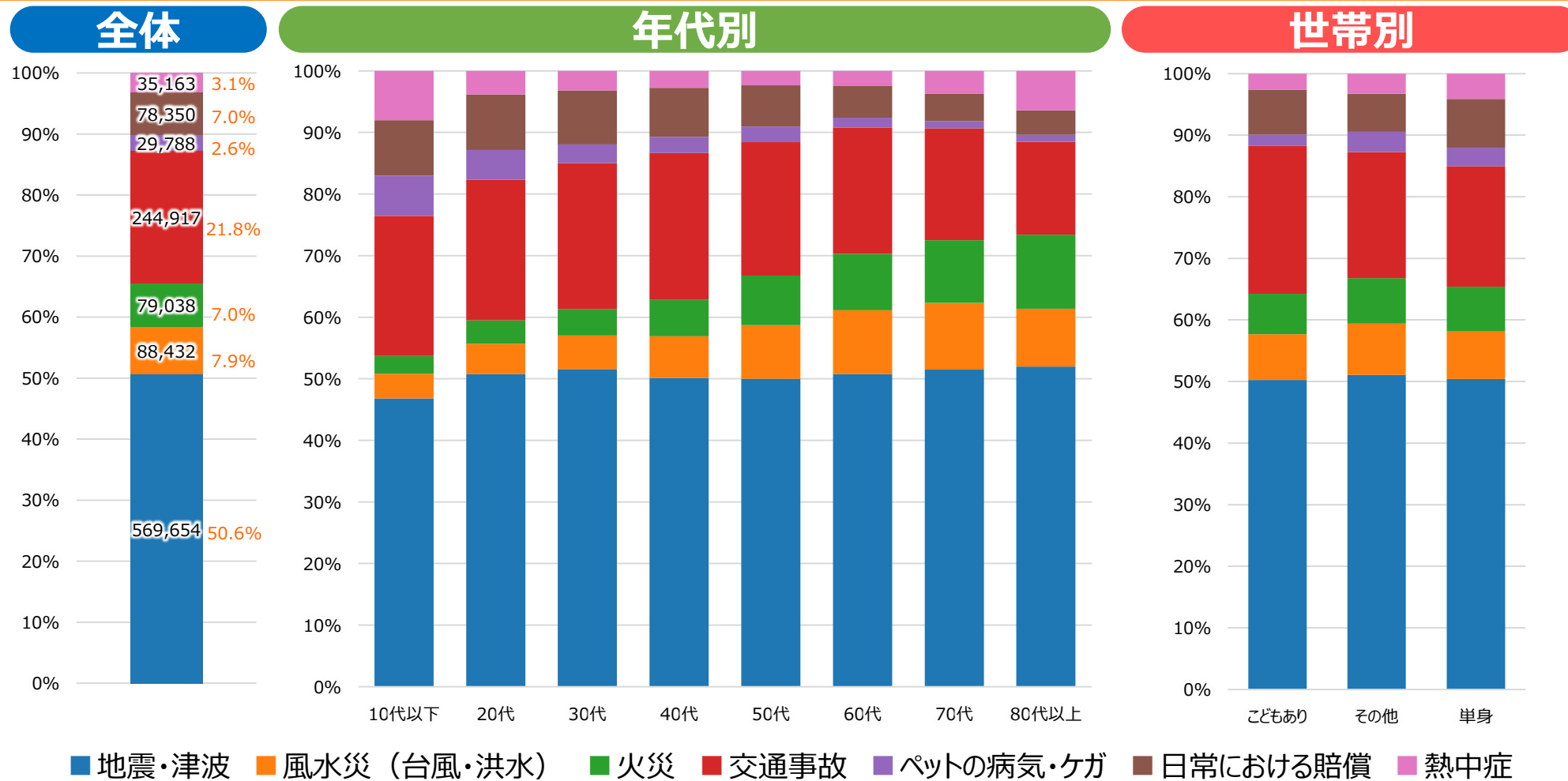
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」・「取締り・罰則の強化」がほぼ同率で高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



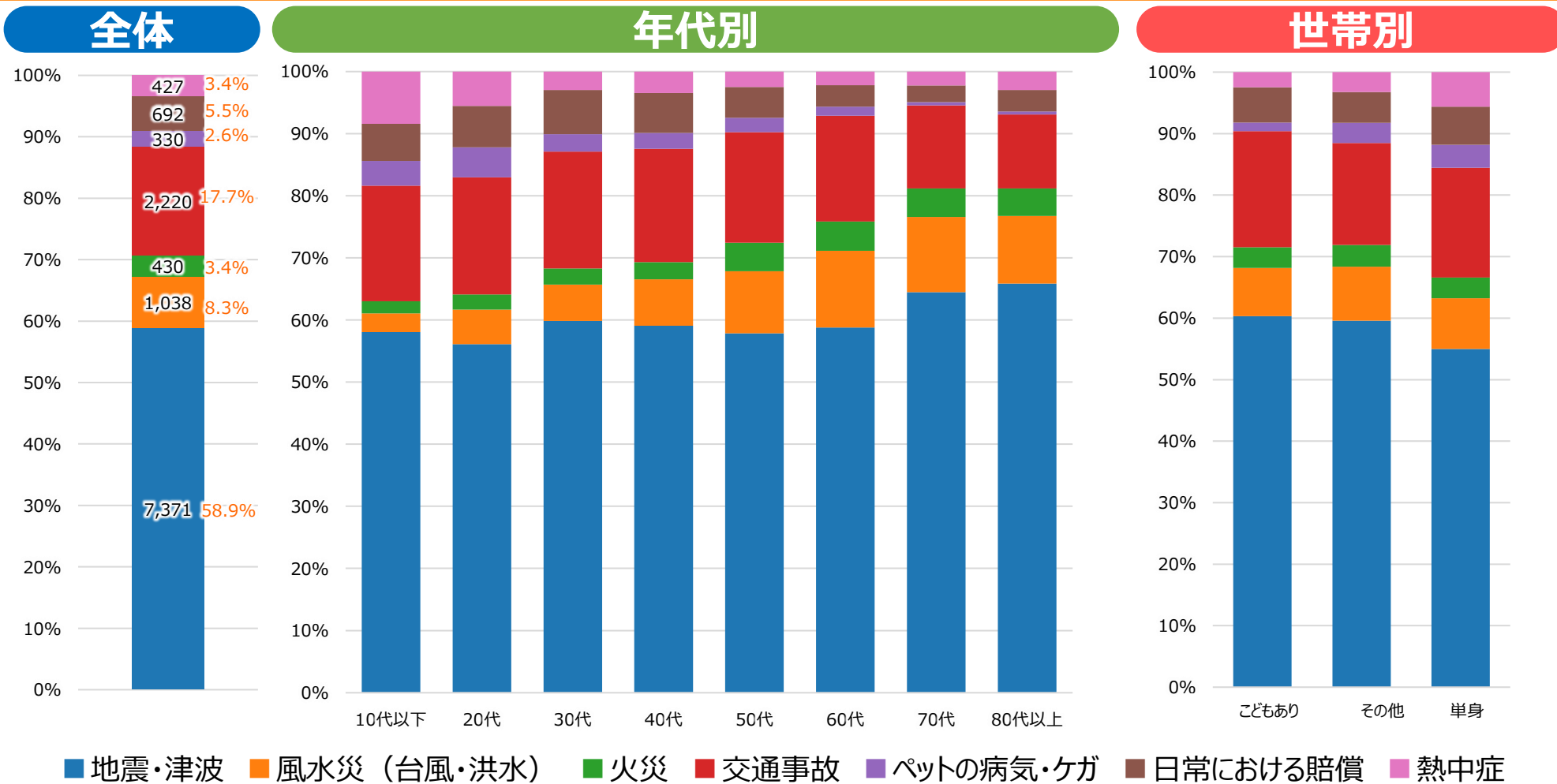
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

大分県

単位：名

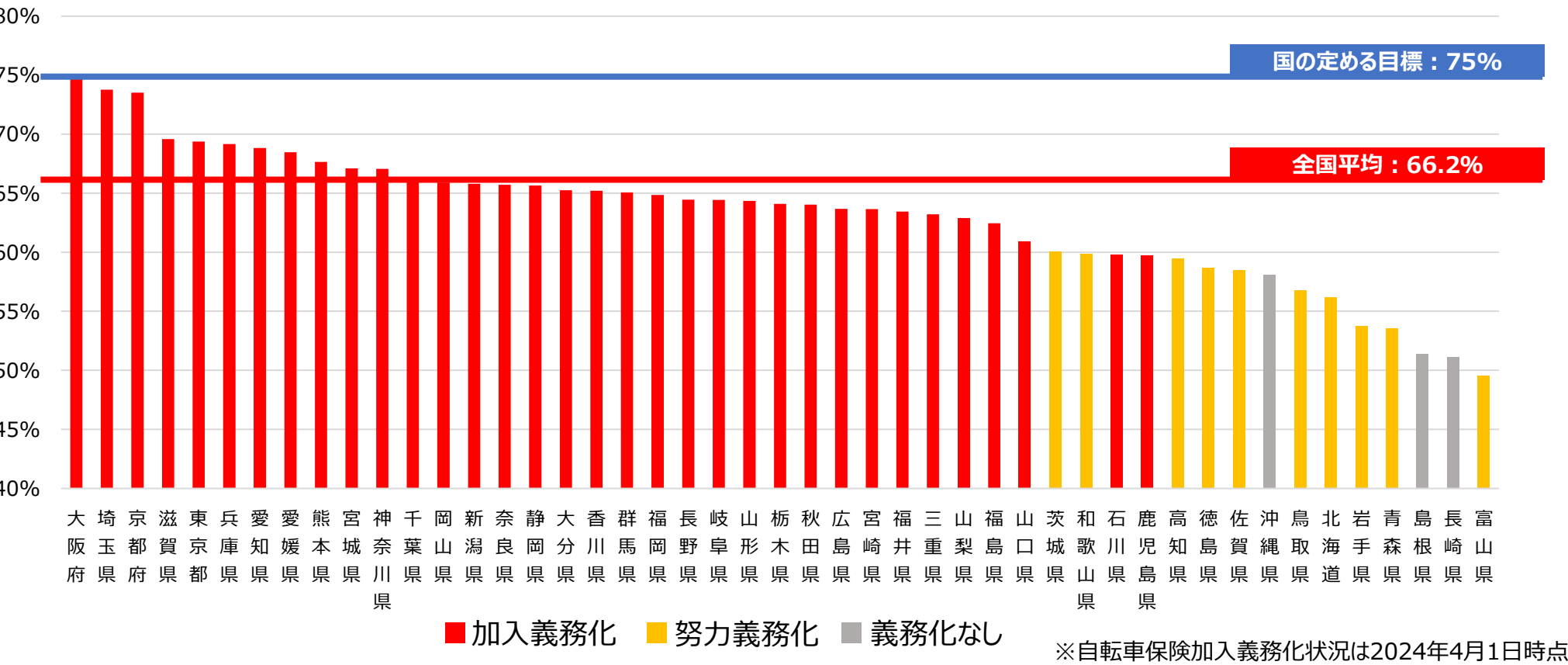
大分県



- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



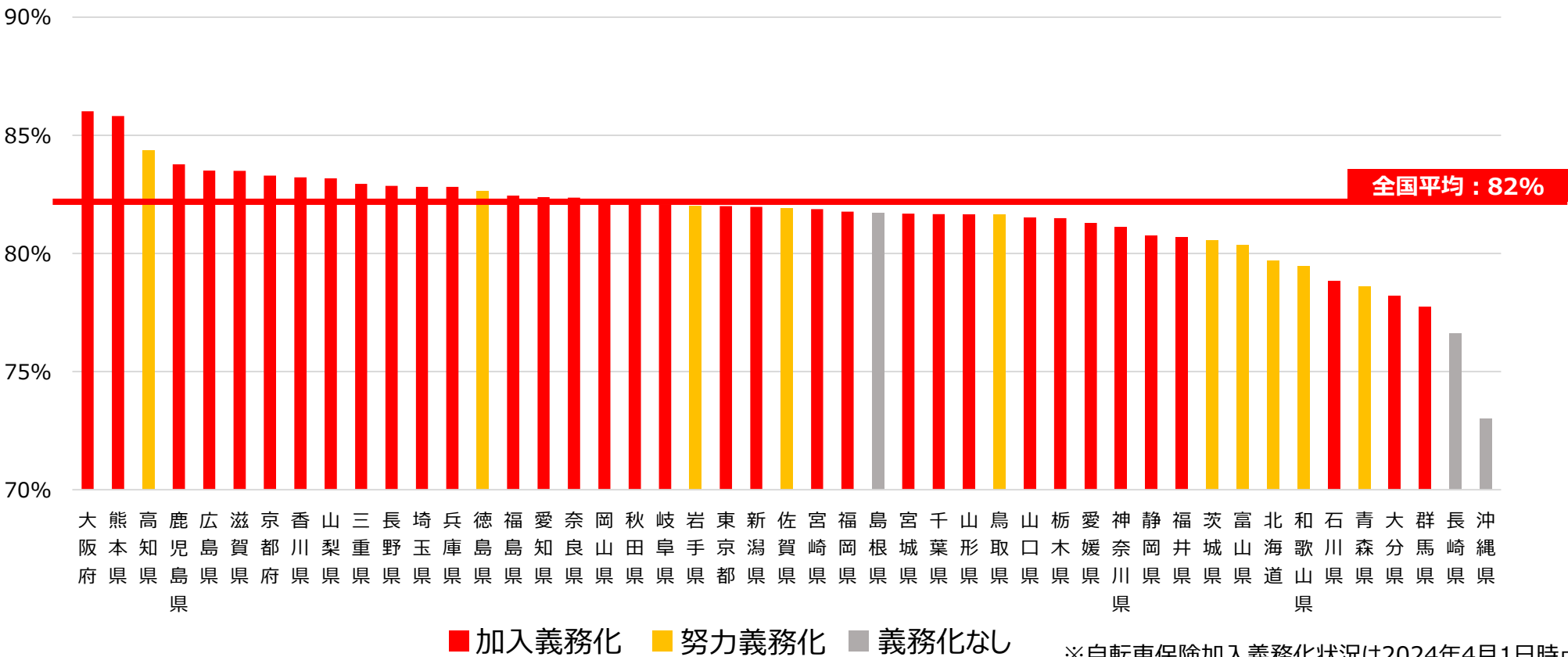
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



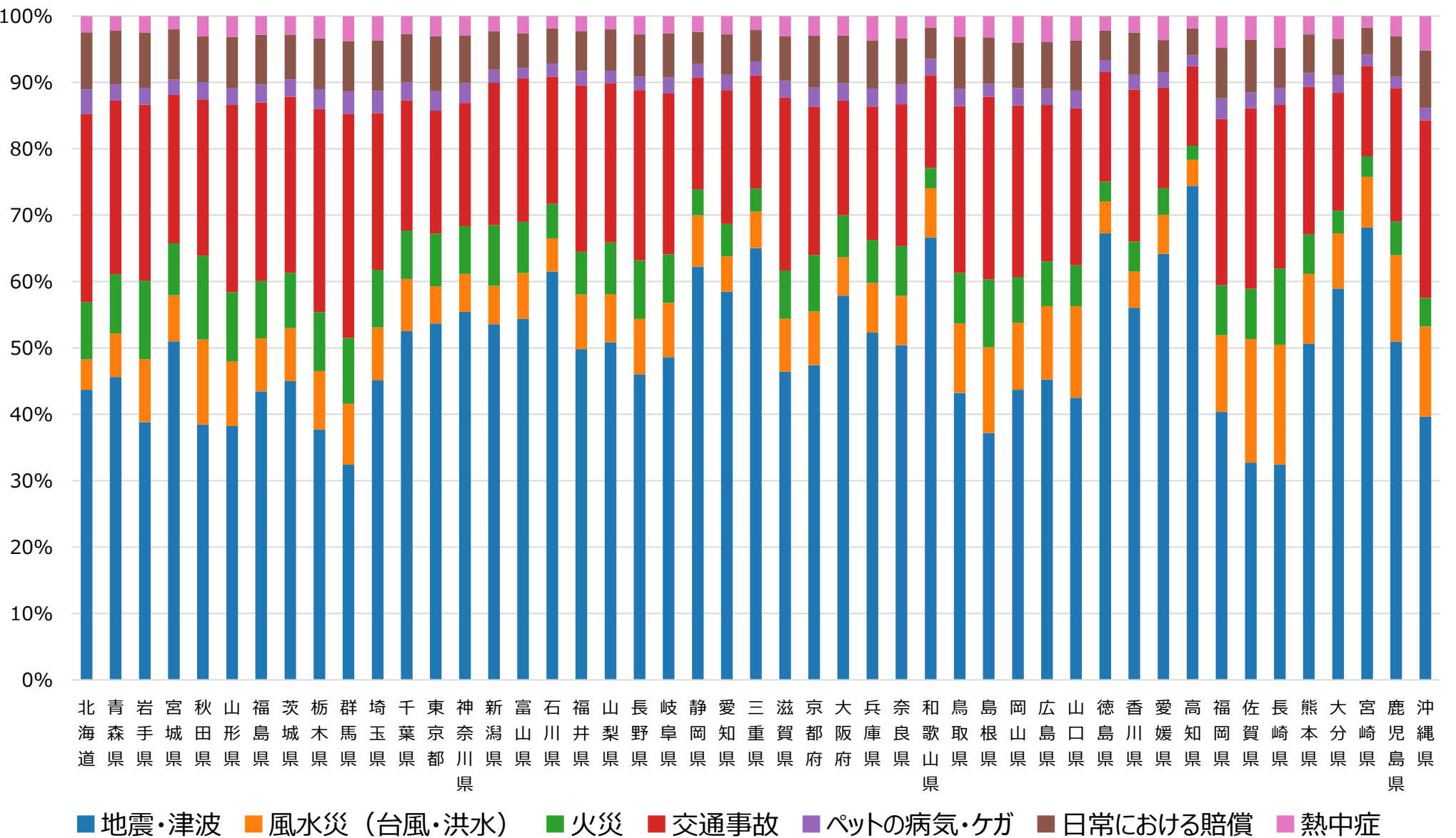
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「にっせーのせ！地域振興寄付金」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、アンケート1件につき10円を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「交通安全啓発活動」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、1,125,342件のご回答につき、総額11,253,420円を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

宮崎県との 連携協定締結状況	
締結日	2018/07/09
①	健康増進・疾病予防に関すること
②	児童・青少年の健全育成に関すること
③	高齢者の介護・生きがい増進に関すること
④	ダイバーシティ推進に関すること
⑤	その他、地域の活性化・県民サービスの向上に関すること

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

宮崎県

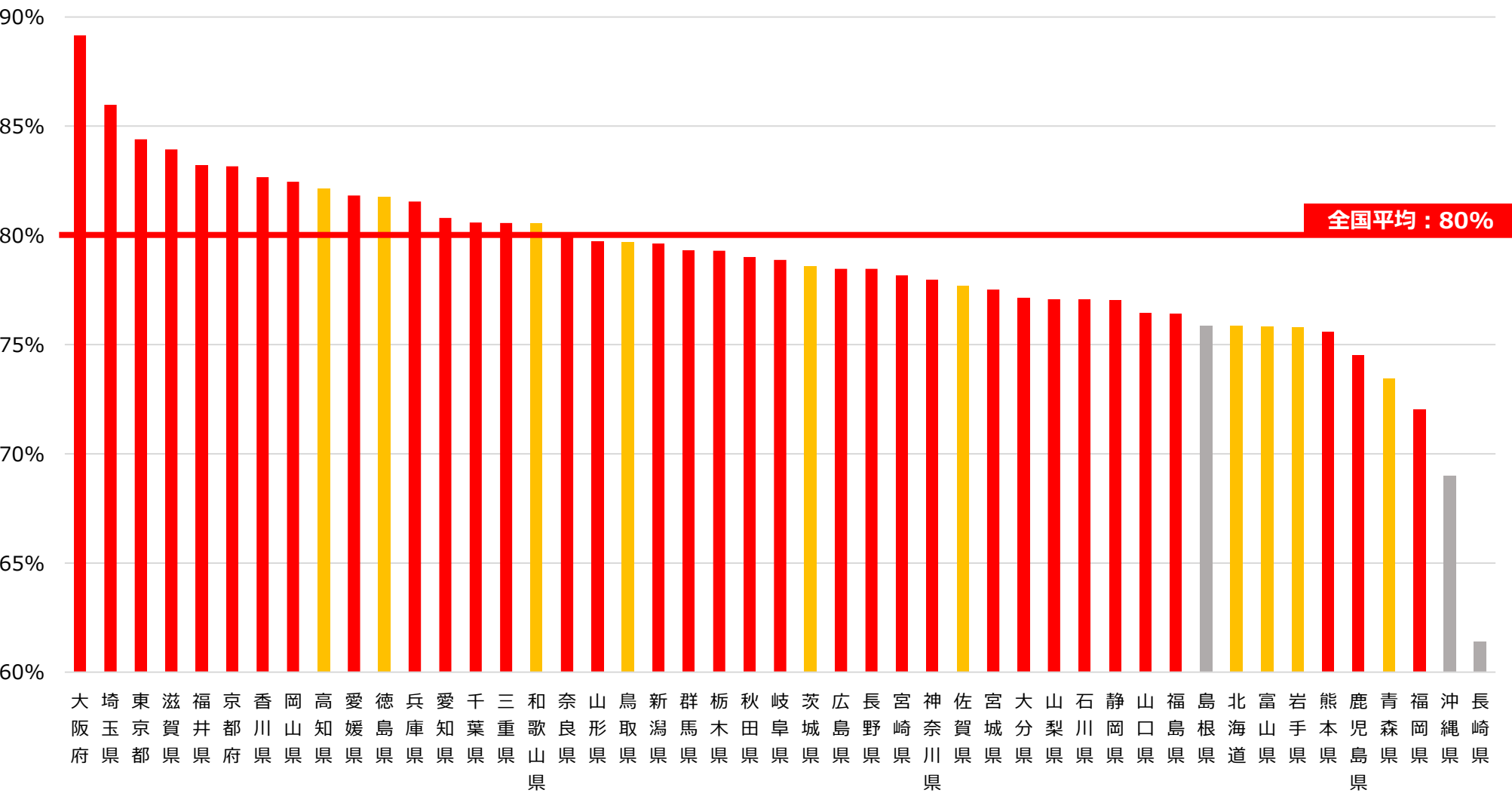
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	397	3.3%	193	3.8%	204	2.9%
20代	1,507	12.5%	735	14.5%	772	11.1%
30代	1,998	16.6%	860	17.0%	1,138	16.3%
40代	2,406	20.0%	1,023	20.2%	1,383	19.8%
50代	2,369	19.7%	936	18.5%	1,433	20.5%
60代	1,902	15.8%	707	14.0%	1,195	17.1%
70代	1,110	9.2%	450	8.9%	660	9.4%
80代～	355	2.9%	155	3.1%	200	2.9%
合計	12,044	100.0%	5,059	100.0%	6,985	100.0%
2024年度	3,489	100.0%	1,274	100.0%	2,215	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	375	94.5%	186	96.4%	189	92.6%
20代	1,165	77.3%	588	80.0%	577	74.7%
30代	1,594	79.8%	689	80.1%	905	79.5%
40代	2,018	83.9%	853	83.4%	1,165	84.2%
50代	1,878	79.3%	751	80.2%	1,127	78.6%
60代	1,412	74.2%	548	77.5%	864	72.3%
70代	754	67.9%	303	67.3%	451	68.3%
80代～	218	61.4%	94	60.6%	124	62.0%
合計	9,414	78.2%	4,012	79.3%	5,402	77.3%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



加入義務化

努力義務化

義務化なし

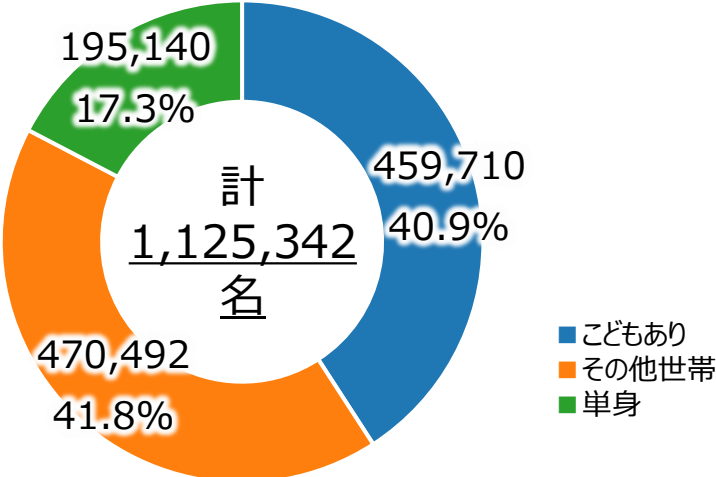
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

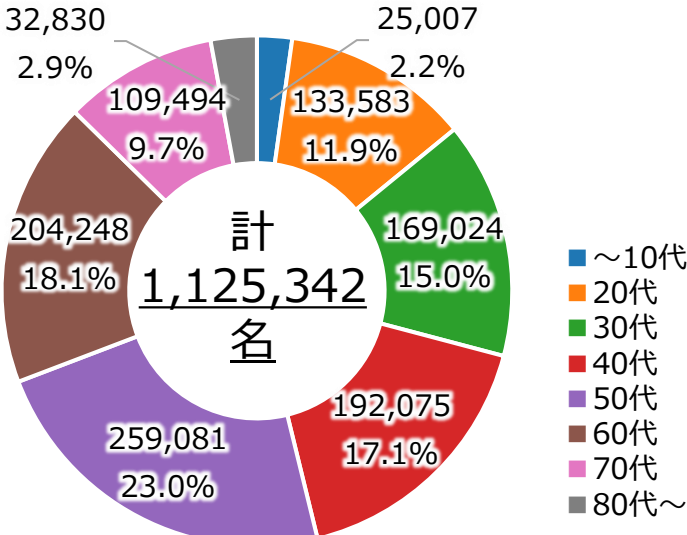
(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国

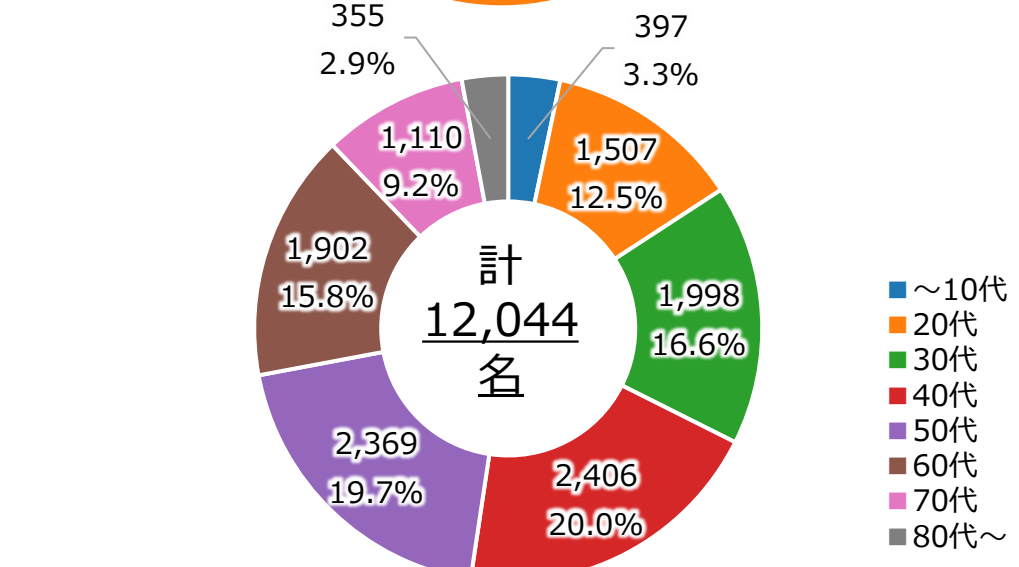
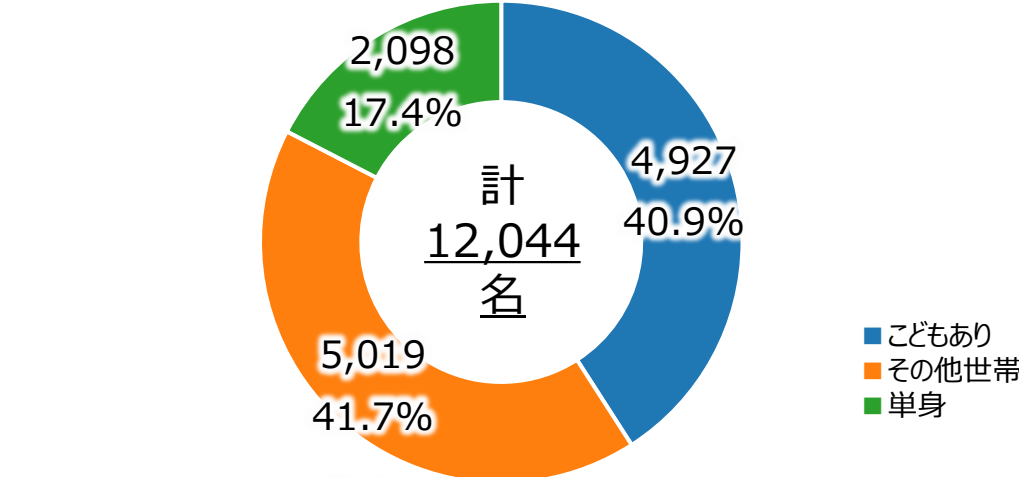
世帯構成別



年代別



宮崎県



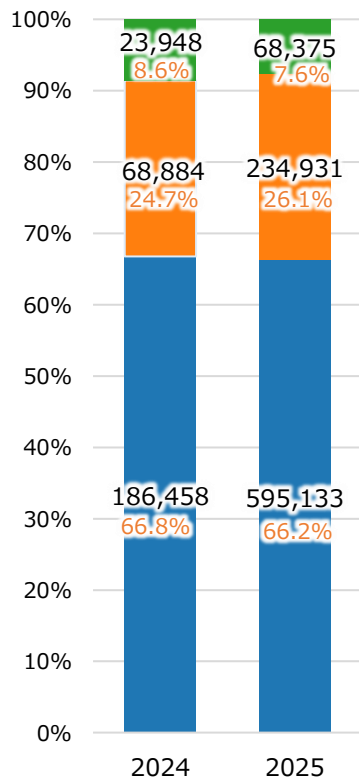
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

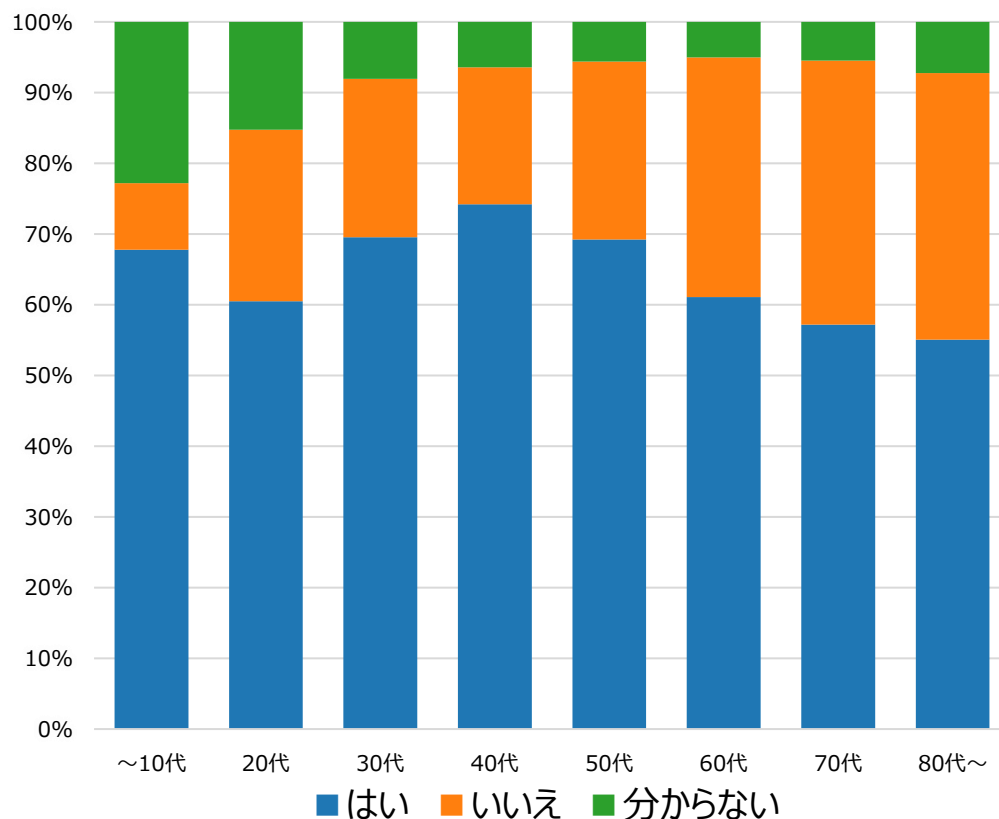
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

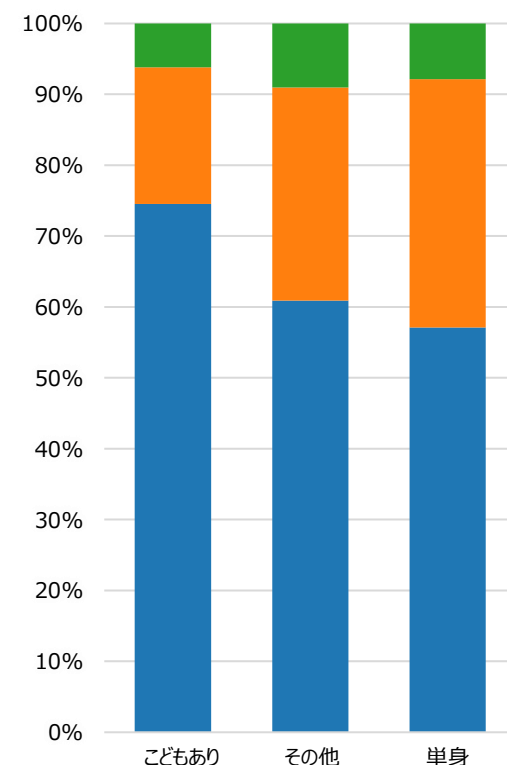
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

宮崎県

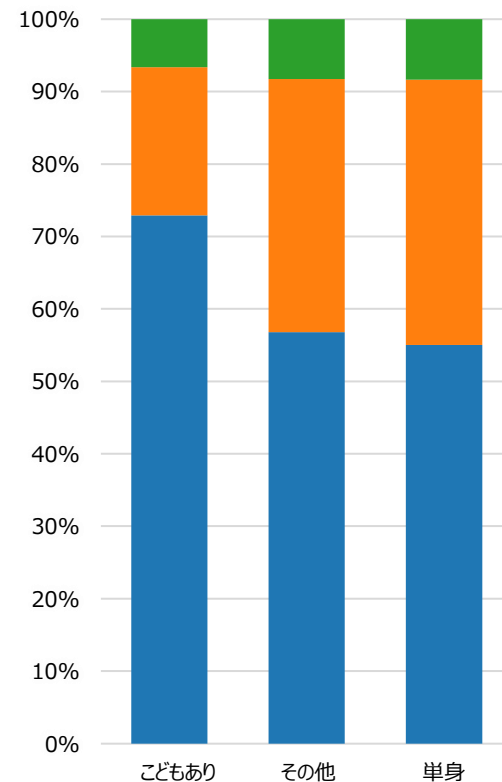
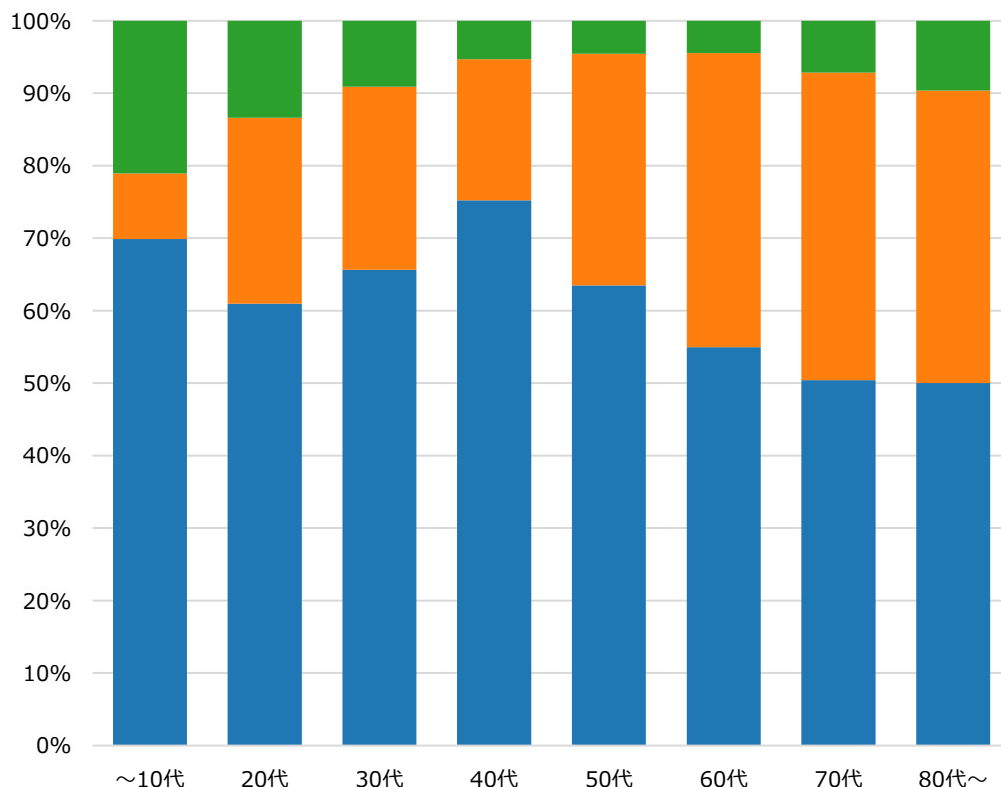
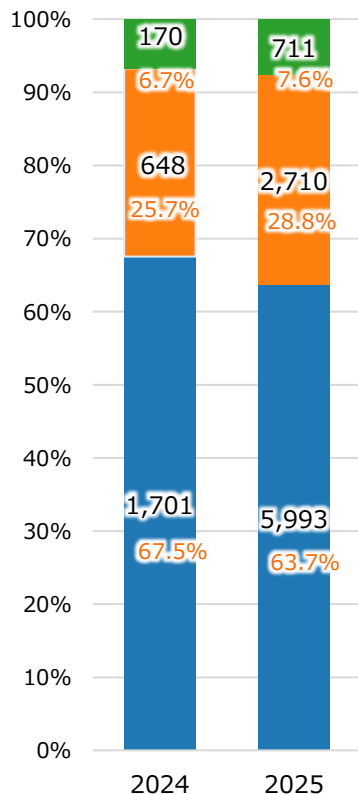
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年減少（▲4Pt）全国と比較すると低位（▲3Pt）
- 年代別でみると、特に50代以降が全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

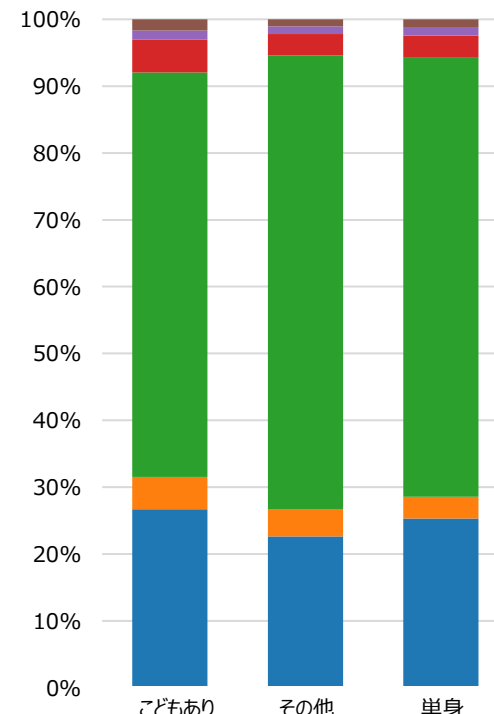
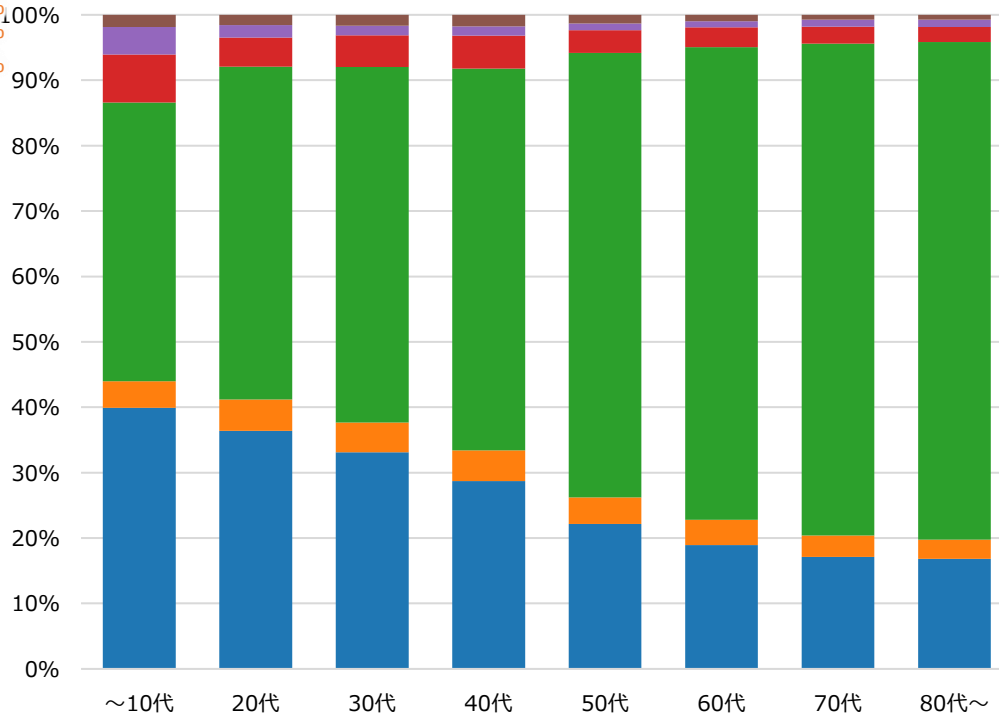
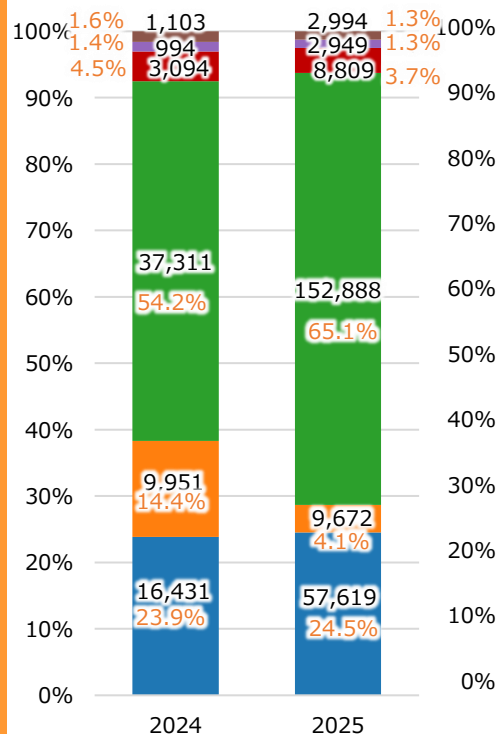
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

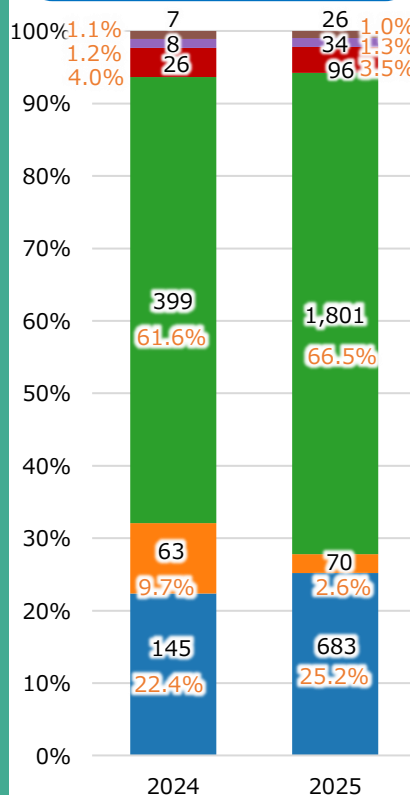
関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

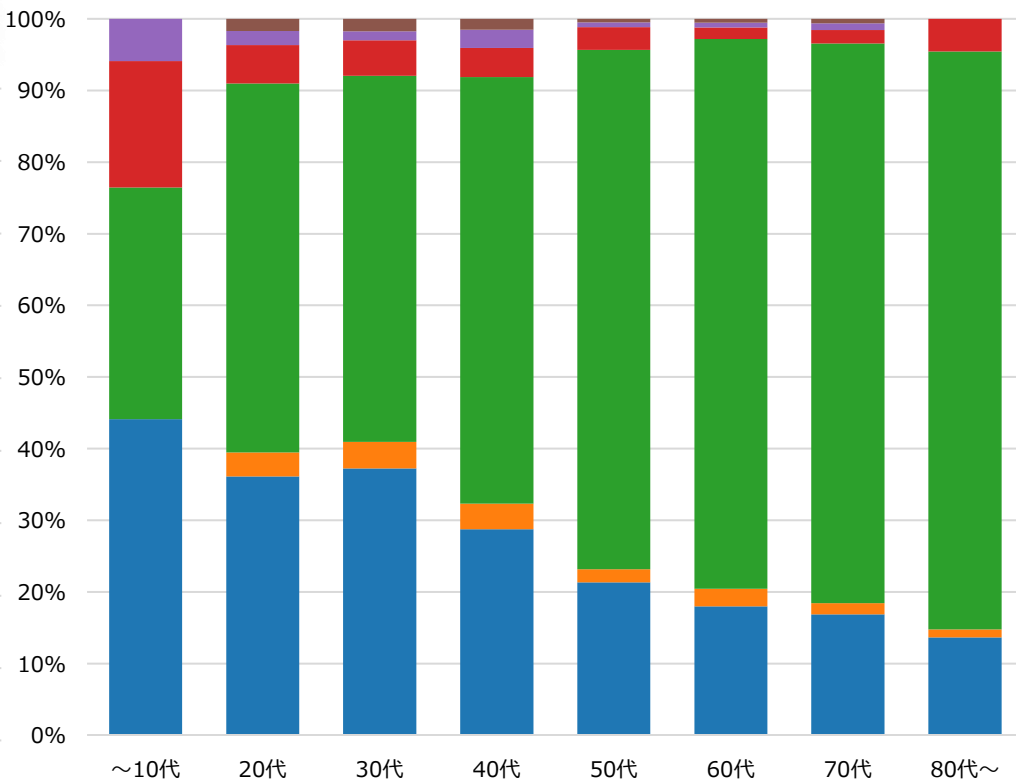
宮崎県

単位：名

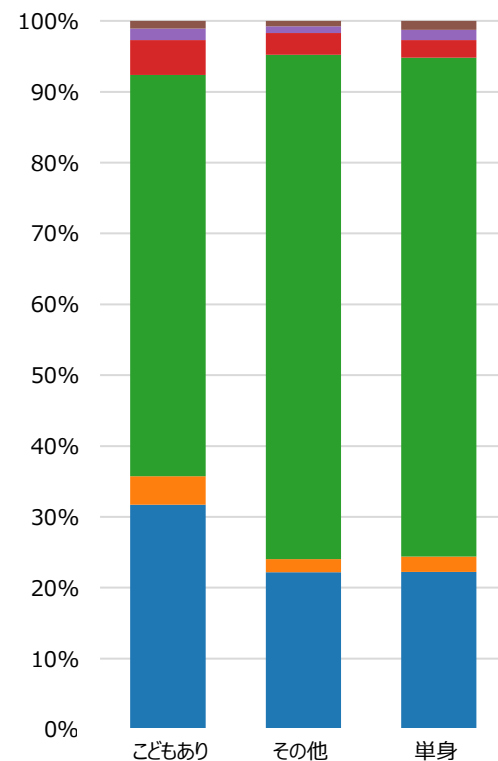
全体



年代別



世帯別



■ きっかけがなかった
 ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから
 ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから
 ■ 入り方がわからなかったから
 ■ 保険料が高いから

● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少（▲7Pt）

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者：9,414名のうち、872名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 107 名	② 107 名
	加入	89 名	569 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	27.3%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	7.8%
加入方法がわからなかったから	2.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	6.5%
保険料が高いから	1.3%
必要性を感じないから	54.5%

2024年度「自転車保険加入なし」の214名(①+②)のうち、
約2人に1人が「自転車保険加入あり」に変化

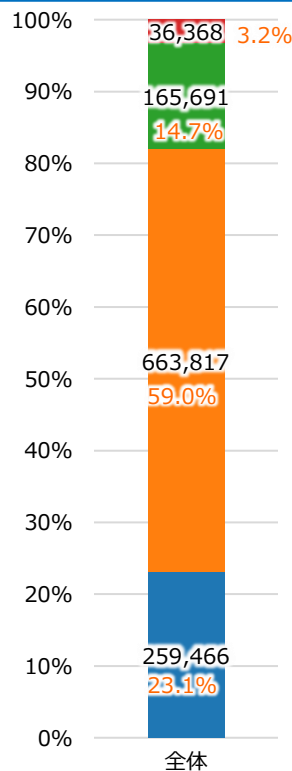
- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約2人に1人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

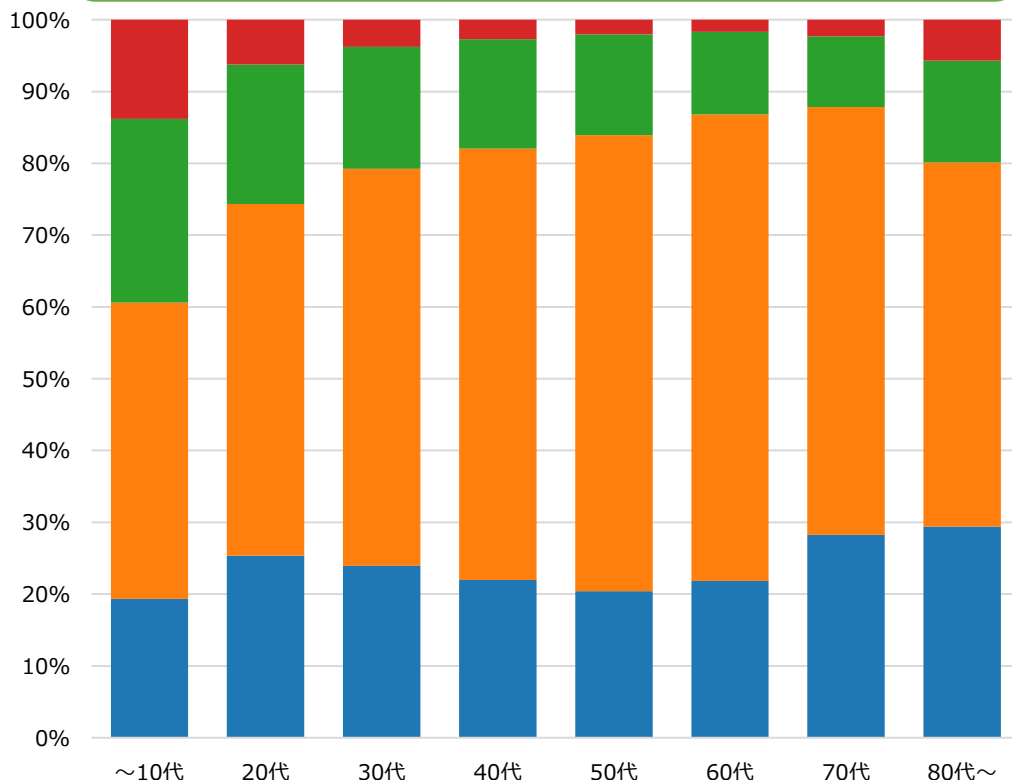
全国

単位：名

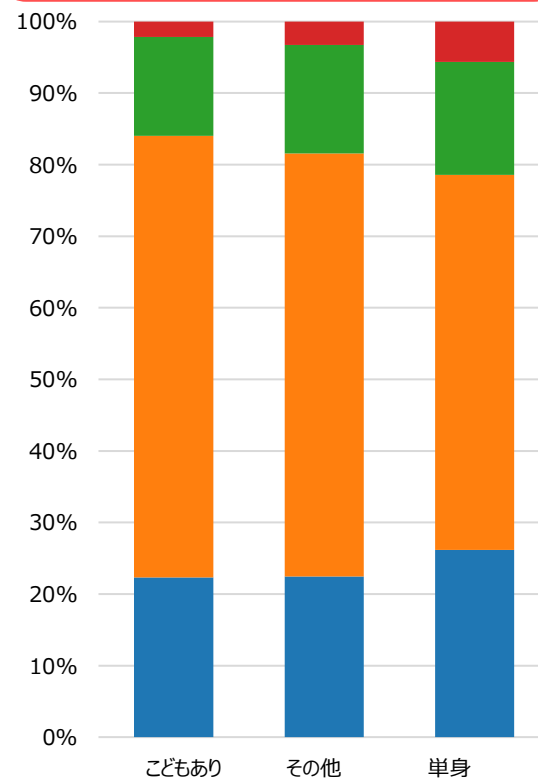
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

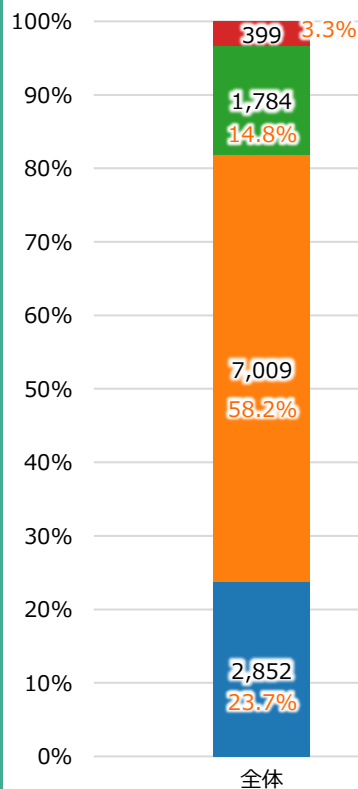
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

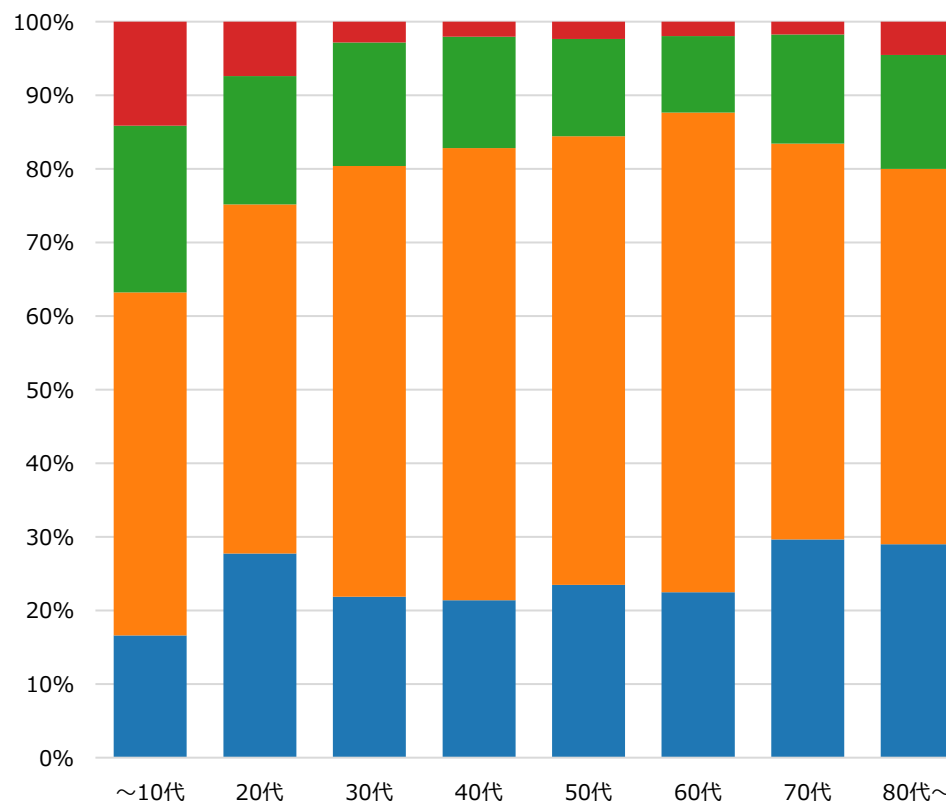
宮崎県

単位：名

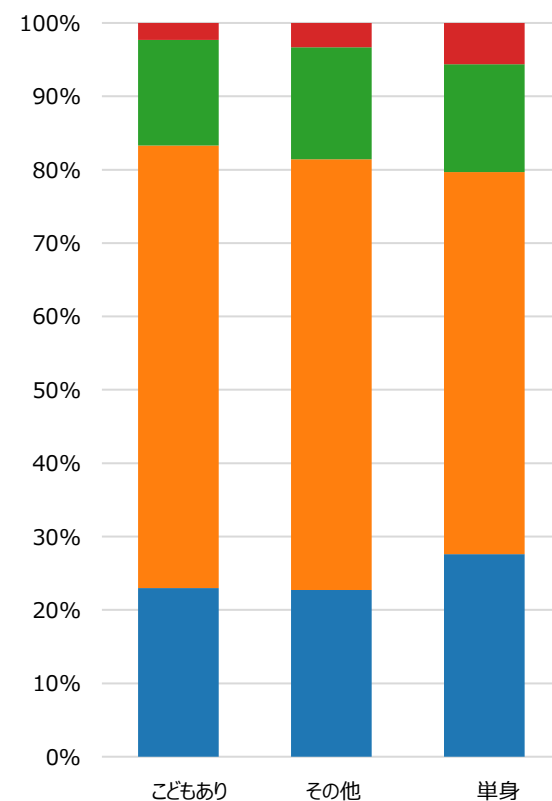
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

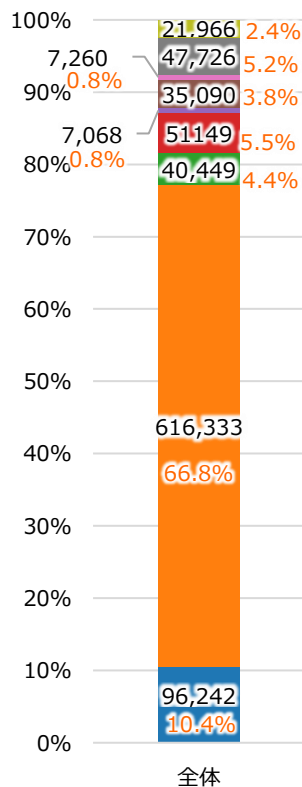
- 全体では認知度が約82%と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

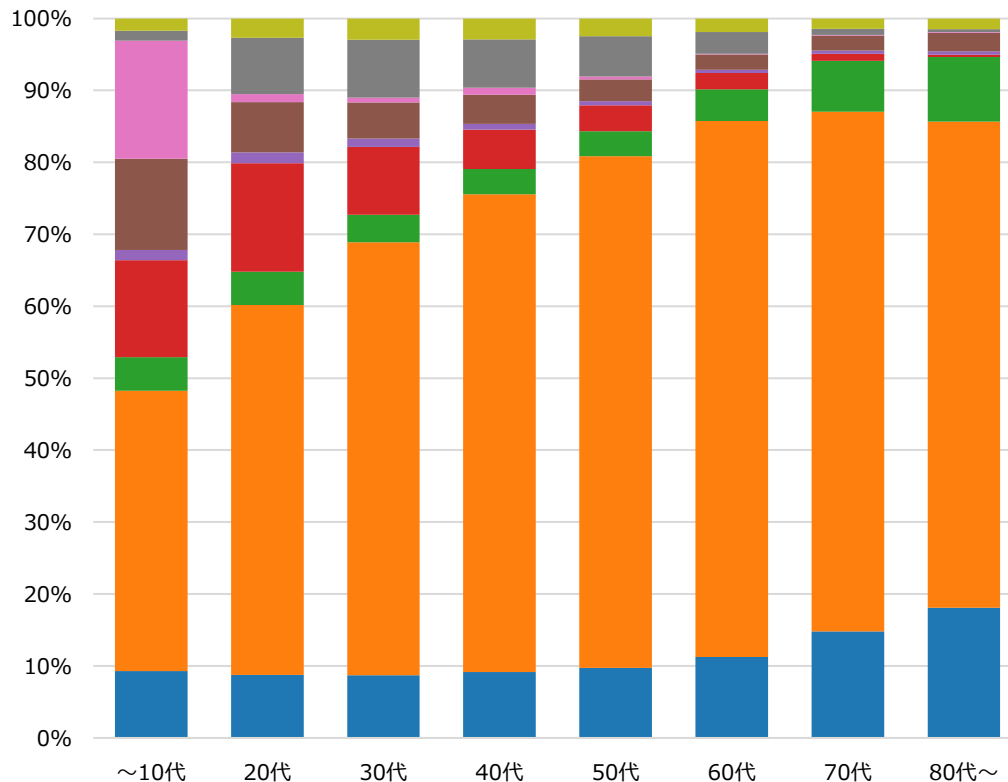
全国

単位：名

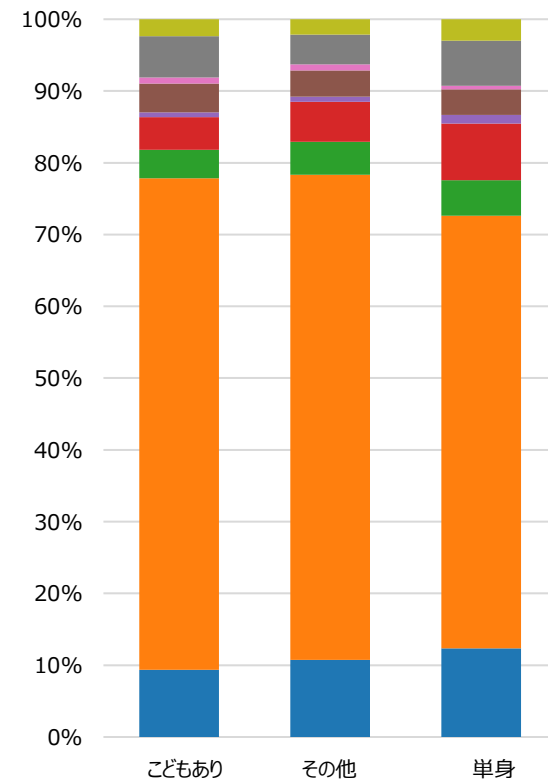
全体



年代別



世帯別



雑誌新聞 ニュース番組 テレビCM SNS ポスター掲示 家族知人 学校 勤務先 その他

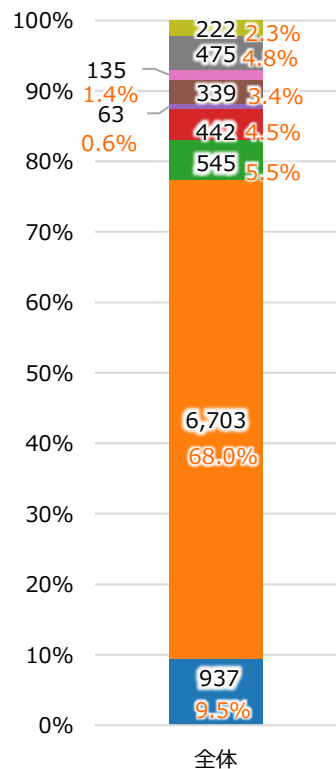
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

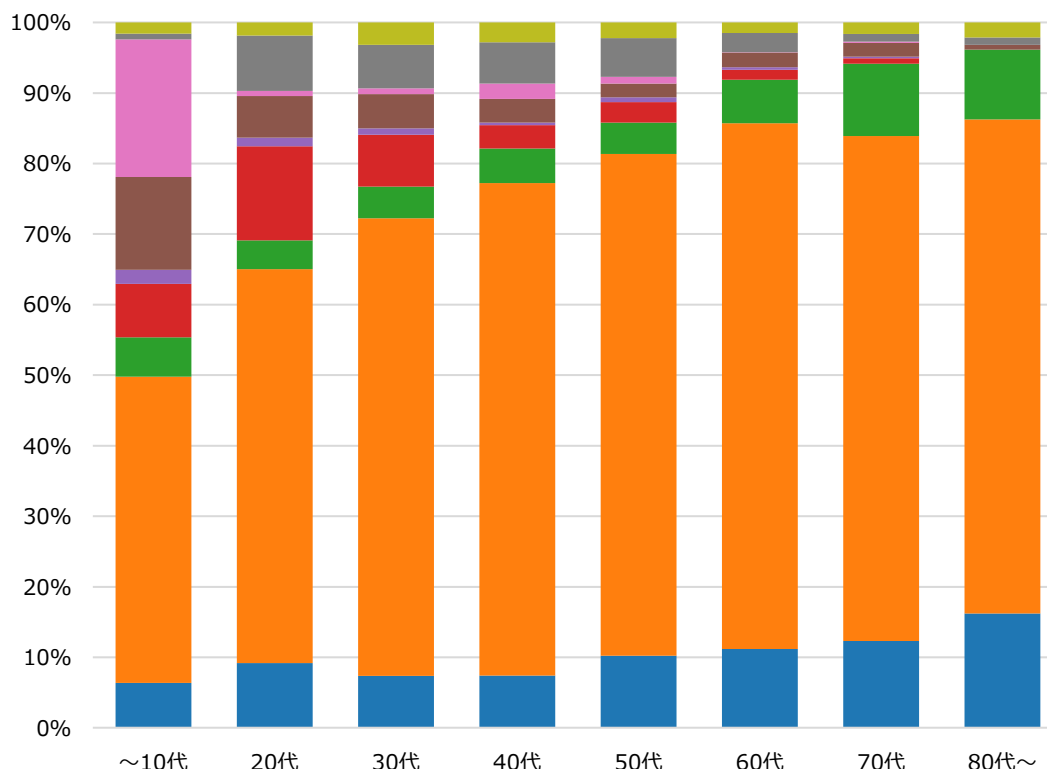
宮崎県

単位：名

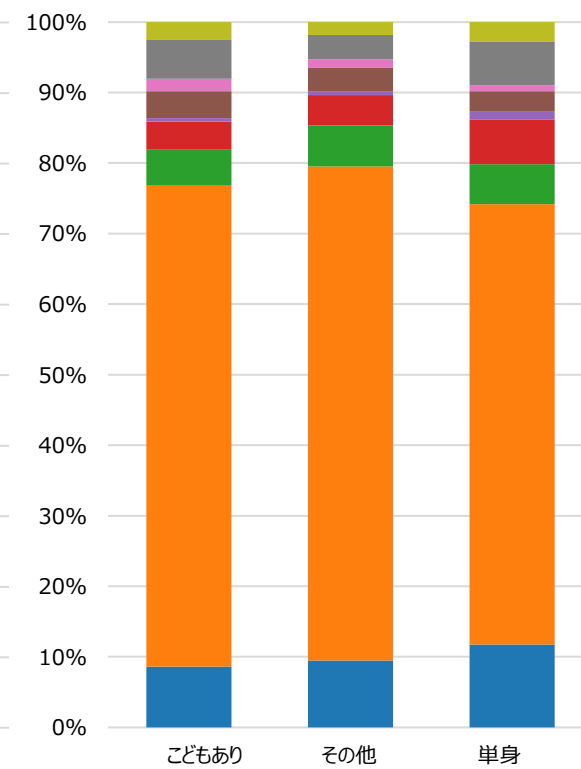
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

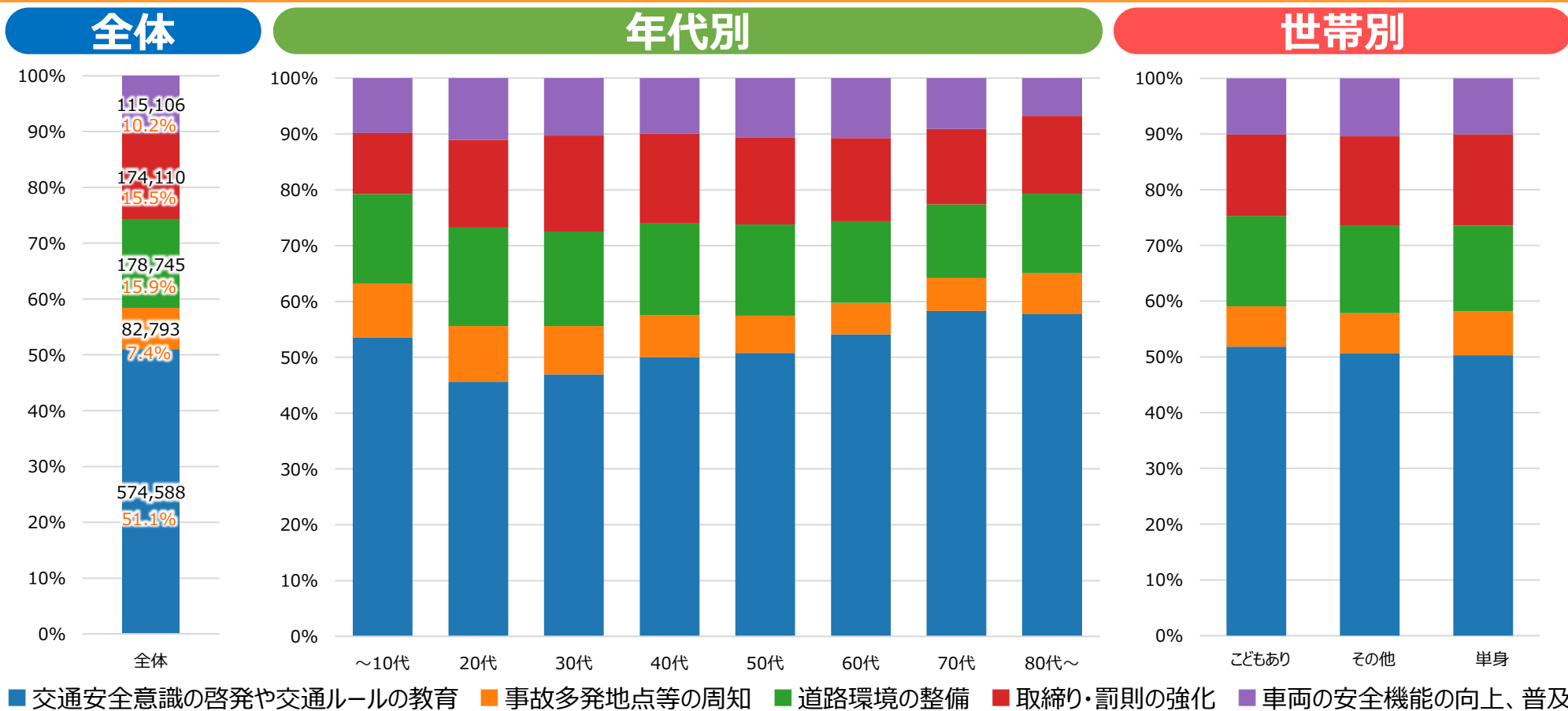
- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

全国

単位：名

全国



- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

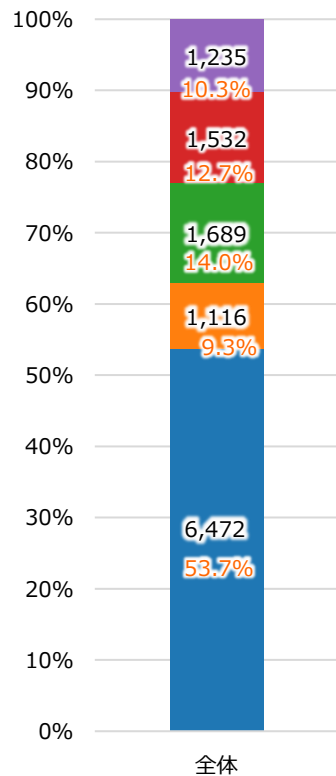
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

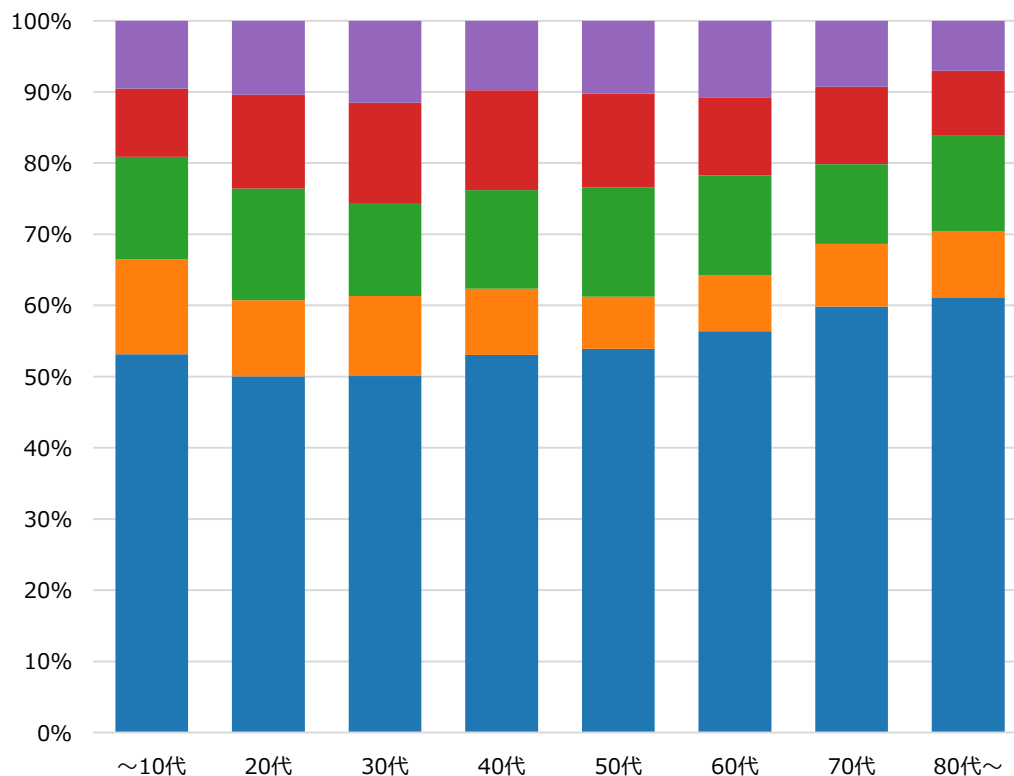
宮崎県

単位：名

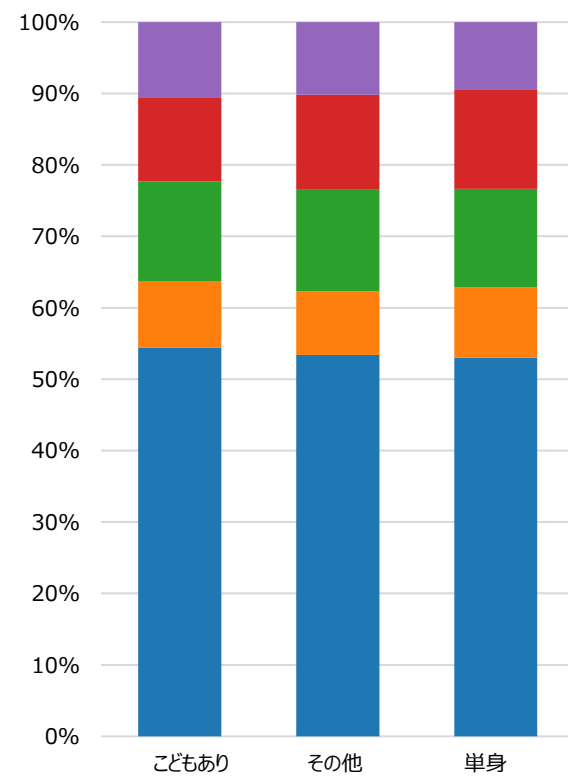
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

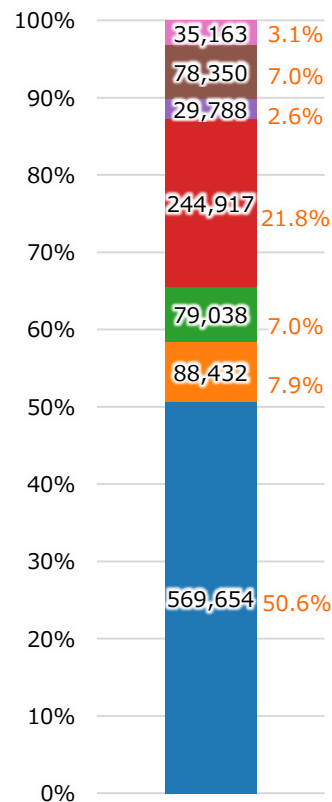
Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

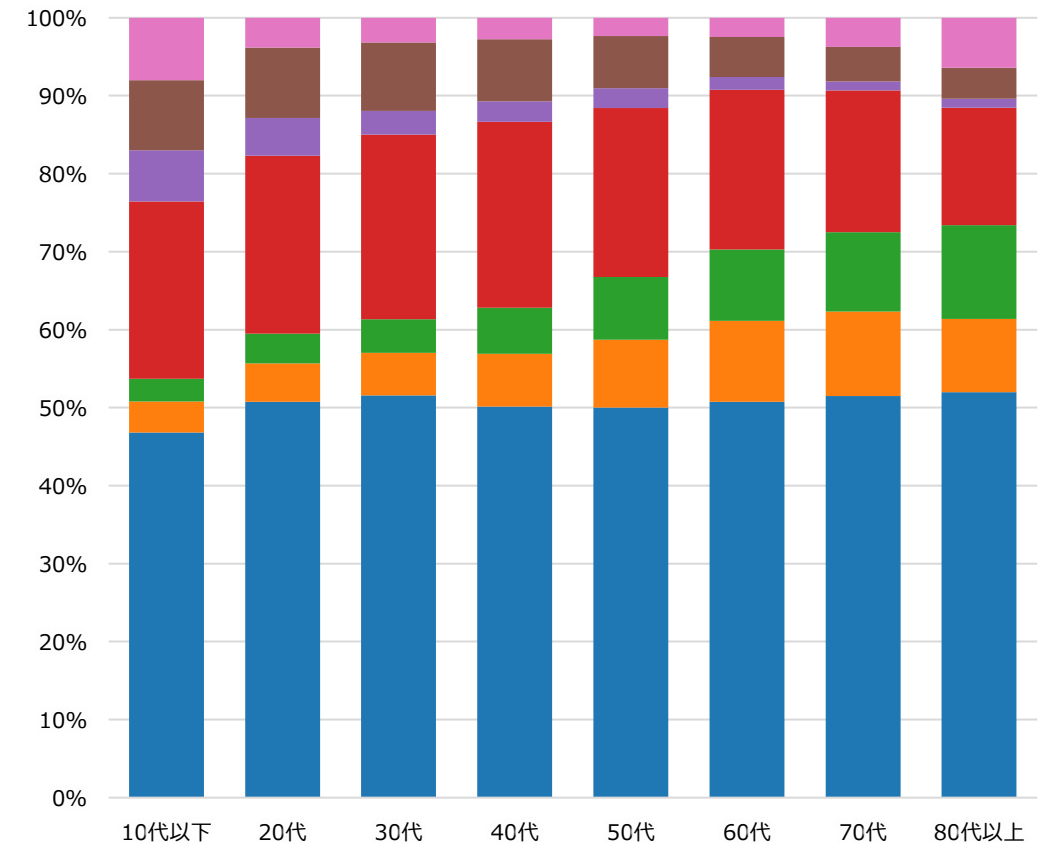
単位：名

全国

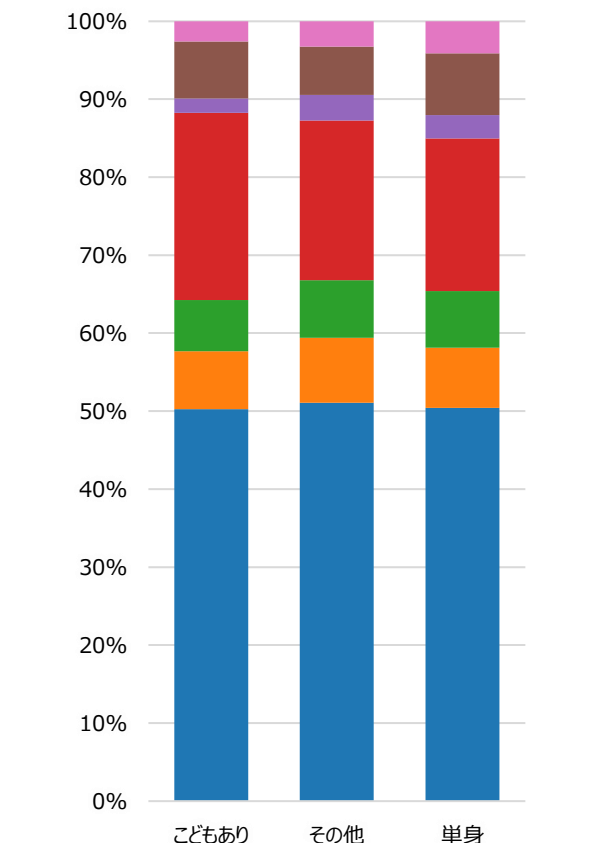
全体



年代別



世帯別



■ 地震・津波 ■ 風水災 (台風・洪水) ■ 火災 ■ 交通事故 ■ ペットの病気・ケガ ■ 日常における賠償 ■ 熱中症

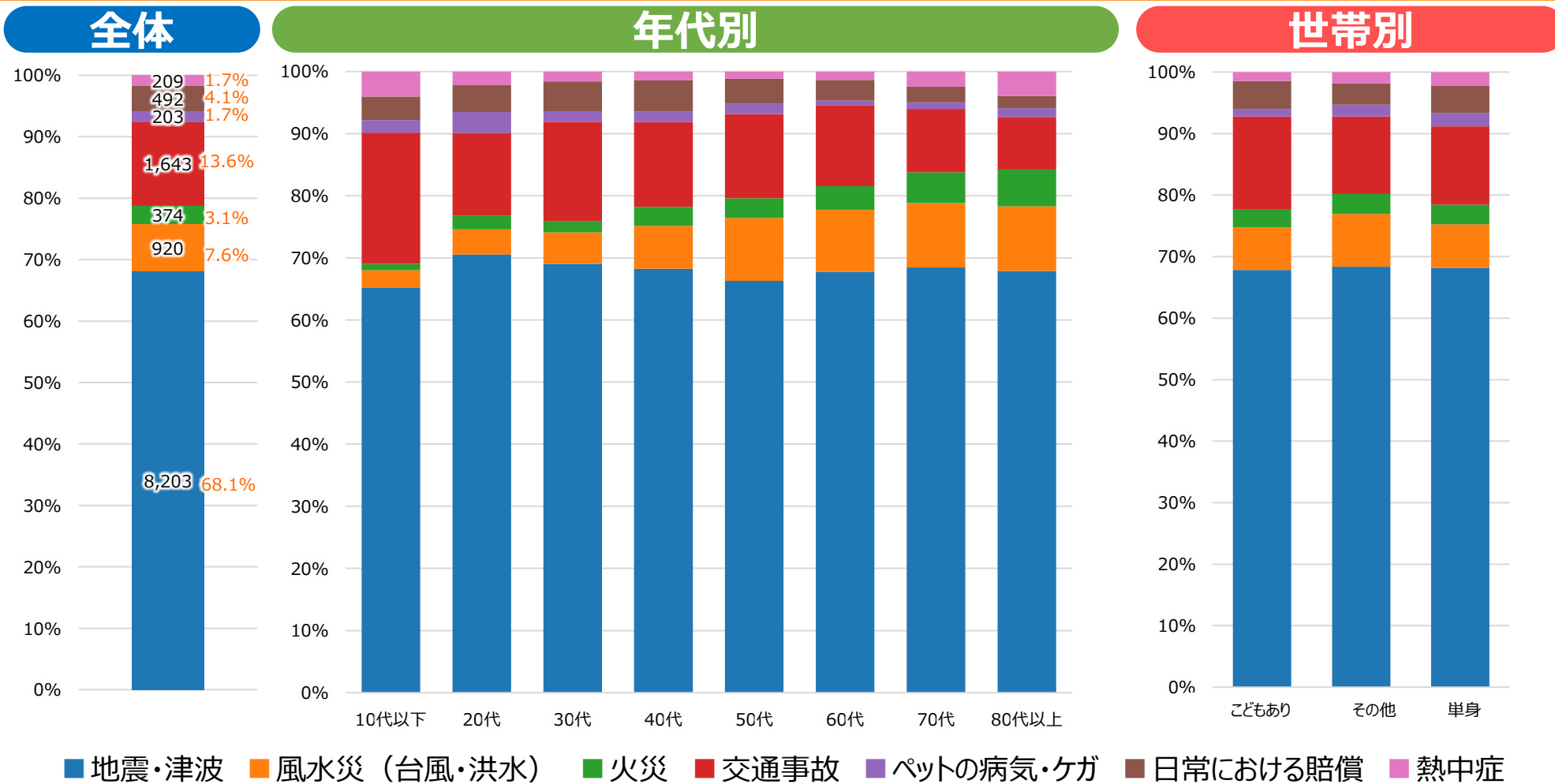
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

宮崎県

単位：名

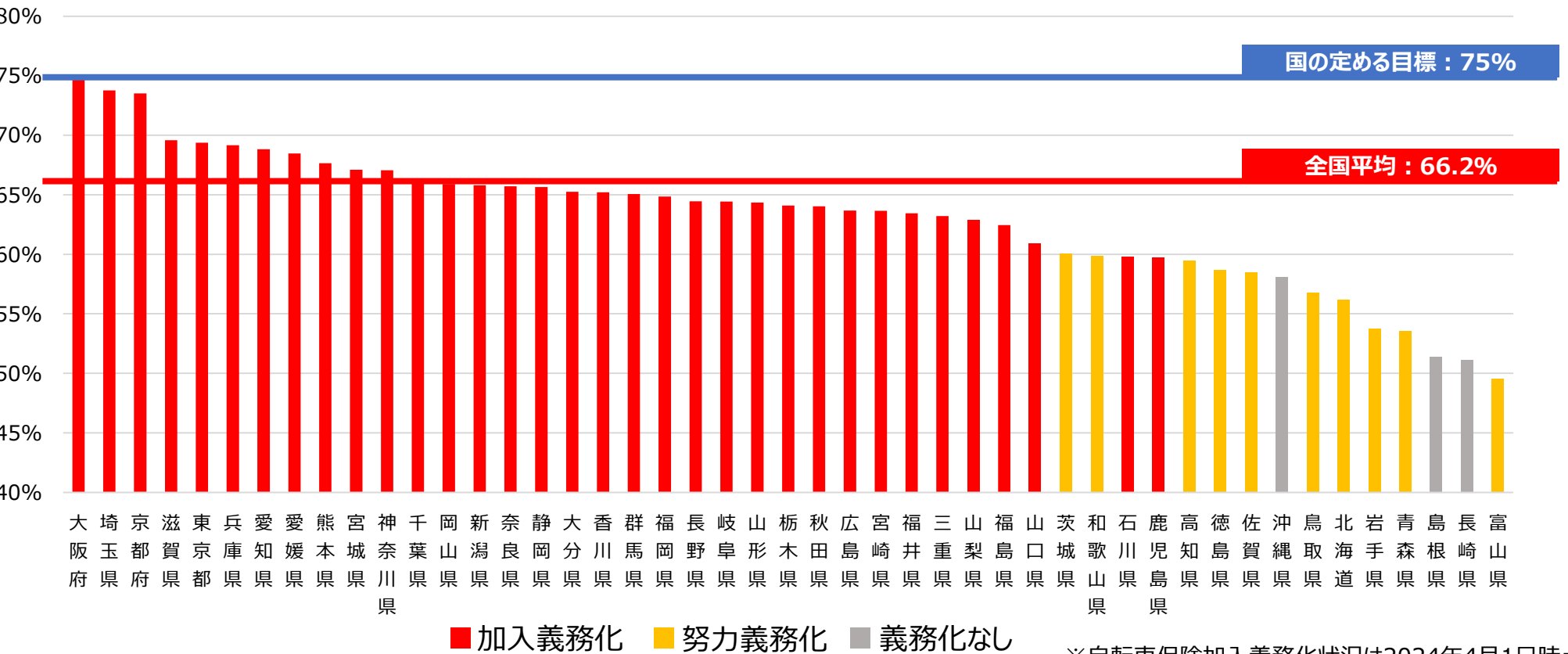
宮崎県



- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



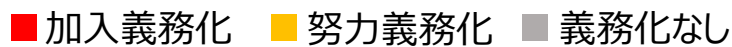
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

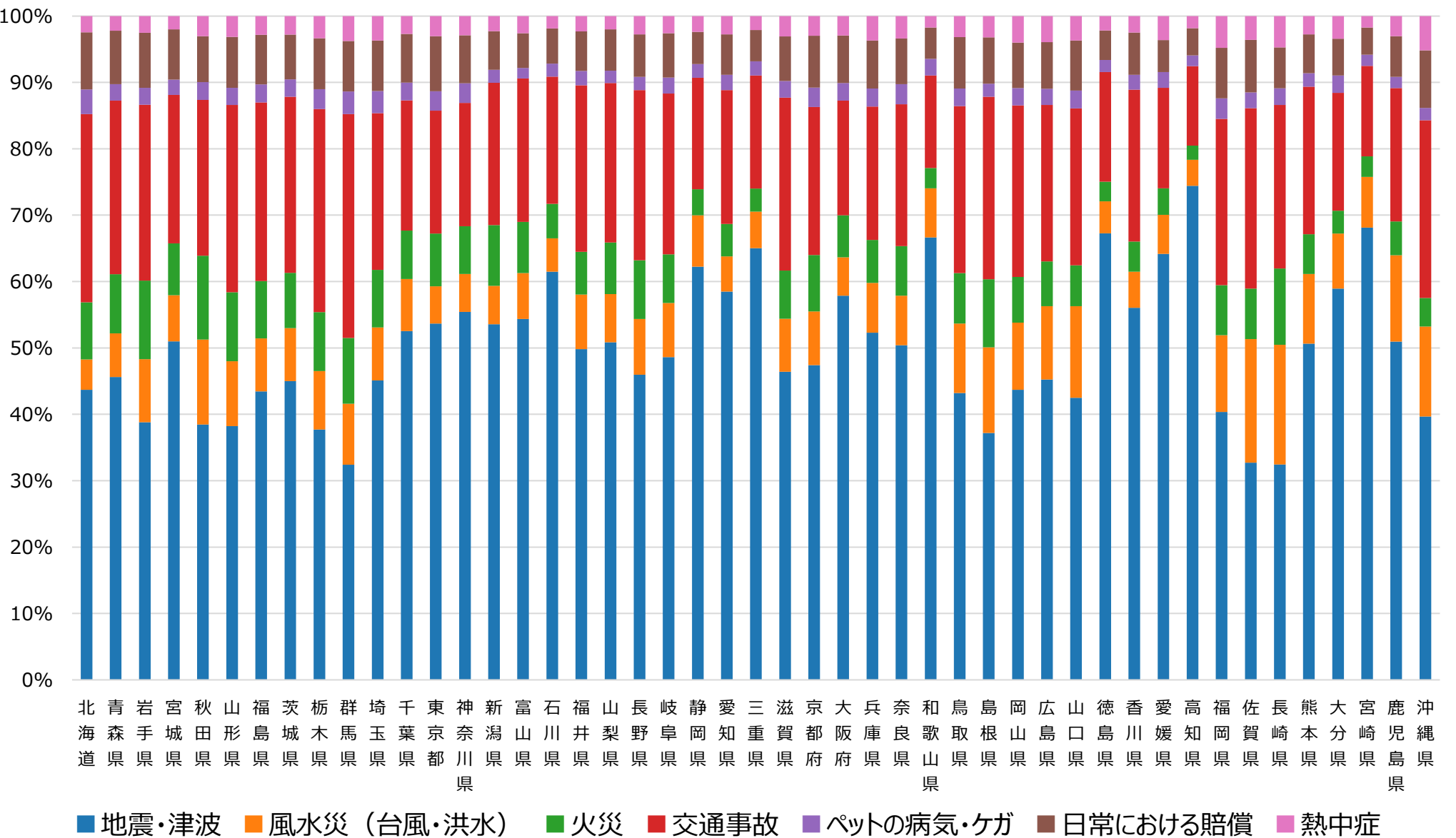
(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

鹿児島県との 連携協定締結状況

締結日	2020/02/07
①	健康増進・疾病予防に関すること
②	高齢者支援に関すること
③	女性の活躍推進に関すること
④	観光・県産品振興に関すること
⑤	燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会に関すること

他3項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

鹿児島県

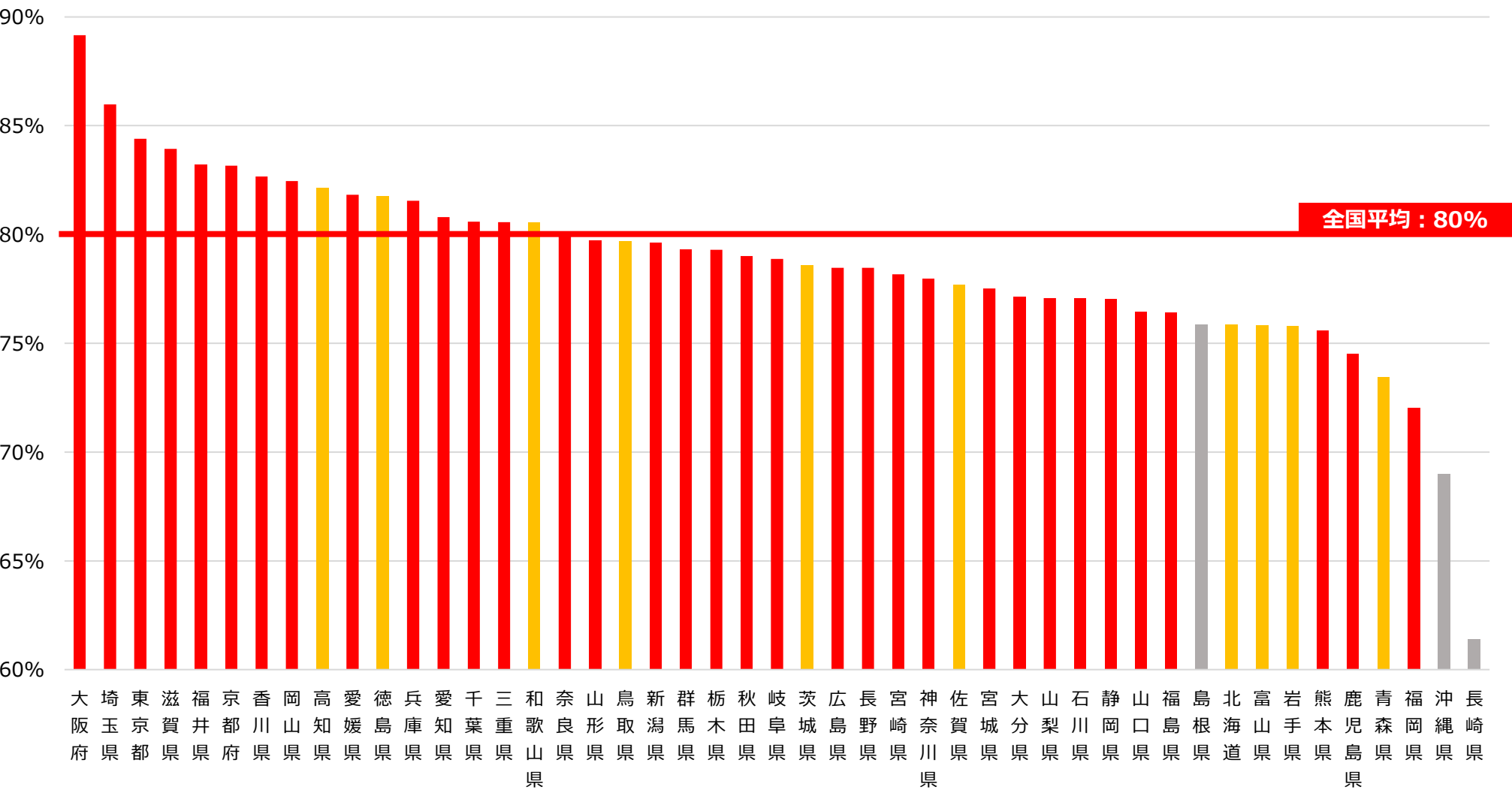
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	346	2.2%	180	2.7%	166	1.9%
20代	1,745	11.2%	892	13.2%	853	9.6%
30代	2,559	16.4%	1,155	17.1%	1,404	15.8%
40代	2,833	18.1%	1,163	17.2%	1,670	18.8%
50代	3,029	19.4%	1,252	18.5%	1,777	20.0%
60代	2,949	18.8%	1,158	17.1%	1,791	20.2%
70代	1,723	11.0%	764	11.3%	959	10.8%
80代～	462	3.0%	204	3.0%	258	2.9%
合計	15,646	100.0%	6,768	100.0%	8,878	100.0%
2024年度	2,705	100.0%	1,124	100.0%	1,581	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	298	86.1%	160	88.9%	138	83.1%
20代	1,296	74.3%	696	78.0%	600	70.3%
30代	1,951	76.2%	905	78.4%	1,046	74.5%
40代	2,298	81.1%	955	82.1%	1,343	80.4%
50代	2,302	76.0%	981	78.4%	1,321	74.3%
60代	2,146	72.8%	845	73.0%	1,301	72.6%
70代	1,111	64.5%	505	66.1%	606	63.2%
80代～	257	55.6%	114	55.9%	143	55.4%
合計	11,659	74.5%	5,161	76.3%	6,498	73.2%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化 ■ 努力義務化 ■ 義務化なし

※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

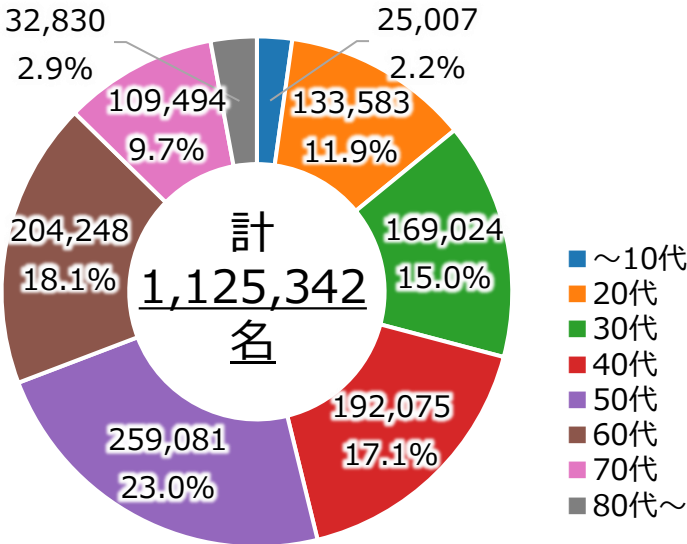
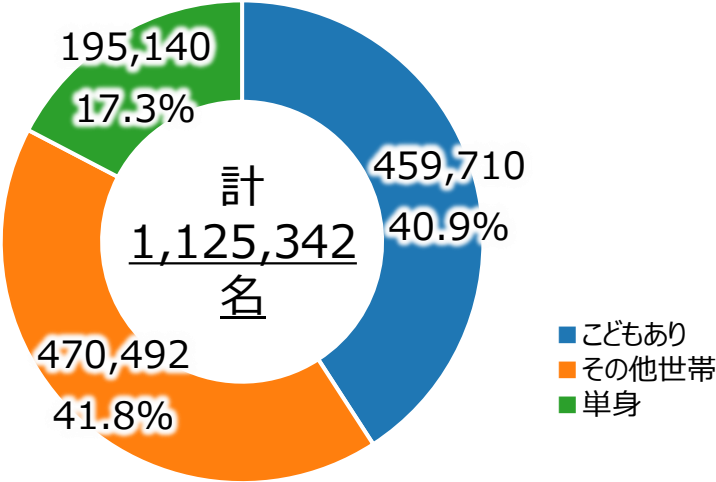
回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

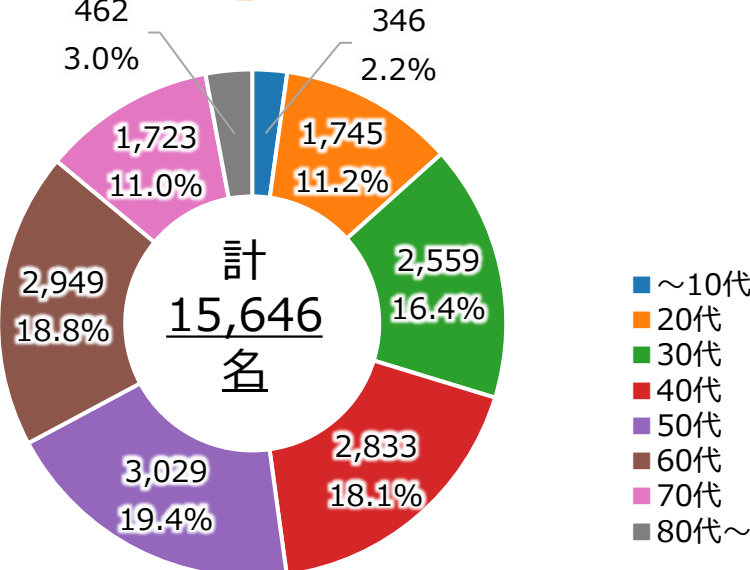
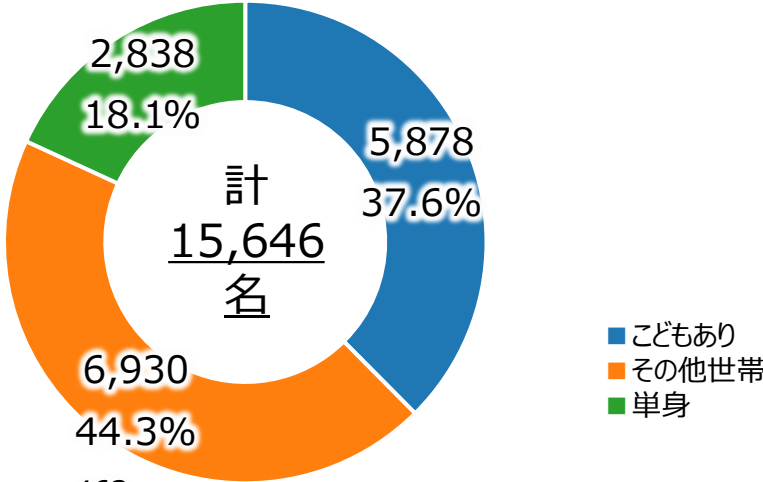
世帯構成別

年代別

全国



鹿児島県



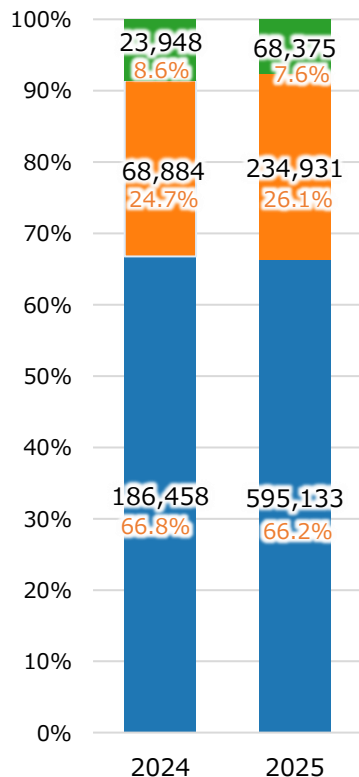
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

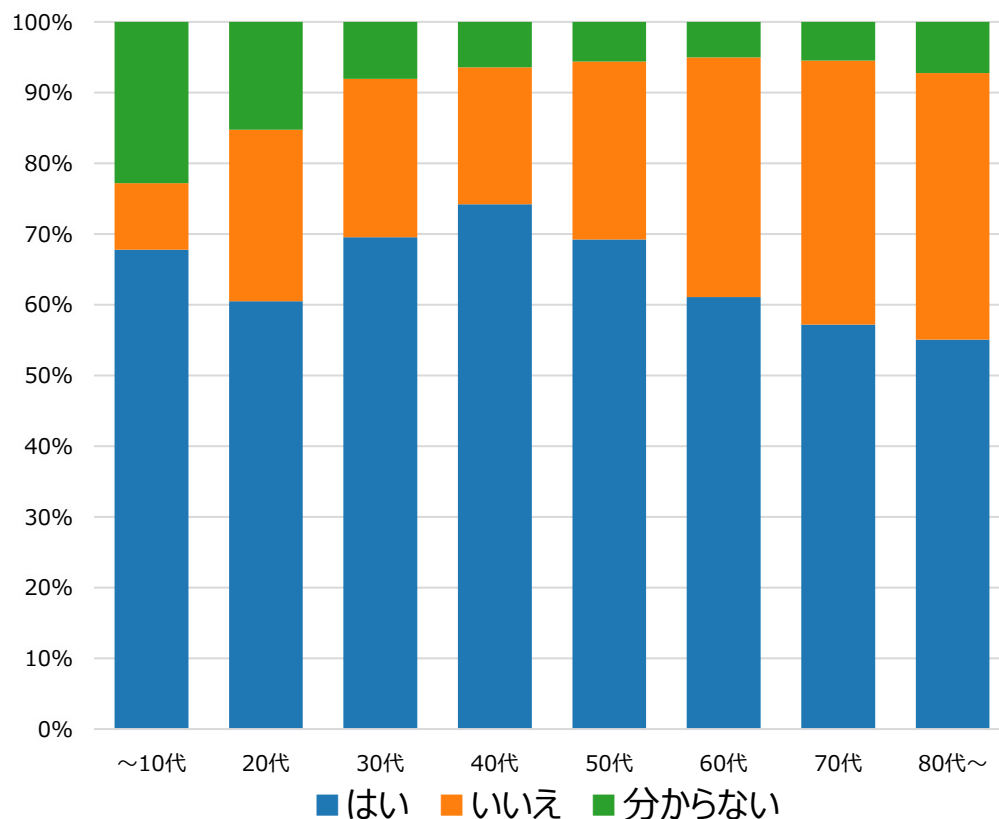
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

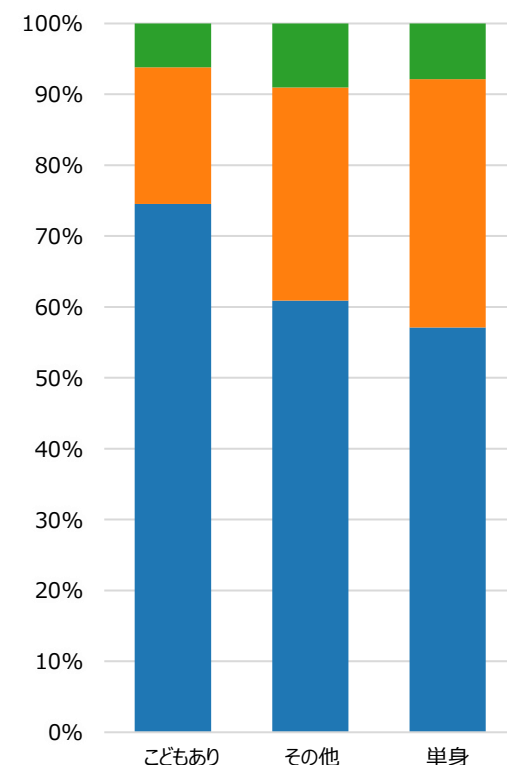
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

鹿児島県

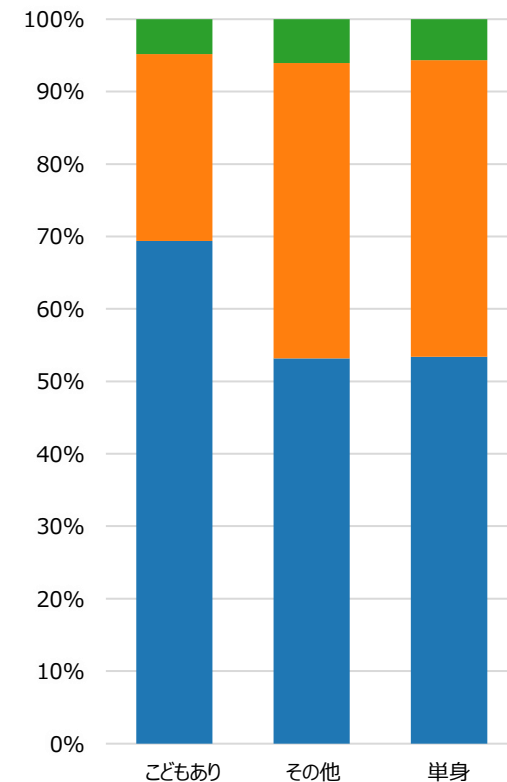
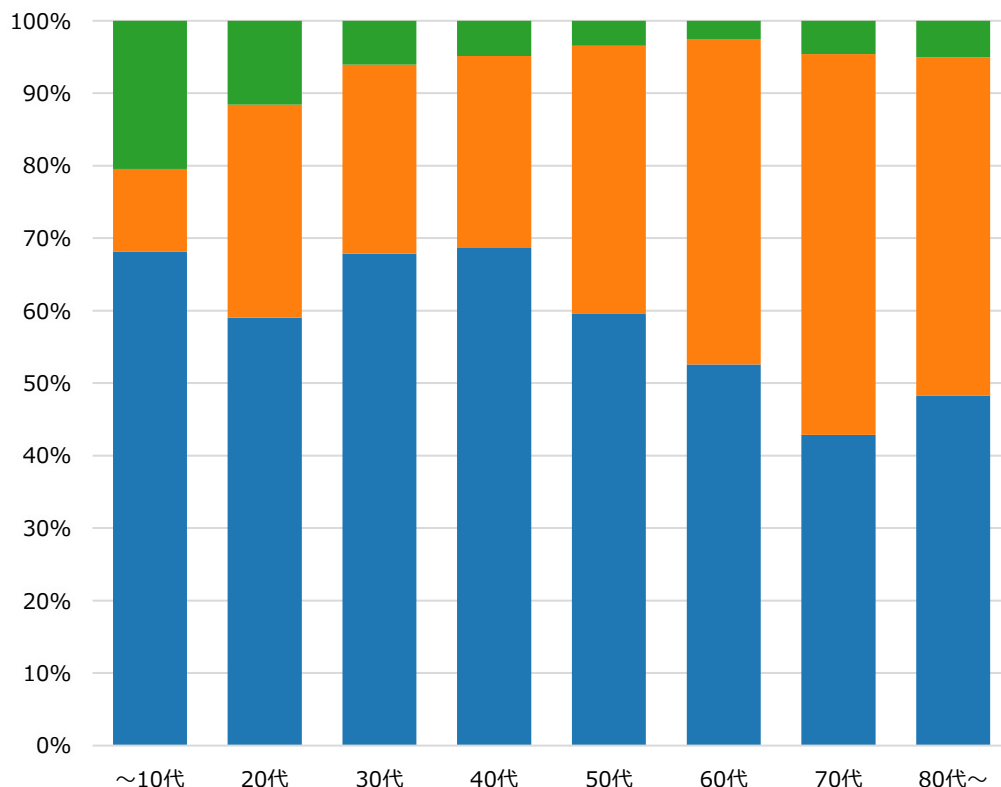
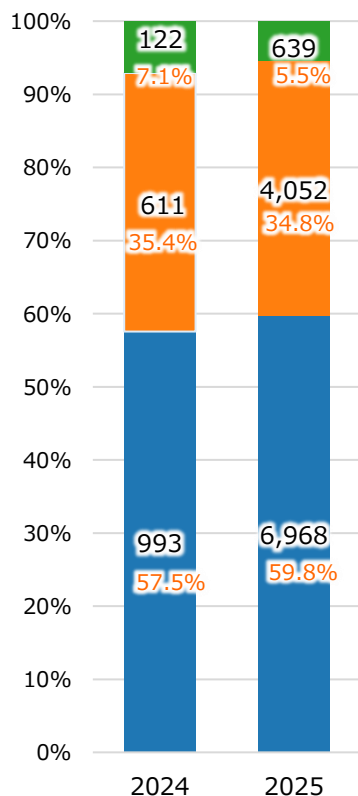
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年増加（+2Pt）全国と比較すると低位（▲6Pt）
- 年代別でみると、特に40代以降が全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

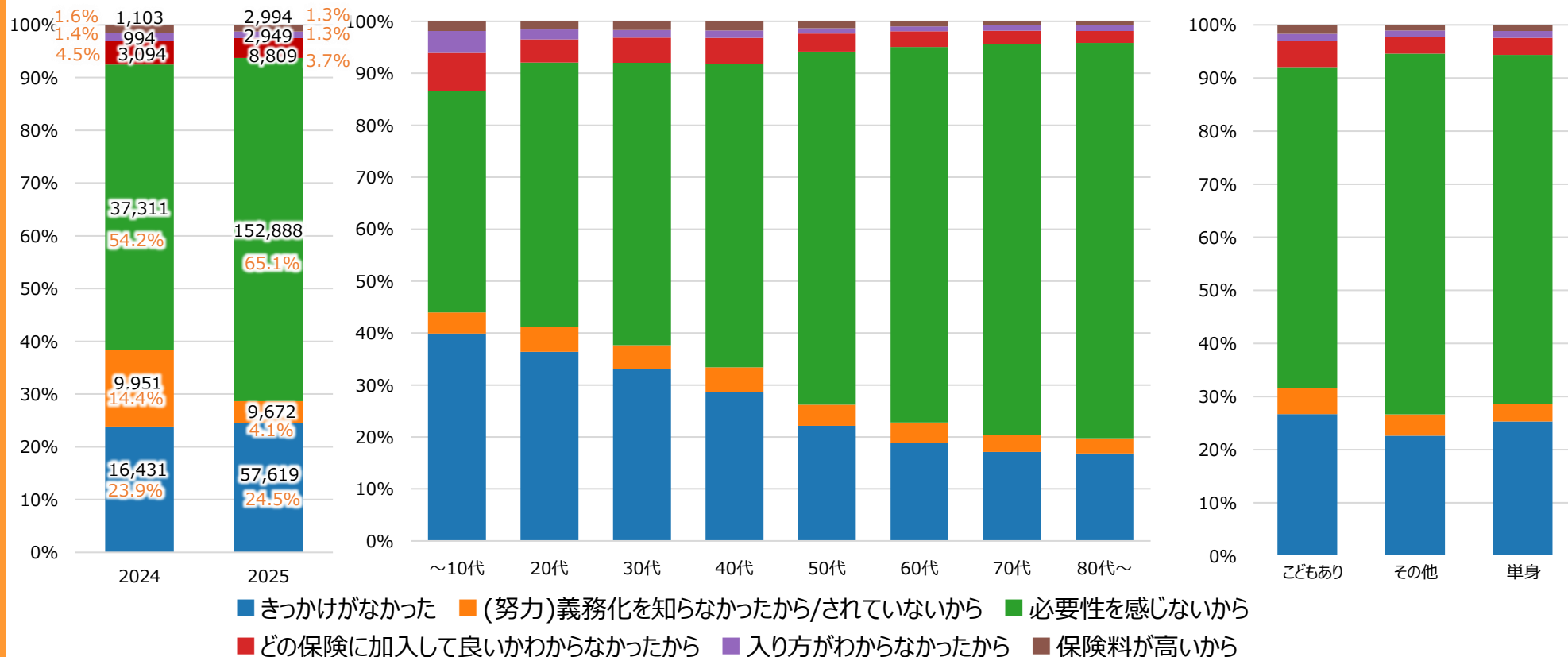
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

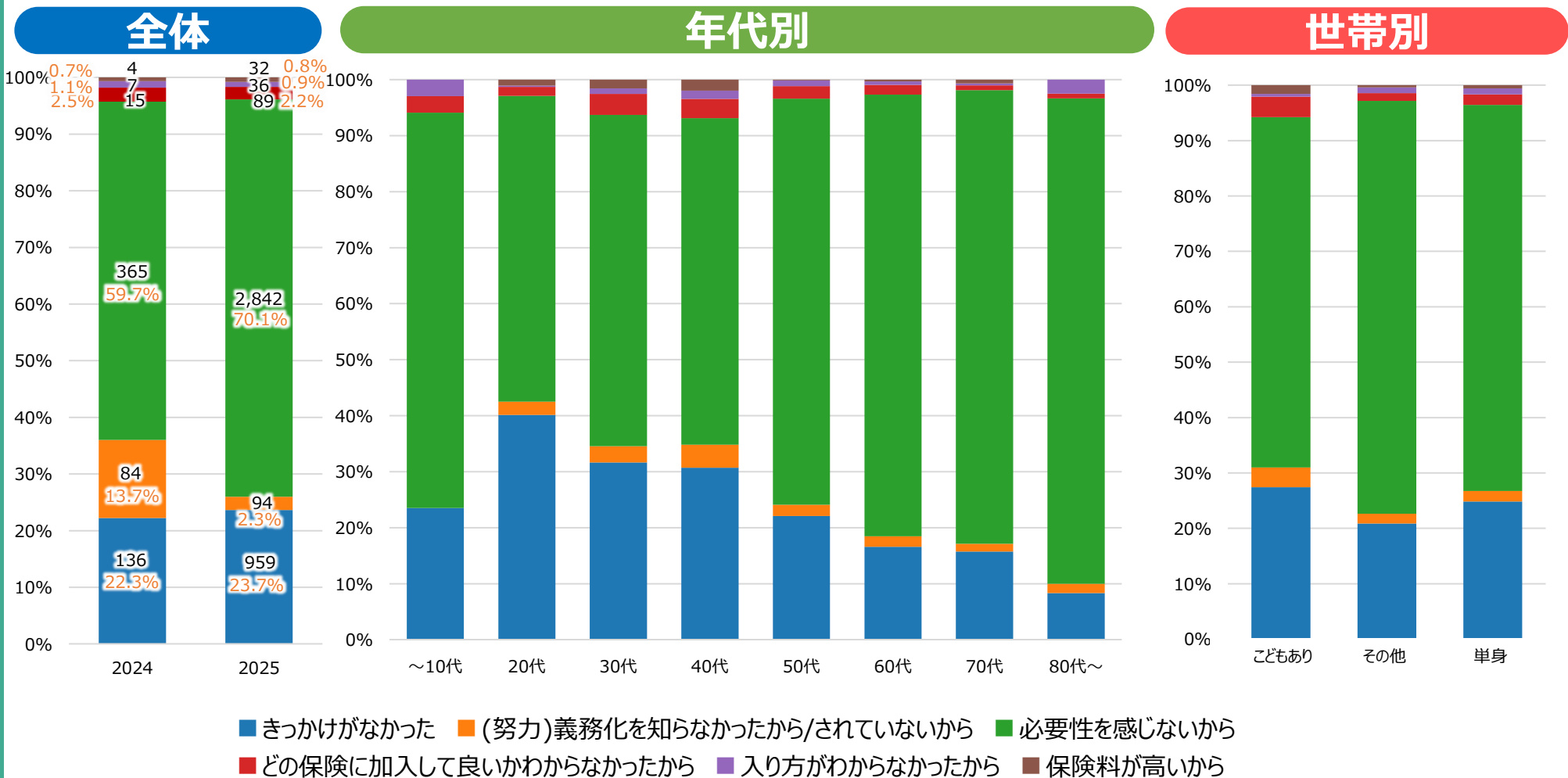
国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

鹿児島県

単位：名



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少（▲11Pt）

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

鹿児島県

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:11,659名のうち、643名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 132 名	② 100 名
	加入	69 名	342 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	21.1%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	2.6%
加入方法がわからなかったから	3.9%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	7.9%
保険料が高いから	1.3%
必要性を感じないから	63.2%

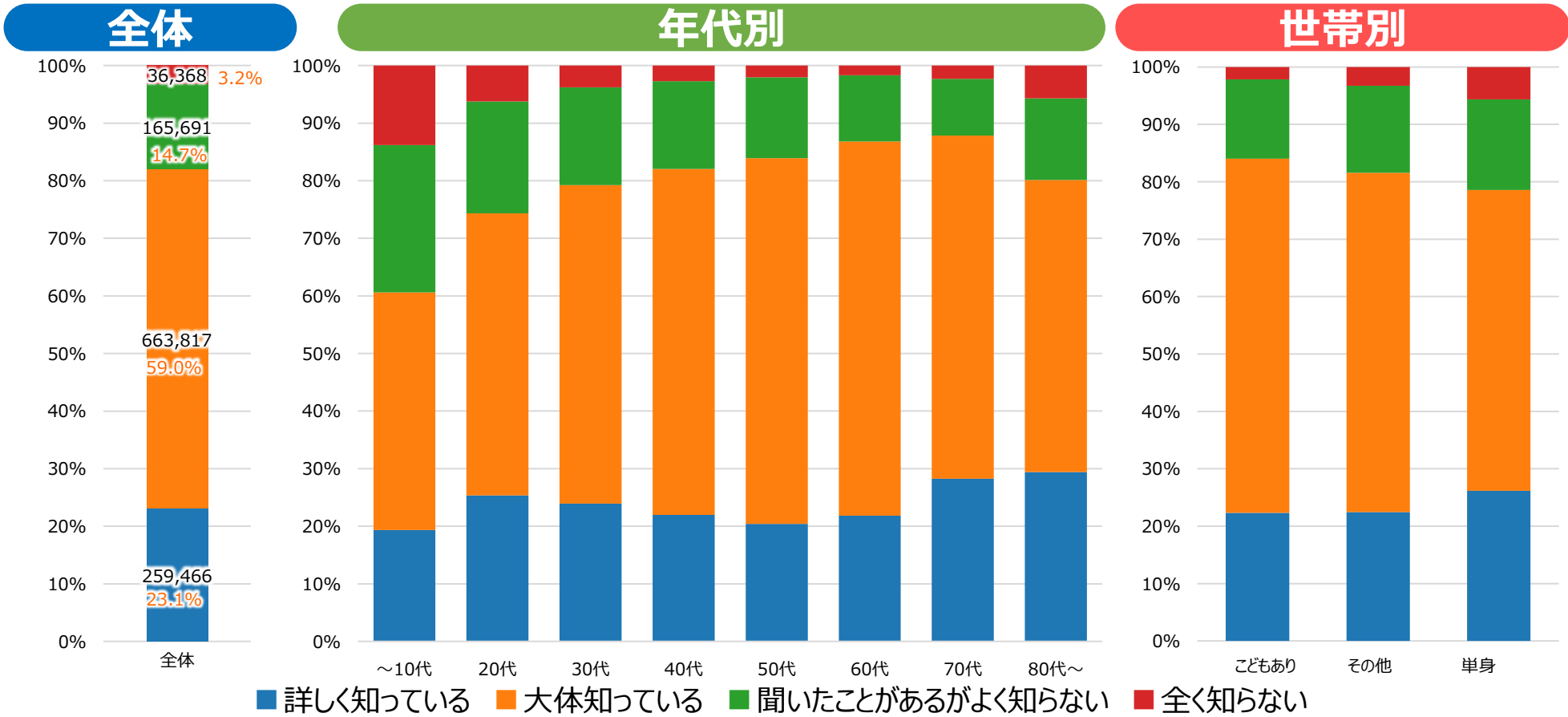
2024年度「自転車保険加入なし」の232名(①+②)のうち、
約2人に1人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約2人に1人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約6割は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

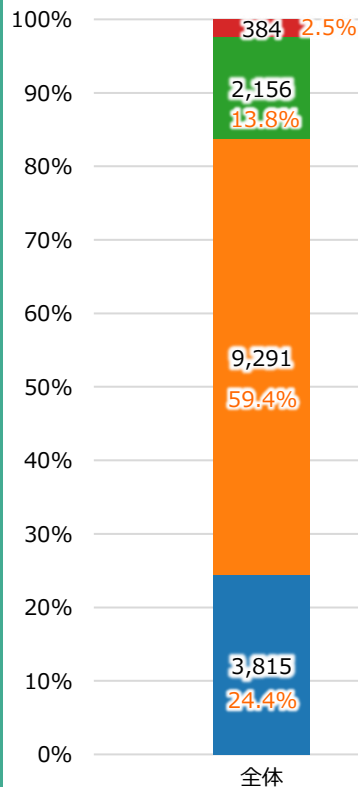
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

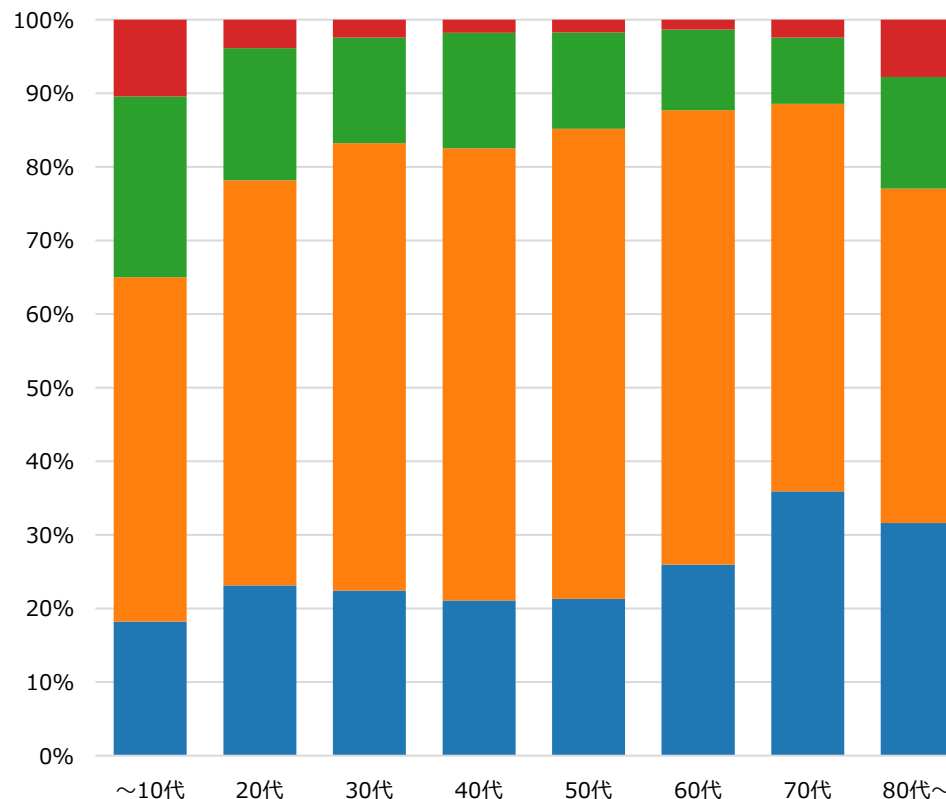
鹿児島県

単位：名

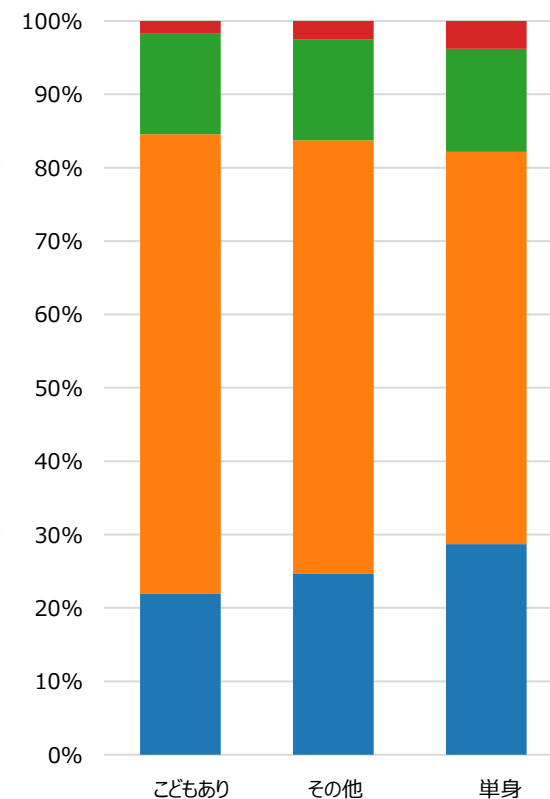
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

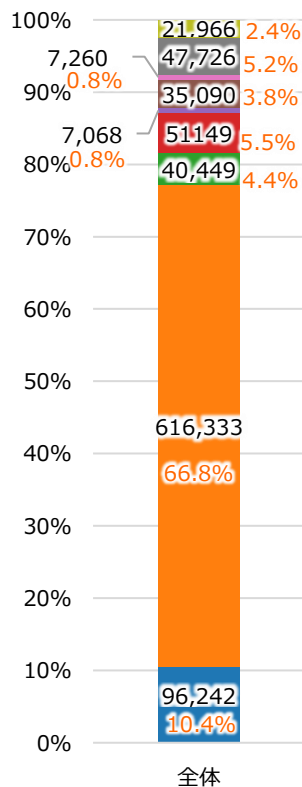
- 全体では認知度が約84%と、全国と比較し認知度が高い傾向

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

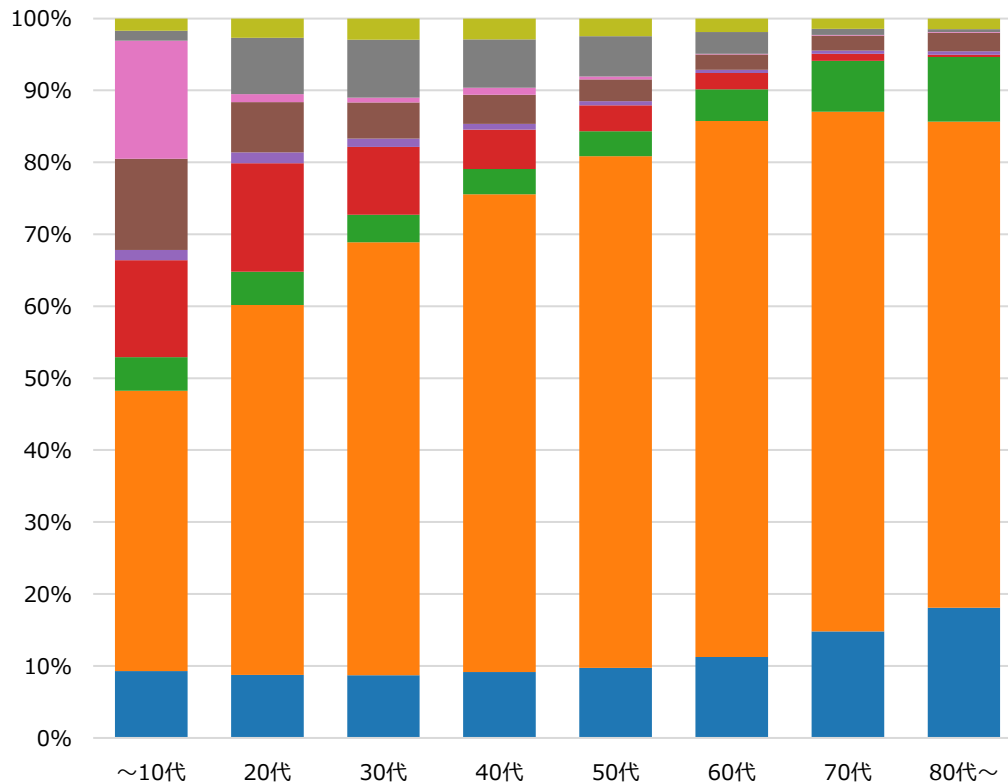
全国

単位：名

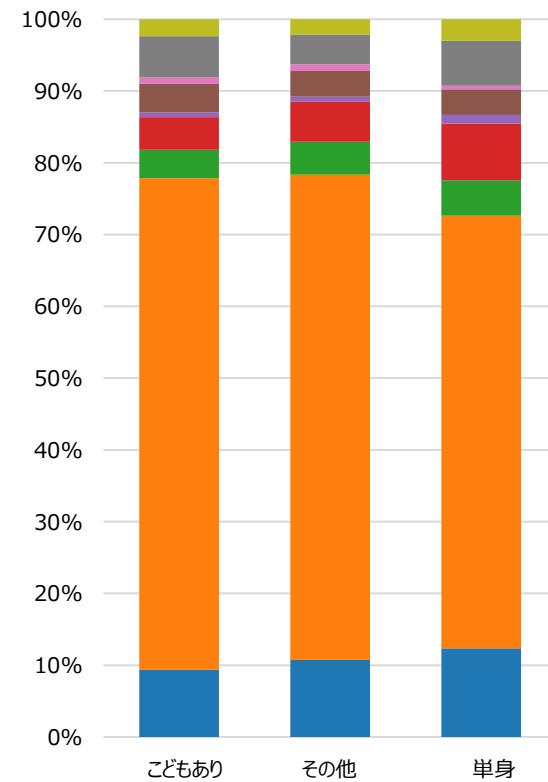
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

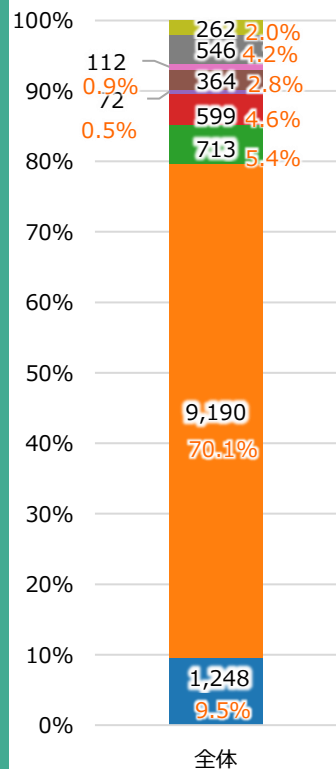
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

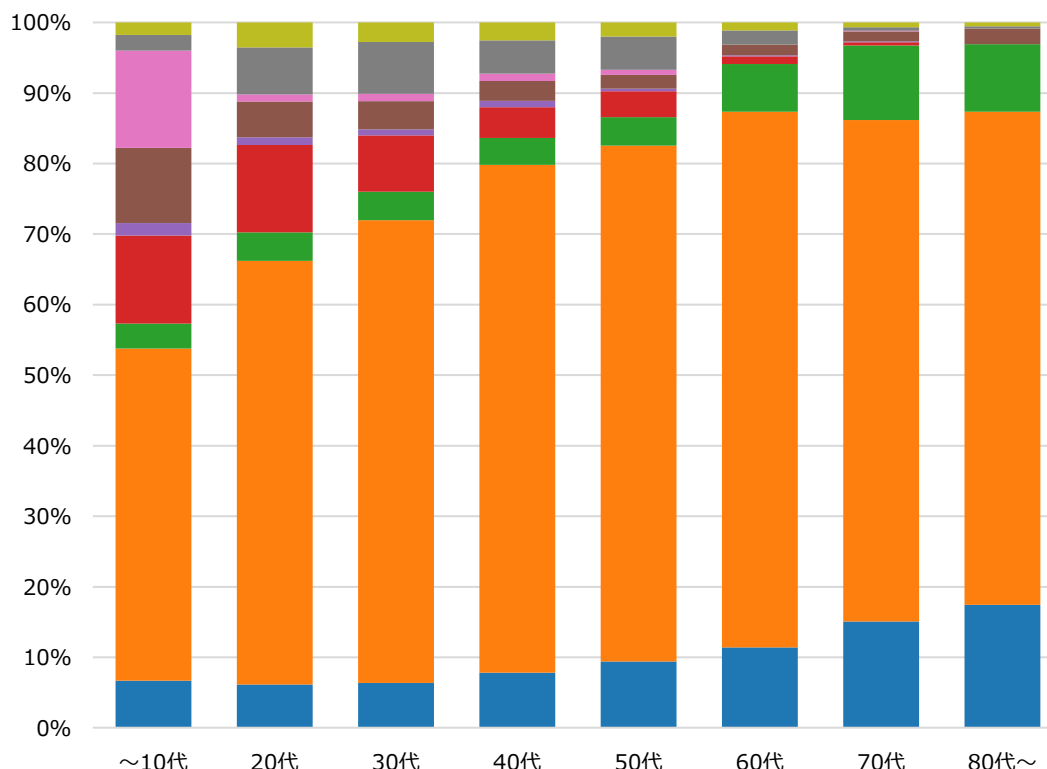
鹿児島県

単位：名

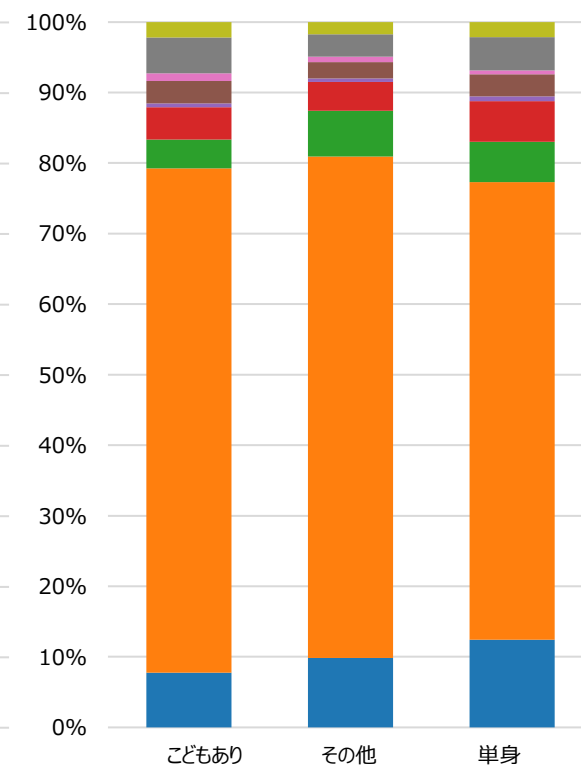
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

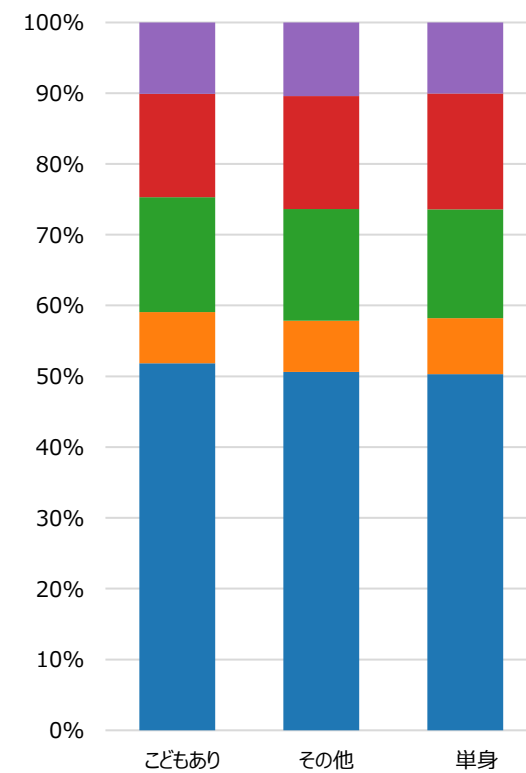
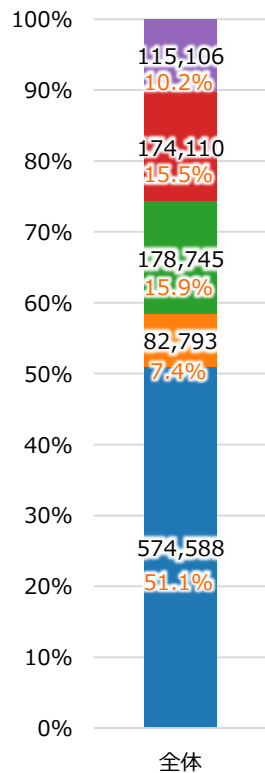
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 事故多発地点等の周知 道路環境の整備 取締り・罰則の強化 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

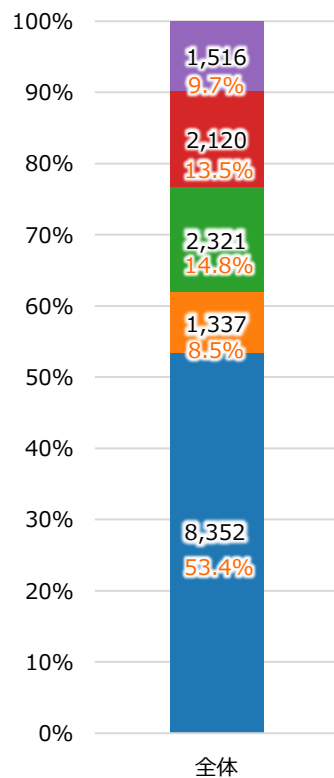
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

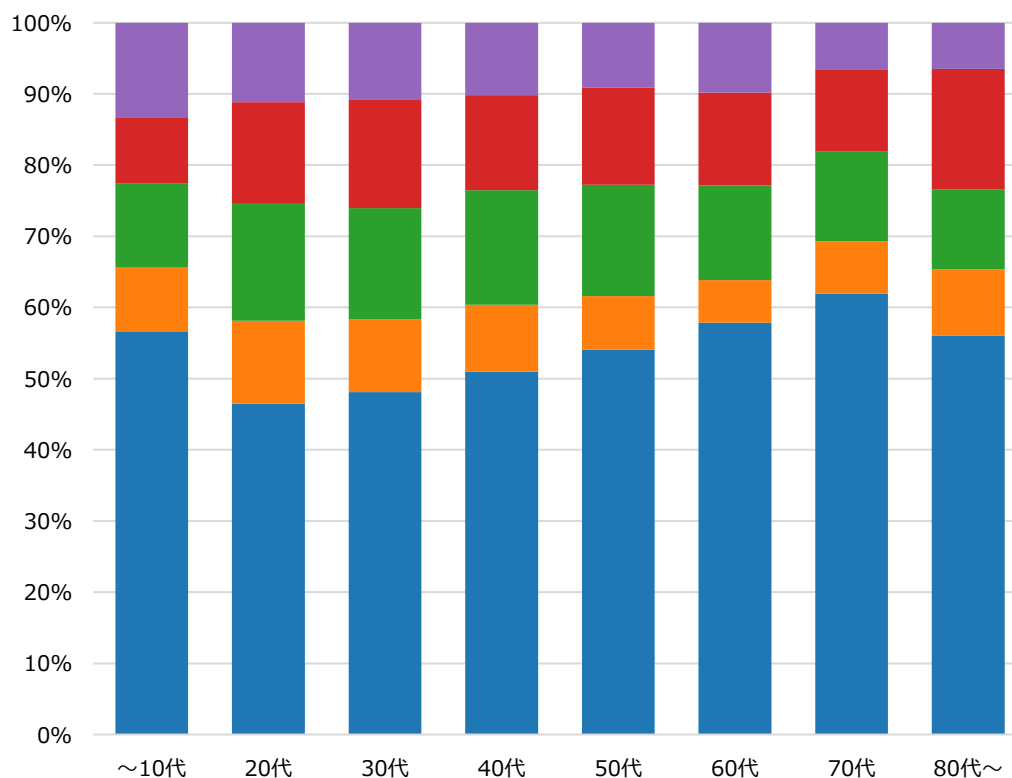
鹿児島県

単位：名

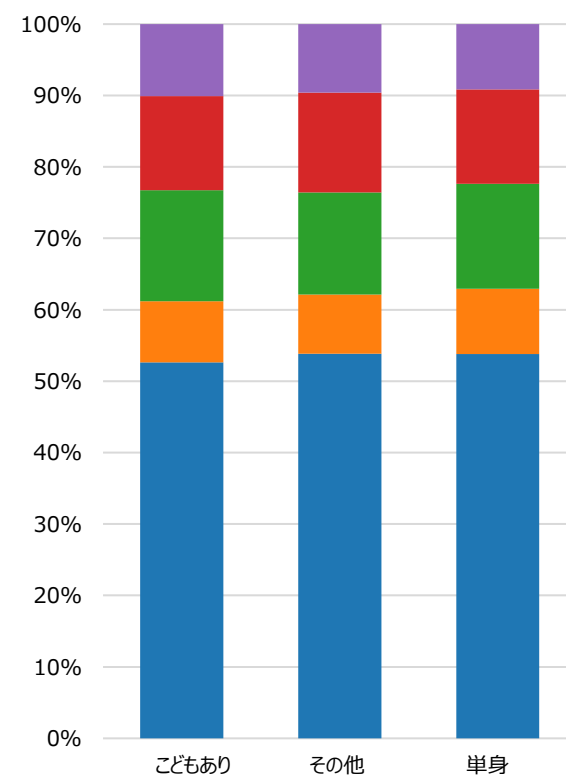
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

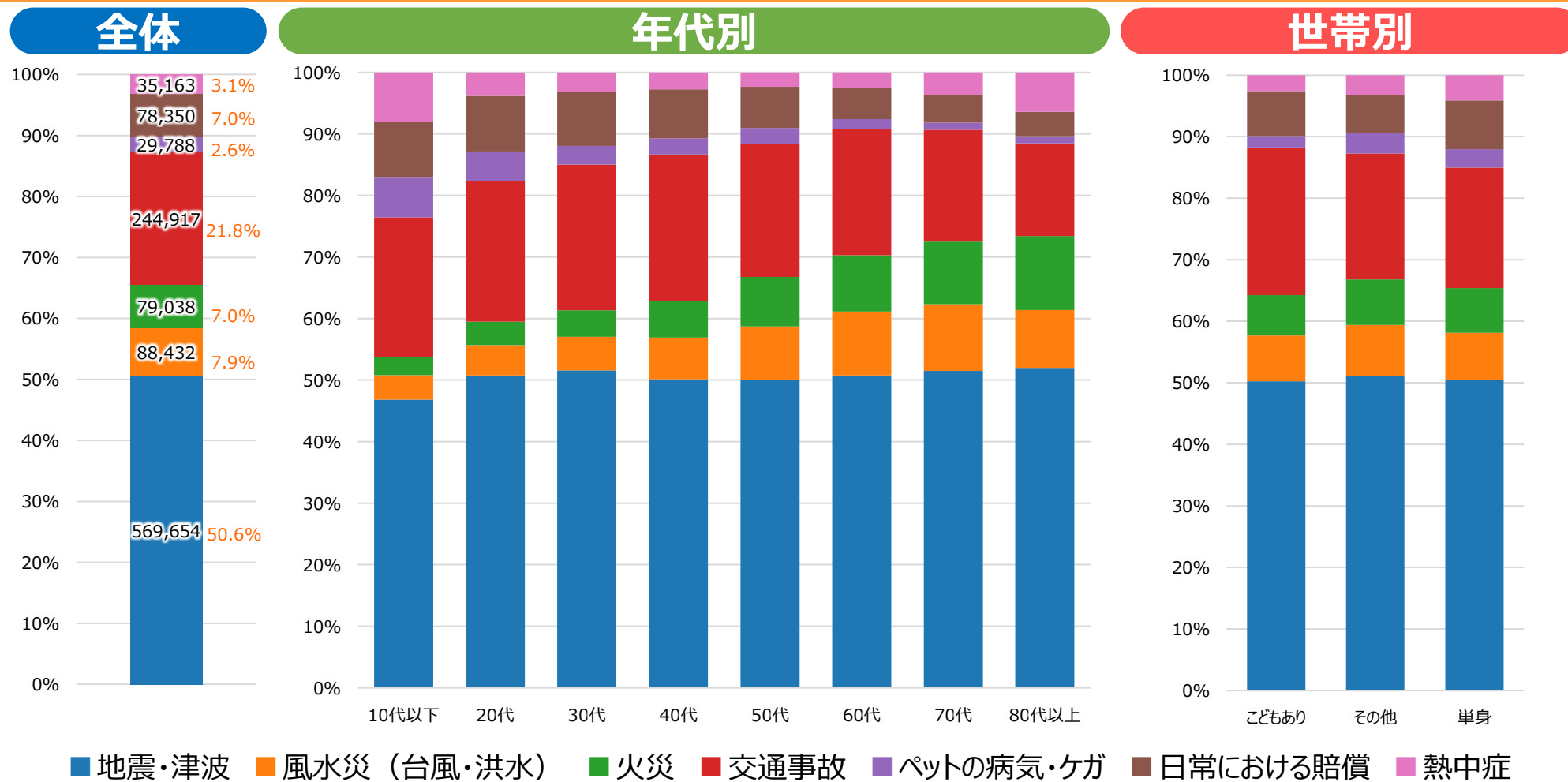
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



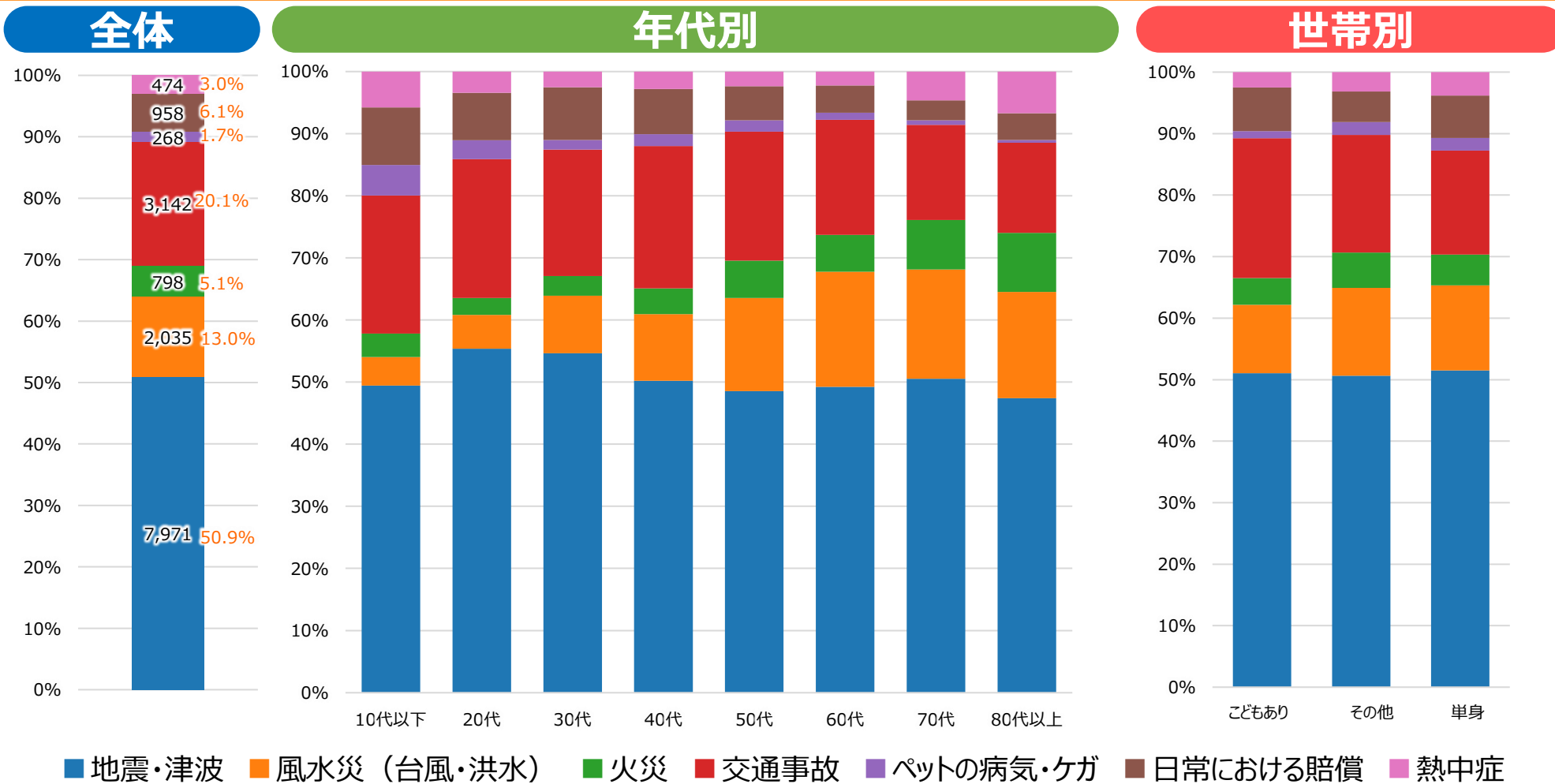
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

鹿児島県

単位：名

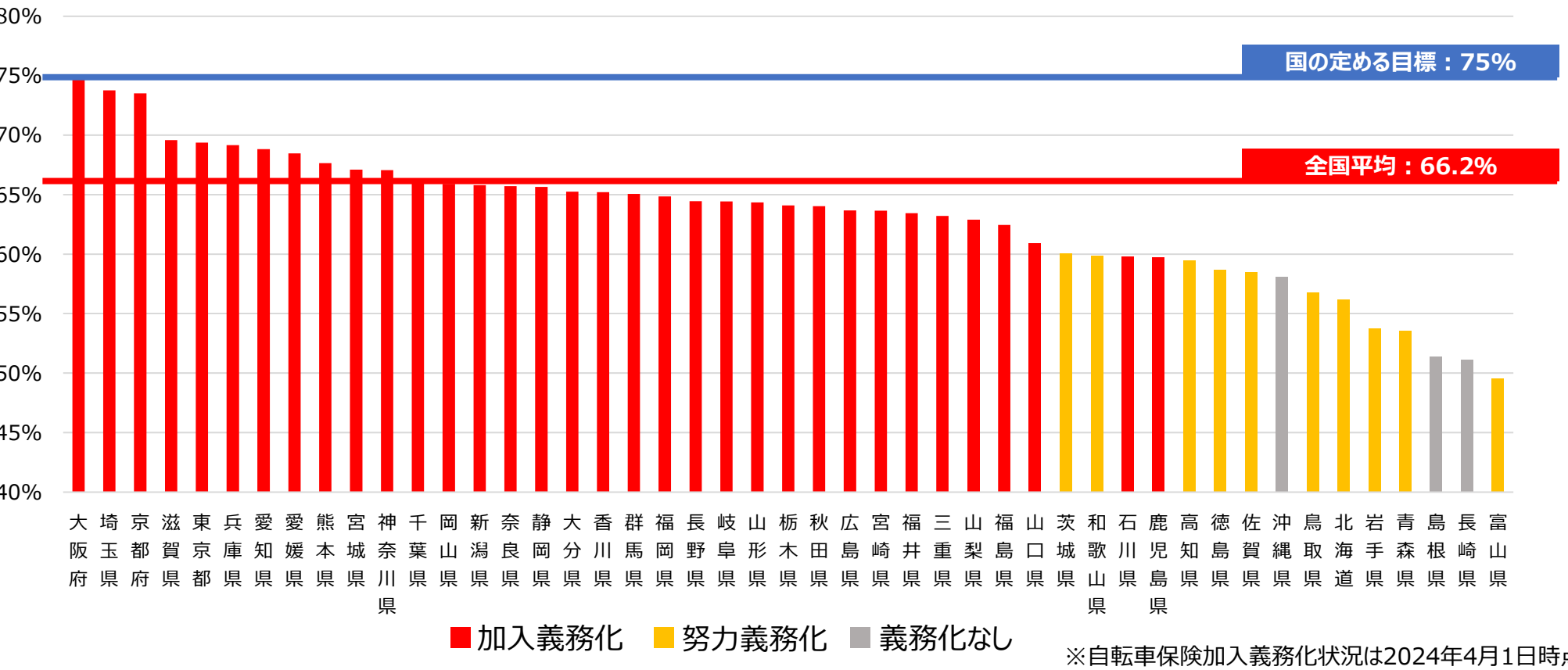
鹿児島県



- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



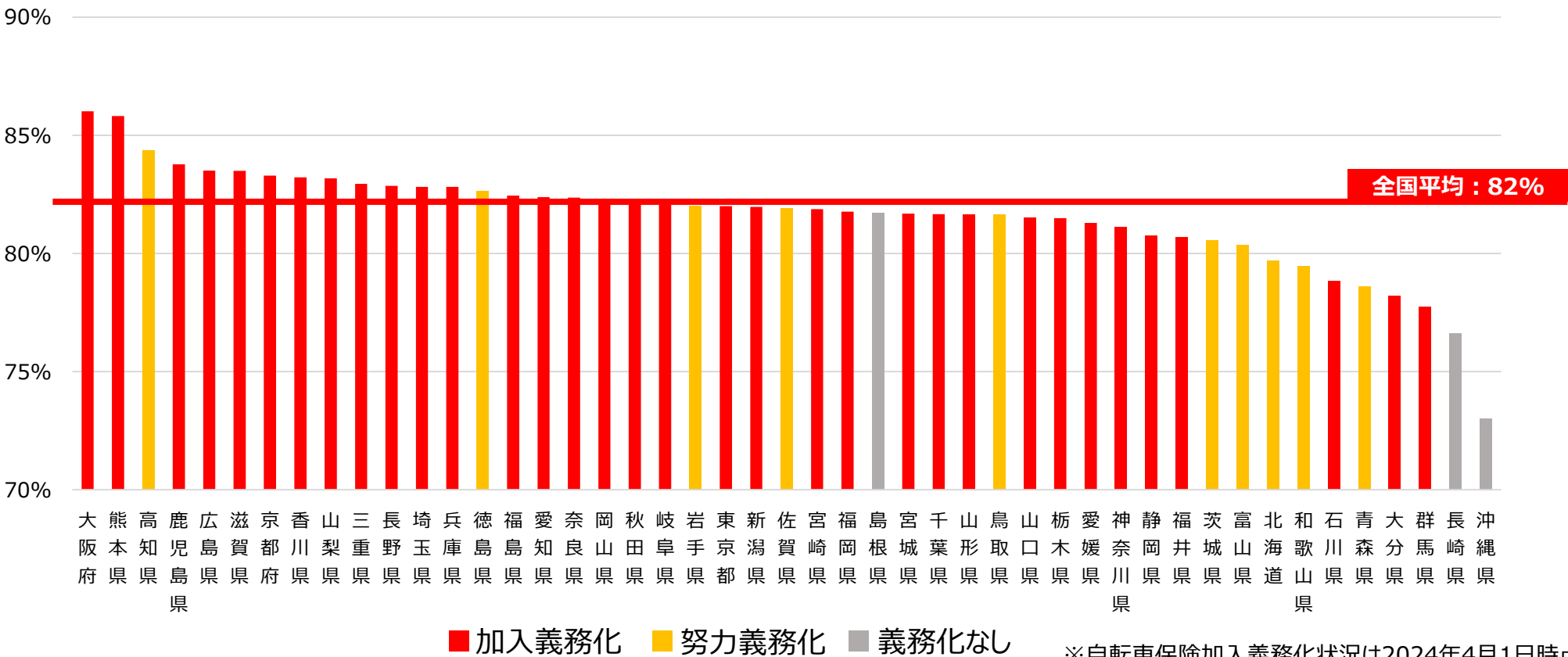
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



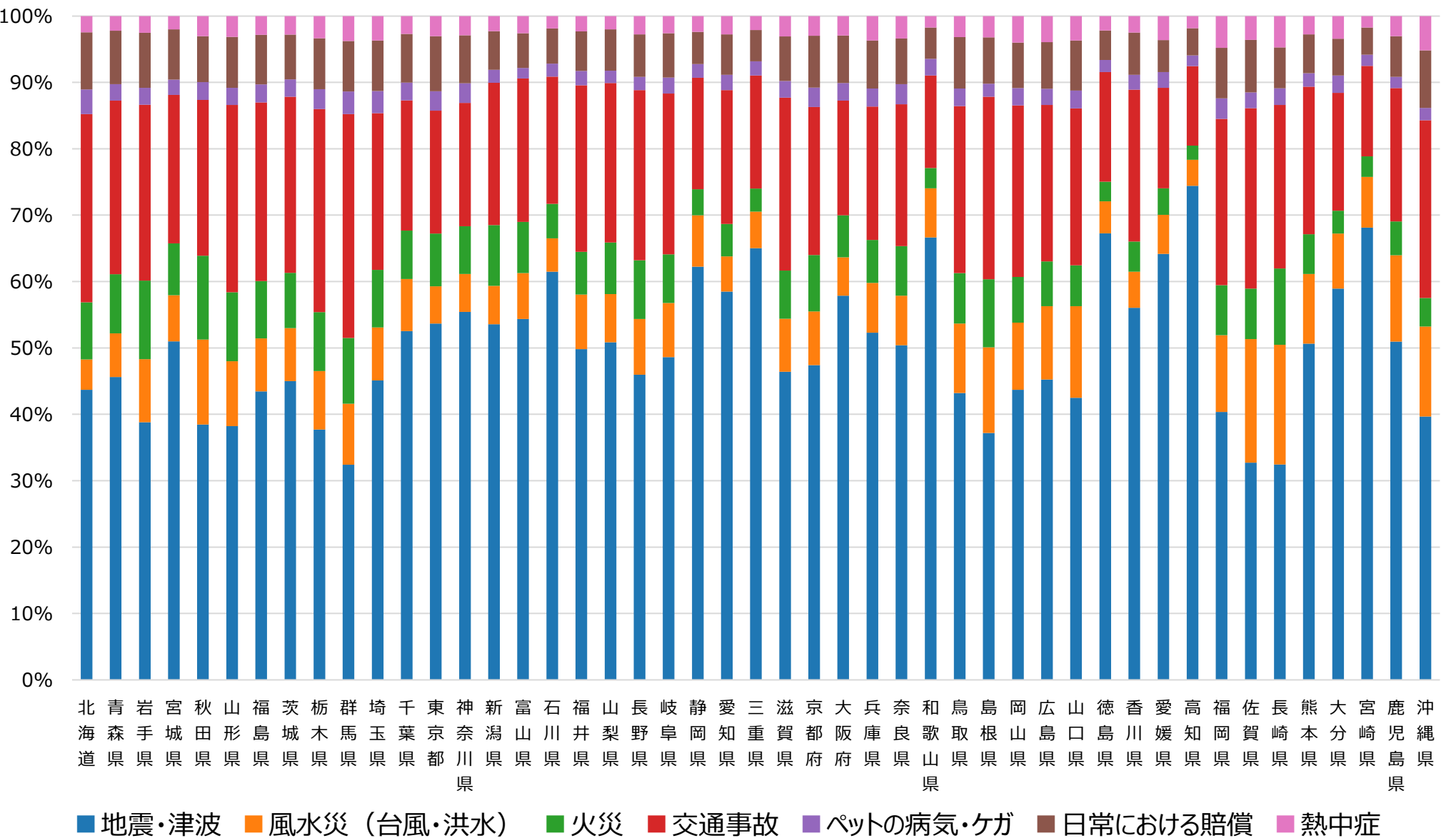
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

沖縄県との 連携協定締結状況	
締結日	2017/03/17
①	健康増進に関すること
②	がん対策に関すること
③	高齢者支援に関すること
④	子ども・若者の育成支援、子育て支援に関すること
⑤	産業振興に関すること

他1項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

沖縄県

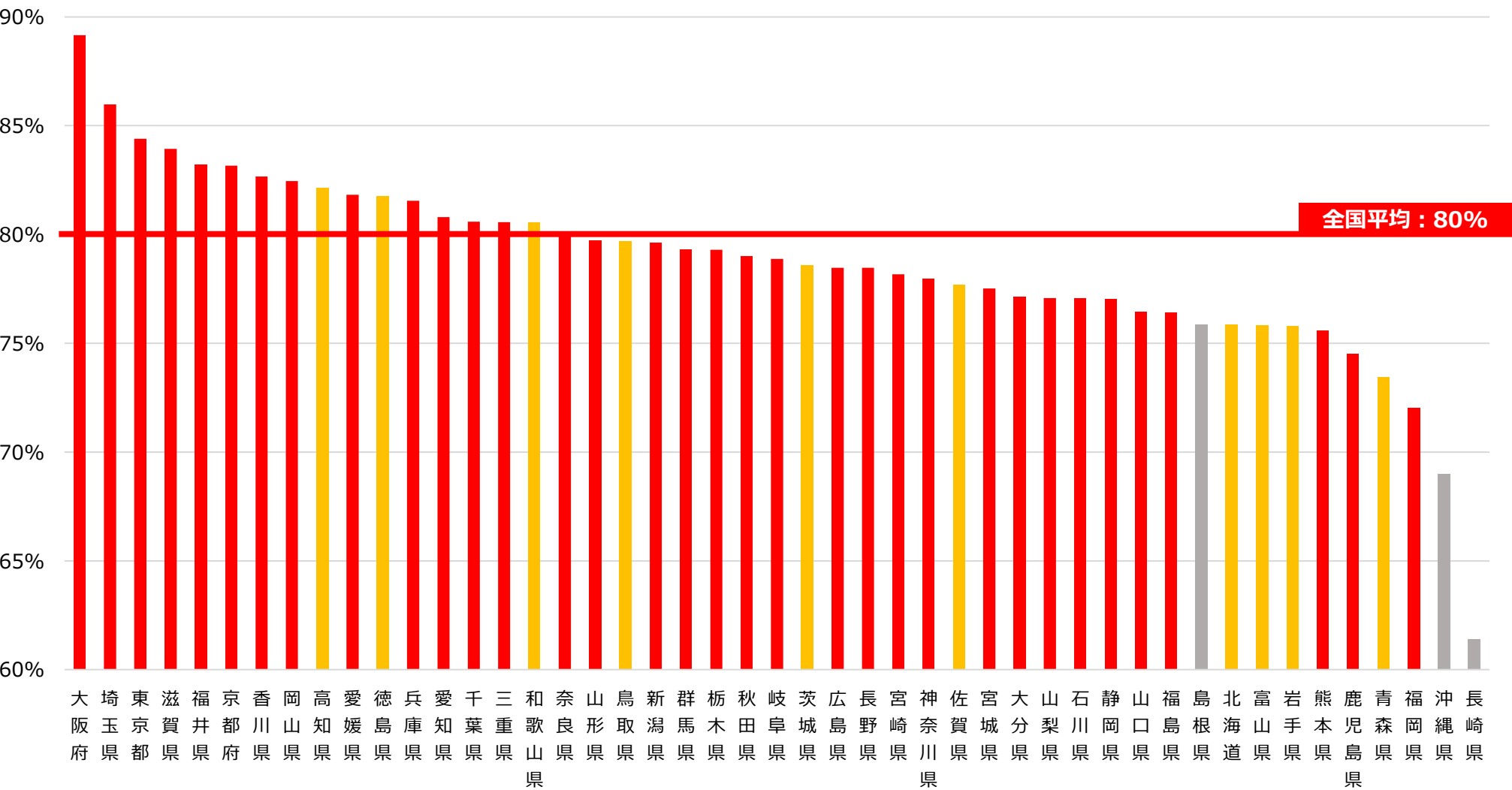
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	384	3.3%	188	3.9%	196	2.8%
20代	1,794	15.4%	792	16.5%	1,002	14.6%
30代	2,229	19.1%	944	19.7%	1,285	18.7%
40代	2,517	21.6%	1,001	20.9%	1,516	22.0%
50代	2,385	20.4%	940	19.6%	1,445	21.0%
60代	1,541	13.2%	608	12.7%	933	13.6%
70代	673	5.8%	256	5.3%	417	6.1%
80代～	150	1.3%	60	1.3%	90	1.3%
合計	11,673	100.0%	4,789	100.0%	6,884	100.0%
2024年度	2,003	100.0%	704	100.0%	1,299	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	268	69.8%	142	75.5%	126	64.3%
20代	1,184	66.0%	556	70.2%	628	62.7%
30代	1,573	70.6%	659	69.8%	914	71.1%
40代	1,875	74.5%	741	74.0%	1,134	74.8%
50代	1,683	70.6%	663	70.5%	1,020	70.6%
60代	990	64.2%	377	62.0%	613	65.7%
70代	406	60.3%	157	61.3%	249	59.7%
80代～	73	48.7%	30	50.0%	43	47.8%
合計	8,052	69.0%	3,325	69.4%	4,727	68.7%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化 ■ 努力義務化 ■ 義務化なし

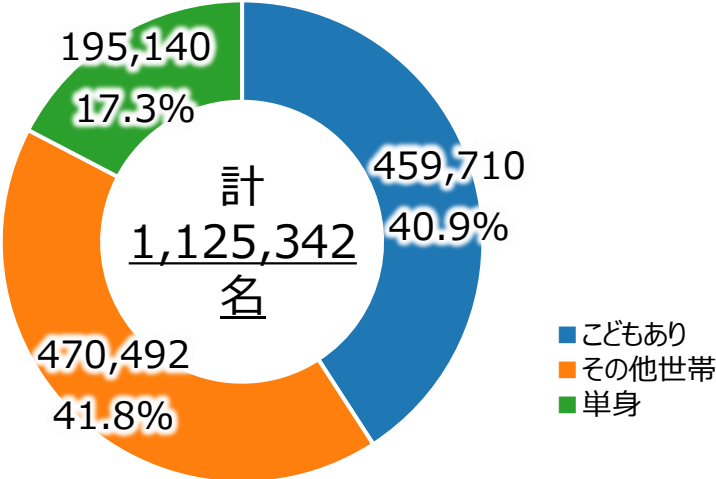
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

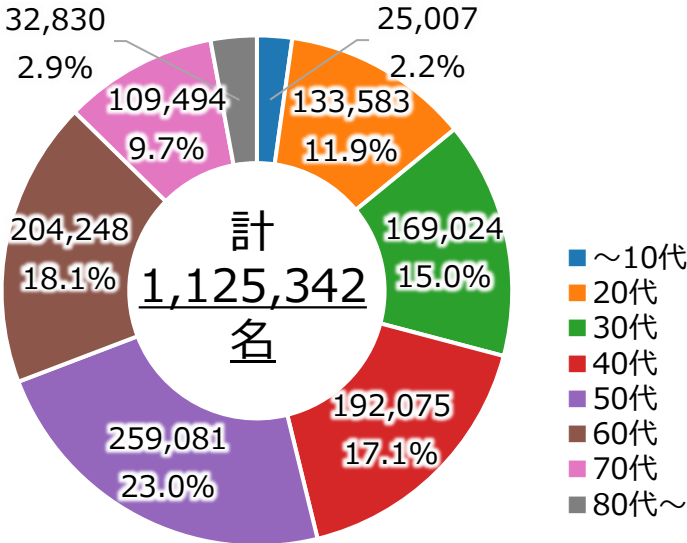
(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国

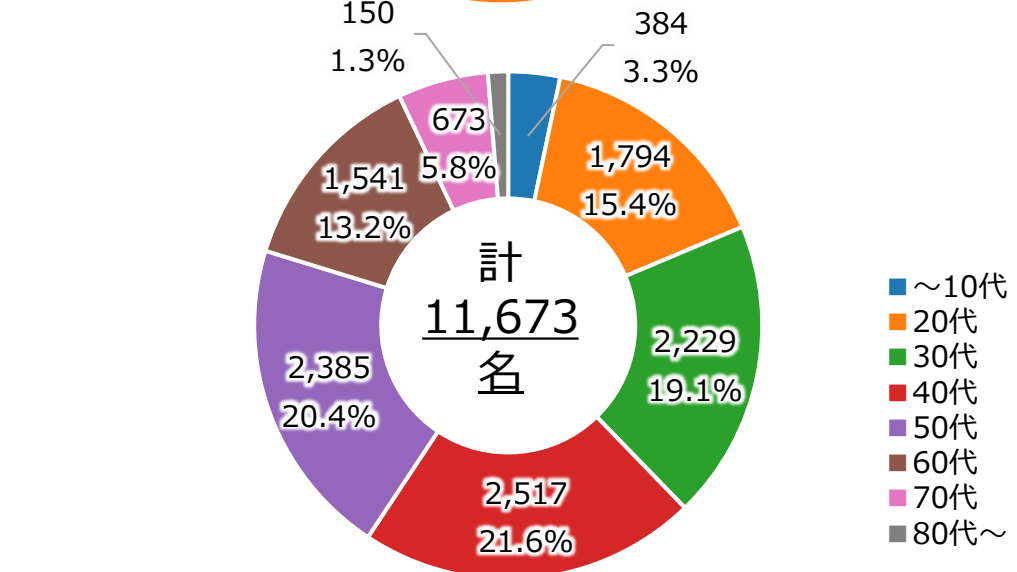
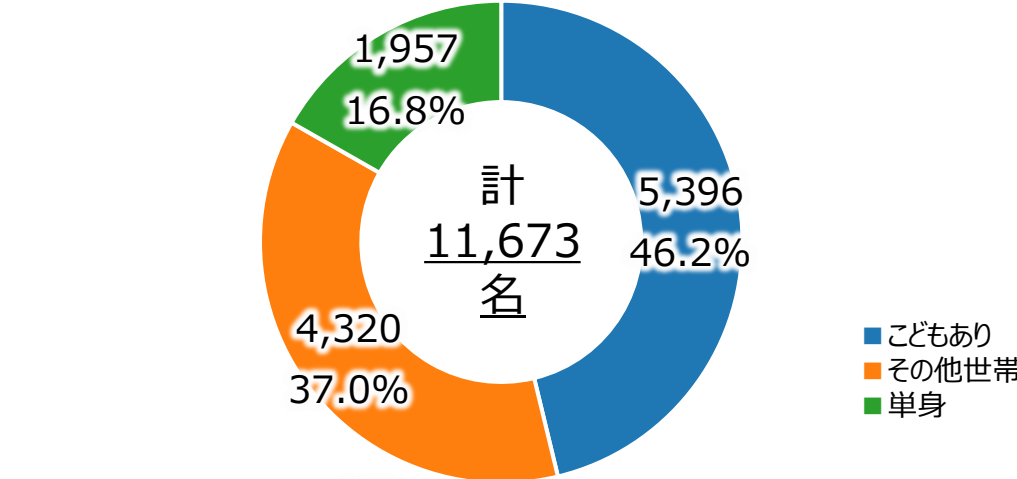
世帯構成別



年代別



沖縄県



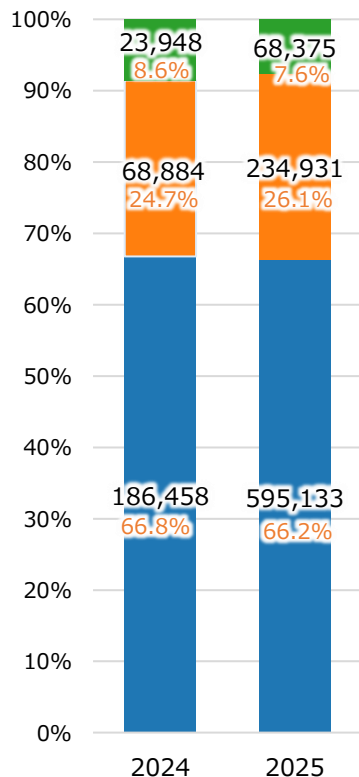
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

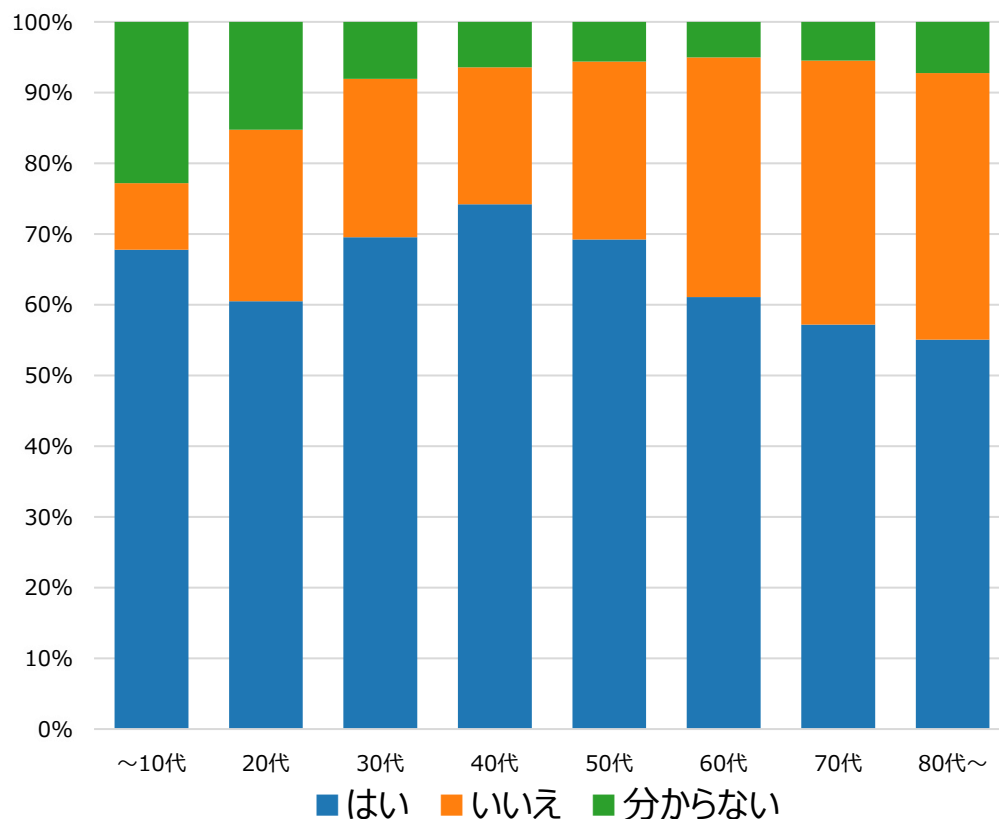
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

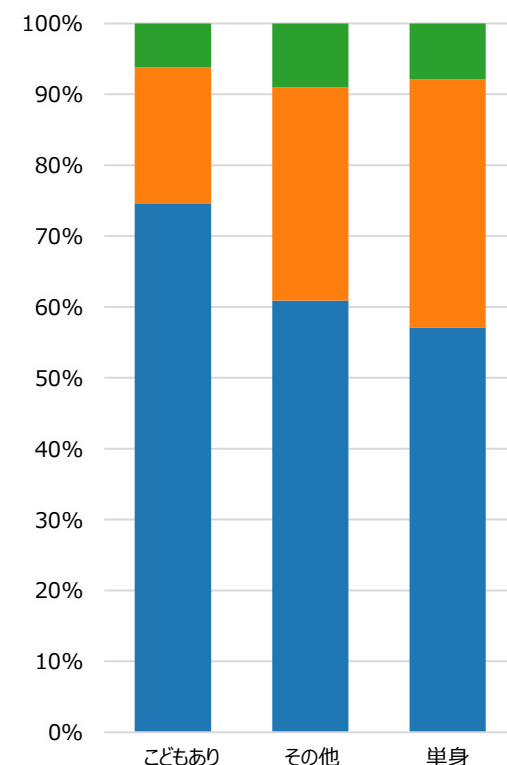
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

沖縄県

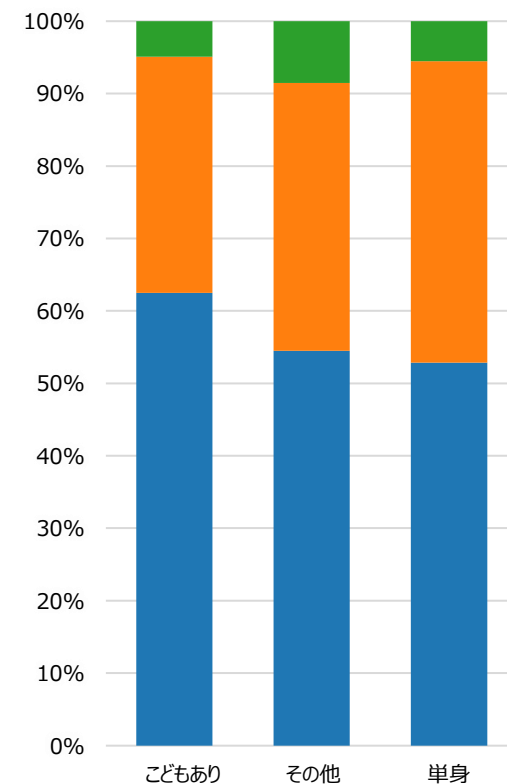
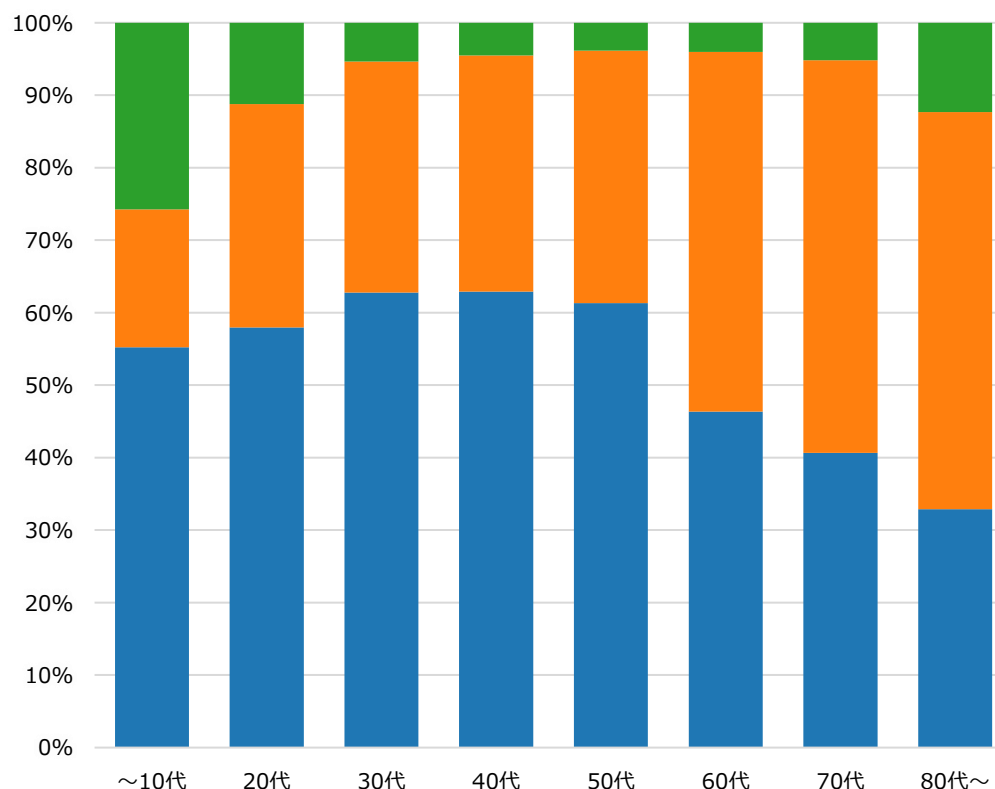
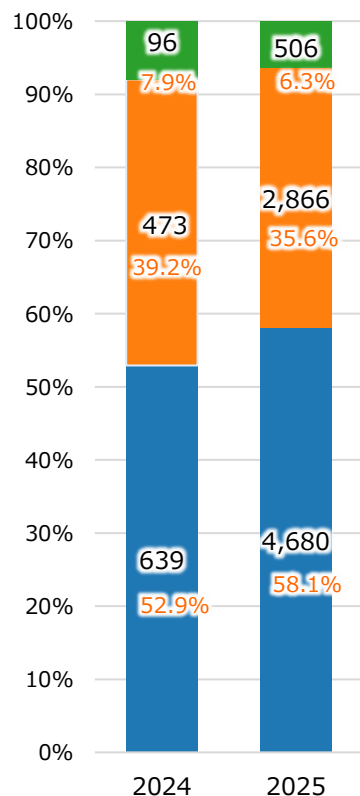
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



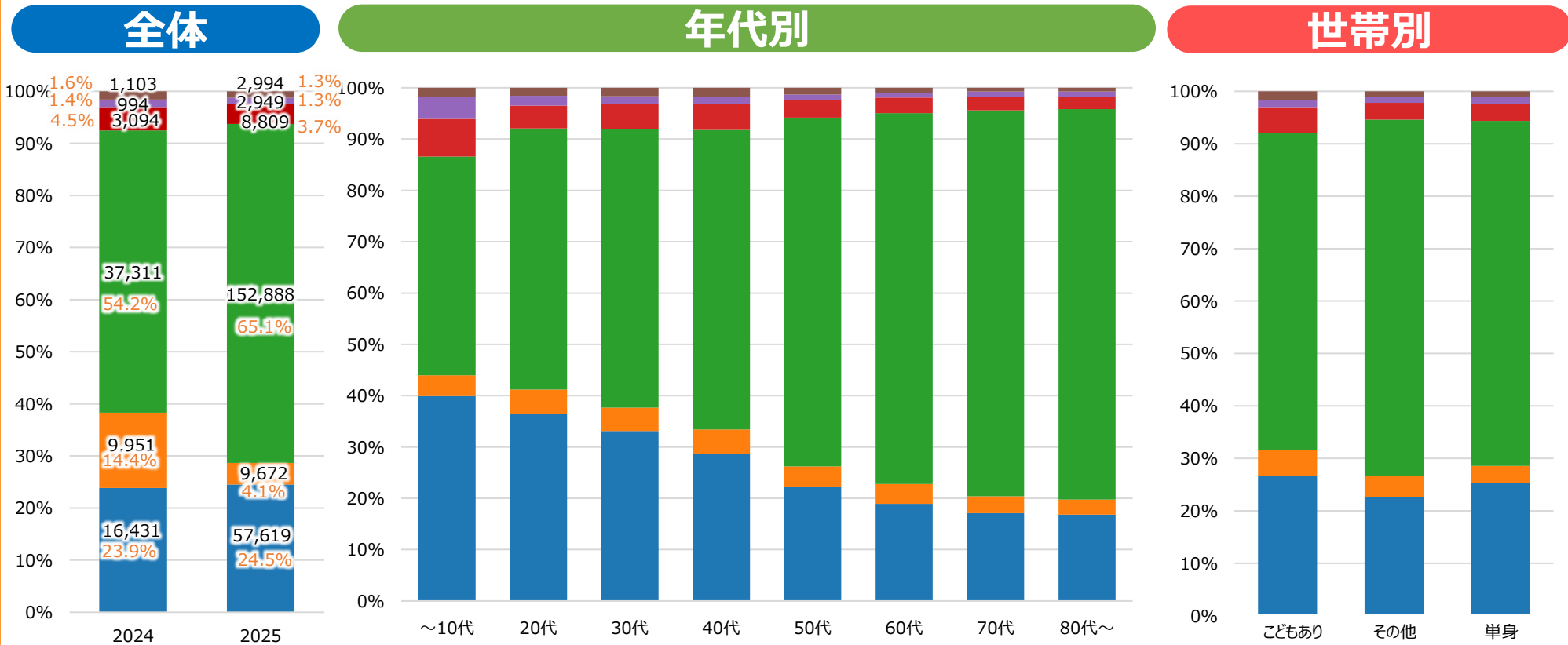
■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年増加（+5Pt）全国と比較すると低位（▲8Pt）
- 年代別でみると、いずれの年代においても全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

全国

単位：名



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

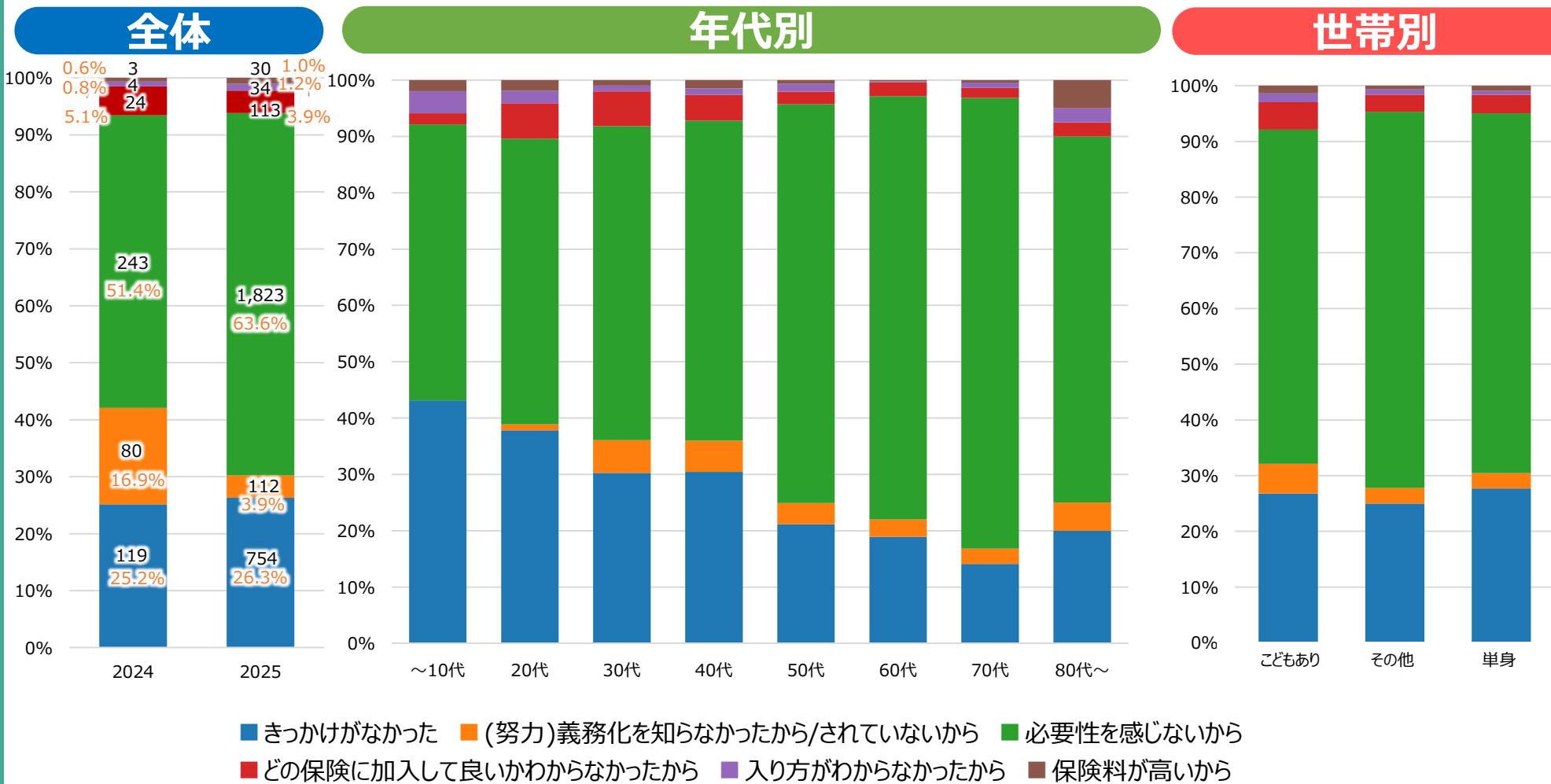
- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

沖縄県
単位：名



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少（▲13Pt）

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

沖縄県

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:8,052名のうち、331名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 79 名	② 67 名
	加入	32 名	153 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.9%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	5.6%
加入方法がわからなかったから	0.0%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	20.4%
保険料が高いから	0.0%
必要性を感じないから	48.1%

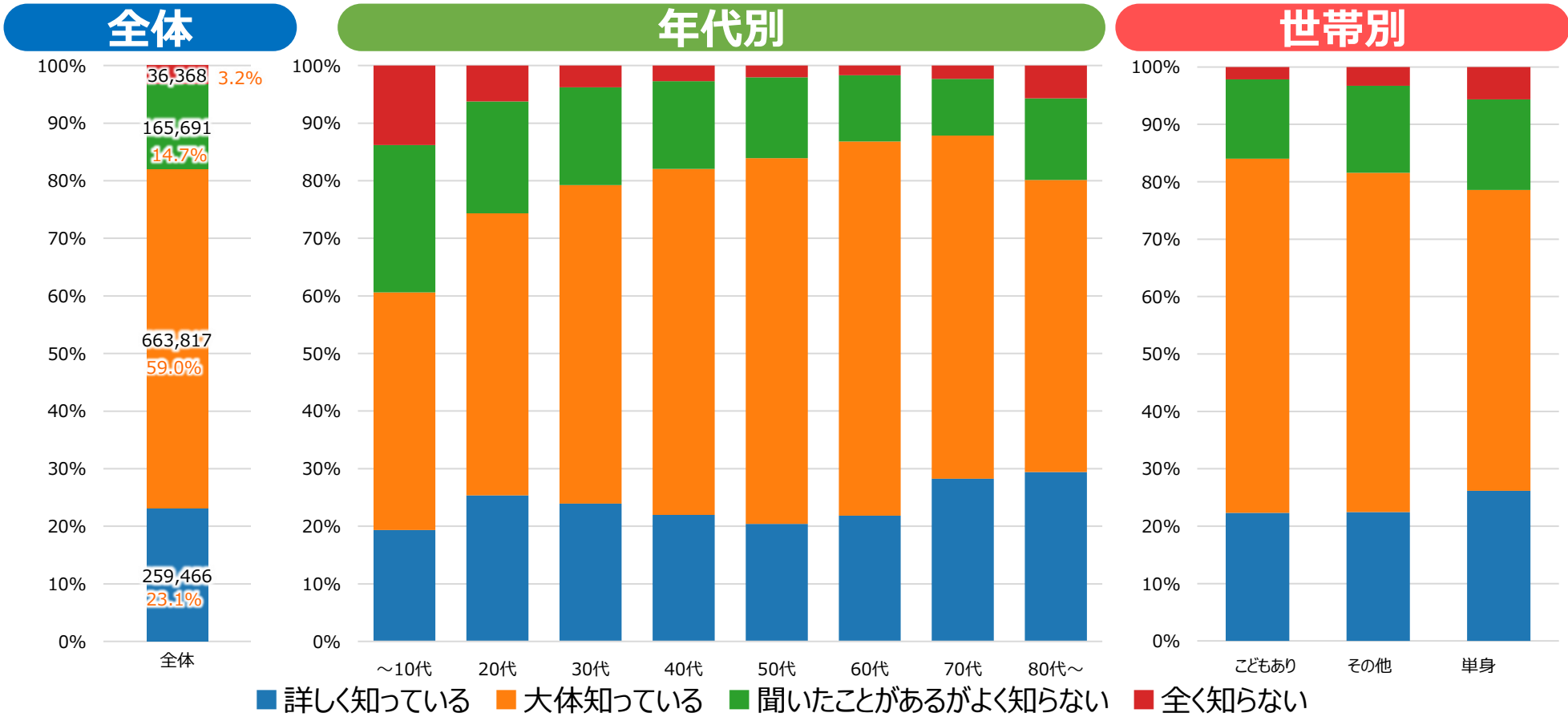
2024年度「自転車保険加入なし」の146名(① + ②)のうち、
約2人に1人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約2人に1人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

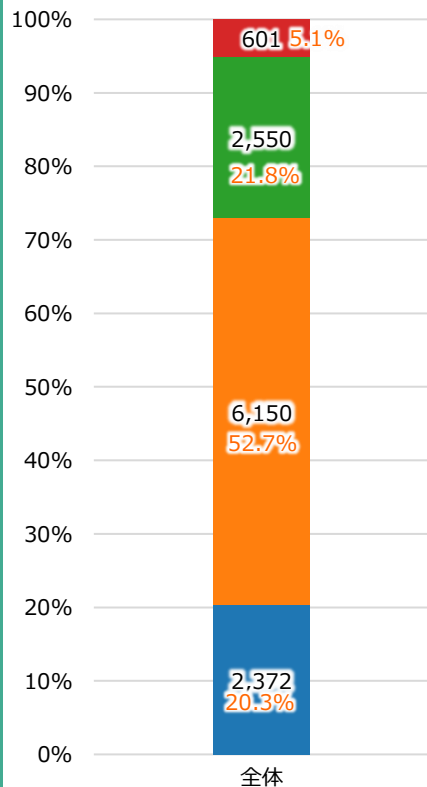
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

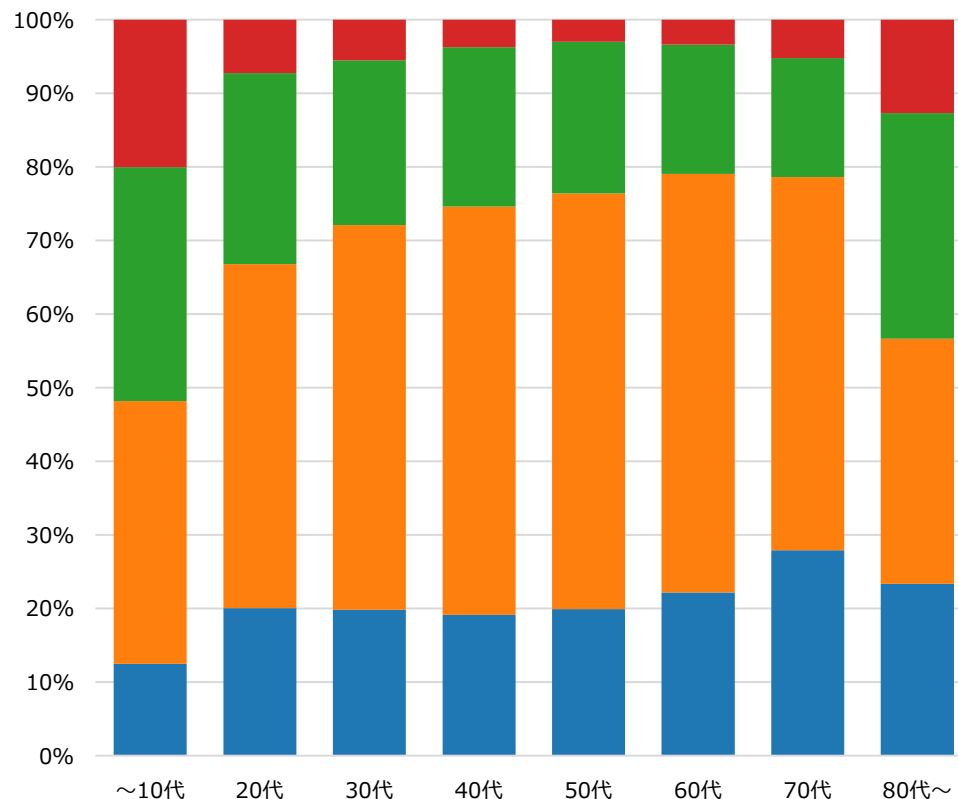
沖縄県

単位：名

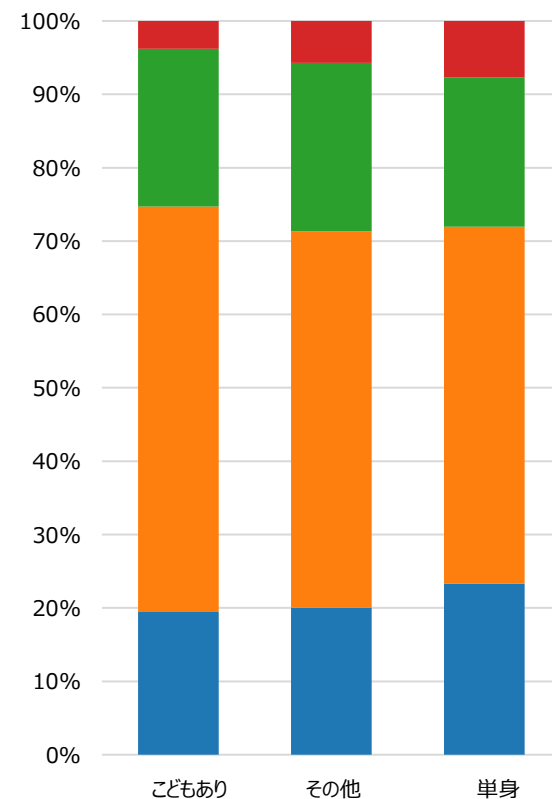
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

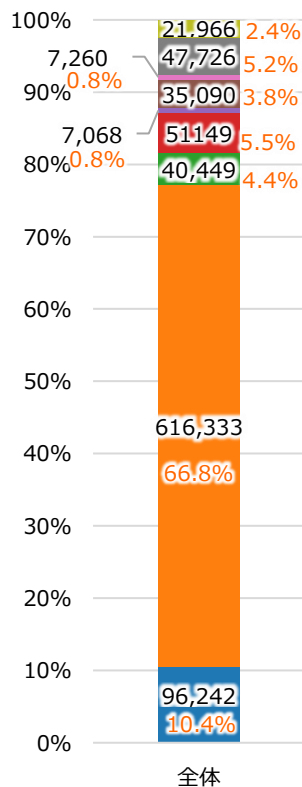
- 全体では認知度が約73%と、全国と比較し認知度が低い傾向
- 全国と比べると、～10代、80代～の「知らない」と回答した割合が高い傾向

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

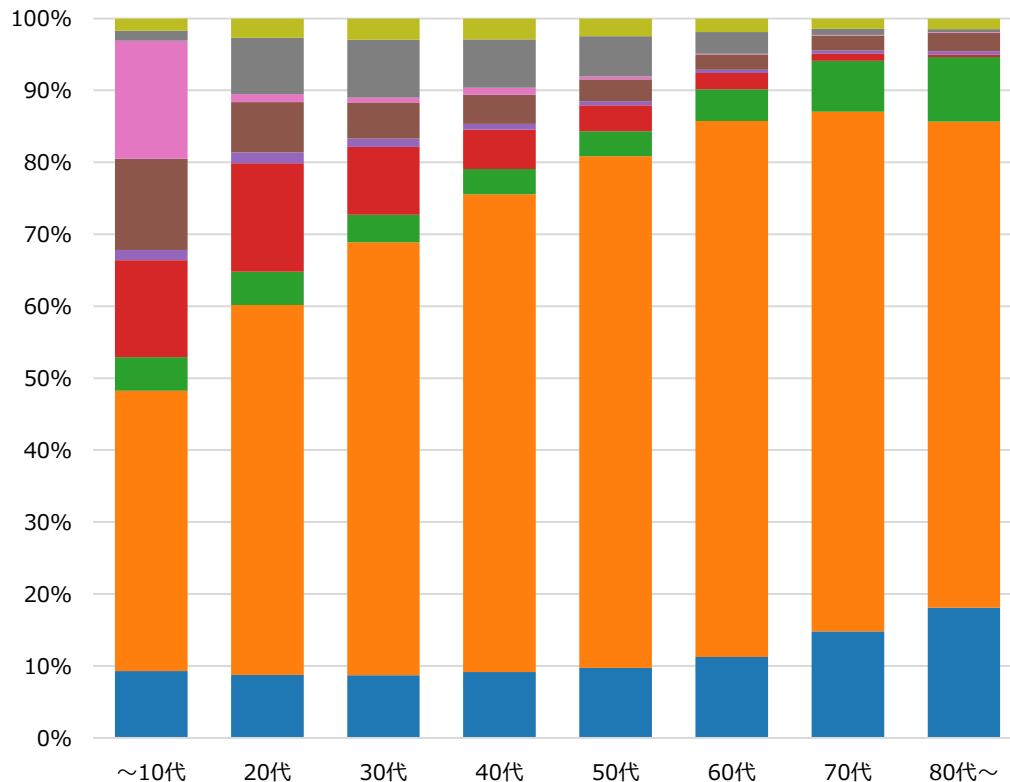
全国

単位：名

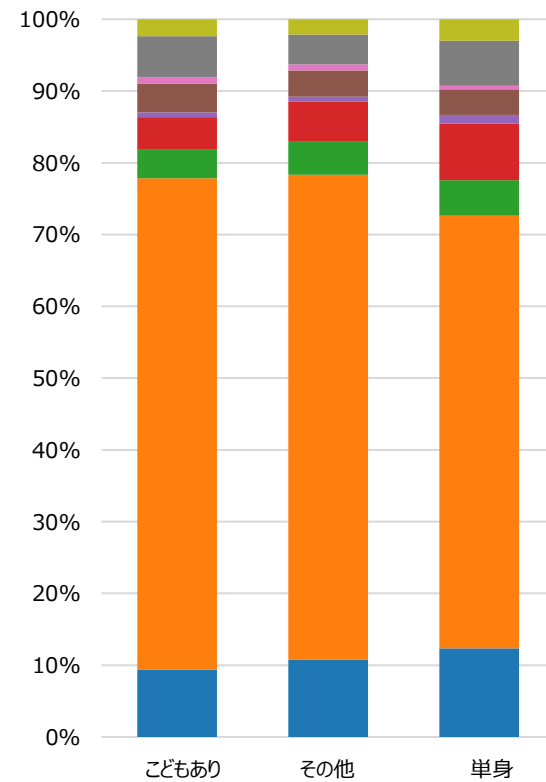
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

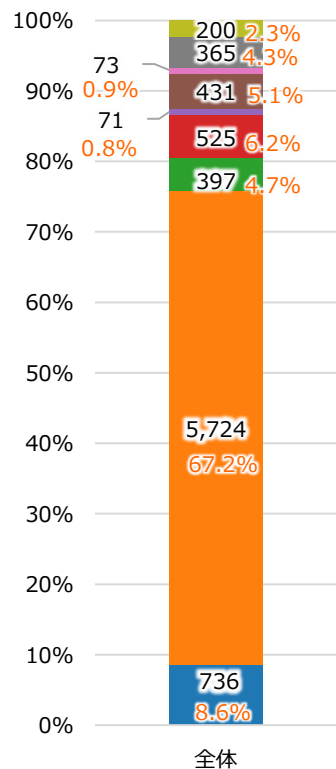
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

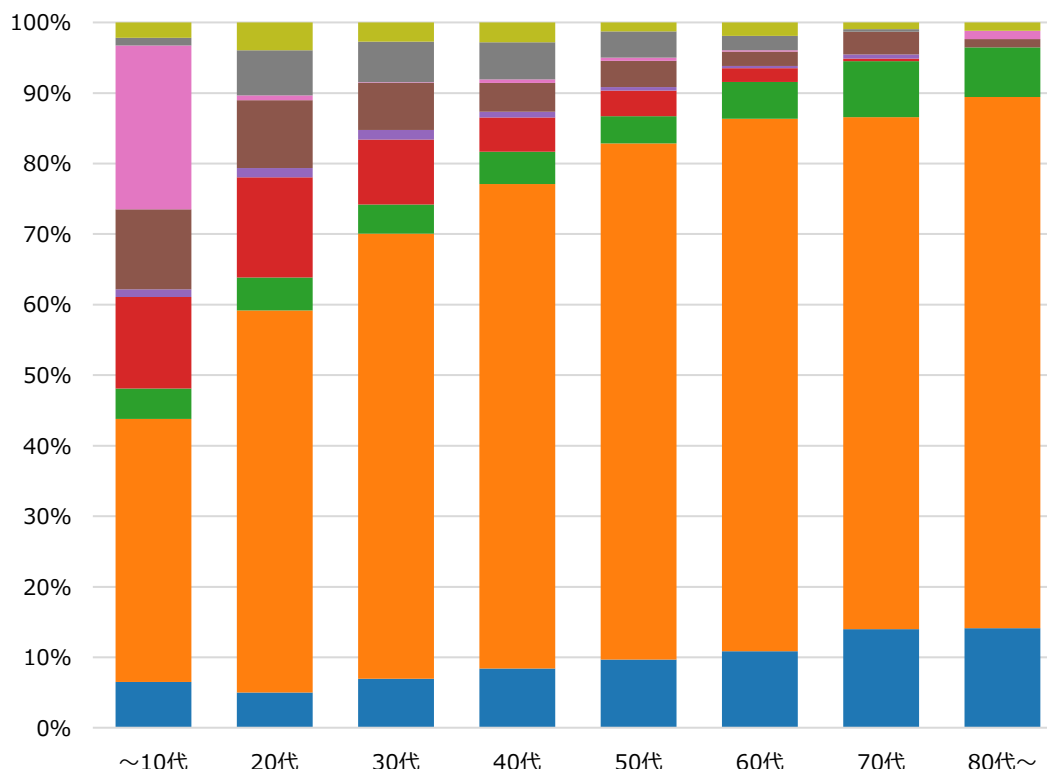
沖縄県

単位：名

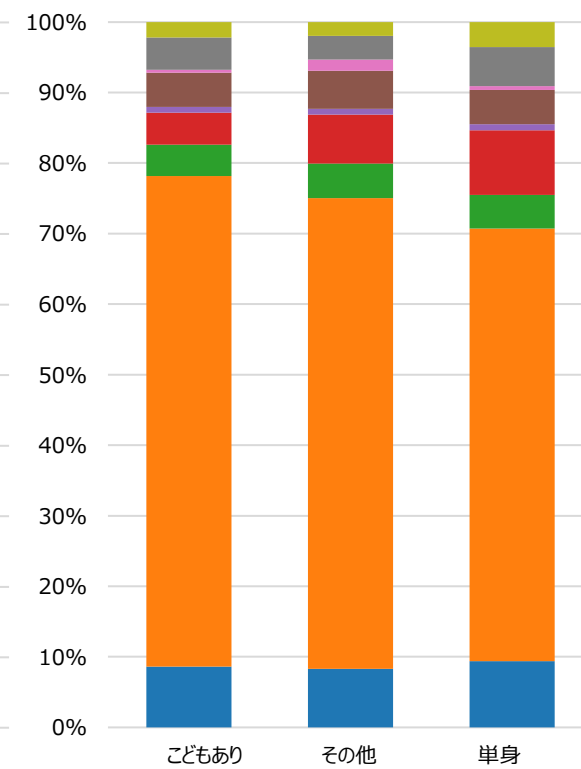
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

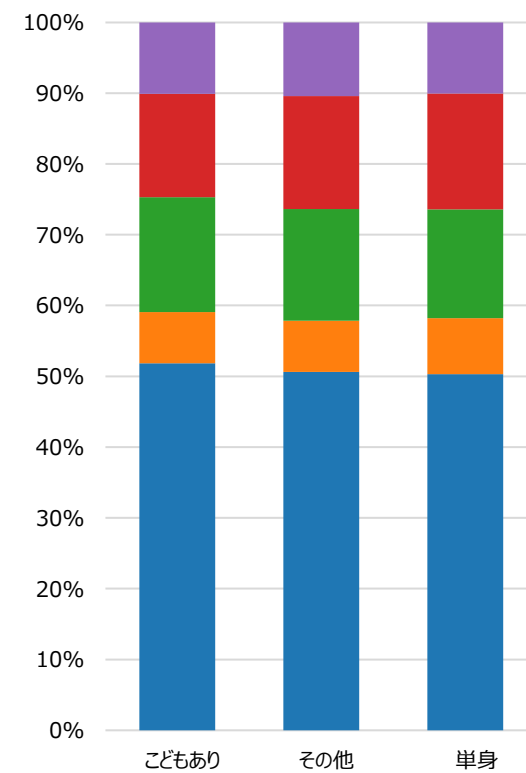
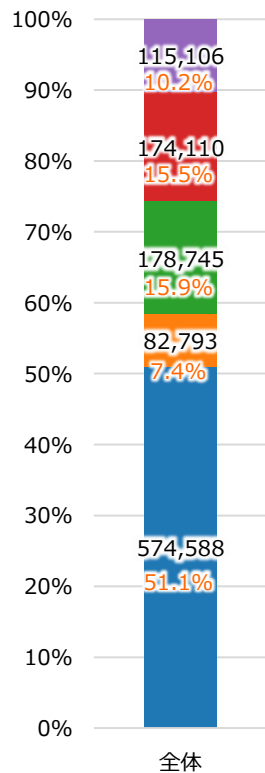
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

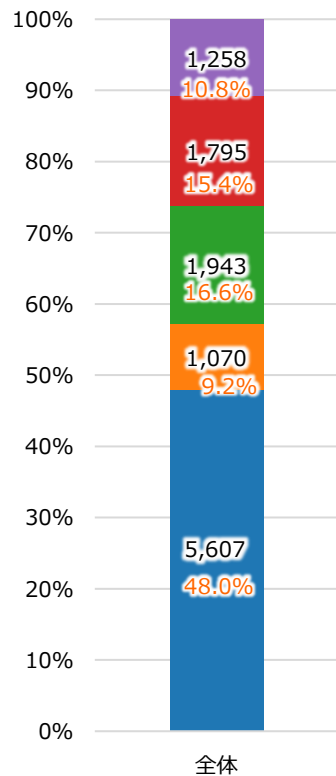
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

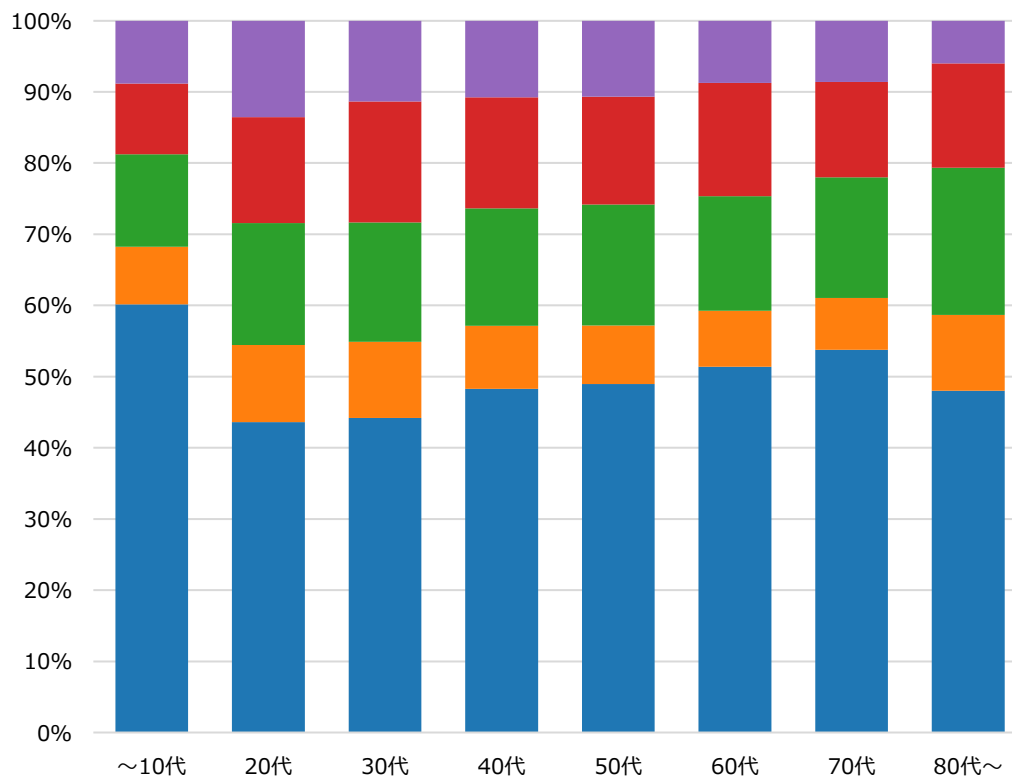
沖縄県

単位：名

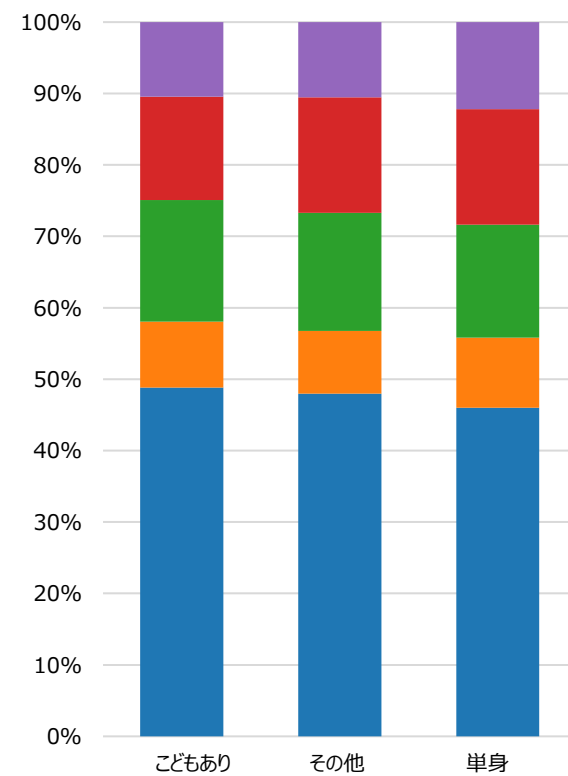
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

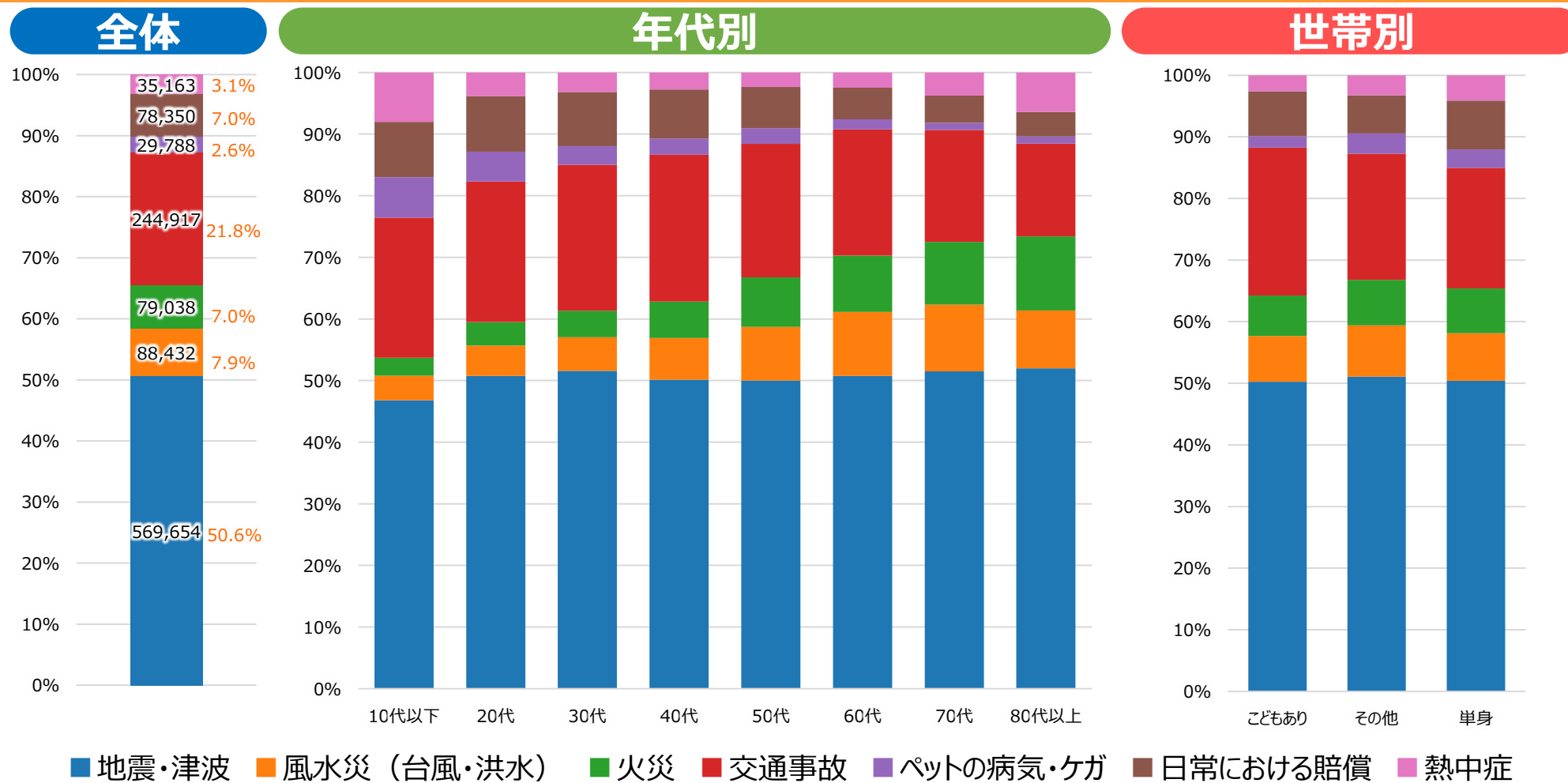
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



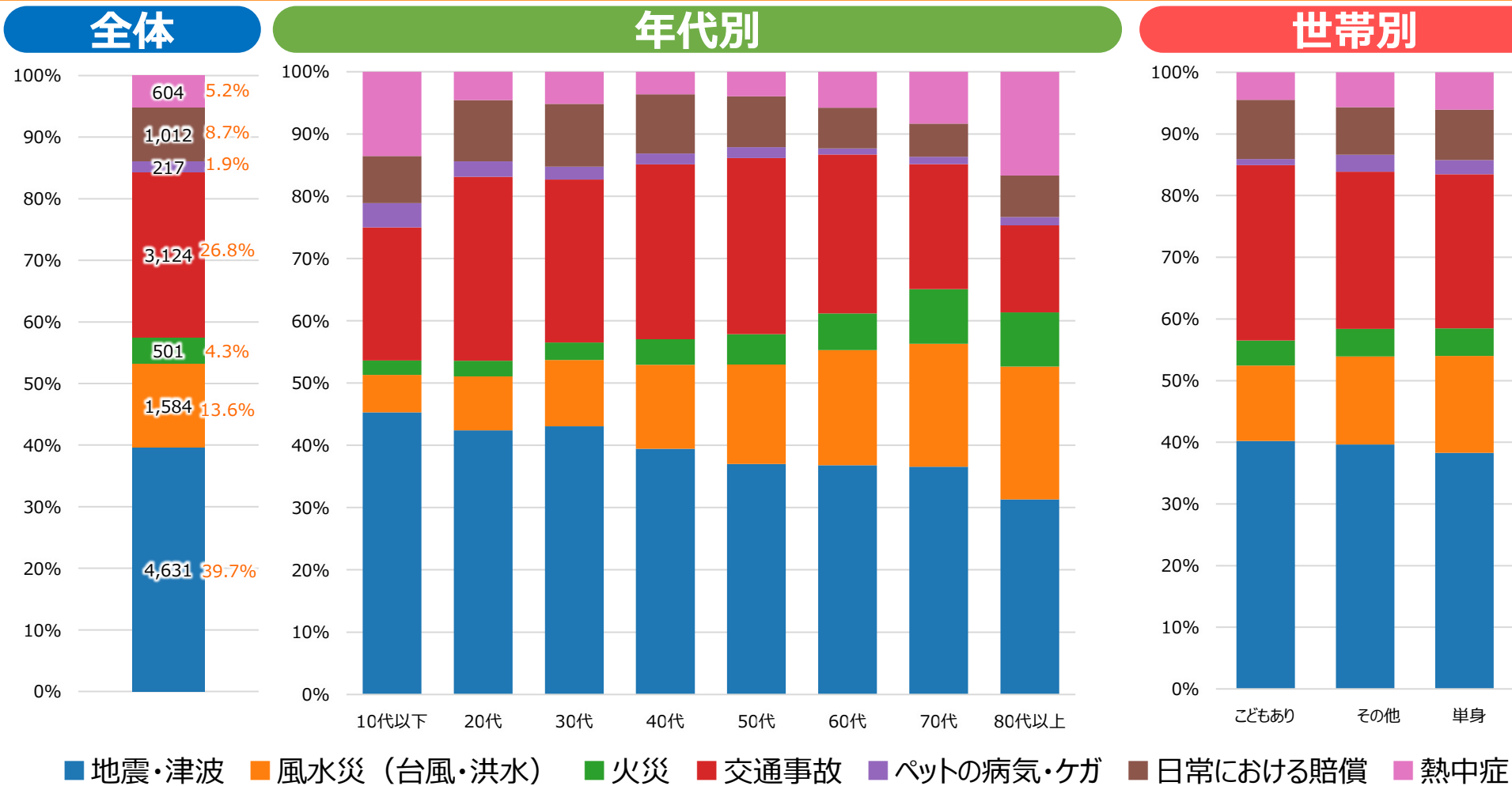
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

沖縄県

単位：名

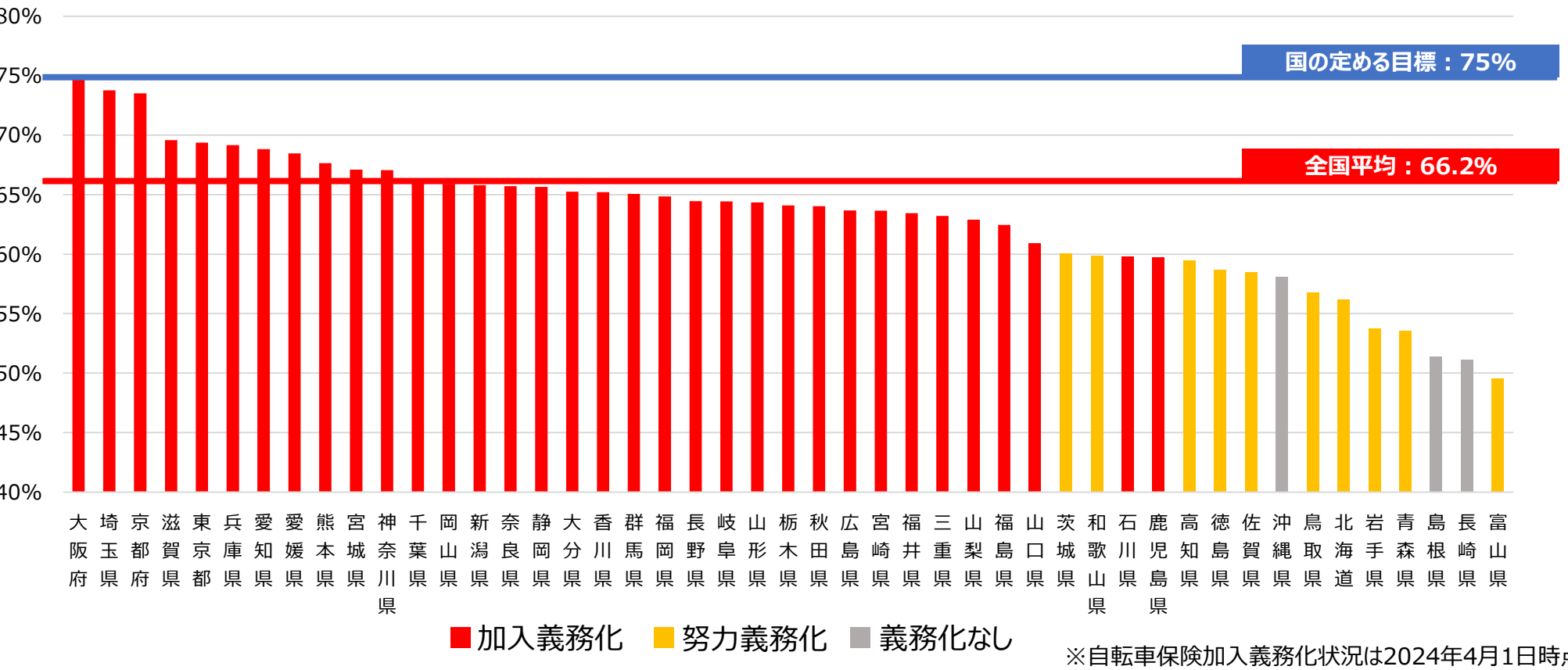
沖縄県



- 全国同様、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



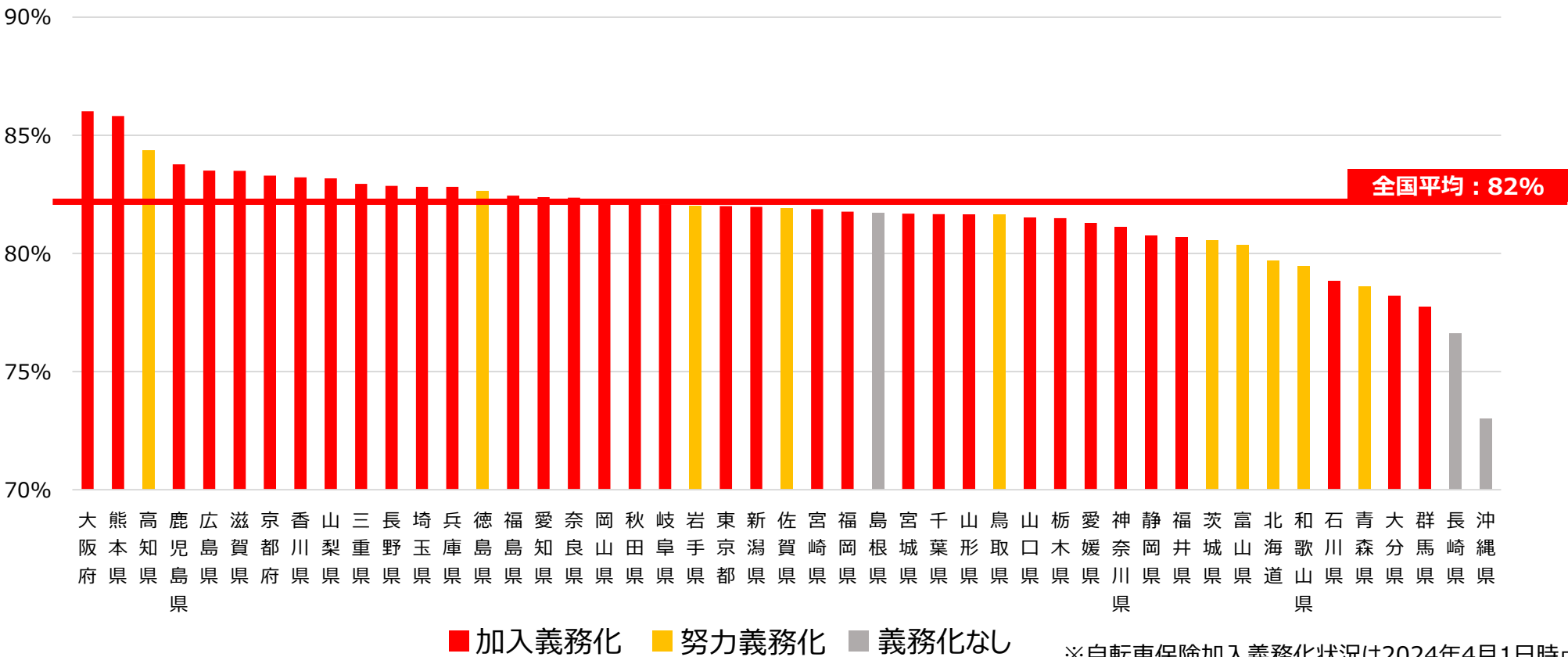
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額の損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



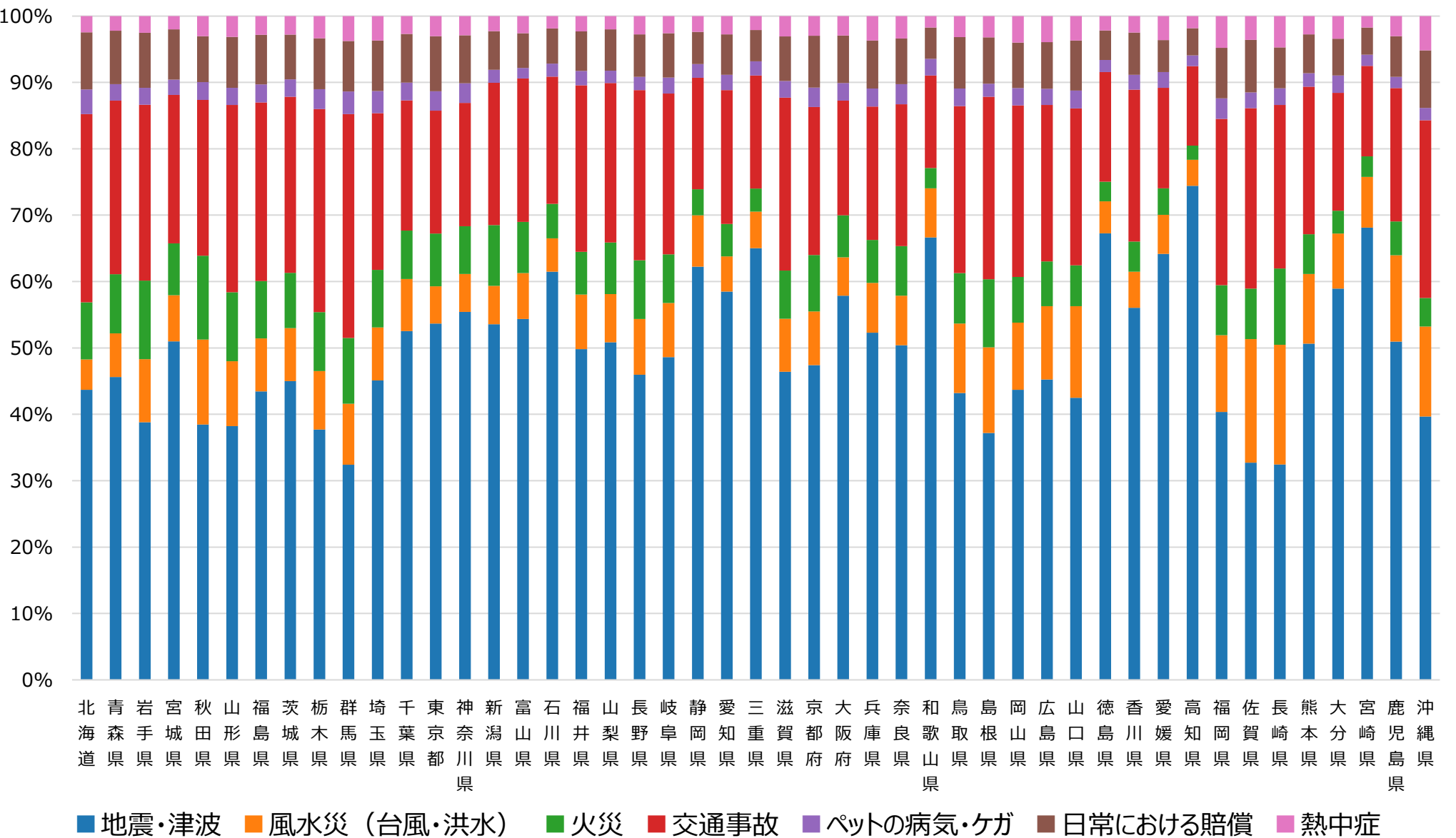
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名